

単元の導入（第 1 単元オリエンテーション）

1 時間／P.6～7

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	何があるかな。どのような人がいるかな。何をしているのかな。 (1 時間)	○教科書のイラストを見ながら、まちの様子について知っていることや気づいたこと、疑問に思ったことを出し合う。 ・一軒家、マンション、デパート、商店街などいろいろな建物がある。 ・田、畑、工場もある。 ・鉄道の駅には、たくさんの人が集まっている。 ・色々な種類の車が走っている。 ・さまざまな人が、さまざまなことをしている。 ----- 単元のめあて わたしたちのまちは、どのような様子なのでしょう。	◆キャラクターのせりふから、働いている人の姿に注目させる。 ◆QR コンテンツ 「見てみよう まちの様子」では、教科書のイラストを ICT 端末上で拡大して見ることが出来る。気になった箇所を拡大させ、どのようなところが気になったのか出し合わせる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「イラストからまちの建物の様子、道路や駅の様子、人々の様子などを読み取って、まちの様子に気づき、自分たちのまちへの関心を高めているか」を評価する。

目標

身近な地域の様子について、地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで学校のまわりの様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域の様子を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な地域の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、身近な地域の様子を理解している。	①身近な地域の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見出し、身近な地域の様子について考え、表現している。	①身近な地域の様子について、予想したり、主体的に調べようとしていたりしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域の様子を大まかに理解している。	②身近な地域の様子ของ場所による違いを考え、適切に表現している。	

本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
①わたしたちのお気に入りの場所 P. 8～9 自分の家や学校の近くにあるお気に入りの場所を、しょうかいし合いました。 (1 時間)	○自分のお気に入りの場所を紹介し合う。 ・大濠公園は広い公園で、よく遊びに行く。 ・商店街には、お菓子を売っているお店がある。 ○それぞれのお気に入りの場所の様子について話し合う。 ・近くのお寺には、大きくて立派な塔がある。 ・地下鉄に乗ると、空港まで行ける。 学校のまわりには、公園や寺、駅や郵便局など、さまざまな場所がある。 ①	◆生活科の学習で行った場所や日常生活で利用している場所など、自由に話し合わせる。 ◆絵地図などをもとに、それぞれの場所が学校から見るとどの方位に見えるかを予想させ、次時の活動へつなげる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「身近な地域の様子について、予想したり、主体的に調べようとしていたりしているか」を評価する。
②高いところから見た学校のまわりの様子 P. 10～11 高いところから、学校のまわりの様子をかんさつしてみました。 (1 時間)	○白地図を見て、自分たちの知っている場所について話し合う。 ・地下鉄の駅は、学校の南側の大きな通りにあると思う。 ・お寺があるのは西の方だと思う。 ○方位ごとに様子を観察し、気づいたことを話し合う。 ・学校の西側には、お寺の塔が見える。 ・学校の南側は、駅があるはずだけどマンションが多くあって、見えないね。 学校のまわりは、南に公園があったり、西にお寺があったり、方位によってある物が違う。 ②	◆方位磁針や QR コンテツ「四方位・八方位」を使って、方位の概念を定着させ、空間的な見方ができるようにする。 ◆方位ごとに見えるものに違いがあるかどうかを意識させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所、古くから残る建造物などに着目し、学校のまわりの様子について考えたことを表現しているか」を評価する。
③学校のまわりのたんけん P. 12～13 学校のまわりをたんけんしましょう。 (1 時間)	○学校のまわりの様子について予想し、探検の計画を立てる。 ・駅のある通りは、大きな建物やお店が多いと思う。 ・車の量や人の多さを比べてみたい。 ○学校のまわりを探検して、気づいたことを白地図などに書く。 ・大きな神社に向かって、急な坂道があった。 ・ふくふくプラザという公共施設があった。 学校の南側には、地下鉄の駅や公共施設がある。西側には、お寺やお店などの古い建物がある。 ③	◆次の小単元「市の様子」の学習につなげることを意識して、予想を視点ごとに分類する。 ◆ICT 端末を使って写真を撮らせ、白地図にまとめる活動で活用させてもよい。	【知技①】 発言内容や白地図の記述内容から、「地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査して、必要な情報を集め、身近な地域の様子を理解しているか」を評価する。

本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
④たんけんしたことを白地図に書きこもう P. 14～15 学校のまわりの様子について、気づいたことを白地図に書きこんで話し合います。 (1 時間)	○探検の時に気づいたことを、白地図にまとめる。 ・学校の西側は、家が多い。 ・南側の大きな通りは、車がたくさん走っていて、信号が多かった。 ○完成した地図を見て、学校のまわりの様子について話し合う。 ・駅のまわりや商店街の近くは、人が多い。 ・大きな通りのそばには、お店が多い。 南側の大きな道路沿いには、地下鉄の駅がありバスも多く通っている。まわりには、マンションなどの大きな建物が多い。西側は、道路の幅が狭く、一軒家が多い。	◆地下鉄に乗って行ける場所などを発言させ、空間的な広がりを意識させる。 ◆地図帳やインターネット上の地図を提示し、完成した地図と比べさせる。その際、地図記号についても触れるようにする。	【知技②】 白地図・ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域の様子を大まかに理解しているか」を評価する。
⑤学校のまわりの様子をまとめよう P. 16～17 学校のまわりの様子について、考えたことを話し合います。 (1 時間)	○コースによる土地や交通の様子の違いについて話し合う。 ・南側の大通りコースは、大きな建物が多く、大きな公共施設があった。 ・西側のお寺・商店街コースは、幅の細い道が多く、静かだった。 ○学習したことをもとに、学校のまわりの様子について説明する。 ・学校のまわりでも、場所によって様子が違いがある。 学校のまわりには、住宅がたくさんある。南側にある幅の広い道路沿いには、公共施設などの大きな建物が多い。西側には、古くからあるお寺が集まっている。学校のまわりの様子は、場所によって違いがある。	◆比較するという学習活動が、特色を考える時に有効であることを実感させる。 ◆学校のまわりよりも広い範囲が見える地図を提示し、次の小単元「市の様子」に向けて興味関心を高める。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「身近な地域の様子の場所による違いを考え、適切に表現しているか」を評価する。

1－①市の様子

目標

市の様子について、都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料を使ったりして調べ、まとめることで市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市の様子を理解している。	①都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見だし、市の様子について考え、表現している。	①市の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、市の様子を理解している。	②市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などを比較・関連づけ、総合などして市の場所による違いを考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①空から見て P. 20～21 空から市の様子をとった写真や地図帳を見て、市の位置や気づいたことについて話し合しましょう。	○航空写真を見て、気づいたことや、市の施設や様子でわかっていることを発表し合う。 ・ビルが多い。 ・川が流れている。 ・山や島がある。・道路がある。 ○地図帳を使って福岡市の場所を探し、福岡市の位置や範囲などを話し合う。 ・福岡市は、福岡県の西側にある。 ・小呂島も福岡市。 福岡市は福岡県の西に位置し、高い建物が集まる場所や島、山などがある。①	◆市の様子を概観し、特徴ある地域の様子に気づかせる。 ◆P. 21「まなび方コーナー」を活用し、福岡市の位置を地図帳から探し出すようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市の位置や範囲を理解しているか」を評価する。
	②市の写真や地図を見て P. 22～23 わたしたちの市の様子について話し合い、学習問題をつくりましょう。(1時間)	○市内の様子の写真を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・油山の牧場は、学校からみて南にあり、緑が多く高いところにあったな。 ・博多港は、学校の北東にあり、大きな船がとまっていたよ。 ○市の様子について、疑問に思うことを発表し合い、学習問題をつくる。 ・田畑はどのあたりに多いのかな。 ・市役所や区役所では、どのようなことをしているのかな。 学習問題 わたしたちの市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょうか。	◆紹介した場所が、自分たちの学校からみて、どの方位にあるのか QR コンテンツ「四方位・八方位」なども活用し確認させる。 ◆福岡市が7つの区から構成されていることを確認させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。
	③学習の進め方 P. 24～25 学習問題をつくり、学習の進め方をかくにんしよう。(1時間)	○単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 学習問題について、予想を立て、実際に見学したり、インターネットやガイドブック、写真や地図、市役所への手紙などで調査したりして、市の様子を調べる計画を立てる。 <調べること> ・土地の高さや広がり ・土地の使われ方 ・交通の様子（電車やバス、船、道路、空港） ・市役所などの公共施設の場所と働き ・古くから残る建物	◆問題解決的な学習の進め方について学ばせる。 ◆今後の社会科学習全般にかかわる基礎的な学びのため、丁寧に指導する。QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」を活用してもよい。 ◆内容だけでなく、調べ方やまとめ方も指導する。	[態度①] ノートの記述や学習計画表の内容、発言内容などから、「自分たちが住む市の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④市の土地の高さや広がり P. 26～27 福岡市の土地の高さや広がり は、どのよう になっているの でしょうか。 (1 時間)	○写真や地図を見て、福岡市にある山や島、川などの地形について発表し合う。 ・脊振山 ・油山 ・能古島 ・那珂川 ○市の土地の高さの違いや平らな土地の広がりについて、地図や写真をもとに考え話し合う。 ・福岡市の土地は、海に面した北側が低く、南側は山があり高い。 ・低く平らな土地は、海側の東と西に広がっている。 福岡市の土地は、海に面した北側が低く、南に向かうほどだんだん土地が高くなっている。平らな土地は、海を囲うように東西に広がっている。 (4)	◆市内には山、島、川、海岸など景観が異なる場所があることに気づかせる。 ◆土地の高さの変化や広がり方について、方位を使いながら表現させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の地形について理解しているか」を評価する。
	⑤市の土地の使い方 P. 28～29 福岡市の土地は、どのよう に使われている のでしょうか。 (1 時間)	○写真や地図をもとに、福岡市の土地の使い方について発表し合う。 ・高い建物 ・家や店 ・工場や倉庫 ・田や畑 ・森林 ○土地の使い方の特色について、地図や写真をもとに考え話し合う。 ・建物が多いところは、低く平らな土地に多い。 ・海岸線がまっすぐな海沿いに工場や倉庫が多い。 福岡市は、海に近い博多区や中央区を中心に大きな建物が集まり、その周りに住宅が広がっている。市の東側には工場が多く、西側には田畑が広がっている。 (5)	◆写真と土地利用図の凡例や地図記号を確認し、景観と地図をつなげさせたい。 ◆土地の高さと関連させて、土地の使い方の特色を追究させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の土地利用について理解しているか」を評価する。
	⑥市の交通の様子 P. 30～31 福岡市の交通は、どのよう に広がっている のでしょうか。 (1 時間)	○福岡市にある交通機関の種類を調べ発表し合う。 ・福岡市の地下鉄は、大きな建物が集まっているところを通っている。 ・港や空港は、外国や遠いところとつながっている。 ○福岡市の交通機関の特色について、考え話し合う。 ・交通機関は、大きな建物が集まる地域や工場や倉庫の多い地域に多く集まっている。 ・福岡市の交通は、人々の移動や物の輸送に便利だ。 福岡市には、新幹線、鉄道、地下鉄、高速道路などの交通網が広がり、人々の移動や物の輸送に便利である。 (6)	◆調べる交通機関を分担してもよい。 ◆交通機関の集まるところと広がり方に着目し、交通の特色を追究させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の交通の広がりについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦市の公共しせつ P. 32～33 福岡市の公共しせつはどこにあり、どのようなはたらきをしているのでしょうか。	○福岡市の公共施設にはどのようなものがあるか調べ発表し合う。 ・市役所や区役所 ・図書館 ・消防署 ・警察署 ・博物館 ・公園など ○市役所の人にインタビューをして、市役所や主な公共施設の意味や役割を聞き取りまとめる。 ・市役所や区役所は、市民のくらしを支えている。 ・災害時の避難場所も知らせている。 福岡市の中心部には市役所などの公共施設があり、市民のくらし、教育、健康福祉、観光や産業を支えている。災害時の避難場所も指定している。	◆公共施設が身近にあり、様々な施設があることに気づかせたい。 ◆自分や市民とのつながりに着目し、公共施設の意味や役割を追究させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の主な公共施設の場所と働きについて理解しているか」を評価する。
	⑧市に古くからのこるたて物 P. 34～35 福岡市にのこる古いたて物は、どこに、どのようなものがあるのでしょうか。	○福岡市の古くから残る建造物について、位置やいわれを調べ発表し合う。 ・櫛田神社は 1200 年以上の歴史があると伝えられている。 ・中央区にある福岡城跡は、400 年以上前につくられている。 ○福岡市の古くから残る建造物の特色について考え話し合う。 ・歴史のある神社や寺院が多い。 ・博多区や中央区に多く集まっている。 福岡市には、古くから残る神社、寺院、家屋などの建造物や城跡があり、博多区や中央区に多く集まっている。	◆市のパンフレットなど、資料を準備しておく。 ◆古くから残る建物がある場所は現在でも人が集まる所であり、大事にされてきたことに気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、学習したことをもとに、市の古くから残る建造物の分布について理解しているか」を評価する。
	⑨市の様子をまとめよう P. 36～37 調べたことをもとに、市の様子をまとめてみましょう。 (1 時間)	○これまでに調べたことをもとに、福岡市にはどのような場所があったか発表し合う。 ・市の低い土地の西側は畑や緑が多かった。 ・博多区や中央区は、大きな建物や古くから残る建物が多かった。 ○発表したことを整理し、白地図にまとめる。 ・福岡市は、海沿いの工場や倉庫の多い場所や土地が多く緑の多い場所など、場所によって違いがある。 ・福岡市は自然が豊かでまちもにぎやかだ。 わたしたちがくらす福岡市は、交通機関や高い建物が集まる場所や、住宅や公共施設の多い場所、海の近くの畑の多い場所などがあり、にぎやかで自然ゆたかな市である。	◆場所による違いを意識して発表させたい。 ◆白地図にまとめるときには、場所による違いを色分けして示すとよい。	[知技②] ノートの記述内容や白地図の内容から、「学習したことをもとに白地図にまとめ、福岡市全体の様子や場所による違いを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	⑩市をせんでんしよう P. 38～39	○市の広報誌やガイドマップを見て、気づいたことを発表し合う。 ・住んでいる人にむけた内容と旅行に来た人にむけた内容には違いがある。 ○宣伝文を作成し、写真を選び、ポスターを完成させる。 ・旅行に来た人に、歴史のある福岡城や自然ゆたかな油山の牧場をおすすめしたい。 ・引っ越してくる人には、市役所のことや買い物に便利な場所を伝えたい。	◆宣伝ポスターを作成するときには、場所による違いに着目して、宣伝文の作成や写真の選択をさせたい。	【思判表②】 宣伝ポスターの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、場所ごとの様子を比較したり、地形や土地利用、交通、公共施設、古くから残る建造物の分布や広がりなどを関連付けたりして、市の場所による違いを考え、表現しているか」を評価する。
	学習したこと をもとに、市の せんでんポスター をつくりましょ う。 (1. 説明)	わたしたちは、福岡市のさまざまな場所の違いや特色をくらしや観光などに生かすことができる。 ⑩		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	まちの人たちの仕事 わたしたちのくらすまちには、どのような仕事をしている人たちがいるのでしょうか。	○まちの働く人について、どのような仕事をしている人がいるか話し合う。 ・市の西側に多い田や畑では、米や野菜をつくっている人たちがいた。 ・市の北側には工場が多かった。働いている人がたくさんいると思う。 ・通学路にあるスーパーマーケットでは、いつもたくさんの人が働いている。 ----- 単元のめあて わたしたちのまちではたらく人の仕事の様子や、仕事とわたしたちの生活とのつながりを調べてみましょう。	◆ 前単元の学習や、日常生活で出会う人々の仕事に注目させる。	【思判表】 発言内容やノートの記述内容から、「市で働く人たちの様子に着目して、問いを見出しているか」を評価する。

2－① 農家の仕事

目標

地域にみられる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料を調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①農家の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①農家の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見いだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。	①地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを宣伝シールや文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接なかかわりをもって行われていることを理解している。	②生産の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①市でつくられるやさいやくだもの P. 42～43 わたしたちの市では、どのような作物がつけられているのでしょうか。 (1. 時間)	○直売所の写真を見て、野菜や果物の種類や産地について話し合う。 ・だいこんやこまつなは福岡市でつけられている。 ・市の西側に畑が広がっていたから、そこでつけられているのかもしれない。 ○地図やグラフを見て、どのような野菜や果物がつけられているのかを調べる。 ・福岡市では、いろいろな野菜や果物がつけられている。 ・いちごは福岡市の西側で多くつけられている。 わたしたちの住む福岡市では、さまざまな野菜や果物がつけられている。①	◆市内でつけられている作物の種類には、場所によってちがいがああるか、資料2と関連させながら話し合わせる。 ◆調べた内容から疑問をもたせ、次時へつなげる。 ◆ぼうグラフの読み取りの際は、「まなび方コーナー」やQRコンテンツを活用する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市でつくられる主な野菜や果物の生産地の分布や生産額(量)の概要を理解しているか」を評価する。
	②③特産品のあまおう P. 44～45 いちごづくりについて、気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (2. 時間)	○あまおうづくりについて、知りたいことを出し合い、学習問題をつくる。 ・どうやってこんなにたくさんのあまおうをつくらっているのだろう。 ・ビニールハウスは、なぜ必要なのだろう。 学習問題 農家では、特産品のあまおうをつくるために、どのような仕事をしているのでしょうか。	◆あまおうについてわからないこと、不思議に思うことを自由に話し合わせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「あまおうづくりについて気づいたことや疑問に思ったことをもとに、農家の仕事について、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想を考え、学習計画を立てる。 ・働く人の様子を見てくる。 ・あまおうをつくるために気をつけていることを聞いてくる。	◆P. 57 の「まなび方コーナー」を活用し、見学カードを作成させる。QRコンテンツ「農家の仕事見学カード」を活用してもよい。	[態度①] 見学カードの記述内容や発言内容から、「あまおうをつくる農家の仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④⑤あまおうづく りの1年間 P. 46～47 農家では、1 年間どのように 仕事をしている のでしょうか。 (2 時間)	○学習計画の「調べること」をもとに、畑の様子を見学する。 ・あまおうをつくるためにいろいろな仕事があり、季節によって作業が違う。 ・たくさんのあまおうをつくれるように、計画をしっかりと立てている。 農家では、季節の変化に合わせた工夫をしながら、1年間計画的にあまおうをつくっている。 ④⑤	◆時期によっては、複数の仕事を同時に行っていることに着目させる。 ◆わかったことや疑問に思ったことを、メモだけでなく写真などに記録し、学校にもどってからまとめ直す時に、活用できるようにさせる。	[知技①] 見学カードの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、自然条件を生かした農家の仕事の工程や作業の様子について理解しているか」を評価する。
	⑥⑦くふうがつま ったあまおうづ くり P. 48～49 農家の人は、 どのようなこと に気をつけてい るのでしょうか。 (2 時間)	○見学メモをもとに、農家の人が気をつけていることをカードにまとめる。 ・暖かい環境をつくるためにビニールハウスを使っていた。 ・害虫を防いでくれる微生物を使うなど、自然の力を生かして育てていた。 ○カードを見ながら、それぞれの仕事は何のために行われているのか、話し合う。 ・たくさん売れる季節に合わせていちごをつくっていた。 ・安心して食べられるように、農薬はできるだけ少なくしていた。 農家では、自然条件を生かしてあまおうをつくるほか、苗づくりや栽培設備にさまざまな工夫をしている。また、ビニールハウス内で電照をしたり暖房をつけたりすることで、冬でもたくさんのあまおうを収穫できるよう工夫している。	◆農家の人の仕事で一番工夫していると思ったことについてまとめさせる。 ◆農家の人の工夫が、自分たちの生活と関わっていることを意識させる。	[知技①] カードの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、農家があまおうをたくさんつくるために、栽培設備を工夫するなどして仕事をしている様子を理解しているか」を評価する。
	⑧いよいよしゅう かく P. 50～51 あまおうは、 どのようにして わたしたちのこ ろへとどけら れるのでしょうか。 (2 時間)	○あまおうを収穫するときの工夫を話し合う。 ・毎朝早くから、一つずつ手でとっていた。 ・食べるときにいちばん甘くなる熟れ具合のものを選んでいた。 ○自分たちのところに届くまで、どのような人が関わっているか話し合う。 ・市場で店の人が値段をつけてあまおうを買っていく。 ・市場で買われたあまおうは、新鮮なうちに、トラックで送られる。 あまおうの収穫は、朝早くから手作業で行われている。収穫されたあまおうは、市内だけでなく、近隣の市や他県や海外にも送られている。 ⑧	◆見学の時に聞いたことや調べたことを想起させる。 ◆出荷先を地図帳などで確認させ、他地域、海外ともつながっていることを意識させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、あまおうの出荷作業の様子や出荷を通じた他地域や外国との関わりについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑨⑩あまおうのキャッチコピーを考える P. 52～53	○これまでの学習をもとに話し合い、学習問題についてまとめる。 ・たくさん売れる冬に、たくさん収穫できるように、くふうして暖かい環境をつくっていた。 ・あまおうが傷まないように、丁寧に作業していた。 ○これまでの学習を生かして、あまおうを宣伝するキャッチコピーを考え、宣伝シールにする。 ・まごころあまおう ・いちごがおいしく育つ福岡市	◆農家の人の仕事と自分たちの生活との関わりを意識するよう助言し、ノートにまとめさせる。 ◆まなび方コーナーを参考に、一番伝えたいことをなるべく短い言葉に整理させる。 ◆宣伝シールのひな形として、QRコンテンツ「まとめるワークシート」を活用する。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめて、農家の仕事の手順や工夫、人々の生活とのかかわりを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 宣伝シールの記述内容から、「農家の仕事の様子と人々の生活との関連について考え表現しているか」を評価する。
	これまでの学習をふり返り、あまおう農家の人が、どのようにくふうをしてあまおうをつくっているのかまとめましょう。 (6時間)	あまおう農家では、ビニールハウスなどの設備を使い、季節に合わせた育て方をするなど、おいしいあまおうをたくさんつくるためにさまざまな工夫をしている。また、つくられたあまおうは市の中央卸売市場から市内外の店に運ばれて販売され、地域の人々の生活と密接な関わりがある。		

2－①工場の仕事

目標

地域に見られる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見いだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。	①地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを宣伝シールや文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接なかかわりをもって行われていることを理解している。	②工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①福岡市のおみやげ P. 54～55 わたしたちの市の工場では、どのようなものをつくっているのでしょうか。 (1 時間)	○自分たちの住んでいる市で作られているものを調べる。 ・明太子 ・まんじゅう ・とんこつラーメン ○工場の地図やグラフを見て、気づいたことを話し合う。 ・博多港のまわりに工場が多い。 ・食べ物や飲み物をつくる工場が多い。 わたしたちの住む福岡市には、さまざまなものをつくる工場があり、博多港の近くに多く分布している。また、特に、食べ物や飲み物をつくる工場が多い。 ①	◆おみやげ店の写真やパンフレットなどを参考に、調べさせる。 ◆前小単元の「市の様子」で学んだ内容を活用しながら、工場の分布を捉えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市にある工場の種類や数、工場の分布など、市の工場の概要を理解しているか」を評価する。
	②③まちで人気の明太子 P. 56～57 明太子工場について、気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (6 時間)	○明太子づくりについて、知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。 ・工場働いている人は何人くらいいるのかな。 ・明太子をつくる機械は、何台あるのだろう。 学習問題 工場ではたらく人たちは、名物の明太子をつくるために、どのような仕事をしているのでしょうか。	◆明太子づくりについて知りたいこと、疑問に思うことを自由に話し合わせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「明太子工場について、気づいたことや疑問に思ったことをもとに、明太子工場の仕事について、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・明太子ができる順序を見てくる。 ・1日につくる量を聞いてくる。	◆「まなび方コーナー」を活用し、見学カードを作成させる。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「市で明太子をつくる工場の仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	④⑤明太子ができるまで P. 58～59 明太子はどのようにつくられているのでしょうか。 (2 時間)	○見学カードをもとに、工場を見学する。 ・機械を使うだけでなく、人の手でしかできない仕事があった。 ・1日に約3トンの明太子をつくっていた。 ・明太子の原料であるすけとうだらのたまごは、ロシアとアメリカでとれたものを使っている。 ・少ない人数でもつくれるように、新しい機械を使い始めた。 工場では、人の手と機械を有効に使って、流れ作業で明太子を作っている。 ④⑤	◆原料の仕入れ先を地図で確認させ、外国とのつながりに気づかせる。 ◆時代に合わせてつくり方が変わってきている点にも、着目させる。	[知技①] 見学カードの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場の流れ作業の様子、原料を通した工場の他地域や外国との関わりについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥⑦はたらく人が 気をつけている こと P. 60～61 明太子工場ではたらく人たちは、どのようなことに気をつけているのでしょうか。 (2 時間)	○工場で働いている人が気をつけていることをカードにまとめる。 ・明太子はやわらかいので、慎重に作業していた。 ・手を 35 秒かけて丁寧に洗うなど、衛生に気をつけていた。 ○カードを見ながら、それぞれの仕事は何のために行われているのかを話し合う。 ・温度に気をつけて、明太子の新鮮さを守っていた。 ・食べ物を扱っているから工場の中がいつも清潔になるようにしていた。 明太子を安全にたくさん作るために、工場働く人たちは、温度管理や衛生面に気をつけながら仕事をしている。 (6 分)	◆機械を使う前と後では、作業がどのように変わったのかという点にも着目させる。 ◆工場ではたらく人の工夫が、自分たちがおいしく安全に食べられることにつながっていることを意識させる。	[知技①] 見学カードの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場働く人の仕事の工夫について理解しているか」を評価する。
	⑧明太子はどこへ P. 62～63 明太子とわたしたちの地いきには、どのようなかわりがあるのでしょうか。 (1 時間)	○出来上がった明太子が、どこへ運ばれていくのかを調べる。 ・お店は、ほとんどが福岡県内にある。 ・電話やアプリで注文されたものは、宅配便で全国へ送られる。 ○明太子が、福岡の人たちに、どのように親しまれているのかを話し合う。 ・福岡市で明太子のつくり方が広まり、名物として親しまれるようになった。 ・市民が楽しめるイベントが開かれている。 工場で作られている明太子は、県内を中心とした販売店で売られている。商品開発をしたり、地域の文化や伝統工芸品などを紹介したりして、明太子を通して、福岡市のよさをたくさんの人に広めようとしている。	◆P. 56 「たらこに使う金額ランキング」と関連させて、お店が福岡県内に多い理由を考えさせる。 ◆名物の明太子を中心に、文化や伝統工芸品なども紹介し、福岡市全体をアピールしている点も意識させる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場につくられた明太子は県内を中心とした販売店に送られていることや明太子を通して福岡市のよさを伝えようとしていることを理解しているか」を評価する。
まとめる	⑨⑩明太子のキャッチコピーを考える P. 64～65 これまでの学習をふり振り返り、明太子工場ではたらく人たちが、どのようなふうをして明太子をつくっているのかまとめましょう。	○これまでの学習をもとに話し合い、学習問題についてまとめる。 ・温度の管理や衛生に気をつけて、愛情をこめて明太子をつくっていた。 ・たくさんの人に明太子を食べてもらえるように、新しい商品をつくっていた。 ○これまでの学習を生かして、明太子を宣伝するキャッチコピーの案を考え、宣伝シールにする。 ・あいじょうたっぷり明太子 ・福岡のでんとうをつたえる	◆工場働く人の仕事と自分たちの生活との関わりを意識するよう助言し、ノートにまとめさせる。 ◆P. 53 のまなび方コーナーを参考に、いちばん伝えたいことをなるべく短い言葉に整理させる。 ◆宣伝シールのひな形として、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を活用する。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめて、工場の仕事の手順や工夫、市の人々の生活との関わりを理解しているか」を評価する。 [思判表②] 宣伝シールの記述内容から、「工場働く人の仕事の様子と人々の生活との関連について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		明太子工場で働く人々は、明太子をたくさんの人に食べてもらうために、衛生面に気をつけ、さまざまな工夫をして仕事をしている。また、明太子は県内を中心に販売され、福岡市のお土産として知られているなど、地域の人々の生活と密接な関わりがある。	る。	

目標

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査をしたり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	②地域に見られる販売の仕事と他地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①よく買い物に行く店 P. 66～67 わたしたちは、どのようなところで買い物をしているのでしょうか。 (1 時間)	○普段、家の人と買い物に行く店について話し合う。 ・車に乗って大きなスーパーマーケットに行く。 ・商店街の八百屋さんやお肉屋さんに行く。 ・急な買い物はコンビニエンスストアに行く。 地域には、さまざまな種類のお店がある。① ・家の人によく行く店について質問する。 ○質問内容をカードにまとめる。	◆買い物に行く様子を想起させる。学習の導入として、QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を活用してもよい。 ◆地域にはさまざまな店があり、利用用途がそれぞれ違うことを話し合う。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「地域には、さまざまな種類の店があることを理解しているか」を評価する。
	②買い物調べ P. 68～69 家の人は、どのような店でよく買い物をするのでしょうか。 (1 時間)	○質問カードで聞いたことを白地図とグラフにまとめる。 ・家のまわりにはいろいろなお店がある。 ・商店街は駅の近くにある。 ・スーパーマーケットは家の近くにも離れたところにもある。 ・スーパーマーケットに行く人が多い。 ・商店街にも行っている。 利用する理由は店によって異なるが、家の人たちがよく利用するのはスーパーマーケットである。②	◆白地図にまとめ、地理的に学習したことを理解する。 ◆よく行く店についてグラフにまとめて、視覚的に捉えやすいようにする。	[知技①] 白地図などの内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、店により利用する理由が異なるが、スーパーマーケットをよく利用していることを理解しているか」を評価する。
	③④スーパーマーケットについて話し合う P. 70～71 スーパーマーケットについて気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (2 時間)	○スーパーマーケットについて、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・車で来る人のために駐車場がある。 ・スーパーマーケットで働いている人にはどのような仕事があるのか。 ・スーパーマーケットにはどのくらいの種類の品物があるのか。 学習問題 スーパーマーケットではたらく人は、たくさんのお客さんに来てもらうために、どのようにふうをしているのでしょうか。	◆地域のスーパーマーケットについて質問カードや普段の買い物の経験をもとに話し合う。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「気づいたことや疑問に思ったことをもとに、スーパーマーケットとそこで働く人の様子について問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・品物を見つけやすくするために、工夫していることがあるのではないか。 ・買い物がしやすいように、品物を置く場所を工夫していると思う。 ・たくさんのお客さんが来ることができるように駐車場を広くしている。	◆学習問題について予想をさせる。 ◆学習計画を立てる際には、調べることと、調べ方を整理する。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「スーパーマーケットの仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	⑤⑥スーパーマーケットの様子 P. 72～75 スーパーマーケットの売り場は、どのようになっているのでしょうか。 (2 時間)	○スーパーマーケットの見学に行く。もしくは、P. 73～74 を見て、気づいたことを話し合う。 〔見学の視点〕 ・売っているものとその種類 ・品物の見つけやすさ ・どのような品物が、どこに置いてあるか ・値段、紹介の書き方 ・働いている人の様子 スーパーマーケットでは、たくさんの商品が販売されている。また、たくさんの人たちが仕事をしている。 ⑤⑥	◆見学に行く際は、見学の視点を明確にしたり、インタビューする内容をあらかじめ決めたりしてから行くようにする。QRコンテンツ「スーパーマーケットではたらく人の仕事を調べよう」を使って、事前に予習することも効果的である。 ◆資料を見る際も、読み取る視点を明確にする。	〔知技①〕 見学メモやノートの記事内容から、「情報を集め、読み取り、スーパーマーケットの売り場の様子や働く人の様子について理解しているか」を評価する。
	⑦⑧品物はどこから P. 76～77 たくさんの品物は、どこから運ばれてくるのでしょうか。 (2 時間)	○スーパーマーケットで売られている品物の産地を調べ、他地域や外国との関わりについて話し合う。 ・お肉はアメリカ産と書いてあった。 ・わたしたちの住んでいる市や県以外からも運ばれてきている。 ○地図帳の日本地図や外国の地図を使い、産地に印をつける。 ・他地域から来た品物が、わたしたちの生活を支えている。 スーパーマーケットに並ぶ多くの品物は、国内だけではなく海外も含めた、他地域とのかかわりによって成り立っている。 ⑦⑧	◆看板、値札のシール、折り込みチラシや納品の段ボールなどから、児童が自分で産地を確かめられるようにする。 ◆地図帳を使って遠い地域から運ばれていることを確認させたい。 ◆国には国旗があることをおさえる。	〔知技①〕 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、品物を通したスーパーマーケットの他地域や外国とのかかわりについて理解しているか」を評価する。
	⑨⑩店ではたらく人 P. 78～79 スーパーマーケットでは、品物のならべ方や売り方をどのようにくふうしているのでしょうか。 (2 時間)	○スーパーマーケットで働いている人の話から、お客さんが買い物をしやすかったり、願いを叶えたりするために、どのような仕事をしているかを調べ、話し合う。 ・欲しいものがいつでも買えるように、種類ごとに並べ看板をつけている。 ・足りなくなった品物は注文していつでも質のよいものを売っている。 ・「お客さんの声」をよく聞くようにしている。 スーパーマーケットで働く人々は、商品の注文や陳列をしたり、商品を加工・包装したりするなど、さまざまな取り組みをして、お客さんがたくさん来るよう工夫している。 ⑨⑩	◆「売り場ではたらく西村さんの話」から仕事の内容を確認する。 ◆お客さんの声と仕事が結びついていることを読み取る。	〔知技①〕 見学メモやノートの記事内容から、「必要な情報を集め、読み取り、スーパーマーケットで働く人々は、お客さんの願いにこたえ、お店にたくさん来てもらうためにさまざまな販売の仕方の工夫をしていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑪⑫お客さんのねがいをかなえるために P. 80～81 スーパーマーケットでは、そのほかにどのようなふうをしているのでしょうか。	○品物や売り場の工夫のほかに、お客さんの願いをかなえるために、お店がどのような工夫をしているのかを話し合う。 ・大きな駐車場がある。 ・消費期限やつくった人の顔がわかるので安心。 ・アプリでポイントが貯められる。 スーパーマーケットで働く人々は、お客さんの多様なニーズに応えるためのさまざまなサービスをしており、それらの工夫が店の売上げを高めることにつながっている。	◆児童が当たり前に感じているサービスについて、視点がもてるようにする。 ◆コンビニエンスストアなどと比較するとわかりやすい。	【知技①】 見学メモやノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、お客さんの願いを叶えることがスーパーマーケットの売上げを高めることにつながっていることを理解しているか」を評価する。
ま と め る	⑬⑭調べたことを話し合い、新聞にまとめる P. 82～83 調べたことをもとに、スーパーマーケットではたらく人のくふうについてまとめましょう。 (2 時間)	○学習してきたことをふり振り返りながら、スーパーマーケット新聞にまとめる。 ・日本や世界のいろいろなところから品物が集められていた。 ・お客さんが買い物をしやすくするために工夫していた。 ・お客さんの願いを叶えるための工夫も色々あった。 ○お客さんの願いと、働く人の工夫の結びつきについて考える。 ・工夫することで、お客さんがたくさん来て、スーパーマーケットの売上げを高めることにつながっていた。 販売の仕事に携わる人々は、お客さんのさまざまな願いをふまえ、売上げを高める工夫や努力をしながら仕事をしている。	◆調べたことについて、その目的を児童同士でしっかり話し合いができるようにする。	【思判表②】 新聞の記述内容から、「消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国とのかかわりなどをもとに、販売の仕事の様子や工夫について考え表現しているか」を評価する。 【知技②】 新聞の記述内容から、「調べたことをまとめて、販売の仕事に携わる人々は、消費者の願いをふまえ、売上げを高める工夫をしていることを理解しているか」を評価する。
単 元 全 体 の い か す	①はたらく人とわたしたちとのつながり P. 86～87 わたしたちの生活と、さまざまな仕事のつながりについて考えてみましょう。 (1 時間)	○地域の生産と販売の仕事について話し合う。 ・つくる人は、おいしいものをたくさん食べてほしいと思っている。 ・売る人は、買いにくる地域の人のことを考えて売っている。 ・地域でつくられたものは、地域で売っていて、わたしたちが食べていた。 ・つくる人、売る人、買う人がみんなつながっていた。 地域にみられる生産の仕事や販売の仕事は、わたしたちの生活と身近なところにつながっている。	◆地域の仕事という視点で、十分に話し合いをさせる。話し合いの中で、地域がつながっていることに気づかせるようにする。	【思判表】 カードやノートの記述内容から、「地域の生産や販売の仕事と地域における自分たちの生活とのつながりについて考え表現しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	くらしの安全を考えよう わたしたちの安全なくらしを守るはたらきについて考えてみましょう。 (1時間)	○新聞やテレビのニュース、自分の体験などを思い出しながら話し合い、安全なくらしをつくるためのしくみや人々の働きに関心をもたせる。 ・火事が起きたときには、消防署からたくさんの人が来て火を消している。 ・夜に警察の人たちが検問をしていた。 ・通学路で駐車違反の取り締まりをしているところを見た。 ・まちには、わたしたちの安全を守るために働いてくれる人がいるから安心して生活できている。 単元のめあて わたしたちの安全なくらしを守るために、まちでは、どこでどのような人たちが働いているのでしょうか。	◆教科書の写真などから、災害や事故・事件の現場で働いている人の姿に注目させる。	〔態度〕 発言内容やノートの記事内容から、「自分たちの生活をふり返り、地域の安全を守る人々の働きについて考えようとしているか」を評価する。

3－①火事からくらしを守る

目標

火災から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①施設・設備などの配置、消防署による緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。	①地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、選択・判断したりして、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①火事が起きたら P. 90～91 火事が起きたときのイラストを見て、気づいたことを話し合います。 (1 時間)	○火事が起きたときのイラストを見て、気づいたことを話し合う。 [人] ・消防士 ・警察官 [仕事] ・消防士が、火を消している。 ・警察官が、交通整理をしている。 ・救急車で、けが人を運んでいる。 火事が起きると、消防士が現場に到着して消火活動を行い、さまざまな人々が協力して消火や救助の活動をしている。 ①	◆「まなびのポイント」を活用し、どのような人がどのような仕事をしているかを問いかけて観点をもたせるようにする。 ◆P. 90～91 の QR コンテンツも活用し、どのような人々が働いているか気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、火事が起きた際の関係機関の活動の様子について理解しているか」を評価する。
	②市内の消防しょ P. 92～93 しりょうから気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○地図やグラフを見て、気づいたことを話し合う。 ・火事の原因はいろいろある。 ○2つのグラフを見て、火事の数の変化や原因について話し合い、学習問題をつくる。 ・119 番の電話から 60 秒で、消防自動車が出動している。 ・どうしてこんなに早くかけつけることができるのか。 学習問題 火事から人々のくらしを守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。	◆自分たちの学校の近くの消防署はどこにあるか、地図で確認させる。 ◆消防署の見学を計画する際には、QR コンテンツ「消防しょ見学カード」が活用できる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「教科書のイラストやグラフをもとに緊急の対応などに着目し、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] 学習計画表の内容や発言内容から、「火災から地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③消防しょへ行こう P. 94～95 消防しょの人たちはどのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○消防士の話を聞いたり、訓練の様子や道具などを観察したりして、わかったことを整理する。 ○「消防署ではたらく山田さんの話」から、火事からくらしを守る取り組みについてわかることを話し合う。 ・できるだけ早く火事の現場にかけつけ、確実に消火できるように訓練している。 ・器具を点検している。 ○消防署や消防士の写真などから、火事に備えてどのような準備をしているかを発表し合う。 ・消防自動車は、火事の場所や大きさによって違う。	◆P. 94 の「まなび方コーナー」をもとに、見学のしかたを確認させる。 ◆見学ができない場合には、QR コンテンツも活用しながら、教科書の記述や写真資料等を丁寧に読み取るようにする。特に、「何のために調べているのか」を問いながら、調べ	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火事が起きた際の消防士の動きや日頃の備えについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		消防署の人たちは、地域の安全を守るために、火事が起きたときに迅速に対応している。また、日頃から火事に対応するための訓練などを行い、緊急時に備えている。 ②	るねらいを明確にし、学習問題の解決に向かっていることを意識させる。 ◆消防署の人たちは、火事に備えて、さまざまな準備をしていることを気づかせる。	
	④通信指令室とさまざまな人々の はたらき P. 96～97 119 番に電話をかけると、どこにどのようなれんらくがいくのでしょうか。 (1 時間)	○火事が起きたときの連絡の流れについて、図から調べる。 ・消防署：消防自動車や救急車を出動させる。 ・ガス会社、電力会社、水道局：協力してもらう。 ○通信指令室の様子について、働く人の話から調べる。 ・関係機関への連絡をしている。 ・大きな火事的时候はほかの市や町にも応援を頼んでいる。 火事が起きたとき、さまざまな関係機関が、通信指令室を中心にネットワークを活用し、相互に連携して迅速に対処する体制をとっている。 ④	◆火事の現場で、どのような人たちが協力し合っているかを考えさせ、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることを捉えられるようにする。 ◆通信指令室と関連機関の関わりについて調べる際、「どこへ」「何のために」連絡をするのかを問い、具体的な関連について明らかにさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火事が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」を評価する。
	⑤まちの中にある消防しせつをさがそう P. 98～99 わたしたちのまちには、どのような消防のためのしせつがあるのでしょうか。	○地域にある消防施設を調査して地図に表したり、地図を見てわかったことや考えたことをもとに話し合ったりする。 ・まちには、消火栓や防火水槽があった。 ・消火栓や避難場所などは、地域に必ずつくるように決められている。 ・住宅には、火災報知器を取り付けることも決められている。 まちにはさまざまな消防施設が設置されており、火事などの災害が起きたときのために、避難場所も定められている。 ⑤	◆地域に出て消防施設を調査する際には、教科書の写真資料や「ことば」を事前に確認させる。 ◆なぜ、さまざまなところに消防施設があるかについて話し合い、緊急時に備えて工夫や努力をしていることに気づかせる。 ◆地域の人たちによる、火事からくらしを守る自主的な活動に目を向けさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地域の消防施設の様子を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥地いきの消防団の取り組み P. 100～101 火事が起きたときや火事をふせぐために、わたしたちのまちではどのような取り組みが行われているのでしょうか。	○消防団の訓練を見学したり消防団員に聞き取りをしたりして、消防団の取り組みについて話し合う。 ・倉庫にある器具を点検している。 ・消火などの訓練をしている。 ・火事、台風、地震などが起きたときに消防署の人たちと協力して、消火や救助の活動を行っている。 ・防火の呼びかけをしている。 ・普段は別の仕事をしている。 ・少年消防クラブに子どもたちが参加している。 消防団は、地域の人々が集まり、消防署と協力しながら火事に備えて訓練したり、防火を呼びかけたりしている。	◆「ことば」をもとにして、消防士との違いを明らかにさせたり、消防団のねらいを明らかにさせたりする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、消防団の活動の様子について理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦⑧火事からくらしを守る人々のはたらき P. 102～103 調べたことをもとに、火事からくらしを守るためのはたらきについて図にまとめましょう。 (2 時間)	○これまでに調べた、火事からくらしを守る人々の活動を図にまとめる。 ・消防士は、日頃から訓練をして、火事が起きたときのために備えている。 ・さまざまな人々が協力している。 ・消防団のように、地域の人々の働きも大切である。 ○「火事をふせぐためには、何ができるか」について話し合う。 ・消防団のさまざまな取り組みに参加する。 ・身のまわりでも、火事を防ぐためにさまざまなことに気をつけていくようにする。 火事から地域の人々の安全を守るために、消防署などの関係機関は相互に連携して、緊急時に対処する体制をとったり地域の人々と協力したりしながら火事の防止に努めている。	◆これまでの学習をふり返り、人に注目して、火事からくらしを守る働きについて考えさせる。 ◆地域のさまざまな関係機関は、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、協力して火災の予防に努めていることに気づかせる。	[知技②] ノートや図の記述内容から、「調べたことをまとめて、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] 図やノートの記述内容から、「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたりして、表現しているか」を評価する。

3-②事故や事件からくらしを守る

目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。	①地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、選択・判断したりして、表現している。	②学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①事故や事件の現場の様子 P. 104～105 事故や事件の現場の様子の写真やグラフを見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。	○身近な地域でどのような場所が危険いかを発表し合う。 ○グラフを見て、事故と事件の数が増えていることを確かめ、どうしてそのように変化しているかを話し合う。 ・事故と事件は、減ってきている。 ・事故と事件が減っているのは、いろいろな人の協力があつたからだ。	◆教科書の写真から、危険な場所を読み取らせ、その原因についても考えさせる。 ◆自分たちの学校の近くの交番はどこにあるかを地図で調べるようにする。 ◆身近な交番の警察官に注目させ、安全を守るための活動に関心をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「事故や事件の数の変化やその背景などに着目し、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] 発言内容や学習計画表の内容などから、「事故や事件などから地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 事故や事件からわたしたちの安全を守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。		
調べる	②事故が起きたら P. 106～107 なぜ、事故が起きたときに、さまざまな人がすぐにかけつけることができるのでしょうか。 (1 味見)	○交通事故現場で働く人のイラストから、事故がどのように処理されるかを発表し合う。 ・いろいろな人が協力している。 ・救急車や消防自動車も現場にかけつけている。 ・どうしてすぐに事故の現場にかけつけることができるのだろう。 ○事故が起きたときの連絡の流れについて、イラストから調べる。 ・火事の時と同じように、連絡はまず通信指令室に届く。 ・連絡を受けた関係機関は、直ちに事故現場に向かっている。 事故が起きたとき、さまざまな関係機関が、通信指令室を中心としたネットワークを活用し、相互に連携して迅速に対処する体制をとっている。	◆交通事故の現場で警察はどのような人たちと協力しているかを考えさせる。 P. 106～107 の QR コンテンツも活用したい。 ◆事故が起きたときには、どのような流れをたどって連絡が届き、事故の処理が行われているかを、「火事」の学習を想起させながら考えるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、事故が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」を評価する。
	③けいさつの仕事 P. 108～109 けいさつの人たちは、みんなの安全を守るために、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 味見)	○地域社会で見かける警察の仕事を調べる。 ・交通安全の呼びかけをしているパトカーを見たことがある。 ・交番では、警察官に道案内や落とし物の相談をしていた。 ○「交番の田谷さんの話」を読み、安全を守る取り組みについて話し合う。 ・交通事故を減らすためには、法やきまりを守ることが大切だ。 警察官は、地域の安全を守るために、地域社会の中でさまざまな活動をして事故などの緊急時に備えている。	◆警察の仕事にはさまざまなものがあることを、人に注目させながら調べ、考えさせる。 ◆交番を見学できない場合は、QR コンテンツ「交番のけいさつさんの仕事」を視聴するとよい。 ◆安全な生活を守るために、自分	[知技①] ノート（カード）の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、警察官の活動の様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
			たちができることとして、ルールやきまりを守ることが大切であるということに気づかせる。 ◆警察官のほかに、だれがまちの安全を守っているか考えさせる。	
	④地いきでの取り組み P. 110～111 地いきでは、安全を守るために、どのようなことに取り組んでいるのでしょうか。	○学校周辺における安全を守る活動について調べる。 ・登下校のとき、地域の人々がパトロールしているところを見たことがある。 ・こども 110 番のステッカーを見たことがある。 ○資料 4「わたしたちのまちの安全を守るしくみ」から、地域の人々が安全を守る活動について話し合う。 ・地域の安全を守っているのは、警察だけでなく、お店の人や地域の人もいる。 こども 110 番の家の設置など、関係機関が地域の人々と協力して、地域の安全を守っている。また、地域の人々は、警察や PTA、市役所などと連携しながら安全なまちづくりに努めている。	◆身近な地域の様子を思い浮かべながら話し合わせる。 ◆なぜ、さまざまなところで地域の人たちが活動しているかについて話し合い、事故や事件が起こらないように工夫や努力をしていることに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、まちの安全を守る地域の人々の活動について理解しているか」を評価する。
まとめる	⑤⑥安全を守る人々のはたらき P. 112～113 調べたことをもとに、事故や事件からくらしを守るためにはたらきについてまとめましょう。	○これまでに調べた安全を守る人々の活動を、表にまとめる。 ・地域の人々は、協力して安全なまちづくりを進めている。 ・自分も協力できることがあったら、協力したいと思う。 事故や事件から地域の人々の安全を守るために、警察署などの関係機関は相互に連携して、緊急時に対処する体制をとったり地域の人々と協力したりしながら事故などの防止に努めている。	◆これまでの学習をふり振り返り、人に注目して、安全を守る仕事について考えさせる。 ◆安全なまちづくりを実現するために、警察の人が協力していることに気づかせる。 ◆話し合ったことをもとにして、緊急時への備えについて自分の考えを書くようにする。	【知技②】 表やノートへの記述内容から、「調べたことをまとめて、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 表やノートへの記述内容から、「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたりして表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
単元全体のいかす	①自分たちにもできること P.114～115 わたしたちのくらしを守るために、自分たちにできることを考えてみましょう。 (2時間)	○火事の原因や自転車の交通事故についての資料を見て、自分たちにもできることはないか話し合う。 ・身近なものが原因で火事が起きている。 ・事故の被害を受けるだけではなく、事故を起こす立場になることもある。 ○わたしたちのくらしを守っていけるようにするための、標語をつくる。 ・「火の用心 主役はいつも わたしたち」 ・つくった標語は、みんなに伝えたい。	◆「まなび方コーナー」を参考にし、標語のつくり方を確認させる。 ◆つくった標語を、それぞれ比べてみて、くらしを守る意識を高めさせる。	【態度②】 作成した標語や発言内容から、「学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 作成した標語や発言内容から、「消防署や警察署の働きについて学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりして、標語に適切に表現しているか」を評価する。
		地域社会の一員として、地域社会の安全のために自分たちにもできることや日頃から心がけることを考えることが必要である。①		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちのまちの、様子を見てみましょう。 (1時間)	○教科書のイラストを読み取り、今と違うことや変わってきたことを話し合う。 [おじいさん・おばあさんが子どものころ] ・蒸気機関車が走っている。 ・今は見かけない形の車がある。 ・着物を着た人がいる。 ・田んぼが多い。 ・今と違って、港のあたりは砂浜が広がっている。 [お父さん・お母さんが子どものころ] ・新幹線が走っている。 ・道路が整備された。車の数も増えた。 ・高い建物が増えた。学校も大きくなった。 ・砂浜が埋め立てられた。 ・田んぼが減って、家が増えた。 [今] ・高い建物がさらに増えた。 ・駅や港の施設も大きくなった。 ・田んぼや畑はほとんどない。 ・まちの様子は大きく変わっているけれど、神社やお菓子屋さんのように、変わらず残っているところもある。 単元のめあて わたしたちのまちや人々のくらしは、どのようにかわってきたのか調べてみましょう。	◆イラストの中から、小単元の学習で着目する視点（交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具）などをそれぞれ意識して見つけさせる。その際、現在とどんなところが違うのか説明させるとよい。	[思判表] 発言内容やノートの記述内容から、「市や人々の生活の様子の時期による違いに着目して、問いを見出しているか」を評価する。

4－①市の様子と人々のくらしのうつりかわり

11 時間／P. 118～135

目標

市の様子に移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いについて、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子を理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見いだし、市や人々の生活の様子について考え、表現している。	①市の様子に移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。	②駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が変化してきたこと、土地利用の様子や生活の道具が変わったことなどを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市や人々の様子の変化を考え、適切に表現している。	②学習したことをもとに、これからの市の発展について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①かわってきた明石のまち P. 118～119 駅前交差点のまわりはどのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「70 年前ごろの様子」「50 年前ごろの様子」「今」の 3 枚の明石駅前の写真を比べて気づいたことを発表する。 ・写真の色が違う。 ・道路が広くきれいになっている。 ・高い建物が増えてきている。 ・人力車から車に変わってきている。 ○資料写真や「近くに住むおばあさんの話」から、戦争で被害にあったこと、みんなの力で新しいまちが復興したことについて知り、感想を話し合う。 戦争で空襲の被害を受けた明石のまちは、70 年前から今まで、いろいろと変わってきている。 ①	◆事前に身近な人から、昔の様子について聞いてくるように指示しておく。 ◆明石駅前交差点の 3 枚の写真をくまなく見ながら、建物や人々の様子の変化に気づかせる。 ◆3 枚の写真から時期の区分を意識させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②かわってきたわたしたちの市 P. 120～121 市の様子についてぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○「およそ 70 年前の明石市の土地の高さと土地の使われ方」と「今の明石市の土地の高さと土地の使われ方」の地図を比べて、気づいたことや疑問に思ったことを発表する。 ・家や店が多くなった。 ・土地が広がった。 ・鉄道が増え、大きな工場ができた。 ・いつごろからいろいろと変わってきたのだろうか。 ・人々のくらしはどのように変わってきたのだろうか。 ○疑問に思ったことをもとにして学習問題をつくる。 学習問題 わたしたちの市は、どのようにうつりかわってきたのでしょうか。	◆各市区町村「市の様子」の単元と関連付けて学習を進めて、昔と今の違いについて考えさせる。 ◆時期によって市の様子が違っていることに気づかせ、市の移り変わりに関心をもたせる。	[態度①] 発言内容や学習計画表の内容から、「市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③人口のうつりかわり P. 122～123 市の人口は、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○市の人口の移り変わりのグラフを読み取り、気づいたことや疑問に思ったことを発表する。 ・市の人口は増えてきている。 ・なぜ人口が急に増えたのだろうか。 ○人口の変化と土地の移り変わりの資料から、人口が増えた理由について考えたことを話し合う。 ・人口の増加と土地の広がりには関係がありそうだ。 ○最近の人口の変化についての資料や明石の町の様子の写真資料から、わかったことや考えたことを話し合う。 ・お年寄りの人数が、平成になってから急に増えている。	◆市の人口の変化と土地の広がりに着目して、その関係について考えさせる。 ◆「まなび方コーナー」を活用し、市役所の人へのインタビューのしかたを指導する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の人口は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		・外国の人の数も増えている。 ・まちの中に高層マンションができています。 明石市の人口は、昔から今に至るまで市町村の合併などの土地の広がりに合わせて増えており、最近では特に、お年寄りや外国の人の数が増加してきた。(③)		
	④道路や鉄道のうつりかわり P. 124～125 市の交通は、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」の 3 枚の鉄道や道路の地図を比べて交通が整備されてきた様子を調べる。 ・昭和の初め頃に道路や鉄道が整備された。 ・約 50 年前に高速道路や新幹線が開通した。 ○道路や鉄道の整備によってくらしはどの様に変わってきたのか、明石駅の移り変わりの写真資料やコミュニティバスの資料を見て話し合う。 ・大きな道路ができて車が通りやすくなった。 ・踏切がなくなって移動が便利になった。 ・鉄道が通っていない所にはコミュニティバスが通っている。 ・交通が便利になって人々が住む場所も増えた。 明石市の主な道路や鉄道などの交通網は、昔から今に至るまで計画的に整備されており、人々の生活も変わってきた。(④)	◆鉄道と道路のひろがりに着目して時間の経過に伴う生活の変化について考えさせる。 ◆鉄道や道路の変化と既習の P. 120～121「明石市の土地の高さと土地の使われ方」の 2 つの地図の変化を関連付けて考えさせる。 ◆鉄道だけでなくバスの路線にも着目させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の交通の様子は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。
	⑤土地の使われ方のうつりかわり P. 126～127 市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」の土地の使われ方の地図を比べて気づいたことを話し合う。 ・70 年前は、田や畑が多かった。 ・50 年前から家や店が増えた。人工の島がつくられた。 ・今は、人工の島が工場になっている。 ○土地の使われ方の変化や明舞団地の写真からわかることについて話し合う。 ・家や店が増えたということは人口も増えた。 ・人口が増えたから団地がつくられたのではないか。 ・「市役所の藤本さんからの手紙」から埋め立て地には公園もあることがわかる。 明石市の土地利用の様子は、昔は田や畑が多かったが、埋め立て地や団地ができるなど昔から今に至るまで大きく変わってきた。(⑤)	◆3 枚の地図を「田や畑の多い所」「森林」「家や店の多い所」「大きな工場」「公園と緑の多い所」それぞれの観点で見比べて、その変容を読み取ることができるようにする。 ◆土地の使われ方と時間の経過に伴う生活の変化について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の土地の使われ方は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥公共施設のうつりかわり P. 128～129 市の主な公共施設は、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」の 3 枚の地図から学校の数や図書館の数を比べ、わかったことを話し合う。 ・学校の数や図書館の数は増えている。 ・移動図書館を見たことがある。 ○どのような公共施設がいつ頃できたのか調べてわかったことを話し合う。 ・明石市のシンボルである天文科学館はおよそ 70 年前にできた。 ・小学校にあるコミュニティ・センターは誰がどのようなことに使っているのだろうか。 ・明石駅前の「あかし市民図書館」は 2017 年にできた。誰がお金を出してつくったのだろうか。 明石市の学校や図書館などの公共施設は、人々の暮らしに役立つために昔から今に至るまで計画的に建設されており、税金を使って整備されている。 ○今まで調べてきたことをふり返ってみよう。 ・市の人口や交通、土地利用などの変化について調べてきた。 ・およそ 70 年前、50 年前と時期によっていろいろ変わってきていることがわかる。 ・人々の暮らしも変わってきている。 ・昔にくらべ、いろいろなことが便利になっている。 ・暮らしの中で使う道具はどのように変わってきているのだろうか。	◆利用したところのある公共施設を想起させながら、その移り変わりについて関心をもたせる。 ◆「市の様子」で学習した公共施設の種類、場所、目的と関連付けて施設の移り変わりについて考えさせる。 ◆調べてきたことをふり返る時間を設け、さらに調べてみたいことはないか考えさせる。 ◆P. 116～117 をふり返り、暮らしの様子がどのように変わってきたか考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の公共施設は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「市の様々な様子の移り変わりをふり返り、さらに調べるべきことを考え、暮らしの様子の変化について調べる見通しをもっているか」を評価する。
	⑦⑧道具と暮らしのうつりかわり P. 130～131 道具を通して、暮らしはどのようにかわってきたのでしょうか。 (2 時間)	○昔と今の農作業の写真を見て、使われている道具の変化から気づいたことを話し合う。 ・昔は「かま」で稲刈りをしていた。今は機械化されている。 ・手作業は時間がかかる。 ○実際に地域の博物館へ行って、道具の移り変わりの様子を調べて、昔から今の暮らしの変化について考え話し合う。 ・あかりもいろいろと変わってきた。 ・ごはんも昔はかまどで炊いていた。 ・洗濯も手作業だった。 ・人の知恵や努力のおかげで暮らしが便利になった。 ・博物館の人の話から、昔の道具にもよさがあることがわかった。 昔から今に至るまで、暮らしをよりよくしようとする人々の願いによって道具はさまざまに工夫されて使われてきており、人々の生活も変わってきた。	◆農具、電灯、洗濯などの生活の道具の移り変わりに着目して、暮らしの変化について考えさせる。 ◆QR コンテンツ「はくぶつ館の見学のしかた」を活用し、見学のしかたを指導する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生活の道具は時間の経過に伴い、移り変わっており、人々の生活も変化したことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑨⑩市のうつりかわりをまとめてみよう P. 132～133 市のうつりかわりについて調べてきたことを、年表にまとめてみましょう。 (2 時間)	○学習問題を確認した上で、これまで調べたことを一つの年表に整理する。 ・明石のまちの様子、人口、土地の使われ方、交通、公共施設、くらしの道具の観点で、調べてきたことを整理する。 ○年表を見ながら、時期ごとの変化についてわかったことを話し合う。 ・明石市はおおよそ 70 年前にまわりの市町村が一緒になって土地が広がり、人口も増えた。 ・およそ 50 年前に高速道路や新幹線が開通した。 ・くらしの道具が変化して、生活が便利になった。 ・明石市はこれからどのようなようになっていくのだろう。 市や人々の生活の様子は、交通網の整備や公共施設の建設、土地利用や人口の変化、生活で使う道具の改良など、時間の経過に伴い移り変わってきている。⑨⑩	◆小単元で使った「ことば」を生かしながら年表をまとめるように指示する。 ◆年表には、「70 年より前」も付け加えてまとめさせるが、くらしの移り変わりについては、3 つの時期「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」ごとの変化の傾向について考えさせる。 ◆QR コンテンツ「年表のつくり方」を活用し、年表の作成方法を指導する。	【知技②】 ノートや年表の記述内容から、「調べたことをまとめて、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 発言やノート、年表の記述内容から、「学習したことをもとに、人口や土地利用、交通や公共施設、生活の道具が変わったことを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市や人々の様子の変化を考え表現しているか」を評価する。
	⑪市のはってんのために P. 134～135 わたしたちの市のこれからのについて考えましょう。 (1 時間)	○市の発展のための取り組みについて調べる。 ・『明石市政 100 年記念誌』から「人にやさしいまちづくり」を目指していることがわかる。 ・広報誌から明石に住みたいという人が最近増えていることがわかる。 ○ホームページで調べたり、学習してきたことを生かしたりしながら、これからどのような明石市になっていくとよいのか話し合い、ポスターを作成する。 ・子どもやお年寄りにやさしいまちづくり ・天文科学館や明石城などの観光スポットを生かしたまちづくり ・明石焼きや鯛めしなど地元の料理を生かしたまちづくり 明石市の人々は、市の発展のためにさまざまな取り組みをしており、わたしたちも市の未来について考えていくことが大切である。⑪ ○作成したポスターを市役所の人に見せて、意見を聞く。	◆市の記念誌や広報誌などを手がかりに、市の発展のための取り組みについて調べさせる。 ◆今まで学習した教科書の資料やノートの記述などを見直させて、これからの市の発展について考えるように助言する。 ◆「まなび方コーナー」を活用し、市のホームページから検索して調べるよう指導する。 ◆事前に市役所の広報課等と連絡を取っておき、児童の作品を紹介し、コメントをもらうようにしておくこと、より主体的な学習ができる。	【態度②】 発言内容やポスターの内容から、「学習したことをもとに、これからの市の発展について考えようとしているか」を評価する。
いかす				

単元の導入（第 1 単元オリエンテーション）

1 時間／P. 6～9

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	知っている都道府県を地図帳でたしかめましょう。 (1 時間)	○地図帳を活用し、自分が住んでいる県の位置を確認する。 ・自分が住む県は日本のどのあたりか ・近くにはどのような都道府県があるか ○地図帳や各種資料を活用し、いろいろな都道府県の名所や特産品について調べたことを発表したり、知っていることを紹介したりする。 ・地図帳には、名所の名前や特産品を示したイラストなどがたくさんついている。 ----- 単元のめあて わたしたちが住む県の位置や特色、各地の人々の暮らしについて、地図や資料を使って調べてみましょう。	◆我が国が 47 の都道府県で構成されていることを確かめる。 ◆まなび方コーナー「地図帳を使ってみよう」を参照し、地図帳の基本的な使い方を再確認する。 ◆QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を活用するなど、都道府県の位置や名称に自然に関心をもたせるようにしたい。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「47 都道府県の名称や位置、それぞれの名所や特産品などに注目して、都道府県の様子に関心を高めているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	①②日本地図を広げて P. 10～15 日本の都道府県について、それぞれの名前と場所を調べ、白地図にまとめてみましょう。 (2 時間)	○教科書P. 10～11の日本地図を見て、自分が住んでいる県がどのあたりにあるか確認する。 ・宮城県は、東北地方にある。 ・岩手県、秋田県、山形県、福島県に囲まれている。 ○日本の都道府県の数や構成を確認する。 ・日本には47の都道府県がある。 ・都は東京都、府は大阪府と京都府、道は北海道である。 ○P. 10～15の都道府県カードを使いながら、三つの日本地図や地図帳などを活用して、各都道府県の名称と位置について調べ、白地図にまとめる。 ・八つの県と接しているのは何県で特産品は何か。 ・いちごの生産が盛んな関東地方の県は栃木県だね、県庁所在地はどこかな。 ・島の数が一番多いのは長崎県だね、確かに地図でみると島が多いね。 わたしたちの県のほかにも、たくさんの都道府県があり、日本は47都道府県によって構成されている。 ①②	◆自分が住んでいる県やそのまわりを確認しながら、都道府県が市町村より大きい規模の地域の単位であることを捉えさせたい。 ◆自分が行ったことある都道府県（場所）や食べたことのある特産品など、児童の体験をできるだけ取り上げ、意欲的に学習活動に取り組ませたい。 ◆白地図に名称などを記入させることで、児童に名称と位置をより主体的に確認させたい。 ◆QR コンテンツ「ビンゴ！都道府県かるた」を活用するなど、楽しみながら都道府県の位置と名称を学べるように工夫したい。	[知技] 都道府県カード（教科書P. 11～15）への記入内容や白地図の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、47都道府県の名称と位置について理解しているか」を評価する。

目標

都道府県の様子について、我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現することを通して、自分たちの県の地理的環境の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などについて地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、県の様子を理解している。	①我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、問いを見いだし、県の様子について考え表現している。	①県の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、自分たちの県の地理的環境の概要を理解している。	②県の位置や県全体の地形、主な産業、交通網や主な都市の位置などの情報を比較・関連、総合して県の地理的環境の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の中の宮城県 P. 16～17 わたしたちが住む宮城県について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○地図帳を活用し、自分たちの県や周囲の様子で知っていることを話し合う。 ・宮城県は、東北地方の太平洋側にある。 ・宮城県は、岩手県と秋田県、山形県、福島県に囲まれている。 ○自分たちの県のどのようなことを調べたいか、話し合い、学習問題をつくる。	◆資料 1「地図帳の宮城県」や地図帳などを活用して、県の位置や県内の様子に着目させる。 ◆地形、主な都市の位置、交通網、産業に着目させ、学習問題をつくるようにしよう。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「県の位置、地形や産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちの県の地形や都市の位置、交通、産業などには、どのような特色があるのでしょうか。		
調べる	②学習の進め方 P. 18～19 学習問題をつくり、学習の進め方をかくにんしよう。 (1 時間)	○小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○学習問題について、予想を立て、実際に見学したり、インターネットやガイドブック、写真や地図、県庁への手紙やメールなどで調査したりして、県について調べる計画を立てる。(5時間) <調べること> ・県の地形 ・ 県の土地利用の様子 ・県の市や町、村 ・県の交通の広がり ・ 県の主な産業	◆問題解決的な学習の進め方について学ばせる。 QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」の動画も活用できる。 ◆調べ方やまとめ方についても指導する。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自分たちの県の地理的環境の概要について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもってしているか」を評価する。
	③宮城県の地形 P. 20～21 宮城県では、どのような地形が見られるのでしょうか。 (1 時間)	○県の衛星写真や写真から県の地形の様子を観察し、気づいたことを発表し合う。 ・山地や平野、沼、川などがある。 ・まっすぐな海岸と入り組んだ海岸がある。 ○地勢図や断面図を読み取り、県の地形と特色を考え、話し合う。 ・県の西側に、蔵王山など高い山地が広がっている。 ・県の中央や仙台湾のまわりは、仙台平野など低く平らな土地が広がる。 宮城県の地形は、西側に高い山がちなり、中央に広く平らな土地が広がり、東側に海に面した海岸がある。 ③	◆ことば「地形」を確認し、県内にみられる主な地形を読み取らせたい。 ◆「まなび方コーナー」や QR コンテンツ「地勢図を読み取る」を活用し、地勢図の読み取り方をおさえる。地勢図と断面図を比べることで、県内の土地の高さの広がり方に着目させ、特色を捉えさせたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県全体の地形の様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④宮城県の土地利用の様子 P. 22～23 宮城県では、どのように土地が使われているのでしょうか。 (1時間)	○県内の写真や土地利用図などを見て、気づいたことを発表し合う。 ・県内の土地利用は、森林や田、畑が多い ・県内には、市街地や牧場、かじゅ園もある。 ○地形とのつながりに着目し、県の土地利用の特色を考え、話し合う。 ・県の中央や仙台湾のまわりの低く平らな土地では田や市街地が広がっている ・山地や海岸は森林が多く、観光にも生かされている。 宮城県の土地利用は、低く平らな土地には、市街地や田が広がり、山地や海岸には森林が多く広がっている。 ④	◆写真を活用し、土地利用図に示される土地利用それぞれについて、イメージしやすくする。 ◆P. 21 の地勢図と比較しながら、地形とのつながりを考えさせたい。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「県の土地利用の特色を、地形との関係から考え表現しているか」を評価する。
	⑤宮城県の市や町、村 P. 24～25 宮城県には、どこにどのような市や町、村があるのでしょうか。 (1時間)	○写真や地図をもとに、自分の住むまちや県内の市町村について気づいたことを発表し合う。 ・県庁所在地は仙台市で一番人口が多い。 ・観光で有名な市町村もある。 ○県内の主な市町村の名称、位置、特徴などを調べ発表し合う。 ・県の北東にある石巻市は、昔から港が栄えていた。 ・白石城のある白石市は、仙台から南へ40kmくらい離れている。 宮城県は県庁所在地の仙台市を中心に、北部に大崎市、海側に石巻市や気仙沼市、南部に白石市などの多くの市町村からなっている。 ⑤	◆行ったことのある市町村を取り上げるなど、市町村という地域の単位を意識づけたい。 ◆ここでは、県内の主な都市に着目し、調べさせたいため、人口の多い上位三つの市や県内の地域的バランスのとれた市を選択させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県内の市町村や主な都市の位置について理解しているか」を評価する。
	⑥宮城県の交通の広がり P. 26～27 宮城県の交通は、どのように広がっているのでしょうか。 (1時間)	⑤ ・東北新幹線 ・東北本線 ・東北自動車道 ・仙台空港 ・仙台塩釜港 ○宮城県の交通の広がり方について、考え話し合う。 ・多くの交通路が仙台市や県内の主な都市に集まっている。 ・遠くの地域や外国ともつながっている。 宮城県には、平地や海沿いに、新幹線や高速道路、空港や港が多くあり、都市を中心に交通が発達している。 ⑥	◆それぞれの交通は、どこどこを結んでいるのか、地図帳などを活用して調べさせたい。 ◆県内の交通路と主な都市との関係を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県の交通網の広がりについて理解しているか」を評価する。
	⑦宮城県の主な産業 P. 28～29 宮城県には、どのあたりにどのような産業があるのでしょうか。	⑥ があるか地図帳や資料、県庁の人への聞き取りなどで調べ、白地図にまとめ、産業の特色について話し合う。 ・三陸海岸は水産業 ・仙台平野は米づくり ・高速道路沿いは自動車づくり ・大きな都市の仙台市は商業や情報産業 ・伝統的な産業は、こけしや雄勝すずり 宮城県では、地域それぞれの特徴に合わせたさまざまな産業がある。また、伝統的な産業も多い。 ⑦	◆県の産業関連部署などからパンフレットなどの資料を取り寄せたり、インタビューをさせてもらったりする。	[知技①] 白地図の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県の主な産業の分布や様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑧宮城県の特色をまとめる P. 30～31	○これまでに調べたことをもとに、県の特色について話し合う。 ・ 広い仙台平野を生かした米づくり。 ・ 仙台市を中心に市街地や交通が集まり、さまざまなところに移動しやすい。 ・ 西側の山地と東側の海岸が、自然豊かで伝統産業や観光業に生かされている。 ○タブレット端末などを活用し、県の紹介パンフレットをつくる。 ・ 宮城県は、山と海に囲まれた米づくりが盛んな県です。 ・ 宮城県は、自然豊かで仙台を中心に都市や交通網が広がっている県です。	◆「仙台平野」(地形)「田」(土地利用)「米づくり」(産業)など、これまで調べたことを関連させ総合的に特色を考えさせたい。 ◆紹介パンフレットは、タブレット端末等で作成するほか、紙に直接地図や写真を貼り作成することもできる。	【知技②】 紹介パンフレットの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめて、自分たちの県の地理的環境の概要を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 紹介パンフレットの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、県の位置や県全体の地形、主な産業、交通網や主な都市の位置などの情報を総合して県の地理的環境の特色を考え表現しているか」を評価する。
	調べたことをもとに、宮城県の特色について話し合い、パンフレットをつくりましょう。 (1時間)	宮城県は、西から東にかけて、山地、平地、海岸と違いがあり、仙台市を中心に都市や交通が広がっており、地域の特徴を生かした産業がある。 ⑧		

小単元の指導・評価計画

単元の導入（第2単元オリエンテーション）

1時間／P. 32～33

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	だれが何をしているか、絵を見て考えてみましょう。 (1時間)	○教科書のイラストを見て、まちの中で、住みよい暮らしをつくるためのしくみや人々の働きについて探し、これらの事業について話し合う。 ・ まちには、水道やごみの処理に関わる仕事をしてくれる人たちがいるから、わたしたちが生活できる。 単元のめあて わたしたちのまちの健康で住みよい暮らしをささえているしくみや人々の働きを調べてみましょう。	◆キャラクターのせりふから、働いている人たちに注目させる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「人々の健康や住みよい暮らしを支えている仕組みや人々の働きなどに着目して、学習の見通しをもっているか」を評価する。

2ー①水はどこから

目標

飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。	①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。	①飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。	②飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付け、飲料水の供給のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①わたしたちが使う水の量 P. 34～35 わたしたちは、毎日どのくらいの水を使っているのでしょうか。	○日頃の水を使う場面や使う量について話し合う。 ・学校ではプールや手を洗う時に使う。 ・家では料理や洗濯に使う。 ・農家や工場、消火でも使う。 水は、生活や産業のさまざまな場面で使われる大切な資源であり、わたしたちは、毎日の生活の中で大量の水を使っている。 ①	◆水を使う様々な場面を想定して話し合う。 ◆一人当たりだけでなく地域全体の量も確認して大量の水を使用していることをおさえる。 ◆学習の導入として、QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を活用することもできる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「飲料水の使用と供給の現状について理解しているか」を評価する。
	②じゃ口の水が通る道 P. 36～37 水がどこからどのように送られてくるのかを考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○じゃ口の水が通る道について話し合い、学習問題をつくる。 ・水道管を通っている。水道管はどこつながっているのか。 ・川から水を取っている ・浄水場という施設できれいにしていると聞いたことがある。 学習問題 わたしたちの生活に欠かせないたくさんの水は、どこでどのようにしてきれいになり、送られてくるのでしょうか。	◆学習問題は端的に作成し、予想や計画について、根拠をもって丁寧に話し合うようにしたい。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「水の供給の仕組みや経路に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・調べること ・調べ方 ・まとめ方		[態度①] 発言内容や学習計画表の記述内容から、「飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④きれいな水をつくる P. 38～39 じょう水場では、どのようなことをしているのでしょうか。 (2 時間)	○浄水場を見学して、その働きについて話し合う。 ・浄水場では、急速ろ過と緩速ろ過の二つの方法で水をきれいにしている。 ・1日に10万5千m ³ の水をきれいにする ・24時間体制でコンピューターで管理して、安全できれいな水をつくっている。 浄水場では、いろいろな設備を使って川の水をきれいにし、毎日安全できれいな水をつくっている。 ③④	◆大まかな設備の名前とその役割をおさえる。 ◆たくさんの設備があり、それを管理している人がいることに気づくようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、浄水場で水をきれいにしくみについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤⑥安全できれいな水をつくるために P. 40～41 じょう水場では、安全できれいな水をつくるために、どのようなふうをしているのでしょうか。	○水質検査をしている吉岡さんの話から、浄水場で働いている人の願いや工夫について話し合う。 ・毎日様々な検査をしている。 ・微生物がいらないかなど、検査はとても細かい。 ・金魚を使った検査や顕微鏡を使った検査をしている。 ・浄水場できれいになった水は、配水池に届き水道管を通して届く。 浄水場では、安全できれいな水をつくるために、いろいろな工夫をしている。安全できれいな水は、たくさんの人の力によって守られている。 ⑤⑥	◆浄水場で機械によって単にきれいにするだけでなく、そこで検査や管理をして働く人の思いについても考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自分たちがふだん飲んでいる水は、浄水場で働くたくさんの人々のくふうや願いによって守られていることについて理解しているか」を評価する。
	⑦金沢市の水道のうつり変わり P. 42～43 じょう水場ができる前は、市内の水はどのように使われていたのでしょうか。	○前時までの学習から、金沢市の水道の移り変わりについて疑問をもち調べる。 ・安全でおいしい水ができる前はどのようにしていたのだろう。 ・90年ほど前までは、井戸や用水の水をそのまま使っていた。 ・人口が増えるにつれて水が足りなくなった。 ・水質の問題で病気が起こった。 浄水場ができる前は、水が足りなくなったり、病気が起こったりしていた。浄水場などの水道施設ができて、安全できれいな水のおかげで、わたしたちは健康な生活が送れるようになった。 ⑦	◆水質検査の役割から、それがなくなったらどうなるかを予想し、話し合わせる。 ◆安全できれいな水は、私たちの生活の向上を支えている。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「金沢市の水道の歴史的背景や、上水道の整備が自分たちの健康な生活の向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。
	⑧ダムや水源の森の働きを調べる P. 44～45 ダムやまわりの森には、どのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○過去の水不足の様子を調べ、現在の水不足が起こらないためのしくみについて調べる。 ・過去に水不足になったことがあった。 ・水不足にならないよう、県と市が協力して、他の川やダムから水を供給するしくみをつくった。 ・水源の森は、ダムと同じように水を蓄えることができる。 ダムは大量の水を貯め、水道で使う川の水の量を調整している。また森林には水を蓄える働きがあり、水源の森を守る取り組みが行われている。 ⑧	◆ダムや水源林の働きを資料から十分に予想させ、話し合う。 ◆県内外の人と協力していることをとらえさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ダムや水源林の働きや、水を安定して供給するために県内外の人が協力し合っていることについて理解しているか」を評価する。
	⑨⑩水の流れをまとめる P. 46～47 調べたことをもとに、水はどのようにして送られているのか話し合い、まとめましょう。 (2 時間)	○これまでに調べたことを話し合う。 ・浄水場では水をきれいにしていた。 ・昔はきれいな水は当たり前ではなかった。 ・わたしたちが使える水には限りがあるから、大切に使うていかなければならない。 ○水の経路や施設の働きを図にまとめる。 飲料水を供給するための事業は、安全で安定的に供給する仕組みがつくられ、計画的に改善が進められており、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っている。 ⑨⑩	◆それぞれの施設の役割と経路を結び付けて考えるようにする。 ◆水が届くまでに、人々の願いや思いがあることにも着目するようにする。	【知技②】 図の記述内容から、「調べたことをまとめて、水道事業は水を安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	⑪大切な水のために P. 48～49	○学習してきたことを生かして、大切な水の使い方について話し合い、自分にできることを考える。 ・節水をする。 ・水を再利用する。 ○地域の環境を守る活動に参加する。 ・学校のそばのビオトープは、浄水場と同じ犀川の水を使っている。 ・ビオトープの環境にも、きれいな水が大切だ。 ・安全できれいな水をいつまでも使い続けられるよう、節水など自分にできることをしていきたい。	◆水をきれいに美しくみだけでなく、環境についても目を向けられるようにする。 ◆限りある水を大切に使うことで自分たちにもできることがあることを考えさせる。	【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、水を大切に使うために今の自分にできることを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、節水や水を大切に使うなど、身のまわりの環境のために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。
	かぎりある水を使い続けるために、自分たちにできることを考えてみましょう。	生活に欠かせない安全できれいな水をいつまでも使い続けるためには、節水したり水を大切に使ったりするなど、身のまわりの環境のために自分たちができることを考えることが大切である。 ⑪		

目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。	①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	②廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①ごみの種類と分別 P. 54～55 家では、ごみをどのように出し、出されたごみはどのようにしゅう集されるのでしょうか。 (1 時間)	○家庭のごみの出し方を話し合う。 ・ごみを種類ごとに分けて出している。 ・種類によって出す日が違う。 ○種類別のごみの量のグラフからわかることを話し合う。 ・燃えるごみが一番多い。 ・ごみの分別は大変だけど、とても大切なことだと思う。 ○ごみステーションの看板を調べ、ごみを出すときのきまりを話し合う。 ・看板には、ごみを出すときに注意することが書いてある。 ・種類ごとに出す曜日が決まっている。 ・ごみの出し方には細かいきまりがある。 ごみは、決められた日に分別して出されている。①	◆ごみの分別に気づかせるとともに、なぜ種類別に出すのかに疑問を持たせる。 ◆燃えるごみを中心に、出されるごみの量が多いことから、分別が必要であることに気づかせる。 ◆ごみステーションの看板に書かれているきまりを読み取らせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、家庭から出されるごみに着目し、「ごみは決められた日に分別して集められていることを理解しているか」を評価する。
	②ごみのゆくえ P. 56～57 わたしたちが出したごみのゆくえを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○ごみ収集の様子を見た経験を発表し、P. 56～57の写真から、集められたごみのゆくえを調べる。 ・ごみは後ろが大きく開く収集車で集められている。 ・ごみは清掃工場やリサイクルセンターに収集車やトラックで運ばれていく。 ○ごみの処理について疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。 ・清掃工場やリサイクルセンターに運ばれたごみは、どのように処理されるのだろうか。 ・処理の方法は種類ごとに違うのだろうか。	◆収集されたごみがどこにどのように運ばれるのかを、種類別に考えさせる。 ◆収集作業員の話から、分別の必要性に着目し、処理のしかたに対する疑問を持たせる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「ごみ処理のしかたに疑問を持ち、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 分別して出され、しゅう集されたごみは、どのようにしてしよりされるのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・清掃工場を見学して、燃えるごみの処理のしかたについて調べる必要がある。 ・調べたことはカードにまとめ、友だちに発表する。	◆「疑問に思っている学習問題をつくる」「予想し学習計画を立てる」という問題解決的な学習過程を辿らせる。	【思判表②】 ノートの記事内容や発言内容から、「ごみの処理事業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③④もえるごみのゆくえ P. 58～59 せいそう工場では、ごみをどのようにもやしているのでしょうか。(2時間)	①清掃工場を見学して、わかったことをノートに整理する。 ・大きなクレーンや焼却炉がある。 ・1日に約600トンのごみを燃やしている。 ・コンピューターを使い、24時間燃やしている。 ②ごみをもやしてしよりする理由を考え話し合う。 ・燃やすとかが50分の1ほどになる。 ・においや病気の原因を取り除くことができて衛生的だ。 清掃工場では、コンピューターを使い、環境に配慮しながら24時間ごみを燃やし、そのことで、ごみのかさがへり衛生的な処理につながっている。 ③④	◆見学だけでなく、清掃工場の人の話や、入手したパンフレットなどから、清掃工場のしくみを総合的に理解させる。 ◆清掃工場働く人の話を参考に、燃やして処理することが、自分たちの衛生的な生活につながっていることを考えさせる。	[知技①] 見学の記録や発言内容から、「必要な情報を集め、清掃工場の燃えるごみを処理するしくみや工夫について理解しているか」を評価する。
	⑤⑥もやすときやもやした後のくふう P. 60～61 ごみをもやすときやもやした後のくふうには、どのようなものがあるのでしょうか。(2時間)	○「ごみを燃やすときの熱や燃やした後の灰の利用について調べる。 ・熱は温水プールや発電に利用されている。 ・灰は、熔融スラグになり、道路工事などに利用される。 ○再利用できないごみの処理について調べる。 ・再利用できないごみは処分場に運ばれている。 ・いっぱいになった処分場は市民のための施設になっている。 ○「那須さんの話」を基に、ごみを燃やすときや燃やした後の工夫や課題を考える。 ・処分場の利用には、限りがあり、流れ出る水をきれいにして川に流す必要がある。 ・ごみは燃やして終わりではなく、燃やすときの熱や燃やした後の灰も再利用するなど工夫されている。 ・環境にもとても配慮されている。 ごみを燃やしたときに出る灰や処理熱は、適切に処理されたり、有効に利用されたりしている。 ⑤⑥	◆灰の再利用や焼却熱の有効活用は計画的に行われ、地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることに気づかせる。 ◆処分場の選定に関わる課題についても触れておく。また、処分場の問題に関連して、不燃化物の処理について調べようとする意欲を高めたい。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、資源化物や燃えないごみの処理について調べる見通しをもっていか」を評価する。
	⑦⑧人々の協力でごみが生まれ変わる P. 62～63 そだごみやしげん化物は、どのようにしよりされているのでしょうか。(2時間)	○資源化物や粗大ごみの処理についてリサイクルプラザを見学して、調べる。 ・資源化物は選別され、種類ごとの再生工場に送られる。 ・ペットボトルは服やペットボトルなどに、使える粗大ごみは修理して再利用される。 ・リサイクルを進めるには、資源化物を集めるための協力が必要だ。 ○身のまわりにリサイクルされて使われているものがないかを考え、発表して話し合う。 ・自転車、服、たんす ・教科書やノートなど 集められた資源化物や粗大ごみは再利用され、資源の節約に役立っており、リサイクルを進めるには人々の協力が必要である。 ⑦⑧	◆リサイクル施設の見学や調査を通して、ごみを資源化することは資源の有効利用につながることを考えさせる。 ◆町内会や、スーパーマーケットの資源化物の回収の取組で知っていることを発表させる。 ◆教室にある物や自分の持ち物で、リサイクルされて使われて	[知技①] 見学の記録や発言内容から、「必要な情報を集め、粗大ごみや資源化ごみを再利用するしくみ、人々の協力の大切さなどについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
			いるものがあるか確かめる活動を取り入れるとよい。	
	⑨⑩ごみしよりのうつり変わりと課題 P. 64～65 ごみしよりはどのようにうつり変わり、新たにどのような課題が生まれているのでしょうか。 (2 時間)	○P. 64資料1をもとに、ごみ処理の方法の移り変わりについて調べる。 ・昔は、ごみを分別せずに集めていた。 ・今は資源化物がリサイクルされるようになった。 ・70年ほど前の処理のしかたに比べ、今は衛生的になった。 ○ごみの処理が抱える新しい問題について「槇野さんの話」をもとに調べ、話し合う。 ・ごみの量が増えると、処分にかかる費用も増える。 ・コンピューターやスマホなど、処理の難しいごみが増えている。 ・外国の人にも、分別のしかたをわかりやすく知らせる工夫が必要になっている。 ・ごみの処理に関わる問題について、市は計画的に取り組んでいる。	◆ごみ処理の移り変わりの資料を見るときには、どのように変わってきたのかに着目させる。 ◆ごみの処理に関わる新しい問題を解決していくためには、市の計画的な対策や事業が必要であることを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、ごみの処理について、現在にいたるまでに衛生的に処理するしくみがつくられ、計画的に改善されてきたことや、ごみ処理にかかる新たな課題について理解しているか」を評価する。
まとめる	⑪ごみのしよりについてまとめる P. 66～67 ごみのしよりについて、わかったことや考えたことを図にまとめましょう。 (1 時間)	ごみの処理は衛生的に行われるようになり、市では、さらにごみを減らすことやごみ出しのルールを守ることなどの課題に取り組んでいる。 (9⑩) い、燃やされる。 ・そのことで私たちが衛生的に生活できる。 ・ごみを減らすことが必要だ。 ・処理しにくいごみが増えてきたことも問題になっている。 ○学習をふり返り、自分の考えをノート等にまとめる。 ・ごみの処理にはいろいろな工夫がある。 ・ものを大切にすることがごみの減量につながる。 ・市の計画的な取り組みやほかの市との協力もあった。 ごみを処理するための様々な取り組みは、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められ、地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っている。 (11)	◆導入で単元の「学習問題」を確認する。 ◆流れ図を作成する際には、P. 67のQRコンテンツ「まとめるワークシート」を活用するとよい。	[知技②] 作成した図や発言内容から、「ごみ処理の取り組みは、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていること、それらは地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	⑫自分たちにできることを考える P. 68～69	○ごみを減らすために、家庭・学校・商店・地域がそれぞれどのような取り組みを行っているかを調べてきたことを発表し合う。 ・家庭では、ごみの分別をしている。 ・学校では、ごみの減量に努めている。 ・商店では、エコバッグの利用を勧めている。 ○ごみを減らすために自分たちにできることを考え、発表し合う。 ・買い物をするときには、エコバッグを使いたい。 ・文房具などリサイクル品を買うようにし、また買った物は大切に使う。 ・近くのスーパーマーケットで資源化物の回収を行っているので、積極的に回収に協力する。	◆事前に分担し、家庭・学校・商店・地域の取り組みを調べさせておく。 ◆家庭・学校・商店・地域のごみの処理の対策や事業は、関連し合っているに進められていることに気づかせる。 ◆これまでの学習をふまえ、自分たちにできることを考えさせるようにする。 ◆自分たちにできることが本当にごみの減量に役立つのかどうかを考えさせるために、だれに協力するのか、どのように協力するのかを意識させるようにする。	【態度②】 ノートの記述や発言内容から、「ごみを減らすためにさまざまな人が協力していることを踏まえ、自分もごみ減量のためにできることを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述や発言内容から、「学習したことをもとに、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを具体的に考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。
	ごみをへらすために、自分たちにできることを考えてみましょう。 (1 時間)	家庭・学校・商店・地域の人々は、ごみを減らすためにさまざまな工夫に取り組んでおり、自分たちも、できることを考え、取り組むことが大切である。 ⑫		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちが住んでいる県では、これまでにどのような自然災害が起きてきたのでしょうか。	○県内各地の自然災害の写真や年表を見て、気づいたことや考えたことを話し合う。 ・さまざまな種類の自然災害がくり返し起きている。 ・地震や風水害が多く起きている。 ・令和元年には、二つの台風と大雨が発生した。 ・風水害から人々を守るために、どのような取り組みがされているのかな。 単元のめあて 自然災害から人々を守る活動について、調べてみましょう。	◆日本全体における、千葉県の位置を改めて確認する。 ◆地震や風水害の多さに着目させる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「県内で過去に起こった様々な自然災害を概観し、自然災害から人々を守る活動について関心を高めているか」を評価する。

目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	②地域の関係機関や人々の働きを関連付け、災害から人々を守る活動について考えたり、地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①風水害から人々を守る P. 74～75 風水害からくらしを守る人々の働きについて考え、学習問題をつくりましょう。	○県内で起きた風水害の写真から風水害が自分たちのくらしに与える影響や気づいたことについて話し合う。 ・台風で電柱が倒れたりしている。 ・大雨で土砂崩れが起きている。 ・オリエンテーションでは、駅前が浸水している写真もあった。 ・風水害にどのように対処したのかな。 ○救助活動や災害対策品部の写真、市役所の太久保さんの話から、気づいたことについて話し合い、学習問題をつくる。 ・消防や警察、自衛隊が協力して救助活動をしています。 ・風水害が起きた時に、市役所や国が協力して対処したんだね。 ・大雨が増えているということだけど、今後の風水害への備えは大丈夫かな。 ・これまでの風水害にどのように対処してきたかももう少し知りたい。	◆オリエンテーションでも風水害については扱っているが、改めて資料から、その被害の大きさに気づかせたい。 ◆自衛隊については国の機関であることを補足する。学習問題について予想をする際の根拠につながるので、写真や資料は丁寧に読み取りたい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「風水害からくらしを守る人々の働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 風水害からくらしを守るために、だれが、どのような取り組みをしているのでしょうか。 ○風水害への対処や備えを誰がどのようにしているのか予想し、学習計画を立てる。 ・風水害にどのように対処してきたか調べる。 ・風水害への備えについて調べる。(県、市、地域の人々、自分たち)	◆いかす段階は学習を進めていく中で児童が見出す時間であるため、学習計画に位置付けておかなくてもよい。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもってしているか」を評価する。
調べる	②くり返し起きてきた風水害 P. 76～77 風水害からくらしを守るために、人々はどのようなことをしてきたのでしょうか。 (1時間)	○P. 76の写真や年表からこれまでに起きた風水害についてわかったことを発表し合う。 ・県内では昔から風水害で大きな被害が起きてきたんだね。 ・たくさんの人たちが堤防の工事をしているよ。だれがどのようなことをしてきたのかな。 ○P. 77の写真や資料からだれがどのように風水害に対処してきたかを整理する。 ・国や県が堤防やポンプ場を協力して整備してきた。 ・市は防災公園をつくったり、地下に雨水をためる施設をつくったりして風水害に対処してきた。 ・人々は水塚をつくって、風水害の時の避難場所にすることで対処してきた。 風水害に対処するため、国や県が中心となり協力して堤防やポンプ場の整備を進め、千葉市でも一時的に雨水をためる施設をつくるなどしてきた。昔の人々は水塚をつくって避難するなどの対処をしてきた。	◆写真や年表から、県内ではくり返し風水害が発生してきたことをつかませる。 ◆どのような立場の人が、どのように風水害に対処してきたのかに着目して調べられるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、過去に県内で起きてきた風水害に対して、国や県、市、人々がそれぞれの立場でどのように対処してきたのか理解しているか」を評価する。
		②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③県の取り組み P. 78～79 千葉県では、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。	○県が風水害に備えて、どのような取り組みをしているか予想し発表し合う。 ・前時で学習したように対処に役立つ堤防などを造っていると思う。 ○千葉県の取り組みについて調べ、わかったことについて話し合う。 ・県は計画的に川幅を広げたり、堤防を造ったりしていた。 ・市町村のための備蓄をしていた。 ・防災情報を伝えるウェブサイトをつくっていた。 ○県はなぜ防災情報を伝えるウェブサイトをつくっているのか話し合う。 ・堤防を造っても防げない風水害には人々が対処するしかないからだと思う。 ・人々が防災意識を高めれば、被害にあうのを防ぐことができるということだと思う。 千葉県では、風水害に備えて、計画的に川幅を広げたり、堤防を整備したりするなどの対策を進めている。また、土砂災害避難訓練を行ったり、防災情報を伝えるウェブサイトをつくったりして、県民の防災意識の向上に取り組んでいる。 ③	◆前時での学習を想起させながら予想させることで、学習の連続性が出てくる。 ◆県の取り組みは川幅の拡幅や堤防の整備など、ハード面が中心であることに気づかせたい。 ◆県が県民の防災意識を高める意味について考えさせることで、公助の働きにも限界があることに気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「県が風水害に備えて計画的に川幅を広げたり、堤防を整備したりするなどの対策を進めていることや、県民の防災意識を高めるための取り組みをしていることについて理解しているか」を評価する。
	④市の取り組み P. 80～81 千葉市では、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。	○県と市の取り組みに違いがあるか考え、話し合う。 ・県では、市や町、村のために備蓄をしていたから、市は市民のための食料などを備蓄していると思う。 ○千葉市の取り組みについて調べ、わかったことについて話し合う ・地域防災計画では、災害への備えと対処について定めていた。 ・企業とも災害時に協力する内容を決めていた。 ○災害時に、なぜ市は関係機関と連携することになっているのか話し合う。 ・市役所にできることと、国や県にできることが違うから、連携していると思う。 千葉市では、風水害に備えて地域防災計画をつくり防災備蓄倉庫を設置するなど市の取り組みを進めるとともに、関係機関と協力できるようにしている。また、防災情報の発信を強化したり、ハザードマップの普及に取り組んだりすることで、市民の防災意識をさらに高められるようにしている。 ④ ○ハザードマップを読み取り、避難所の運営などを市だけでできるのか話し合い、次時の学習に見通しをもつ。 ・市役所だけでは対応できないと思う。	◆県の取り組みを想起しながら市の取り組みについて考えられるようにする。 ◆「なぜ千葉市は、災害時に関係機関と連携することになっているのだろう。」と発問することで、千葉市と関係機関の相互関係とその意味について考えるきっかけをつくることができる。この際に連携という用語を協力と置き換えてもよい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「市が風水害に備えて計画的に取り組むを進めていることや関係機関と協力していること、市民の防災意識をさらに高めるための取り組みをしていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤地いきの人々の取り組み P. 82～83 地いきの人々は、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○地域の人々の取り組みについて予想したことを話し合う。 ・市が避難所を開くときに協力していると思う。 ・訓練をしていたりするんじゃないかな。 ○資料から避難所運営委員会の取り組みについて調べ、発表し合う。 ・市や地域の人にも参加してもらい、協力して避難所運営訓練をしている。 ・地域の人への情報発信をしている。 ・食料や生活用品の備蓄をしている。 ○三村さんが地域を自分たちで守る活動を大切にしている理由について話し合う。 ・風水害の時は、公助の働きだけでは足りないからじゃないかな。 ・自分たちのまちを大切に思っているからだと思う。 ・風水害の時に地域で支え合えるようにするためだと思う。 避難所運営委員会の人々は、風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練をしたり、地域の人への情報発信をしたりしている。また、食料や生活用品を備蓄して、市や県からの支援が届くまで、地域で支え合えるようにしている ⑤	◆前時の学習を想起させて導入する。 ◆避難所運営訓練は市だけでなく、地域の人々も協力して行われていることに留意する。 ◆三村さんの思いについて考える活動を通して、共助の取り組みの大切さや、次時で学ぶ自助の取り組みの必要性についての実感を少しずつ引き出していきたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「地域の人々が風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練などの取り組みを進めていることや、食料や生活用品を備蓄していること、地域の人が災害に備えられるように情報発信をしていることなどについて理解しているか」を評価する。
	⑥自助の取り組み P. 84～85 家庭では、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○風水害への備えについて、家の人にインタビューすることを考える。 ・家の外のそなえについて ・家の中のそなえについて ・避難場所の確認について ・非常持ち出し品の用意について ○インタビューした内容をクラスで整理して考えたことを話し合う。 ・避難場所の確認をしていた人は多かったけれど、家の外や家の中の備えが十分な人は少ないね。 ・非常持ち出し品の用意は半分の人しかできてないね。 ・県や市、地域の人々も自助に役立つ情報を発信してくれていたのに、私たちの自助の取り組みは十分とは言えないね ・学習問題についての考えをまとめた後で、自分たちにできることを考えよう。 家庭では風水害に備えてさまざまな取り組みをしているが、取り組みには差があり、自助の取り組みは十分とはいえない。 ⑥	◆インタビュー項目については、児童に考えさせたり、県や市が発行しているチェックリストを活用したりする方法が考えられる。 ◆自助の取り組みの現状を知ること、問題意識をもたせて、いかに段階での活動につなげるようにしたい。	[知技①] インタビューの記録内容や発言内容から、「目的に沿って聞き取り調査できているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「自助の取り組みの不十分さに気づき、学習計画を修正していかす段階の見通しをもっていかすか」を評価する。

まとめる	⑦⑧ノートにまとめる P. 86～87 風水害からわたしたちの暮らしを守るために、だれがどのような取り組みをしているのかノートにまとめましょう。 (2 時間)	○風水害から暮らしを守る働きについてふり返し、ノートに図で整理してから学習問題について話し合う。 • これまでもくり返し風水害が起きてきた千葉県では、国や県が協力してつくった堤防やポンプ場や市がつくった一時的に雨水をためる施設などで風水害に対処していました。 • 市、県、国、地域の人々は、互いに協力しながらそれぞれの立場でできることをしていたから、輪でつなげました。 • 県や国と市、市と地域の人々はそれぞれ協力して風水害に対処したり、備えていたりしたので、それぞれをつなぐ線の中に「協力」というキーワードを入れました。 • 公助や共助の取り組みの中には、自助のそなえを引き出すための「しえん」が必ず入っていたから、自助に矢印を向けました。 • やっぱり自分たちにできることは何か考える必要があると思います。 地域の関係諸機関や人々は自然災害に対し、さまざまな協力をして対処してきた。また、今後想定される災害に対し、さまざまな備えをしている。 ⑦⑧	◆ノート記録を基に、公助、共助、自助の取り組みについて学級全体でふり返ってからノートに図で整理させるようにする。 ◆図で整理する際には、立場の違いによる役割の違いや共通点、協力関係について考えさせ、線でつないだり、キーワードを書き込ませたりするようにする。 P. 87「まなび方コーナー」も参考にするとよい。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「市、県や国、地域の人々などの関係機関や人々が自然災害に対して様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることについて理解しているか」を評価する。

いかす	⑨マイ・タイムラインでそなえを点けん P. 88～89 風水害にそなえて、わたしたちにできることは何でしょうか。 (1 評価)	○マイ・タイムラインについて知り、マイ・タイムラインづくりをする。 ・マイ・タイムラインをつくると、風水害が起きた時に必要なそなえや行動がとれるかを確かめることができるんだね。 ・市役所からもらったハザードマップが役に立つね。 ・避難所運営委員会の三村さんが教えてくれた危険な場所や避難所についての情報も役立つね。 ○マイ・タイムラインづくりを通してわかったことをもとに、自分たちにできる取り組みを発表する。 ・家の人とも避難先を確認したことが無かったので、まずは今日つくったマイ・タイムラインを家族に見せることも自分ができることだと思う。 ・風水害が来そうなときに、家族や地域の人と協力して、近くに住んでいるお年寄りに避難を呼びかけることはできると思う。 ・家では貴重品や備蓄品がどこにあるかわからないので、帰ったら家族と確認してみたい。 マイ・タイムラインをつくって、自分の家が浸水想定区域にあることを初めて知った。備蓄が不十分だとわかったので、必要なものを家族と準備するなど、自然災害に備えて自分たちにできることを考えることが大切である。 ⑨	◆マイ・タイムラインは住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)のことである。本時では、マイ・タイムラインづくりを通して、自身の取り組みを改めて見つめ直し、自分ができることを考えさせるようにしたい。その際にこれまでの学習で県や市、地域の関係機関から提供を受けたハザードマップや資料を効果的に活用したい。 ◆「自分ができること」は特別な内容である必要はない。作成したマイ・タイムラインやこれまでの学習内容もともに考えさせることが大切である。	【態度②】 マイ・タイムラインへの記述内容や発言内容から、「学習したことを基に、風水害を想定して日頃から備蓄品の備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 マイ・タイムラインの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、風水害を想定して日頃から備蓄品の備えをするなど、自分たちにできることを考えたか、選択・判断したりして、その理由や根拠について説明しているか」を評価する。
------------	--	--	--	--

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちの身のまわりには、どのような古いものがあるのでしょうか。 (1時間)	○それぞれが気づいた、身のまわりの古いものについて話し合う。 ・自分の家の近くには古くからある神社やお寺がある。 ・〇〇という、長い歴史があるお祭りがある。 ・旅行したときに、その地域に昔から伝わるおどりを見たことがある。 単元のめあて 県内には、どのような古いものが残されているのでしょうか。また、きょう土のはってんにつくした人々は、どのようなことをしたのでしょうか。	◆まずは既存の知識を自由に話し合う。 ◆自分たちの住む県にも、古くから残るものが多いことに気づかせる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「古くから残るものを想起し、学習の見通しをもっているか」を評価する。

目標

県内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受けついできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財や年中行事の様子を理解している。	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、問いを見いだし、県内の文化財や年中行事の様子について考え表現している。	①県内の文化財や伝統行事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、県内の文化財や年中行事には地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している	②文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、人々の願いや努力について考えたり、学習したことをもとに地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	②地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①②愛媛県に古くから残るもの P. 96～97 県内に古くから残るものについて調べ、学習問題をつくりましょう。 (2 時間)	○県内に残る古いものの資料からわかったことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・県内の色々なところに、古い建物や年中行事が残っている。 ・東予では祭りが盛んで、中予ではみこしや獅子舞が有名で、東予には芸能が多いね。 ・古い建物や年中行事がどのようにして受け継がれてきたのかな。	◆県内の文化財や年中行事が県内全域に広がっていることを空間的に捉えさせるようにする。 ◆建物や年中行事がどれくらい古くから残っているのかについて児童が疑問に思った際には、道後温泉本館がおよそ130年前の建物である事実などを伝えると良	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「県内にある古くから残るものについての現在にいたるまでの経過に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 県内に古くから残るものは、どのようにして受けつがれてきたのでしょうか。 ○自分が調べる建物や年中行事を一つ選択して、予想と学習計画を立てる。	◆児童の実態に応じて、個人単位やグループ単位など、調べ学習の形態を工夫すると良い。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「県内で受け継がれてきた伝統や文化について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④⑤ (1)道後温泉本館 P. 98～99 道後温泉本館は、どのようにして残されてきたのでしょうか。 (2 時間)	○道後温泉本館の写真を見て、道後温泉本館の人にメールで質問する内容を話し合う。 ・明治時代から今まで、建物の様子は変わっていないね。どうしてなのかな。 ・立派な建物にしたのには理由があると思うので、そこを聞いてみたい。 ・人々の協力や支えがあったのか聞いてみたい。 ○メールで質問したことや年表資料をもとに、わかったことを話し合う。 ・130年ほど前の町長さんが町のシンボルにしようと温泉を改築したのがきっかけだとわかった。 ・昔からくり返し増築や改造をしてきていて、現在も耐震工事をしているので、大切に守ろうとしていることがわかる。 ・市民の人々や国内外から来る観光客、それに国も重要文化財に指定したから関わりがあるね。 ○クラスで発表するための準備を行う。 道後温泉本館は、約130年前の町長さんが100年先を考えて改築したことがきっかけとなって、町のシンボルになった。その後、地域の人や観光客にも大切にされる建物になり、国指定重要文化財にも指定され、大切に残されてきた。 ③④⑤	◆メールなどで取材する前に、写真など、手元の資料でわかることを整理しておき、そこから考えた予想や疑問を確かめるといいう目的意識を持たせるようにする。 ◆年表からは増改築や修復をくり返ししながら道後温泉本館が残されてきたことを読み取らせたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、道後温泉本館やそれを保存・継承する人々の様子を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③④⑤ (2) 宇和島市の八ツ鹿おどり P. 100～101 八ツ鹿踊りは、どのようにして受けつがれてきたのでしょうか。 (3 時間)	○「八ツ鹿おどり」についてのパンフレットを読んで、八ツ鹿保存会の人にインタビューする内容を話し合う。 ・お祭りの練り物として続いてきたんだね。 ・踊りを踊っているのは子ども達だったんだね。 ・どのようにしておどりを受け継いでいるのかな。 ○インタビューしてわかったことや年表資料をもとに、わかったことを話し合う。 ・380年ほど前から、少しずつかたちを変えたり、戻したりしながら受け継がれてきたことがわかった。 ・市の文化財に指定されたり、国から補助金をもらったりして、支えられていたね。 ・踊りには「よいことがたくさん起こりますように。」という願いが込められていたことがわかった。 ・八ツ鹿保存会の人たちによって受け継がれているんだね。 ○クラスで発表するための準備を行う。 八ツ鹿踊りは、約380年前から、「よいことがたくさんおこりますように。」という願いを込めて地域の人々に踊り継がれてきた。国や市の支えもあり、現在でも、八ツ鹿ほぞん会の人々によって子ども達に受け継がれている。 ③④⑤	◆インタビューなどで取材する前に、パンフレットなど手元の資料でわかることを整理しておき、そこから考えた予想や疑問を確かめるという目的意識を持たせるようにする。 ◆年表からは、長い歴史の中で、変化しながらも踊りが受け継がれてきたことを捉えさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、宇和島市の八ツ鹿おどりやそれを保存・継承する人々の様子を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③④⑤ (3) 新居浜太鼓祭り P. 102～103 新居浜太鼓祭りは、どのようにして続けられてきたのでしょうか。 (3 時間)	○「太鼓祭り」の写真を見て、どのように残されてきたのか、川西地区の加藤さんにインタビューすることや太鼓台ミュージアムで見学する内容を話し合う。 ・ たくさんの太鼓台が集まっていて、とても迫力があるね。 ・ 子どもがかつぐ太鼓台もあるよ。 ・ 海の上にも太鼓台を浮かべているね。これだけ大きな祭りをどのようにして続けてきたのかな。 ○インタビューしてわかったことや太鼓台ミュージアムを見学して、わかったことを話し合う。 ・ 太鼓祭りは、地域の団結を願った平和の祭典だとわかった。 ・ 太鼓台が地域の発展に合わせて大きくなってきたことがわかった。 ・ 子ども太鼓台は、しょうらい祭りをになう子ども達のために昭和時代から始められたことがわかった。 ○クラスで発表するための準備を行う。 新居浜太鼓祭りは、約千年前にはじまったと伝わり、地域の産業の発展に合わせて大きくなった。昭和時代から子ども太鼓台の運行も始まり、地域の団結の願いを込めた平和の祭典として受け継がれている。 ③④⑤	◆インタビューなどで取材する前に、パンフレットなど手元の資料でわかることを整理しておき、そこから考えた予想や疑問を確かめるという目的意識を持たせるようにする。 ◆年表からは、祭りを受け継ぐだけではなく、将来も祭りを続けていくために、子ども太鼓台の運行が昭和時代に始まったことにも気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、新居浜市の太鼓祭りやそれを保存・継承する人々の様子を理解しているか」を評価する。
まとめる	⑥⑦ 受けつがれてきた古いもの P. 104～105 県内に古くから残るものについて調べたことを伝え合い、表に整理しよう。	○これまでに調べたことを発表して、表にまとめる。 ・ 「はじまり」、「はじまりやこれまでのできごと」「だれがどのように受け継いできたか」「人々の願い」に分けて整理すると良いね。 ○作成した表を見ながら、それぞれに共通することや違う点など、気づいたことを話し合う。 ・ 受け継がれてきた古いものは、どれも長い間人々に大切にされてきたんだね。 ・ 地域の人々の幸せやほこり、団結といった思いや願いがこめられているんだね。 ・ たくさんの人に文化財やきょう土芸能、祭りを知ってもらおうと努力したり、子ども達に受け継ぐための工夫をしたりしていたね。 県内の文化財や年中行事は、長い間地域の人々が協力して受け継いできたものであり、それらには地域の発展など人々のさまざまな願いが込められている。 ⑥⑦	◆「まなび方コーナー」を参照して、表に整理する方法を確認する。 ◆整理した表をもとに、「はじまり」「はじまりやこれまでのできごと」「だれがどのように受け継いできたか」「人々の願い」について、共通点や違いを考えながら、学習問題について考えられるようにする。 ◆一人一台端末を使って表を作成する際は、QRコンテンツ「まとめるワークシート」が活用できる。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを表や文などにまとめ、県内の文化財や年中行事が地域の人々に受け継がれてきたことや、それらには地域の発展などの人々の様々な願いが込められていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	⑧⑨身近な地いきを見直そう P. 106～107	○身近な地域に古くから残るものについて考える。 ・学校には伊予万歳クラブがあるけれど、これも古くから残るものだと思う。 ○伊予万歳保存会の平野さんにインタビューしてわかったことを整理する。 ・万歳は正月に家が栄えるように、うたったり、おどったりする郷土芸能。 ・伊予万歳には350年以上の歴史がある。 ・若い人に伝えるために、学校のクラブで教えている。 ○伊予万歳のように、身近な古くから残るものを受け継ぐ取り組みに、より多くの子も達が参加するために、自分たちにできることを話し合う。 ・秋祭りに参加して、祭りのにない手になる。 ・実際に体験して、楽しいところややりがい、をまわりの人に伝える。 ・ポスターをつくって、学校や地域で宣伝する。	◆地域の伝統や文化を保存したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、地域に対する誇りや持続可能な社会を担おうとする態度を養う。 ◆教科書では伊予万歳を取り上げているが、身近な事例を簡単に調べて自分たちにできることを考えさせると良い。	【態度②】 作品の内容や発言内容から、「地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 作品の内容や発言内容から、「文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現しているか」を評価する。
	地いきに古くから残るものを受けつぐために、自分たちにできることを考えてみましょう。 (2 時間)	地域に古くから残る文化財や年中行事には、人々の願いが込められており、地域社会の一員としての自覚を持って保存・継承のために何ができるか考えていくことが大切である。 ⑧⑨		

目標

県内の先人の働きについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。	①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見だし、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。	①県内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。	②先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①石でできた橋 P. 108～109 通潤橋を観察して、どのようなことがわかるのかを話し合しましょう。 (1 時間)	○通潤橋の写真を見て、気づいたことを発表する。 - 真ん中から水がすごい勢いで大量に噴き出している。 - 橋の下が丸い形になっている。 - たくさんの人が橋を見に来ている。 ○なぜ、このような橋をつくったのか考える。 - 空から見ると、谷が深いよ。どこかどこかを結ぶ道をつくりたかったのかな。 - 橋から水が噴き出していることと何か関係があるのかな。 熊本県の白糸台地には、布田保之助を中心にした人々が石を組んでつくった通潤橋という水を通すための橋がある。 ①	◆通潤橋の写真を提示する。 ◆地図で、通潤橋の位置を確かめる。 ◆布田保之助が約 170 年前の人であることを確認する。 ◆通潤橋のまわりの地形を確かめる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、通潤橋の地理的な観点や特徴について理解しているか」を評価する。
	②昔の人々の願い P. 110～111 白糸台地に住んでいた人々の願いと地形の特ちょうをもとに、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○白糸台地の地形に関する写真を読み取る。 - 深い谷に囲まれている。 - 水を確保するために川まで下りるのが大変だ。 ○白糸台地でくらす人々の願いについて調べる。 - 農業用水が十分でない。 - 何とかして水を引きたい。 ○学習問題をつくる。 - どうやって橋をつくったのだろう。 学習問題 布田保之助たちは、どのような苦心やくふうをして通潤橋をつくったのでしょうか。	◆白糸台地の人々の願いについて、水の確保の難しさと生活への影響を関連づけて調べるようにする。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地形ゆえの当時の人々の思いや願いに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立案する。	◆学習問題の解決のために調べることを整理し、学習計画を立てる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「通潤用水をつくった布田保之助ら先人の働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④用水路としての通潤橋 P. 112～113 保之助は、どこからどのようにして、白糸台地に水を引こうとしたのでしょうか。	○人物年表などから布田保之助について読み取る。 - 多くの庄屋のまとめ役。 51 才で通潤橋をつくり始めた。 ○イラスト、地図などを活用して用水がどのように送られているか調べる。 - 約 6 km も離れた笹原川から水を引いている。 - 白糸台地は台地なので、低い所から水を送る工夫が必要。 布田保之助は、笹原川から水を取り入れて用水をつくり、水の通る橋をつくって、白糸台地に水を送ろうとした。	◆通潤橋が通潤用水全体のどの位置にあるか、資料「通潤橋と白糸台地」「取り入れ口から通潤橋まで」などから調べるようにする。 ◆P. 113「まなび方コーナー」を活用して、現地で用水を調べる際のポイントを確認する。 ◆ことば「用水」	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「白糸台地へ水を引くことの困難さについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
			を確認する。	
	⑤⑥水を送るくふう P. 114～115 深い谷に囲まれた台地に、どのようにして水を送ったのでしょうか。 (2 時間)	○白糸台地の地図などから地形の様子を読み取り、水を送るのに、どのような問題点があったのか、整理する。 ・ まわりの谷が深くなっているので、まわりの川から水を取りにくい。 ・ 高い所へ水を送る工夫が必要。 ○布田保之助が橋より高い土地にどのようにして水を送ったのか、調べる。 ・ 水が落ちる力を利用した。 ・ 管を木ではなく、石にした。 布田保之助は、土地の高い白糸台地に水を送るために、水が落ちる力を利用するとともに、石の管をつなげて水を送るしくみを考えついた。 ⑤⑥	◆問題点をどのように解決したかを予想し、調べるようにする。 ◆ことば「等高線」を確認する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、深い谷に囲まれた白糸台地に水を送るしくみについて理解しているか」を評価する。
	⑦⑧石の管をつなげて水を送るくふう P. 116～117 どのようにして、石の管をつなげて水を通したのでしょうか。 (2 時間)	○水が石のすきまからもれないようにどのようなことをしたのか、調べる。 ・ 特別なしっくいをつないだ。 ・ 何度も実験を繰り返して、水圧にたえられる通水管をつくることができた。 ○橋が石の重みや水のいきおいでくずれないように行った工夫を調べる。 ・ 丈夫なアーチ型の石橋。 ・ 橋のあしもとは、特に強くする必要がある。 布田保之助は、水がもれないように石の管を特別なしっくいをつなぐしくみを取り入れるとともに、丈夫なアーチ型の石橋にしようと考えた。 ⑦⑧	◆問題点をどのように解決したかを予想し、調べるようにする。 ◆用語解説「しっくい」を確認する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、石の隙間から水が漏れない工夫について理解しているか」を評価する。
	⑨じょうぶな橋にするために P. 118～119 石工たちは、じょうぶな橋にするために、どのようなことをしたのでしょうか。	○人物年表などから橋本勘五郎について調べる。 ・ たくさんの橋をつくった。 ・ 明治政府に招かれた。 ○石工たちが丈夫な橋にするために行った工夫を調べる。 ・ 熊本城の石垣を参考にした。 ・ 石橋づくりの手順 布田保之助のたのみを受けた橋本勘五郎ら石工たちは、熊本城の石垣の技術を取り入れて丈夫な橋をつくり、1 年 8 か月で完成させた。 ⑨	◆橋本勘五郎の功績について、じょうぶな橋づくりの工夫と関連させて調べるようにする。 ◆ことば「石工」を確認する。 ◆アーチ型の石橋建設の手順などについては、VTR や模型などを活用して実感的に理解できるようにするとよい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、丈夫な橋にするための石工たちの工夫について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑩人々のくらしの変化 P. 120～121 通潤橋ができて、人々のくらしはどのように変わったのでしょうか。 (1 時間)	○通潤橋ができて、人々のくらしがどのように変わったのか、調べる。 ・ 白糸台地の写真や資料から、土地利用の変化（水田の広がり）を読み取る。 ・ 用水路は今も使われている。 ・ この地域の人々にとってなくてはならないものである。 ○どのようにして通潤橋を残していこうとしているか、調べる。 ・ 清掃活動のボランティア ・ 通潤橋は地域の宝。 通潤橋と用水路の建設によって、白糸台地には水田が広がり、人々の生活は向上した。山都町や熊本県の人々は、清掃活動のボランティアをしたり、昔の方法で修理したりすることで、通潤橋を未来に残していこうとしている。 ○ 2016 年の熊本地震の際、通潤橋はどうなったのか、調べる。 ・ ひび割れなどが起こり、水が漏れだした。 ・ 地元の農業をする若者が中心になって全国から支援を集めようとする動きがあった。	◆用水ができる前と後で、どのような違いがあるか、用水路の完成と水田の広がりに関連づけ、比較して調べるようにする。 ◆用水路が、水の確保や収穫量の増加だけでなく、人々のくらしの向上につながっていることを考えられるようにする。 ◆通潤橋に対する地域の人々の意識について、「通潤地区土地改良区の甲斐さんの話」に関連づけて調べるようにする。 ◆ことば「ボランティア」を確認する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、通潤橋が完成したことによる人々のくらしの変化について理解しているか」を評価する。 【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「通潤橋を後世に残していこうとする山都町や熊本県の人々の思いや願いについて考え表現しているか」を評価する。
まとめる	⑪⑫通潤橋物語を紙芝居にまとめよう P. 122～123 調べてわかったことや考えたことを、紙芝居にまとめて発表しましょう。 (2 時間)	○調べたことを紙芝居にまとめて、通潤橋物語をつくる。 ○布田保之助や石工たちの功績について改めて考えたことについて話し合い、場面ごとに伝えたい内容を整理し、それぞれの場面に合ったせりふを考えて、みんなで協力して紙芝居をつくる。 ・ 布田保之助をはじめ、多くの石工や村人の働きがあって、人々の生活がよりよいものになった。 さまざまな苦心や工夫を重ねて用水を開発した先人の働きにより、人々の生活の向上への願いが実現し、地域が発展してきた。 ⑪⑫	◆P. 122～123「まなび方コーナー」を活用し、学習したことをもとに紙芝居にまとめ、発表する手順を確認する。 ◆P. 122「ことば」を参考にして、学習をふり返ることができるようにする。	【知技②】 紙芝居の絵やせりふの内容から、「通潤橋の果たした役割やそれをつくった布田保之助や石工たちの功績を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 紙芝居の絵やせりふの内容から、「布田保之助と石工たちの功績と通潤橋の果たした役割と後の世までの影響に関連付け、生活の向上を考え表現しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちが住む県には、どのような特色をもった地いきがあるのでしょうか。 (1時間)	○県内各地の写真を見て、地域の特色や人々の暮らしについて話し合う。 ・みやぎ蔵王こけし館で実演を見たことがある。 ・仙台市は、国際ハーフマラソンが有名。 ・松島は、県を代表する観光地だ。 ・登米市登米町には「みやぎの明治村」がある。 ----- 単元のめあて 県内の特色ある地いきや人々の暮らしについて調べてみましょう。 -----	◆地場産業がさかんな地域や国際交流に取り組む地域、自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域の存在を意識できるようにする。	【態度】 発言内容やノートの記述内容から、「県内には様々な特色ある地域があることに気づき、そうした地域での人々の暮らしの様子に関心を高めているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業 発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見出し、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①こけしづくりの伝統を守る蔵王町 P. 132～133 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・蔵王町は山に囲まれた地形である。 ・蔵王町の遠刈田温泉には、こけし館やこけしのらんかんのある橋がある。 ・蔵王町のこけしは国の伝統工芸品に指定されている。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 蔵王町では、こけしづくりをどのように受けついできたのでしょうか。	◆蔵王町でこけしづくりが続いている理由を資料をもとに予想させる。 ◆ことば「伝統的な産業」に注目させ、景観を守る取り組みについて考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「蔵王町の伝統的な産業であるこけしづくりの取り組みに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・空撮写真を見ると、蔵王町には森林が多そうだ。こけしはこの木で作られているのかな。 ・こけしは、いつごろから作られているのか知りたい。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「蔵王町の伝統的な産業であるこけしづくりやその歴史的背景について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③古くからつくられてきたこけし P. 134～135 なぜ蔵王町では、こけしづくりがさかんになったのでしょうか。 (2 時間)	○蔵王町でこけしづくりがさかんになった理由を、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・蔵王町以外でも山に囲まれた地域ではこけしづくりが行われている。 ・こけしづくりは原料である木が取れやすい場所で木地師が始めた。 ・子供のおもちゃとしてつくり始められ、今ではお土産物として蔵王町の特産品となっている。 蔵王町では、原料の木が取れやすい環境を生かして古くからこけしづくりが行われており、現在は特産品となっている。 ②③	◆地図などの資料からこけしづくりがどのような環境でさかんなのか考えさせる。 ◆こけしづくりが古くから行われてきた歴史を調べさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、蔵王町の地理的な特徴とこけしづくりの歴史について理解しているか」を評価する。
	④⑤遠刈田こけしづくり P. 136～137 200 年以上の伝統をもつこけしは、どのようにつくられてきたのでしょうか。 (2 時間)	○蔵王町のこけしは、どのようにつくられ、受け継がれてきたのか資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・数々の工程を経て、一つのこけしはつくられている。 ・一人前の工人になるには長い年月がかかる。 ・他の地域からも後継を募り、こけしづくりを受け継いでいる。 蔵王町では、伝統的なこけしづくりを守るとともに、他の地域から工人を募り、新しい形のこけしづくりにも挑戦している。 ④⑤	◆伝統的なこけしづくりがどのように行われているのか資料をもとに調べるようにする。 ◆伝統を受け継ぎ、次の世代に受けついでいくために大切なことを考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「伝統的なこけしづくりを受け継ぐことに加えて、未来につなぐ取り組みについて考え、表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥未来につなげる こけしづくり P. 138 蔵王町では、 伝統のこけしづ くりを未来へつ なげるために、 どのような取り 組みをしている のでしょうか。 (1 時間)	○伝統のこけしづくりを未来につなげていくために取り組んでいることを、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・こけし工人の移住を進めたり、若手工人の作品の販売を助けたりしている。 ・インターネット販売などで、販売を外国などに広げている。 蔵王町では、伝統のこけしづくりを未来につなげるために、若手工人の移住を進めたり、新しい販売方法を工夫したりしている。 ⑥	◆伝統を未来につなげる取り組みをしていることを調べさせる。 ◆新しい取り組みを工夫する意味を話し合わせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、新しい販売方法や若い工人を受け入れる取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 139 こけしをつくる蔵王町について調べたことをもとに、4 コマ CM をつくりました。 (1 時間)	○こけしをつくる蔵王町について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 ・こけしづくりには200年以上の歴史がある。 ・伝統的な技術を生かして手づくりしている。 ・後継者を増やすために、他の地域から工人になる人を募っている。 ・こけしに関するイベントや、インターネット販売など、こけしの魅力を広める取り組みをしている。 蔵王町では、伝統的な産業であるこけしづくりを生かしたまちづくりを進めるとともに、その伝統や技術を守り、未来につなぐ取り組みを工夫している。 ⑦	◆学習問題を確認して、P. 139「ことば」を使って、4 コマ CM をつくるようにする。 ◆「まなび方コーナー」を参考に 4 コマ CM をつくるようにする。 ◆ICT 端末を使用して 4 コマ CM 作成する際は、ひな形として、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を活用してもよい。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「蔵王町の伝統的な産業を生かしたまちづくりの様子や、こけしづくりを未来に残し伝えようとしている取り組みについて理解しているか」を評価する。 【思判表②】 4コマCMから、「蔵王町の伝統的な産業と地域の発展を関連付け、特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①仙台に住む外国の人 P. 140～141 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・仙台ハーフマラソン」や「仙台国際音楽コンクールには外国の人たちがたくさん参加している。 ・中国をはじめいろいろな国の人が住んでいる。 ・仙台市のウェブサイトには、市の国際交流についてまとめたページがある。さまざまな交流が紹介されている。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。	◆資料2や資料3を読み取ることを通して、外国の人たちが、なぜ増えているのか、考えさせるようにする。 ◆外国の人とくらすには、どのような取り組みをしているのか予想させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「仙台市の国際交流の取り組みや人々の協力に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 仙台市では、外国の人々とのどのような交流をし、共にくらすためにどのようなまちづくりをしているのでしょうか。 ・なぜ仙台市には外国の人が多く住んでいるのかな。 ・外国との交流には、他にどのようなものがあるのかな。	◆インターネットで調べる際は、P. 141「まなび方コーナー」を参照する。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「仙台市の国際交流の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③国際交流の取り組み P. 142～143 仙台市は、どのような国際交流をしているのでしょうか。 (2 時間)	○仙台市ではどのような国際交流をしているか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・仙台市は国際姉妹都市や国際交流都市など、現在9つの都市と交流している。 ・国旗には、その国の人に願いが込められ、互いに尊重しあうことが大切だ。 仙台市では、国際姉妹都市・友好都市との交流やスポーツイベントなどさまざまな交流活動を行っている。 ②③	◆仙台市がいつごろからどのような理由で外国との交流を始めたのか、地図や年表などを活用して調べるようにする。 ◆ことば「国際交流」を確認する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、仙台市の国際交流の歴史や特徴について理解しているか」を評価する。
	④⑤共にくらしやすいまちづくり P. 144～145 SenTIA では、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (2 時間)	○SenTIAでは、どのような交流の取り組みが行われているか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・仙台市では、市とSenTIAが協力して、交流活動や共にくらすための取り組みをおこなっている。 ・SenTIAは、主に外国人向けにサポートする取り組みをしているだけでなく、互いの文化を紹介し合う機会を設けるなどして、世界の課題や多様性の理解に努めている。 SenTIA では、外国人支援だけでなく、留学生交流委員によって互いの文化を伝え合うなど共生の取り組みを行っている。 ④⑤	◆市や SenTIA どのような協力をしているのか資料などを活用して調べるようにする。 ◆ことば「共にくらす」、用語解説「留学生」を確認する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「外国人支援だけでなく留学生交流委員による共生の取り組みについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥だれもが安心してくらするまちを目指して P. 146 市民は、共にくらすために、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○市民は共にくらすためにどのような取り組みをしているのか、資料を活用して調べ、話し合う。 ・東日本大震災では、外国人住民も避難所にたくさん集まったが言語や宗教、習慣の差異によってなどで互いに困ることがあった。 ・東日本大震災での課題をもとに、外国人も一緒に防災訓練を行うなど、共生への取り組みを行っている。 共にくらすまちづくりに向けて、外国人住民との防災活動などを通して地域住民同士も交流活動を行っている。 ⑥	◆外国人住民も地域の一員であることに気づかせるようにする。 ◆交流するだけではなく、日本人住民と外国人住民が共生していくことが大切であることを考えさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、日本人住民と外国人住民が共にくらすための取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 147 国際交流に取り組む仙台市について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○国際交流に取り組む仙台市について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 ・仙台は、歴史的に外国と深いつながりがある。 ・世界のさまざまな都市と、姉妹・友好都市の提携をしている。 ・SenTIAでは、外国人向けにサポートする取り組みをしているだけでなく、お互いの文化を紹介し合う機会を設けて、それぞれの文化を理解できる取り組みをしていた。 ・地域の防災訓練に外国人住民も参加するなど、日本人と外国人住民が共に力を合わせて活動している。 仙台市では、市・団体・地域が協力して、多文化共生のまちづくりに取り組んでいる。 ⑦	◆学習問題を確認して、これまでの時間で学んだ「ことば」を使って、4コマCMをつくるようにする。 ◆P. 139「まなび方コーナー」を参考に4コマCMをつくるようにする。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「仙台市の国際交流や多文化共生といった人々の協力を生かしたまちづくりの様子を理解しているか」を評価する。 [思判表②] 4コマCMから、「蔵王町の伝統的な産業と仙台市の国際交流を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本三景・松島 P. 148～149 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・松島はたくさんの島があり、日本三景の一つに数えられる景勝地である。 ・宮城県の観光地として観光客数が最も多い。 ・古い建物やまちなみが残っているようだ。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 松島町では、美しい景観を生かしてどのようなまちづくりをしているのでしょうか。	◆松島はいつごろから観光地として賑わってきたのか、資料をもとに予想させる。 ◆ことば「景観」に注目させ、景観を守る取り組みについて考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「松島町の景観を生かしたまちづくりの取り組みに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・松島はたくさんの島があり、日本三景の一つに数えられる景勝地である。 ・宮城県の観光地として観光客数が最も多い。 ・古い建物やまちなみが残っているようだ。		[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「松島町の自然環境を生かしたまちづくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③昔からのまちなみを守る P. 150～151 松島町では、れきしある美しい景観をどのようにして守っているのでしょうか。 (2時間)	○松島町では、歴史ある景観をどのようにして守っているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・松島は江戸時代から美しい景観で有名だった。 ・景観条例をつくり、街並みを整える活動をしている。 ・特別名勝松島や国宝瑞巖寺を中心にしたまちなみを残すため、市民と話し合っている。 松島町では、歴史ある美しい景観を守るために、景観条例をつくったり、住民が勉強会を開いたりするなどして、地域で協力している。 ②③	◆松島は江戸時代からの古くからの景勝地であったことを資料からとらえさせる。 ◆町だけでなく、住民も勉強会を開くなどして、景観の維持に努めていることを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、松島町の景観を生かしたまちづくりの歴史や人々の協力について理解しているか」を評価する。
	④⑤美しい自然と景観を生かした観光 P. 152～153 松島町では、美しい自然をどのように守り、まちづくりに生かしているのでしょうか。 (2時間)	○松島町では、どのようにして松島湾の自然環境と景観を維持しているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・島々の松や松島湾のアマモを守るために、町や団体、住民が活動している。 ・遊覧船や養殖カキなど、観光客が楽しめるようにしている。 ・景観や自然環境を、名物として観光に生かしている。 ・東日本大震災の被害を克服しようとしている。 松島町では、町や団体、住民が協力して、松や湾の手入れなど美しい自然と景観を守る取り組みをするとともに、観光客を増やす活動をしている。 ④⑤	◆美しい自然を守り、観光に生かすための取り組みを資料などを活用して調べるようとする。 ◆まちと団体、住民が協力していることを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「自然環境の維持を人々が力を合わせて観光につなげる活動について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥景観を未来に P. 154 これから景観を生かしていくために、どのような活動が行われているのでしょうか。 (1 時間)	○景観を生かしたまちづくりを続けていくために取り組んでいることを、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・小・中学生が外国語でガイドをしている。 ・松島高校には観光科があり、地域の人や旅行会社との実習やオンラインツアーを行なっている。 歴史ある美しい景観を未来につなげていくために、「松島こども英語ガイド」や松島高校に観光科をつくるなど、次の世代にむけた新しい取り組みを行っている。 ⑥	◆未来を担う次の世代へ引き継ぐ取り組みをしていることを調べさせる。 ◆景観を維持していくとどこに大切なことを話し合わせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、歴史ある景観や美しい自然環境を未来につなげるための取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 155 美しい景観を生かす松島町について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○美しい景観を生かす松島町について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 ・松島は、日本三景の一つで、たくさんの観光客が訪れる。 ・松島町では、 松島町では、歴史ある美しい景観や自然環境を生かしたまちづくりを受け継ぎ、広めるとともに、未来に残していくための取り組みを続けている。 ⑦	◆学習問題を確認し、P. 155「ことば」を使って、4コマCMをつくるようにする。 ◆P. 139「まなび方コーナー」を参考に4コマCMをつくるようにする。	【知技②】 4コマCMや発言内容から、「松島町の歴史ある景観や自然環境を生かしたまちづくりの様子を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 4コマCMから、「蔵王町の伝統的な産業や仙台市の国際交流、松島町の自然環境を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①県内の特色ある地いきのよさを伝えよう P. 164～165 県内の特色ある地いきのよさを、学校の人々に伝えてみましょう。 (1 時間)	○これまでにつくった4コマCMや、学習で使った写真などを整理する。 ・伝統的な産業がさかんな地域 ・国際交流に取り組む地域 ・自然環境を観光などに生かす地域 ・古いまちなみを観光などに生かす地域 ○特色ある地域と自分たちのくらすまちを比べて気づいたことを話し合う。 ○学習で使った写真などの資料を生かして三角ポストをつくり、自分たちの県の特色ある地域のよさを発信する。 自分たちの県には、伝統的な産業や国際交流の取り組み、自然景観（古いまちなみ）などを生かしたまちづくりに取り組む特色ある地域がある。 ①	◆自分たちのまちと似ているところや違うところについて、これまでにつくった4コマCMや写真、地図等を活用して調べるようにする。	【思判表】 三角ポストの内容や発言内容から、「これまで学習した三つの地域を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりや自分が住んでいる地域の特色を発信するなど、自分たちにもできることを考え表現しているか」を評価する。 【態度】 三角ポストの内容や発言内から、「学習したことをもとに、県内の特色ある地域のまちづくりを発信するなど、自分たちにもできることを考えようとしているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①「まちのいたるところに、古い建物が」 P. 156～157 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・約500m四方の中に、古い建物がたくさんあり、「みやぎの明治村」と呼ばれている。 ・武家屋敷など、明治以前の建物もある。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 登米町では、伝統的な文化がいまのまちの景観を、どのようにまちづくりに生かしているのでしょうか。	◆地図をもとに、約500m四方にたくさんの古い建物が維持されていることに気づかせる。 ◆ことば「景観」に注目させ、景観を守る取り組みについて考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「登米町の古い文化財や景観を生かしたまちづくりの取り組みに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・まちの人たちが、古い建物を大切に守ってきたのだと思う。 ・大切に守ってきた理由は何だろう。		[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「登米市登米町の古いまちなみを生かしたまちづくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③文化がいとれきしある景観を守り伝える P. 158～159 登米町では、どのようにしてれきしある景観を守っているのでしょうか。 (2 時間)	○登米町では、歴史ある景観をどのようにして守っているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・江戸時代は城下町として栄えていた。 ・明治時代には水沢県の中心だった。 ・登米の人々は歴史あるまちに誇りをもち、景観を保護している。 江戸時代から城下町として栄えてきた登米のまちの人々は、登米の歴史に誇りをもち、歴史ある景観を保護している。②③	◆江戸時代から地域の中心とし繁栄してきたことをとらえさせる。 ◆市だけでなく住民も景観の維持に努めている理由を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、登米町の歴史や歴史ある景観を生かしたまちづくりの特徴について理解しているか」を評価する。
	④⑤景観を生かしたまちづくり P. 160～161 「みやぎの明治村」の景観を生かしたまちづくりは、どのように行われているのでしょうか。 (2 時間)	○登米町では、「みやぎの明治村」の景観を生かしたまちづくりをどのように行っているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・とよま振興公社の方が景観条例をもとに、住民にまちなみの維持を呼びかけている。 ・町の人も進んで歴史ある建物を守り、人々に広めている。 ・観光ガイドが、観光客に古いまちなみの魅力を伝えている。 登米町では、人々が力を合わせて「みやぎの明治村」の古いまちなみを守り、観光に生かしている。④⑤	◆歴史ある景観を守り、観光に生かすための取り組みを資料などを活用して調べるようにする。 ◆まちと団体、住民が協力していることを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、登米町の人々が、それぞれの立場で歴史ある景観を守り、観光に繋げている活動について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥古くから伝わる景観や文化を未来へつなぐ P. 162 これから文化財や景観を生かしていくために、どのようなことが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○古くから伝わる景観や文化財を生かしたまちづくりを続けていくために取り組んでいることを、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 - 小学生が教育資料館の清掃活動をしている。 - 伝統ある登米能を、他の地域の人にも紹介する活動など、登米の文化をこれからも伝えようとしている。 登米町では、古くから伝わる景観や文化財、文化を未来へ繋いでいくために、小学生による教育資料館の清掃活動や登米能継承活動など、次の世代や他の地域の人々にむけた新しい取り組みを行っている。 ⑥	◆未来を担う次の世代へ引き継ぐ取り組みをしていることを調べさせる。 ◆景観を維持しているところに大切なことを話し合わせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、登米町の歴史ある景観を未来へ繋ぐ取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 163 古いまちなみを生かす登米町について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○古いまちなみを生かす登米町について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 - 登米町には文化財がたくさんあり、「みやぎの明治村」とよばれている。 - まちの人々は、登米の歴史にほこりを持ち、文化財や歴史ある景観を伝えている。 - 市や地域の人々がさまざまな立場で協力して、歴史ある景観を守っている。 - 登米町では、観光客を増やし、歴史ある景観や文化を未来に繋げるための取り組みをしている。 登米市登米町では、「みやぎの明治村」とよばれる伝統的な文化財やまちなみを守り、それらを生かしたまちづくりに取り組んでいる。 ⑦	◆学習問題を確認して P. 163 「ことば」を使って、4コマCMをつくるようにする。 ◆P. 139 「まなび方コーナー」を参考に4コマCMをつくるようにする。	[知技②] 4コマCMや発言内容から、「登米町の歴史ある景観や自然環境を生かしたまちづくりの様子を理解しているか」を評価する。 [思判表②] 4コマCMから、「蔵王町の伝統的な産業や仙台市の国際交流、登米市登米町の歴史ある景観を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①県内の特色ある地いきのよさを伝えよう P. 164～165 県内の特色ある地いきのよさを、学校の人々に伝えてみましょう。 (1 時間)	○これまでにつくった4コマCMや、学習で使った写真などを整理する。 - 伝統的な産業がさかんな地域 - 国際交流に取り組む地域 - 自然環境を観光などに生かす地域 - 古いまちなみを観光などに生かす地域 ○特色ある地域と自分たちのくらしまちを比べて気づいたことを話し合う。 ○学習で使った写真などの資料を生かして三角ポストをつくり、自分たちの県の特色ある地域のよさを発信する。 自分たちの県には、伝統的な産業や国際交流の取り組み、自然景観（古いまちなみ）などを生かしたまちづくりに取り組む特色ある地域がある。 ①	◆自分たちのまちと似ているところや違うところについて、これまでにつくった4コマCMや写真、地図等を活用して調べるようにする。	[思判表] 三角ポストの内容や発言内容から、「これまで学習した3つの地域を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりや自分が住んでいる地域の特色を発信するなど、自分たちにもできることを考え表現しているか」を評価する。 [態度] 三角ポストの内容や発言内容から、「学習したことをもとに、県内の特色ある地域のまちづくりを発信するなど、自分たちにもできることを考えようとしているか」を評価する。

単元の導入（第1単元オリエンテーション）

1時間／上 p.6～7

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	地球の写真や地球儀を見て、調べたいと思ったことを話しましょう。 (1時間)	○地球の写真や地球儀をもとに、気づいたことや調べたいと思ったことを発表する。 ＜気づいたこと＞ ・地球の中の日本は小さい。 ・日本は細長い。 ・日本の西には、広い大陸が続いているように見える。 ・この写真の裏側にある、大陸や海はどうなっているのかな。 ＜調べたいと思ったこと＞ ・世界の大陸や海洋はどうなっているのか。 ・日本のまわりにはどのような国があるのか。 ・人はどのあたりに住んでいるのか。 ・日本の国土に住む人たちは、どのようなくらしをしているのか。 ----- 単元のめあて 日本の国土は、地球のどこにあり、人々のくらしは、どのようなになっているのでしょうか。	◆地球の衛星写真を見て、気づいたことを自由に発言させる。 ◆地球儀と地図の実物を見て、確認させる。 ◆地球儀と地図のそれぞれに描かれている具体的な内容については追究せず、見た目の比較に留める。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本が地球のどこにあるかや、国土の様子について関心を高めているか」を評価する。

1－①世界の中の国土

4 時間／上 P. 8～15

目標

我が国の国土の様子について、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。	①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見いだし、我が国の国土の様子について考え表現している。	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①世界の中の日本 P. 8～9 地球の様子や地図を見て話し合い、世界の中の日本について学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○地球儀をながめて、疑問に思ったことを発言する。 ○ P. 7「地球儀の見方・使い方」を参照し、地球儀の使い方を学習する。 ・ 緯度、経度による位置の見方、距離・方位の調べ方 ・ 地図と地球儀の違い ○ P. 8～9 の地図などで世界の主な大陸や海洋を確認する。 ・ 六つの大陸と三つの海洋の位置と名称 ○地図や地球儀で日本の位置を確認し、世界の広がりとの関係について気づいたことや考えたことなどを発表し、それをもとに学習問題をつくる。 ・ 日本はユーラシア大陸の東にあって、太平洋の西にある。 ・ 日本のほかにどのような国々があるのかな。	◆P. 7「地球儀の見方・使い方」をもとに、地球儀の使い方を指導する。 ◆大陸や海洋の位置や形、大きさなどに着目し、地球上の大陸や海洋の広がりをつかえさせたい。 QR コンテンツ「六つの大陸・三つの海洋」も活用したい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の地理的位置や国土の構成に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 世界の中で、日本の国土はどこにあり、どのように広がっているのでしょうか。 ○学習問題について予想し、学習計画を立て、学習の見通しを持つ。 ・ 世界の国々と日本 ・ 日本の国土の広がり ・ 日本の領土		
調べる	②世界の国々と日本の位置 P. 10～11 世界の主な国々と日本の位置や国旗について調べてみましょう。 (1 時間)	○P. 10～11 の地図をもとに、世界の国の位置や国旗、その国の様子、日本との位置関係などについて地図帳や地球儀で調べながら、線でつないだり、国名を空欄に書き入れたりする。 (P. 10 1.～3.を参照) ○線で結んだり、書き込んだりした地図をもとに、気づいたことや思ったことを話し合う。 ・ 大陸だけでなく島にも国がある。 ・ 国旗は似ているものもあるが、それぞれ違って、その国の人々の歴史や願いが込められているものもある。 世界の国々は、多様であり、それぞれ国旗が存在する。②	◆P. 10 の作業指示に従って作業をさせる。写真にも着目させ、それぞれの国の風土や文化の特色にも興味をもたせる。 ◆調べた国が、日本と比べ大きいのか小さいか、日本とどのような位置関係にあるか、どの方位にあるかなどについても調べさせる。 ◆国旗については、P. 10 の「ことば」をもとに指導し、各国の国旗を確認する。 ◆QR コンテンツ「地図帳でさがそう！世界の国々」も活用し、児童に世界の主な国々への関心をもたせる。	【知技①】 教科書への書き込みやノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世界の主な国々と日本の位置関係や、世界の国々には国旗があることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	③多くの島からなる日本 P. 12～13 日本の国土は、どのような特色があるのでしょうか。 (1 時間)	○P. 12～13 の地図や写真などから、日本の国の広がりや日本のまわりの国々を調べ、気づいたことを話し合う。 - 国土は、四つの大きな島と沖縄島や択捉島などの14000以上の多くの島でできている。 - 長い海岸線をもつ。 - 日本の東西南北のはしは、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島で、約3000 kmの距離がある。 - 日本は、海をへだてて外国と接している。 ○国土の広がりについて、話し合う。 - まわりを海に囲まれている島国 - 多くの島が南北につらなる国 日本の国土は、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島を東西南北の端とし、海に囲まれた大小の島々で構成され、海をへだてて大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っている。③	◆P. 12 の作業指示に従って作業をさせる。写真にも着目させ日本の国土はどのように広がっているのか考えさせる。 ◆東西南北の端となる島に着目し、距離を測ったり、隣接する海洋・国などを地図から読み取ったりする活動を通して、島国としての国土の広がりの特徴を捉えさせたい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の周辺や海洋に囲まれ多数の島からなる日本の国土の構成について考え表現しているか」を評価する。
	④領土をめぐる問題 P. 14 日本の領土のはんいは、どのようなになっているのでしょうか。 (1/2 時間)	○ P. 14～15 の地図や写真から、日本の領土・領海の範囲を確認する。 - 日本は、多くの島からなるため、領土よりも領海の方が広い。 ○P. 14～15 の地図や写真、本文から領土の範囲をめぐる問題について理解する。 - 北方領土は、日本固有の領土である。 - 竹島は、日本固有の領土であるが、韓国が不法に占領しているため、日本は抗議を続けている。 - 尖閣諸島は、日本固有の領土である。 日本は、海に囲まれた島国であるため、広い領海をもっている。また周辺国との領土をめぐる問題がある。④-1	◆領土という「ことば」をしっかりと確認したのち、日本には領土をめぐる問題があることに気づかせたい。ただし、5 年生の段階ではその解決策を考え、話し合うなどの活動には深入りせず、概要や位置等の確認に留める。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の領土の範囲について理解しているか」を評価する。
まとめる	④表にまとめる P. 15 日本の国土の特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○調べてわかったことを発表し合う。 ○これまでに調べたことを、表にまとめることを通して、学習をふり返り、そこからわかる日本の国土の特色についてまとめる。 - 日本は、ユーラシア大陸の東、太平洋の西にある。 - 日本は、アメリカ合衆国やフランスなどと同じくらいの緯度にある。 - 日本は、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っている。 - 日本は、海に囲まれ多くの島からなる。 - 広い領海をもっている。 日本は、北半球およびユーラシア大陸の東に位置し、大韓民国、中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っており、海に囲まれた大小の島々から構成され、広い領海をもつ島国である。④-2	◆世界の中で、日本の位置や領土はどのように広がっているか、表にまとめ自分の言葉で説明させる。 ◆表にまとめる際は、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を使い、一人一台端末によってまとめる方法も考えられる。	【知技②】 ノートの記述内容や作成した表の内容から、「日本の国土の地理的位置や構成、領土の範囲などの日本の国土の様子について理解しているか」を評価する。

1－②国土の地形の特色

目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の地形の様子を捉え、国土の地形の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の地形について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の地形の様子を理解している。	①国土の地形に着目して、問いを見だし、国土の地形の様子について考え表現している。	①我が国の国土の地形の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、国土の地形の概要を理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①空から見た国土 P. 16～17 国土の地形について話し合い、学習問題をつくりましょう。	○ P. 16～17 の写真をもとに日本の地形の特色について気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・ 山の上の方まで人が住んでいる土地もある。 ・ 山もあれば平らな土地もある。 ・ 空から見る様子には、場所によって違いがある。	◆ 景観写真をじっくり読ませ、山地、平地、川、海岸、火山などの地形に関する事象に着目させる。 ◆ 写真にある河川にも着目させておく。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地形に関する事象に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 国土の地形には、どのような特色があるのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・ 山地や平地など、国土の地形の様子や広がり ・ 川や湖の様子や広がり	◆ QR コンテンツ 「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、国土の地形に関心をもたせる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地形に関する事象に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
調べる	②国土のさまざまな地形 P. 18～19 山地や平地の特色や広がり、どのようなになっているのでしょうか。 (1 時間)	○ P. 19 の資料5の地図を読み取る活動を通して、国土の山地や平地について気づいたことを発表する。 ・ 山脈、高地、平野などさまざまな地形がある。 ○ P. 19 の資料4をもとに地形の種類とP. 18の資料1、2、3の写真を関連付け、その特徴を読み取る。 ・ 飛騨山脈は山が連なっている。 ・ 松本盆地のまわりには山が見える。 ・ 庄内平野には最上川が流れ、遠くに山が見える。 ○ P. 19 の資料4、5、6をもとに、国土の地形の特色をまとめる。 ・ 山地や山脈とよばれる地形は、四つの島の主に中央にある。 ・ 火山も多い。 ・ 国土の4分の3は山地で、平地が少ない。 日本の国土は、山地が多く、火山も多い。山地は南北に背骨のように連なり、平地は少ない。 ②	◆ 資料4で地形の種類、呼び方、その特色を理解させる。それを視点として、もう一度資料5を見せ、それぞれの特徴的な地形が、国土のどのあたりにあるか読み取らせる。 ◆ 地図帳でも確認させ、そこからわかったことを発表させる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地理的な位置や広がりから国土の地形の様子について理解しているか」を評価する。
	③日本の川や湖の特色 P. 20 日本の川や湖には、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)	○ P. 20 資料1、2、4や地図帳を使い、児童にとって身近な河川の上流や下流(河口含む)、湖について確認する。 ・ 河川の上流は山地で、下流になると平野を流れている。 ・ 山地や平地に湖が見られる。 ○ P. 20 資料3と5、6を関連付け、日本の川と湖の特色をまとめる。 ・ 日本の川は、すぐく急で短いということが、資料5からわかる。 ・ 日本でいちばん大きい湖は琵琶湖である。 日本の川は、山地から平地に向かって流れ、外国に比べ短く流れが急である。また日本には大小さまざまな湖がある。 ③-1	◆ 児童にとって身近な河川を選択し、上流や下流を地図帳で確認させる。 ◆ 山地や平野との関係にも着目させる。 ◆ 湖についても着目させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「山地から平地に流れる川や湖の位置や広がりについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③白地図にまとめる P. 21	○ P. 21 の白地図を完成させ、P. 19 の資料5や地図帳とあわせて、特徴的な地形とその場所などを当てるクイズを出し合う。 ＜クイズの例＞ ・「日高山脈に水源があつて十勝平野を流れている川は何でしょう。」→「十勝川です。」 ・「琵琶湖から流れ出ている川は何川で、なんという平野を流れているでしょう。」→「淀川で、大阪平野を流れています。」 ○国土の地形の特色についての学習をふり返り、感想と自分の考えを文章に表現する。	◆地形の名前を使うことを意識させながら、クイズの問題や答えを言わせる。座席の隣同士ぐらいの人数(2～3名一組)で行う。 ◆調べたことを「ことば」も生かしてまとめさせる。	【知技②】 白地図やクイズ、まとめた文章から、「調べたことをまとめて、国土の地形の特色について理解しているか」を評価する。
	国土の地形の特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	日本の国土は、平地が少なく、山地が多く、火山が多い。川は山地から平地に向かって流れ、短く急である。 ③-2		

目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで低い土地の自然などの様子や低い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活を理解している。	①国土の地形などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活について考え表現している。	①低い土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①堤防に囲まれた土地 P. 22～23 海津市の土地の様子や、人々のくらしについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○海津市の航空写真を見て、土地の様子を話し合う。 ・ 三つの大きな川に挟まれている土地です。そこは平らです。 ・ 畑か田んぼのようなものが見えるが何を育てているのだろう。 ○土地の高さの地図の0mよりも低いところに色をぬって海津市の土地の高さを調べる。 ・ 市の半分以上が0mよりも低いけれど、ここに人が住めるのかな。 ・ 低い土地ならではのくらしの工夫はあるのかな。 ○学習問題をつくる。 ・ まわりに大きな川が三本も流れていて、洪水にならないのかな。	◆航空写真と土地の高さの地図を比較させて、地形の様子を読み取らせる。 ◆地図の 0m よりも低いところに色をぬって、土地の高さを確かめさせる。 ◆話し合っ出てきた疑問点から、学習問題をつくるように助言する。	【思判表①】 ノートの記事内容から、「海津市の地形などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②学習の進め方 P. 24～25 学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。 (1 時間)	○小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○各学習過程には、「ふり返ろう」の項目があることも確認する。 <学習問題について予想する> ・ 資料から予想を立てる <調べること> ・ 水害からくらしを守るくふう ・ 低い土地での水を生かしたくらしや産業のくふう <調べ方> ・ 教科書を使って調べる。 ・ 教科書以外で調べる。(インターネット、市のホームページ、図書館、地図帳など) <まとめ方> ・ 調べてわかったこと、疑問に対する答えをノートにまとめる。 ・ わかった事実をもとに、考えたことをノートに書き分ける。 <いかす> ・ 学んだことをもとに自分の生活の改善や将来について考える。	◆問題解決的な学習の進め方で学ばせる。 ◆QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」を視聴するのも有効である。 ◆調べること、調べ方については、共通理解ができるようによく話し合う。 ◆まとめ方については、学級の実態や教師の願いなどによって、ノート以外の方法も可能である。	【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「海津市の人々のくらしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③水害とたたかってきた人々 P. 26～27 輪中に住む人々は、水害からくらしをどのように守ってきたのでしょうか。 (1 時間)	○資料2と資料1や、P. 22 の航空写真を比べて、昔の川の流れがどのように変化したのか、わかったことを話し合う。 ・ 昔は川が入り組んでいて、輪中がたくさんあった。 ○「歴史民俗資料館の服部さんの話」を読み、どのようにして川がまっすぐになり、輪中がまとまったのかを話し合う。 ・ 明治時代に、デレーケが川の流れを分けることに成功した。 ○資料5を読み取ってわかったことを話し合う。 ・ 1900年の三川分流工事以降は、大きな水害の発生件数は大幅に減った。 ・ しかし、水害がゼロになったわけではない。 ・ 今でも水害に備えて水防演習をしたり、水防倉庫を備えたりするなど水害への備えをしている。 海津市には、もともと川が入り組んで輪中が多くあったが、明治時代に、ヨハネス・デレーケが川の流れを完全に分け、水害の発生件数は大幅に減った。今でも水害に備えて地域の人々は協力して水防演習を行い、水害に備えている。③	◆河川改修工事の歴史について、薩摩藩やデレーケなど、様々な歴史的な流れがあって、今のよう川の流れになったことをとらえさせる。 ◆QRコンテンツ「歴史民俗資料館の人にインタビュー」も、資料として活用したい。 ◆歴史的な見方・考え方、地域の人々の相互協力などの視点から水害の被害を減らすための努力について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市の洪水の被害が少なくなってきたことや現在も水害への意識をもって訓練をしていることについて理解しているか」を評価する。
	④豊かな水を生かした農業 P. 28～29 輪中に住む人々は、豊かな水をどのように農業に生かしているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1を見たり、資料2と3とを見比べたりして、海津市の農業がどのように変わってきたのかを話し合う。 ・ 昔は、沼のような田で稲作を行っていた。 ・ 現在では、普通の水田になっている。 ○資料4と資料5、「農家の横井さんの話」の内容をもとにわかったことを話し合う。 ・ 稲の生産が一番多い。 ・ 大豆、麦、野菜、果物など畑でつくるものも多くなっている。 ・ 大きな排水機場ができて、余計な水を輪中の外にくみ出している。 ○資料6を見て、畑作に必要な水をどのように確保しているか、わかったことを話し合う。 ・ P. 23 資料5を見ると、用水路が多いのは、標高が0m以上の場所だとわかる。 輪中では昔から農業を行っていたが、道路や揚排水機場、パイプラインなどの整備により、豊かな水を生かした大規模な農業を可能にした。④	◆資料 1 と、資料 2・3 を見くらべて、海津市の農業がどのように変わってきたのか、歴史的な変化の視点から考えるように助言する。 ◆ICT端末を使ってインターネット検索する際は、教科書の「まなび方コーナー」を参照する。 ◆昔からの課題であった配水が克服され、水田以外の大豆、麦類、野菜、果物などの農産物生産もできるようになり、農業が多角化してきたことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市では、水害の減少と共に、豊かな水を農業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤水を生かした生活 P. 30 海津市の人々は、豊かな水をどのように生活に生かしているのでしょうか。 (1/2 時間)	○資料1～6から、低い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・ 木曽三川公園で遊べる。 ・ カヌーが楽しめる。 ・ 魚料理が楽しめる。 ・ ヨットの練習が出来る。 (○インターネットで海津市のくらしの様々な特徴を調べても良い。) 海津市の人々は、低い土地ならではの川や水を生かした楽しみがあり、市民のレクリエーションや観光などに広い土地や豊かな水を生かしている。 ⑤-1	◆低地は水害の克服というイメージが強いので、別の視点から海津市の様子をとらえるように働きかける。特に水は人々に楽しさやおいしさを与えてくれるというイメージをとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市では豊かな水をどのように生活に生かしているのかについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑤ノートにまとめる P. 31 海津市の人々のくらしや産業におけるくふうについてまとめましょう。 (1/2 時間)	○P. 31のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・ 沼のような昔の田は、普通の田になっている。稲の生産が一番多い。 ・ 畑で生産するものも多い。 ・ 大きな排水機場による排水と、揚水機場と用水路による配水がある。 ・ 低い土地ならではの楽しみがある。 海津市の人々は、明治時代の川の大改修を経て、水害を克服してきた。低地の地形を生かした農業や、季節ごとの楽しみを生かした観光などを通して、低地の自然環境を生かしたくらしをしている。 ⑤-2	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆教科書には「(教科書の)空らんに書きこんでみましょう」とある。直接書き込むことはもちろん、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を使用し、ICT 端末上でまとめてもよい。	[知技②] ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることについて理解しているか」を評価する。 [思判表②] まとめの文章の内容から、「低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。

1－③ 高い土地のくらし

目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで高い土地の自然などの様子や高い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活を理解している。	①国土の地形などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活について考え表現している。	①高い土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①山のすそ野に広がる高原 P. 32-33 嬬恋村の土地の様子や人々の暮らしについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○嬬恋村の航空写真を見て、土地の様子を話し合う。 ・ なんだかな斜面には畑のようなものが見える。 ○嬬恋村と東京の月別平均気温を比べてわかったことを話し合う。 ・ 嬬恋村は1年を通して、東京よりも気温が低い。 ○嬬恋村の土地利用図を読み込んでわかったことや疑問を話し合う。 ・ どうして標高の高いところでキャベツをつくるのかな。 ○P. 33の本文と嬬恋高原キャベツマラソン大会の写真からわかることを読み取って発表する。 ・ 夏でも涼しいからマラソン大会ができるのかな。 ○学習問題をつくる。 ・ 東京よりも寒い気候でキャベツはできるのかな。 ・ 高い土地で生活するためにはどのような工夫をしているのかな。	◆航空写真と土地利用図を比較させて、地形とキャベツ畑のある場所を考えさせる。 ◆キャベツ畑が標高の高いところに広がっていることと、嬬恋村の気温の関連に着目させる。 ◆話し合っ出てきた疑問点から、学習問題をつくるように助言する。 ◆学習計画をつくる際は、QR コンテンツ「学習計画ワークシート」を活用してもよい。	【思判表①】 ノートの記述内容から、「嬬恋村の地形などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②学習の進め方 P. 24~25 学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。 (1 時間)	○小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○各学習過程には、「ふり返ろう」の項目があることも確認する。 <学習問題について予想する> ・ 資料から予想を立てる <調べること> ・ 高い土地に住む人々の暮らしや産業 ・ それぞれ、どのようにふうがあるのか。 <調べ方> ・ 教科書を使って調べる。 ・ 教科書以外で調べる。(インターネット、市のホームページ、図書館、地図帳など) <まとめ方> ・ 調べてわかったこと、疑問に対する答えをノートにまとめる。 ・ わかった事実をもとに、考えたことをノートに書き分ける。 <いかす> ・ 学んだことをもとに自分の生活の改善や将来について考える。	◆問題解決的な学習の進め方で学ばせる。 ◆QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」を視聴するのも有効である。 ◆調べること、調べ方については、共通理解ができるようによく話し合う。 ◆まとめ方については、学級の実態や教師の願いなどによって、ノート以外の方法も可能である。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「嬬恋村の人々の暮らしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

※本教材は選択教材のため、第2時は「低い土地の暮らし」内 P. 24~25「学習の進め方」を指導する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③あれ地を耕し広い畑に P. 34～35 嬭恋村のキャベツづくりは、どのようにしてさかんになってきたのでしょうか。 (1 時間)	○昔の嬭恋村の写真を見て、嬭恋村でキャベツの生産がさかんになった理由や歴史の流れについてわかったことを話し合う。 - 火山灰のやせた土地でなかなか作物が育たなかった。 - 夏でも涼しい気候を生かした栽培方法が工夫されてキャベツづくりがさかんになった。 - 昭和10年ごろに国道が通って、交通が便利になった。 火山灰が積もってできた土地で野菜づくりには不向きだった嬭恋村を、人々が土地を改良して夏の涼しい気候を生かしたり、交通網の発達を生かしたりしながら全国一のキャベツの生産地にしていった。 ③	◆嬭恋村の農業の歴史年表、昔の嬭恋村の写真、嬭恋郷土資料館の齋藤さんの話、の三つの資料を関連付けて読み、わかったことを話し合わせるようにする。 ◆歴史的な見方・考え方や空間的な広がりや、交通の発達に関する視点を生かして考えさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村の人々の取り組みの歴史や、今では、嬭恋村が夏でも涼しい気候を生かしてキャベツの日本一の生産地になったことを理解しているか」を評価する。
	④夏に新鮮なキャベツをとどける P. 36～37 嬭恋村のキャベツづくりには、どのようなふうがあるのでしょうか。 (1 時間)	○ P. 36～37 の写真から、キャベツづくりの1年の様子で工夫していることをノートに書き出す。 - 予冷庫で冷やすことで、鮮度を保ったまま消費地に届けている。 ○資料3「嬭恋村のキャベツごよみ」を関連付けて読む。 - 種まきをずらすことで、春から秋の何回にも分けて出荷できる。 ○資料8「季節ごとのキャベツの産地」を見てわかったことをノートに書く。 夏秋キャベツの生産は群馬県が最も多い。夏涼しい高原の気候を生かして、春から秋までの長い期間、何回にも分けて出荷している。 ④	◆キャベツづくりの手順を表す写真1～7と、資料3「嬭恋村のキャベツごよみ」を関連付けて読むように助言する。 ◆QRコンテンツ「JA 嬭恋村の人にインタビュー」を活用すると、より詳しい情報を得ることができる。 ◆作業一つ一つにある工夫と共に、春から秋まで長い期間、何回にも分けて出荷できる工夫があることを見つけてさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村では高地の気候を生かしてキャベツを生産していることや、新鮮で安全な野菜を出荷するためのさまざまな工夫をしていることを理解しているか」を評価する。
	⑤自然のめぐみを生かす P. 38 嬭恋村の人々は、豊かな高原の自然を、どのように生活に生かしているのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真資料から、高い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 - 冬はスキーやスケート、夏はスポーツ合宿などができる。 - 地元で収穫されたキャベツが学校給食に出される。 嬭恋村には、高い土地ならではの楽しみが季節ごとにあり、自然や気候の特色をくらしに生かしている。 ⑤-1	◆農業生産の視点だけでなく、別の視点からも嬭恋村の様子をとらえるように働きかける。特に季節ごとの楽しみ方があることをとらえさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村では高い土地をどのように生活に生かしているのかについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤ノートにまとめる P. 39	○P. 39 のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・ 高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かした生活をしている。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、高い土地の人々が自然環境を生かして各季節の楽しみを見つけ、生活していることを理解しているか」を評価する。
	嬬恋村の人々のくらしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめましょう。 (1/2 時間)	嬬恋村の人々は、高い土地に適応して生活しており、高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かしたくらしをしている。	◆教科書には「(教科書の)空らん書きこんでみましょう」とある。直接書き込むことはもちろん、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を使用し、ICT 端末上でまとめてもよい。	【思判表②】 まとめの文章の内容から、「高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の気候の様子を捉え、国土の気候の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の気候の様子を理解している。	①国土の気候に着目して、問いを見だし、国土の気候の様子について考え表現している。	①我が国の国土の気候の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の国土の気候の概要を理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①四季の変化がある日本の気候 P. 42～43 日本の気候について考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○ P. 42の写真（長野県松本市）をもとに、身近な地域の四季の変化と比較しながら、気づいたことを発表し合う。 ・ 四季の様子 ・ つゆの時期や台風がくる時期がある。 ○ 資料2や3月の各地の様子（資料3～6）を見せ、地域によっても気候が異なることに気づかせ、学習問題につなげる。 ・ 桜の咲き始める時期は、場所によって違う。 ・ 3月の沖縄と北海道では、暖かさが大きく異なる。 ・ つゆや台風の影響も、地域ごとに異なるのかな。	◆ 「気候」という「ことば」を確認する ◆ 同じ場所の各月の風景の違いを予想させる（春や秋に比べて、夏や冬の風景の差は小さめである）。 ◆ QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、日本の四季の変化に関心をもたせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地域や時期による気候の違いや変化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 日本の気候には、どのような特色が見られるのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・ つゆ、台風、季節風の影響 ・ 各地の気候の違い	◆ つゆ、台風、雪、季節風が気候に与える影響に関心をもたせ、調べる活動につなげる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から「我が国の気候の特色について予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②つゆと台風、季節風 P. 44～45 日本のつゆや台風、季節風には、どのような特色があるのでしょうか。 (1 時間)	○ 日本の気候を特色づけているつゆ、台風、降雪に関わる景観写真を見て、どの季節のどこの写真か予想する。 ○ 資料4から、7月と1月の平均降水量を比較する。 《日本列島全体の特色》 ・ 日本列島全体では、夏（7月）に降水量が多く、冬（1月）は少ない。 《地域ごとの違い》 ・ 太平洋側は夏に降水量（雨）が多く、日本海側は冬に降水量（雪）が多い。 ・ 北海道では夏でも雨が少ない地域がある。 ・ 沖縄は冬でも雨が多い。 ○ 資料2～6や本文から、夏と冬の降水量が異なる理由を確認する。 ・ 夏は、つゆや台風の影響で雨が多く降る。 ・ 雨は、農業にとってめぐみの雨となるが、台風などによって被害がでることがある。 ・ 特に太平洋側は季節風の影響で雨が多く降る。 ・ 冬は、季節風の影響によって日本海側で雪が多く降る。	◆ 「雨（雪）が多いのは、どこか、どの範囲か」というように位置や空間に着目し、読み取りができるよう留意する。 ◆ 季節風という「ことば」を確認する。 ◆ 地形の学習をふり取り、季節風と地形の関係性を確認する。 ◆ それぞれの気候現象が人々のくらしに及ぼしている影響にも留意するように指導する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の気候の特色であるつゆや台風、季節風とその影響を理解しているか」評価する。
		つゆや台風、季節風は、日本の気候を特色づけている現象であり、人々のくらしにも大きく関係している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③地域によってこ となる気候 P. 46～47 各地の気候に は、どのような 特色があるので しょうか。 (1/2 時間)	○ 資料1の気温と降水量のグラフや「まな び方コーナー」をもとに、グラフの読み 取り方を学ぶ。 ○ 日本の気候を六つに区分した地図と、各 地の気温と降水量のグラフを見比べて考 えたことを話し合う。 ・ 北（北海道）と南（沖縄）で気温が大き く異なる。 ・ 季節風の影響で、太平洋側は夏に降水量 （雨）が多く、日本海側は冬に降水量 （雪）が多い。 ・ 中央高地や瀬戸内海などの日本の内陸側 の降水量は海側よりも少ない。 ・ 山地などの高いところでは、気温が低く なる。 日本各地の気候の特色は、年間の気温と 降水量などで区分される。また、南北の 位置や地形、土地の高さなどによって、 雨の多い地域、雨の少ない地域、雪の多 い地域のように気候は異なっている。 ③-1	◆ P. 46 のまなび方 コーナーを活用 し、気温と降 水量のグラフの読 み取り方を確認 する。 ◆ QR コンテンツ 「どこの気候か わかるかな？」 を活用し、ゲー ム形式で学ぶの もよい。 ◆ 二つの地域の気 温や降水量を位 置や地形と関連 付け、比較する ことで、各地域 の気候の特色を 読み取り、考え を深める中で各 地の気候の特色 をまとめていき たい。	[思判表①] ノートの記述内容 や発言内容から、 「南北の位置や地 形によって分けら れる日本各地の気 候の特色について 考え表現している か」を評価する。
	③キーワードでま とめる P. 47 日本の気候の 特色についてま とめましょう。 (1/2 時間)	○ 日本の気候の特色と各地の気候に影響を あたえるものをキーワードであげ、整理 する。 ○ キーワードを使い、考えたことをノート にまとめ、みんなで話し合う。 日本の気候には、四季の変化が見られ、 南北の位置、地形や季節風などによる地 域差が大きい。また、つゆや台風等が、 人々の暮らしに大きく関係している。 ③-2	◆ 調べたことをこ れまで学んだ 「ことば」を使 ってまとめると ともに、日本の 気候の特色につ いて自分の考え を表現させる。	[知技②] ノートにまとめた 文章や発言内容か ら、「四季やつ ゆ、台風など時期 による変化や国土 の地理的位置によ る地域ごとの違い など日本の気候の 特色を理解してい るか」を評価す る。

目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることであたたかい土地の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を理解している。	①国土の気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活について考え表現している。	①あたたかい土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①沖縄県の家やくらしのくふう P. 48～49 沖縄県の家やくらしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真を見ながら、自分たちのくらしている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校のプール開きは6月だよ。3月に海開きをしている。 ・3月はまだ長袖を着ているよね。 ○グラフを見て、沖縄県の気候の特色を話し合う。 ・1月でも気温が15度以上ある。 ・雨がたくさん降る。 ・台風が多いみたいだ。 ○沖縄の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんある。 ・暑さや水不足に備えた工夫がある。	◆海開きの写真から、沖縄の暑さについて想像させる。 ◆雨温図の最低気温の月の気温や降水量の多い月を読み解かせ、台風の多さや気温の高さなど沖縄の気候の特徴をつかませる。 ◆沖縄の家屋の特徴から、気候に合わせた生活をしていることをつかませるとともに、産業や文化についても調べようとする意欲を持たせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「海開きの写真や台風が通る回数に着目して、間いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「沖縄県の人々のくらしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しを持っているか」を評価する。
		学習問題 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。		
調べる	②あたたかい気候に合った農業 P. 50～51 沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かしてどのような産業を営んでいるのでしょうか。 (1 時間)	○写真とグラフからさとうきび栽培について話し合う。 ・さとうきびの栽培がさかんだね。 ・竹のような作物だね。 ・どうやって砂糖にするのかな。 ○製糖会社の砂川さんの話を読み、さとうきびについて話し合う。 ・さとうきびは沖縄の気候に合っている。 ・沖縄の人々はさとうきび栽培を大切にしている。 ○写真からパイナップル栽培について話し合う。 ・わたしたちの住んでいる地域ではパイナップルはつくっていないね。 ・パイナップルはあたたかい地域の作物だね。 ○パイナップル農家の話や電照菊の栽培について読み、沖縄の自然環境に合った農業について話し合う。 ・沖縄の人々はあたたかい気候を生かした農業を工夫している。	◆作付面積のグラフや写真から、さとうきび栽培がさかんな様子を知り、どうしてさかんになったのか考えさせる。 ◆「製糖会社の砂川さんの話」から、さとうきびが沖縄の農業に欠かせない作物であることを考えさせる。 ◆写真から、どうして沖縄ではパイナップルが栽培できるのか考えさせ、自然環境の特色に目を向けさせる。 ◆農家の話や電照菊の栽培の説明から、自然条件を生かし、人々が農業の発展に努めている様子に気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、さとうきびやパイナップル、菊が沖縄のあたたかい気候に合った作物として栽培されていることや農家の工夫や努力について理解しているか」を評価する。
		沖縄県では、一年を通して気温や湿度が高い気候に合ったさとうきびを栽培している。また、パイナップルなど沖縄県の気候に合う特産物も栽培している。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	③あたたかい気候を生かした観光と沖縄の課題 P. 52～53 沖縄では、あたたかい気候をどのように生かしているのでしょうか。 (1 時間)	○写真とグラフから沖縄の自然と観光について話し合う。 ・ 白い砂浜やさんごしょうがきれい。 ・ プロ野球のキャンプも行われている。 ・ 観光客が増えている。 ○県庁の砂川さんの話を読んで、沖縄の観光について意見を発表し合う。 ・ 美しい自然やあたたかい気候を生かした観光を行っている。 ・ 外国からの観光客を増やす工夫もしている。 ○資料などから沖縄の課題について発表する。 ・ さんごしょうは温暖化などによって白くなってしまうことがあるんだね。 ・ アメリカの軍用地が残されているね。 沖縄県は、1 年を通してあたたかい気候や、美しい自然を生かした観光産業がさかんで、多くの観光客がおとずれている。③	◆写真の美しい自然に目を向けさせるとともに、あたたかい気候とも関連付けて、沖縄の観光の特色について考えさせる。 ◆QR コンテンツ「沖縄県庁の人にインタビュー」を活用すると、より詳しい情報を得ることができる。 ◆沖縄の観光が自然条件や環境を生かして行われているとともに、人々が工夫していることに気づかせる。 ◆沖縄の観光を支える自然環境の保全や軍用地の課題について意見を持たせる。	〔思判表①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「あたたかい気候を生かした観光がさかんな一方で、美しい自然を壊す開発などの沖縄がかかえる課題について、考え表現しているか」を評価する。
調べる	④古くからの文化を守る P. 54～55 沖縄県の文化は、どのようなものでしょうか。 (1/2 時間)	○写真から沖縄の文化について気づいたことを発表し合う。 ・ 色鮮やかな建物や服装だね。 ・ 食べ物も特徴がある。 ○沖縄の文化について調べる。 ・ 古くからアジアの国々と貿易をしていた。 ・ 南にある島だから、独自の文化が生まれたんだね。 沖縄県の人々は、歴史ある豊かな文化と自然を大切にし、自分たちの文化を守り、次の世代に引き継ぐ努力をしている。④-1	◆写真から沖縄の文化の独自性に気づかせる。 ◆南に位置する沖縄の地理的な条件が独自の文化を生んだことを理解させる。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、沖縄県の文化の特色について理解しているか」を評価する。
まとめる	④表にまとめてキャッチコピーをつくる P. 55 あたたかい土地のくらしの特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○沖縄の特色を表にまとめる。 ・ これまでの学習をふりかえり表にまとめる。 ○学習したことをもとに沖縄の特色を表すキャッチコピーをつくる。 ・ 産業も文化も自然や気候と切り離せないね。 沖縄県では、夏の暑さや台風からくらしを守る工夫をするとともに、あたたかい気候や美しい自然を生かした観光産業がさかんで、気候を生かした特産物があるなど、自然条件を生かしたくらしをしている。④-2	◆学習したことについて、生活や産業、文化などの項目に分けてまとめる。 ◆表をもとにキャッチコピーをつくらせる。	〔知技②〕 表やキャッチコピーの内容から、「あたたかい気候を生かした沖縄の特色について理解しているか」を評価する。 〔思判表②〕 キャッチコピーの内容から、「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて、考え表現しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで寒い土地の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を理解している。	①国土の気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活について考え表現している。	①寒い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①北海道の家やくらしのくふう P. 56～57 北海道の家やくらしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真を見ながら、自分たちのくらしている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校ではスキー学習はないね。 ・こんなに雪が積もっているんだね。 ○グラフを見て、北海道の気候の特色を話し合う。 ・1月などは0度を下回っている。 ・冬の降水量も多いね。 ・雪が多いみたいだ。 ○北海道の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんある。 ・寒さや雪に備えた工夫がある。	◆スキー学習の写真から、北海道の寒さについて想像させる。 ◆雨温図の最低気温の月の気温や降水量の多い月を読み解かせ、北海道の気候の特徴をつかませる。 ◆北海道の家屋の特徴から、気候に合わせた生活をしていることをつかませるとともに、産業や文化についても調べる意欲を持たせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「スキー学習の写真や雨温図に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「北海道の人々のくらしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 北海道の人々は、雪や寒い気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。		
調べる	②札幌市の雪対策と雪を生かした観光 P. 58～59 札幌市に住む人々は、雪とともにどのような生活を営んでいるのでしょうか。 (1 時間)	○写真から雪対策について話し合う。 ・雪が山のように積まれている。 ・雪をとかす施設やためておく施設が市内にたくさんある。 ○雪対策室の高田さんの話を読み、雪対策について話し合う。 ・人々の生活に影響が出ないように様々な工夫をしている。 ○雪まつりの写真から、雪を生かした取り組みについて意見を発表し合う。 ・雪を使って楽しそうなことをしている。 ・誰がこんな大きな雪像をつくったのかな。 ○グラフや市役所の辻本さんの話を読んで、雪の多さを生かした観光について話し合う。 ・北海道の人々は雪の多さを生かした観光を工夫している。	◆写真から雪の多さをとらえさせ、雪対策の大切さについて考えさせる。 ◆人々の生活を守るために、雪対策が欠かせないことを考えさせる。 ◆QR コンテンツ「札幌市雪対策室の人にインタビュー」を活用し、市の雪対策について考えさせる。 ◆写真から、雪を生かした遊びの楽しさを想像させ、雪まつりの起源を考えさせる。 ◆観光客の少ない冬に祭りを行う工夫を考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の生活を守るために雪対策を行っていることや雪を有効利用した観光事業の創設と工夫や努力などについて理解しているか」を評価する。
		雪の多い札幌市では、除雪を行うなど雪を克服したり、雪を生かして観光を営んだりしている。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	③北海道の自然を生かした農業 P. 60～61 北海道の人々は、自然を生かしてどのような産業を行っているのでしょうか。 (1 時間)	○航空写真から十勝地方の農業について話し合う。 ・とても広い農地だね。 ・たくさんの農産物ができそうだ。 ・何をつくっているのだろう。 ○農家の坂東さんの話から、十勝地方の農業について意見を発表し合う。 ・広い土地を生かして農業をしている。 ・病気を防ぐために輪作などの工夫もしている。 ○酪農の様子の写真や地域別の生乳生産量の割合のグラフをもとに、話し合う。 ・北海道地方は生乳生産量が日本全体の半分以上もある。 ○米農家の山本さんの話を読んで話し合う。 ・北海道の西部はお米の生産がさかんだ。 ・夏の湿気の少ない気候をうまく使っている。 十勝地方では、広大な土地や夏でも涼しい気候を生かして農業や酪農を行っている。 ③	◆広大な農地の写真から、十勝地方の農業の特色を想像させる。 ◆十勝地方の農業が地理的条件を生かしているとともに、輪作など、人々が工夫していることに気づかせる。 ◆写真やグラフ、米農家の話からや米づくりがさかんに行われていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、涼しい気候と広大な土地を生かした北海道の農業や酪農の様子について理解しているか」を評価する。
調べる	④守ってきた文化を受けつぐ P. 62～63 北海道に伝わるアイヌの文化は、どのようなものなのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真から北海道の文化について気づいたことを発表し合う。 ・特徴のある服装だね。 ・食べ物も特徴がある。 ○北海道の文化について調べる。 ・昔から先住民族のアイヌの人々が生活している。 ・本州やロシアと交流しながら独自の文化をつくってきたんだね。 北海道には、昔から先住民族のアイヌの人々がいて、独自の文化をつくってきた。 ④-1	◆写真からアイヌの文化の独自性に気づかせる。 ◆現在もアイヌの人々が生活し、先住民族であるアイヌの人々の文化を尊重することの大切さに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アイヌ文化の特色について理解しているか」を評価する。
まとめる	④表にまとめてキャッチコピーをつくる P. 63 寒い地方のくらしの特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○北海道の特色を表にまとめる。 ・これまでの学習を表にまとめてみよう。 ○学習したことをもとに、北海道の特色を表すキャッチコピーをつくる。 ・産業も文化も自然や気候と切り離せないね。 北海道の人々は、冬の寒さや雪からくらしを守る工夫をするとともに、夏の涼しさや雪を生かした観光や広大な土地を使った農業などがさかんで、北海道の自然条件を生かしたくらしをしている。 ④-2	◆学習したことについて、生活や産業、文化などの項目に分けてまとめる。 ◆調べたことを表にまとめ、キャッチコピーをつくる。	[知技②] 表やキャッチコピーの内容から、「寒い気候を生かした北海道の特色について理解しているか」を評価する。 [思判表②] キャッチコピーの内容から、「寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて、考え表現しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	給食の材料 わたしたちは、ふだん、どのようなものを食べているのでしょうか。 (1 時間)	○全国の給食や学校の給食の材料について話し合い、単元のめあてをつくる。 ・全国にはいろいろな給食がある。 ・給食にはいろいろな材料が使われている。 ・給食のこんだては、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類できる。 ・給食の材料は、地域だけでなく、全国各地から集められている。 単元のめあて わたしたちが食べているものは、どこでどのようにつくられ、運ばれてきているのでしょうか。	◆全国の給食について話し合わせるときには、地域の特産品を使って給食がつくられていることに気づかせる。 ◆給食のこんだてを分類するときには、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類させる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちが食べているものから、食料生産について関心を高めているか」を評価する。

2－① くらしを支える食料生産

4 時間／上 P. 68～75

目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。	①身近な食料品の産地に着目して問いを見いだし、我が国の食料生産の概要について考え表現している。	①我が国の食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。	②生産物の種類や分布、生産量の変化、自然条件との関わりなどを総合して、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①産地調べ P. 68～69 わたしたちが食べている食料品の産地について調べ、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○スーパーマーケットのちらしを地図に貼り付け、食料品の産地の広がりについて話し合い、学習問題をつくる。 ・スーパーマーケットの食料品は、わたしたちの県や近くの県のものが多い。 ・外国から来た食料品もたくさんある。 ・米の生産されているところは、どのような地形や気候なのか。 ・同じ果物でも、りんごやみかんではとれるところがちがう。	◆持ち寄ったちらしを地図に貼り付けることで、スーパーマーケットで売られている食料品が全国でつくられていることに気づくようにする。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「食料品の産地の広がりに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちの暮らしを支えている食べ物の産地は、どのように広がっているのでしょうか。	◆産地調べの際は、QR コンテンツ「産地調べをしてみよう」を活用するとよい。 ◆地形や気候などの自然条件の違いが、食料品の産地の違いに影響を及ぼしていることに気づくようにしながら、学習計画を立てるようにする。	【態度①】 白地図の内容や発言内容から、「我が国の食料生産の概要について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②日本の米づくり P. 70～71 米の主な産地は、どのようなところでしょうか。 (1時間)	○P. 70の写真を見て、日本の米づくりの様子について調べる。 ・米はさまざまな地域でつくられている。 ・同じ6月でも、地域によって米づくりの様子が違う。 ○米づくりのさかんな地域の地形や気候の様子について話し合う。 ・東北地方や関東地方、北海道には多くの平野や川があつて、それが米づくりに適している。 ・米づくりは、その地域の地形や気候にあわせて作業が進められている。	◆4枚の写真は、同じ6月の米づくりの作業であることに着目させ、米づくりは気候との関係があることに気づくようにする。 ◆米づくりのさかんな東北地方や北海道、新潟県などでは、昼夜の寒暖差や雪解け水などの自然条件を生かして米づくりをすすめていることに気付くことができるように、地図帳や写真等の資料を活用する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、米の主な産地や、米づくりが地形や気候などの自然条件を生かしてすすめられていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③農産物の産地 P. 72～73 野菜、果物、畜産の産地は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○日本の農産物の生産額について調べる。 ・我が国の農産物の生産額は、畜産物、野菜、米の順に多くなっている。 ・野菜の生産額は、一時期より減っているが、60 年前と比べると増えている。 ・畜産物の生産額は減ってきていたが、最近少しずつ増えている。 ○日本の農産物の産地を調べる。 ・野菜の生産額は、北海道や関東地方、九州が多い。 ・果物はつくられるところが限られている。 ・畜産物の生産額は、北海道と九州が多い ○野菜、果物、畜産のさかんな地域の地形や気候の様子について考える。 ・野菜は全国で、気候に合わせてさまざまなものがつくられている。 ・りんごはすずしい気候を利用して、みかんはあたたかい気候を利用してつくられている。 ・畜産は、広い土地のある北海道や九州が主な産地になっている。 野菜、果物、畜産物は、自然条件を生かして生産しているため、主な産地は、生産物によってそれぞれ異なっている。③	◆「まなび方コーナー」を活用して、折れ線グラフの読み取り方を理解した上で、増加している農産物と減少している農作物に気づくことができるようにする。 ◆野菜、果物、畜産の三つの地図を比較して、日本各地で農産物が生産されていることに気づくことができるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、野菜、果物、畜産物の産地の全国的な広がりを自然条件との関わりで理解しているか」を評価する。
	④地図とノートにまとめる P. 74～75 わたしたちの食べている食べ物の主な産地は、どのようなところか、まとめましょう。 (1 時間)	○学習問題について調べたことをもとにして、食べ物の主な産地について白地図に整理する。 ・米は、東北地方や新潟県、北海道の生産量が多い。 ・野菜は種類によって生産量 1 位の県が異なっている。 ・りんごは青森県の生産量が圧倒的に多い。 ・水産物の水あげ量は、千葉県、静岡県、北海道の港が多い。 ○白地図にまとめたことをもとに、食料生産のさかんな地域の広がりや自然条件について整理し、日本の食料生産について考えをまとめる。 ・野菜は、気候などの自然の特色を生かして全国で生産されている。 ・畜産は、北海道や九州などの広い土地のある都道府県でさかんに行われている。 我が国の食料生産は、気候や地形などの自然条件を生かして営まれ、国民の食料を確保する重要な役割を果たしている。④	◆地図帳を活用して、都道府県の位置を確認しながら調べてきたことを白地図に整理するようにする。 ◆米、野菜、果物、畜産物、水産物の産地の広がりや自然条件との関連をノートに整理し、日本の食料生産全体の大まかな様子について考えたことをまとめる。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、野菜、果物、畜産物の産地の広がりを自然条件との関わりで理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容から、「生産物の種類や分布、自然環境の特色を関連付け、我が国の食料生産の特色を考え表現しているか」を評価する。

目標

我が国の米の生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料などで調べ、まとめることで、米づくりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。	①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを新聞にまとめ、米づくりに関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	②米づくりの仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて米づくりに関わる人々の働きを多角的に考え、適切に表現している。	

指導計画

※□は主として記録に残す場面

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①庄内平野の地形と気候の特色 P. 76～77 庄内平野はどのようなところなのでしょう。か。 (1時間)	○庄内平野の航空写真を見て、地形や気候についてわかったことを発表し合う。 ・庄内平野は平らな土地が広がっている。 ・庄内平野に多くの水田があって、水田の中に川が流れている。 ・近くには高い山もある。 ・カントリーエレベーターというのは何だろう。 ○土地利用図や雨温図を読み取り、庄内平野の地形と気候の条件について話し合う。 ・庄内平野には川がたくさんある。 ・酒田市は宮古市と比べ、冬に降水量が多く、夏の平均気温が高い。 ・酒田市は春から秋にかけて日照時間が長い。 ・地形や気候が、庄内平野の米づくりに関係しているのではないかな。 米づくりのさかんな庄内平野では、米づくりに適した自然条件がそろっている。①	◆地図帳を活用して、山形県と庄内平野の位置を確認する。 ◆「まなび方コーナー」を活用して、土地利用図を読み取り、雨温図とあわせて、庄内平野の地形と気候の特色に気づくようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「庄内平野の地形や気候の特色に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②庄内平野の米づくり P. 78～79 庄内平野の米づくりについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○写真やグラフを読み取り、わかったことや疑問を出し合って学習問題をつくる。 ・庄内平野には広い水田がたくさんある。 ・庄内平野のある山形県では、10aあたりの米の生産量が高いのはなぜだろう。 ・庄内平野の米づくりには、農家のさまざまな工夫や努力があるのではないかな。 学習問題 庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにくふうや努力をして、米を生産しているのでしょうか。	◆庄内平野が日本有数の米の産地であることに気づくようにし、その疑問を学習問題につなげていく。	
		○学習問題の解決にむけ、予想し、学習計画を立てる。 ・米づくりにはいろいろなくふうがあるのではないかな。 ・農家の人たちは助け合って米づくりをしているのではないかな。 ・仕事をしやすくするためのくふうがあるのではないかな。 ・わたしたちのところへ米を届けるくふうもあるのではないかな。 [調べること] ・農家の1年間の仕事 ・農家の人のくふうや努力 ・米が消費者に届くまでのしくみ など	◆学習問題についての予想を確かめるためには何を調べればよいかを話し合い、出された意見を整理しながら学習計画を立て、調べ方やまとめ方も相談する。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「庄内平野の米づくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③ 祢津さんの米づくり P. 80～81 農家の人々は、米づくりをどのように進めているのでしょうか。 (1 時間)	○ 祢津さんの話から、1 年間を通してどのような計画で仕事を進めているかを調べる。 ・ 祢津さんは農業だけを行っている専業農家である。 ・ 農家では 1 年間を通して様々な作業を行っている。 ○ 農作業ごよみで 1 年間の仕事を確認し、米づくりの仕事について考える。 ・ たくさんの機械を使って作業をすすめ、できた米はカントリーエレベーターに保管している。 ・ 農家は一人で米づくりを進めるのではなく、地域の人と協力して、米づくりをしている。 米づくり農家は、種もみを選ぶところから出荷前のもみすりまで、様々な仕事を行っている。 ③	◆ 米づくりが一年を通して計画的に行われていることに気づくようにする。 ◆ QR コンテンツ「米づくり農家の人にインタビュー」を視聴し、農家の仕事の様子への理解を深めるようにする。 ◆ 農作業ごよみや写真を通して、米づくり農家の工夫や努力に目を向けられるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、年間を通しての米づくりの仕事について理解しているか」を評価する。
	④ 米づくりの仕事のくふう P. 82～83 農家の人々は、米づくりの仕事についてどのようなくふうや努力をしてきたのでしょうか。 (1 時間)	○ 米づくりのための土地の工夫について調べる。 ・ 用水路と排水路で、米づくりに欠かせない水の量を上手に調整している。 ・ 地域の農家や団体と協力して耕地整理を行ってきた。 ○ 米づくりのための機械化について調べ、そのよさや課題について話し合う。 ・ 米づくりは手作業から機械に変わってきた。 ・ 機械化によって米づくりの労働時間が短くなってきた。 ・ 機械は高価である。 米づくり農家は、耕地整理や機械化を進め、生産性を高める工夫や努力を進めてきた。 ④	◆ 庄内平野の米づくりについて、土地生産性の観点から農家の工夫や努力に気づくようにする。 ◆ 庄内平野の米づくりについて、労働生産性の観点から農家の工夫や努力に気づくようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生産性を高めるために農家が行ってきた工夫や努力について理解しているか」を評価する。
	⑤ 庄内平野の米づくりを支える人たち P. 84～85 農家の人々は、おいしい米をたくさんつくるためにどのような工夫や努力をしているのでしょうか。 (1 時間)	○ 祢津さんや中場さんの話をもとに、庄内平野の米づくりにはどのような人たちが関わっているのかを調べる。 ・ 稲が安全で順調に育つために、農業協同組合（JA）の人々や市役所の人が協力している。 ・ 市役所の人も関わっている。 ・ 水田農業研究所では、品種改良など、品質や味のよい米の研究をしている。 ○ 米づくりでは、なぜ人々の協力が必要なのか話し合う。 ・ 米づくりは、農家だけではできない。 ・ おいしくて安全な米をつくるためには、様々な人の知恵や支えが必要である。 農業協同組合（JA）や水田農業試験場、市役所の人たちは、安全でおいしい米づくりのために、農家を支援している。 ⑤	◆ 安全でおいしい米をつくるための団体や組織に目を向けて、庄内平野の米づくりの協力関係に気づけるようにする。 ◆ 米づくり農家を支える人たちの協力関係の意味について理解を深められるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、農家を支える人たちの協力関係について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥おいしい米を全国に P. 86～87 庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのでしょうか。 (1時間)	○イラストや写真から、カントリーエレベーターの役割を調べる。 ・ 庄内平野の米は、カントリーエレベーターに集められる。 ・ 集めることで作業の効率が高まり、品質もそう。 ○庄内平野の米が消費者に届けられるまでの様子や人の働きを調べる。 ・ 米の輸送には、トラックや鉄道、フェリーが使われている。 ・ 米の輸送には多くの人が関わり、輸送や販売には費用がかかる。 ○学習問題や学習計画をふり返り、さらに調べる必要があることがないかを話し合う。 ・ 米の消費量が減ってきたけど、米づくりはこれからどうなるのか。 生産された米は、カントリーエレベーターに保管されたあと、様々な方法で輸送され、消費者に届けられている。米づくりにはいろいろな費用がかかっている。⑥	◆カントリーエレベーターが品質を保つために重要な役割を果たしていることに気づくようにする。 ◆円グラフから、米が消費者に届くまでには、様々な費用がかかることを理解できるようにする。 ◆学習計画では、「米づくりの課題」に関わることは出てこない。この時間の終末に、一度学習をふり返るようにして、次の学習につなげていく。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、今後の米づくりについて調べる新たな見通しをもっているか」を評価する。 [知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きや、米づくりにかかる費用について理解しているか」を評価する。
	⑦米づくり農家のかかえる課題と新しい取り組み P. 88～89 これからの米づくりは、どのように進めていくとよいのでしょうか。 (1時間)	○写真やグラフを見て、米づくり農家のかかえる課題について調べる。 ・ 米の消費量が減ってきていて、同じように生産量も減ってきている。 ・ 庄内平野でも転作をして、米の他に大豆などを栽培している。 ○写真、グラフと衿津さんの話から、米づくり農家の課題を解決するためにどのような取り組みがあるのか話し合う。 ・ 働く人の人数が減ってきているため、農作業を共同で行っている。 ・ 肥料や仕事を減らす工夫をしている。 ・ 消費者との結びつきを深めるため、関東地方の小学校で出前授業を行っている。 米づくり農家は、消費量や農業従事者の減少などの課題を抱えているが、課題解決のために工夫や努力を重ねている。⑦	◆なぜ米の生産量と消費量が減ったのかを考え、米づくり農家の課題について理解できるようにする。 ◆米づくりの課題を解決するための農家の取り組みについて、その意味を考えるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「これからの日本の米づくりについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑧新聞にまとめる P. 90～91 米づくりに かかわる人々 のくふうや努 力についてま とめましょ う。 (1 時間)	○これまでの学習をふり返って、庄内平野の米づくりに関わる人たちの工夫や努力について話し合う。 庄内平野では、 ・自然条件を生かして米づくりをしている。 ・生産性を高める工夫をしている。 ・消費者のことを考えておいしくて安全な米づくりをしている。 ・様々な人が協力している。 ○これまでの学習で調べたことや話し合っ てことを新聞にまとめる。 ○新聞の最後に、社説として米づくりに ついての自分の考えを書く。 ・米づくりは日本の食料生産で大変重要。 ・米づくりの課題をふまえ、消費者として考えていく。 庄内平野で米の生産に関わる人々は、自然条件を生かしたり、生産の工程や輸送方法を工夫したりして、安全でおいしい米を消費者に届けるために努力している。 ⑧	◆これまでの学習をノートでふり返るようにする。 学習計画の段階で新聞にまとめることを計画しているので、毎時間のまとめを新聞の記事としてまとめていくと効率的に新聞を作成できる。 ◆「まなび方コーナー」を活用して作業の進め方を確認し、図や表、写真を入れてわかりやすい新聞にしていく。 ◆社説では、小単元のまとめとして食料生産に関わる人々の働きを生産者や消費者の立場で考えてまとめるようにする。	【知技②】 新聞の記述内容から、「調べたことをまとめて、米づくりがさかんな地域の人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 新聞の記述内容から、「米づくりのしくみと農家の工夫や努力を関連付け、農業の働きや役割、発展について多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。

2－③ 水産業のさかんな地域

7 時間／上 P. 94～107

目標

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①我が国の水産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	②水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考えたり、我が国の水産業の現状をふまえて、水産業の抱える課題を見いだしたりするとともに、これからの水産業の発展において大切なことについて、自らの考えを適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①魚を食べる日本 P. 94～95 わたしたちの食生活と水産業について考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や図、グラフからわかったことを発表し合う。 ・スーパーマーケットでは様々な魚介類を売っている。 ・様々な水産物の加工品がある。 ・日本は世界でも魚介類の消費が多い。 ○日本周辺の海の様子について、調べてわかったことを話し合う。 ・日本の周りの海には四つの海流が流れている。 ・日本の周りの海には大陸棚が広がり、暖流と寒流がぶつかるよい漁場となっている。 ○本小單元では、水産業のさかんな地域である鹿児島県の水産業について学習する。	◆ 普段の生活で様々な種類の魚や魚の加工品を食べていることに気づかせる。 ◆ 日本周辺の海がよい漁場となっている要因について、海流や海底のかたち、海の様子から気づかせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「主な国の魚介類の消費量、都道府県別の漁業生産額の割合、日本の周辺の海の様子などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 鹿児島で水産業にかかわっている人々は、どのように魚をとったり、加工したりして、消費者にとどけているのでしょうか。 ○小単元の学習問題について予想したり、調べることを考えたりして、学習の計画を立てる。 <調べること> ・どのようにして魚をとったり、育てたりしているのか。 ・とった魚はどのようにしてわたしたちにとどけられるのか。 ・魚をどのように加工して食品にしているのか。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「鹿児島県の水産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②かつお漁の方法 P. 96～97 水産業にかかわる人々は、どのようにして魚をとっているのでしょうか。 (1 時間)	○写真やイラストから、かつお漁の様子について調べてわかったことをノートにまとめ発表する。 ・かつおは海流に乗って広い範囲の海を群れで移動する。 ・かつおの群れを魚群探知機などを使って探し、漁をしている。 ・かつお漁の方法には一本釣りとまきあみ漁の二つの方法がある。 ○調べてわかったことをもとに、かつお漁の二つの方法のよさを話し合う。 ・一本釣りは、一匹ずつ釣り上げる方法で、新鮮さを保つための工夫がある。 ・まきあみ漁は、一度に多くのかつおをとることができる。 鹿児島県では、遠洋でのかつお漁がさかんである。かつお漁には、一本釣りやまきあみ漁などの方法があり、魚群探知機で魚の群れを探したり、とった魚をすばやく冷凍したりするなど工夫して漁が行われている。 ②	◆ P. 95 の海流の図や P. 97 のかつおの海遊範囲、に着目して、かつお漁が行われる範囲の広さに気づかせる。 ◆ QR コンテンツ「枕崎漁港の人にインタビュー」を視聴すると、枕崎漁港の実際の様子を映像でとらえることができる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、鹿児島県で行われているかつお漁の方法や様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③鹿児島の漁港から食卓へ P. 98～99 漁港に水あげされた魚は、どのようにしてわたしたちの食卓へとどくのでしょうか。 (1 時間)	○写真やイラストから漁港での水あげから出荷までの様子について調べてわかったことを発表し合う。 ・水あげされた魚は、種類ごとに分けられ箱づめされた後、せりかけられる。 ・せりでは魚の価格が決められている。 ・魚を新鮮なまま運ぶための工夫がある。 ○どのようにせりが行われているか話し合う。 ・魚を想买いたい人は、想买いたい魚と値段について合図している。 ・高い値段をつけた人に魚が売られる。 鹿児島県枕崎の漁港で水あげされた魚は、魚市場でせりかけられたのち、全国へ運ばれる。魚を消費者のもとへ届けるまでに、さまざまな人々に関わることで価格が変動する。③	◆航空写真から漁港の広さや周りの環境を読み取らせる。 ◆とった魚が消費者に届けられるまでの人々の働きに気づかせる。 ◆魚の値段には様々な費用が含まれていることを確認し、いろいろな人が関わったり、遠くへ運んだりした分、値段が高くなることも予想させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、水揚げされた魚が消費者に届けられるまでの人々の働きについて具体的に理解しているか」を評価する。
	④かつお節をつくる P. 100～101 漁港の周辺では、どのようにして水産加工品がつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○写真や本文、かつお節工場の人の話からかつお節の生産の工夫について調べてわかったことをノートにまとめる。 ・かつお節は300年以上続く、日本の伝統的な水産加工品である。 ・1本のかつお節を作るのに半年以上の時間と手間をかけている。 ・かつお節を作る工程は、手作業も多く、人の手が欠かせない。 ・安心・安全な方法で生産している。 ・工場では外国人の方も多く働いている。 枕崎漁港の近くには、伝統的な水産加工品であるかつお節をつくる工場が数多くある。漁港で水あげされたかつおを使って、時間と手間をかけてつくられたかつお節は、全国に出荷されている。④	◆地図から漁港のそばにかつお節工場がたくさんあることから、新鮮な魚を使えることに気づかせる。 ◆水産加工品は、かつお節以外にも様々なものがあることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、かつおを加工してかつお節をつくる人々の工夫や努力について理解しているか」を評価する。
	⑤つくり育てる漁業 P. 102～103 つくり育てる漁業は、どのように行われているのでしょうか。 (1 時間)	○写真や本文、養殖業者の人の話から、養殖漁業について調べてわかったことをノートにまとめる。 ・かんぱち、ぶり、みなみまぐろ、うなぎなど様々な魚種が養殖されている。 ・海水温が年間を通して高く、深くて波も穏やかな海は養殖に適している。 ・稚魚が成魚になるまで長い時間がかかる。 ・品質を高めるために様々な工夫をして、養殖の魚をブランド化している。 ○育てる漁業は、どのようなことを大切にしているのか、考えたことを話し合う。 ・取ることのできる魚の大きさを決めて、魚の資源を守ろうとしている。 ・魚を卵から稚魚に育てて海に放流したり、岩場や魚のすみかをつくったりして、魚の数を増やそうとしている。 鹿児島県では、かんぱちやぶり、うなぎなどの魚の養殖がさかんである。また魚のとりすぎで水産資源が減らないように、魚をとる際の決まりをつくったり、さいばい漁業にも取り組んだりしている。⑤	◆養殖業者の人の話から、魚の品質を高めるための工夫や努力に気づかせる。 ◆つくり育てる漁業で働く人たちの姿を通して、水産資源を守ることの大切さを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「養殖業者や栽培漁業に取り組んでいる人々が、つくり育てる漁業に取り組んでいることの意味について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥日本の水産業がかかえる課題 P. 104～105 日本の水産業には、どのような課題があるのでしょうか。 (1 時間)	○地図とグラフから、日本の水産業の現状について調べ、水産業の課題だということをもとにまとめる。 - 日本の漁業生産量は世界でも非常に大きい。 - 遠洋、沖合、沿岸漁業の漁業別生産量は年々減少している。 - 漁業で働く人数も年々減っている。 - 排他的経済水域によって各国は自国の水産資源を守ろうとしている。 日本では排他的経済水域の影響もあり、遠洋漁業や沖合漁業の生産量が減っている。漁業で働く人の数も減っていて、水産業の課題を解決していく必要がある。⑥	◆漁業別の生産量の変化と水産物の輸入量の変化のグラフを比較して考えさせる。 ◆漁業で働く人数の変化のグラフと学習してきたことを関連付けて、水産業の課題を見出すよう考えさせる。	【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、日本の水産業がかかえている課題を調べる見通しをもっているか」を評価する。 【思判表①】 ノートの記事内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の水産業が抱える課題について、調べたことを関連づけて考え表現しているか」を評価する。
	⑦プレゼンテーションソフトを使ってまとめる P. 106～107 水産業がさかんな地域の人たちのくふうや努力についてまとめましょう。 (1 時間)	○これまで学習したことをふり返り、プレゼンテーションソフトを使ってまとめる。 - 日本は豊富な水産資源に恵まれて、魚の消費量も多い。 - かつおをとる漁法には一本釣りともきあみ漁があり、とれた魚の新鮮さを保つ工夫がある。 - かつお節の工場では、手間と時間をかけてかつお節を生産している。 - つくり育てる漁業では、水産資源を守りながら、品質の良い魚を育てる工夫をしている。 ○まとめた作品をもとに、これからの水産業について考えたことを話し合う。 - 漁業で働く人を増やすための取り組みが大切だと思う。 - 魚介類や水産加工品の消費が増えることが水産業の発展につながるのではないかな。 我が国の水産業は、自然条件を生かして営まれており、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えている。⑦	◆プレゼンテーションソフトの使い方を確認し、まとめる際に必要な資料などは端末で共有できるようにしておく。QR コンテンツ「まとめるワークシート」をプレゼンテーションのテンプレートとして使用してもよい。 ◆児童の作品は、クラス全体で確認できるよう映示したり、端末で共有したりする。 ◆学習してきたことを生かして、これからの水産業について考えるよう促す。	【知技②】 プレゼンテーションの内容から、「調べたことをまとめ、水産業がさかんな地域の人々の工夫や努力により、消費者に魚が届けられ、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 プレゼンテーションや発言内容から、「水産業に関わる人々の工夫や努力、水産業のかかえる課題について考え、適切に表現しているか」を評価する。

2－④ これからの食料生産とわたしたち

4 時間／上 P. 114～121

目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安心・安全への取り組みなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の課題を捉え、食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基にこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安心・安全への取り組みなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。	①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安心・安全への取り組みなどに着目して、問いを見だし、食料生産の課題について考え表現している。	①これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。	②食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。	②学習したことを基に、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	②日本の食料生産をめぐる課題 P. 114～115 食料生産の課題について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○農業や水産業の学習を振り返り、どのような課題を抱えていたか話し合う。 ・米の生産量が消費量を上回り米が余るようになってきた。 ・水産業ではとれる魚が少なくなり、輸入しているものもあった。 ・農業も水産業も働く人が減少している。 ○日本と主な国の食料自給率を調べ、疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。 ・日本は食料の多くを輸入に頼っている。 ・小麦や大豆のほとんどを輸入している。 ・1970年に比べ、自給率が約3分の2に減っている。 学習問題 日本の食料生産にはどのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいのでしょうか。	◆教科書やノートをもとに農業や水産業の学習を振り返らせる。 ◆自給率の変化に着目させて、疑問に思うことを発表させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「食料自給率や輸入などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		○小単元の学習問題について予想を立てたり、これからの食料生産について調べることを考えたりして、学習の計画を立てる。 <調べること> ・食生活の変化による、食料生産への影響 ・どのようにして食料の安心・安全が守られているのか。 ・食料はどのようにして安定的に確保されているのか。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の食料生産をめぐる課題について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②わたしたちの食生活の変化と食料自給率 P. 116～117 食生活の変化は、食料自給にどのようなえいきょうをあたえているのでしょうか。 (1 時間)	○写真を見ながら、毎日の食生活について話し合う。 ・朝はパン食が多い。 ・ハンバーグやカレーなど、肉を使った食べ物が多い。 ○食生活の変化や食料品別の輸入量の変化を調べる。 ・1960年度と比べ、米の消費量が減り、肉やその加工品、乳製品などの畜産物が増え、食生活は豊かになっている。 ・増えた食料品の多くは輸入に頼っている。 ○調べたことを関連づけ、食生活の変化が食料生産や食料の輸入に与えている影響を考え、話し合う。 ・食生活が変化し、小麦や乳製品などがたくさん輸入されるようになった。 ・食生活は豊かになったが、輸入食料品が増え、食料自給率は下がっている。 ・食料廃棄の多さも問題になっている。 和食や洋食など食生活の多様化が進む中で、我が国は多くの食料を輸入に頼るようになっている。その一方で、食料が大量に廃棄されるなどの問題も生じている。 ②	◆家庭での食生活や給食のメニューなどから考えさせるようにする。 ◆いつごろからどのような食料品が増えているか考えさせる。 ◆調べる段階で、資料(P. 117 のグラフ)からわかったことを関連付け、食生活の変化とその影響を考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「食生活が多様化してきたことや、それにとともなう食料自給に関する課題を考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③食の安心・安全への取り組み P. 118～119 食の安心・安全に対する取り組みは、どのように行われているのでしょうか。 (1 時間)	○写真や食の安全に関する意識調査、食品の生産や販売における取り組みで知っていること、輸入食品で問題になること等を話し合う。 ・消費者は安全性や品質を求めている。 ・生産者の顔が見える野菜がスーパーマーケットで売られている。 ・輸出国で農産物が不作になれば日本に輸入できなかったり、農薬がどう使われているかわかりにくかったりするのではないか。 ○スーパーマーケットの店長さんや検疫所で働く人の話をもとに、食の安全・安心のための取り組みとその良さを調べる。 ・トレーサビリティにより食品の情報管理が行われている。 ・検疫所での点検により、輸入食品の衛生管理が行われ、法律の基準に合格した食品が輸入されている。 ○食料の輸入に伴う課題が他にないか調べて話し合う。 ・輸入のための輸送では、たくさんの石油が使われている。 消費者の食の安心・安全への関心が高まり、スーパーマーケットなどではトレーサビリティの取り組み、検疫所では輸入食品の検査などの取り組みを行い、食の安心・安全の確保に努めている。 ③	◆写真やグラフからわかることを丁寧に引き出し、食の安心・安全と食料輸入における課題について関心を高める。 ◆自分たちはどのような食品なら安心して食べられるかを考えさせながら、安心・安全の確保のための工夫やしぐみに着目させる。 ◆食料品の輸入のために多くの燃料が輸送に使われていることにも気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、食の安心・安全への取り組みについて理解しているか」を評価する。
	④食料を安定して確保する P. 120 食料を安定して確保し続けるためには、どのようなことが大切になるのでしょうか。 (1/2 時間)	○これまでの学習やグラフ(P. 120上)から、食料を安定して確保する上で課題となることを話し合う。 ・農業や林業、水産業で働く人が減っている。 ・畑や田の面積も減っていて、食料の生産が減っていくのではないかな。 ○農業協同組合の人の話や新たな農業の取り組みから、食料の安定確保において大切なことを話し合う。 ・国産のものや自分の住んでいる地域でとれるものを食べることで、農業で働く人を支えることが大切。 ・農業で働く人を増やすために、会社のように働きやすくするしぐみがある。 多くの食料を輸入に頼る我が国は、食料を安定的に確保していくことや農業で働く人の数を増やすことが大切であり、地産地消や農業法人などの取り組みが進められている。 ④-1	◆農業や水産業の学習と関連付けて考えさせる。 ◆地域での取り組みや農業法人の取り組みに着目し、食料を安定して確保するために大切だと思うことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、食料を安定して確保するために、地産地消や農業法人の取り組みが進められており、農業の発展を支え食料自給率を高めることが大切であることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	④意見文にまとめる P. 121 これまで調べたことをもとに、これからの食料生産についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでに調べたことをカードに書き、黒板や端末のアプリを使って分類する。 ・日本の食料生産がかかえる課題 ・食の安心・安全の取り組み ・食料を安定して確保する上で大切なこと ○分類したカードを見て、これからの食料生産で大切だと思うことを発表し合う。 ・日本の食料自給率を上げることや農業や水産業の働き手を増やすことが大切。 ・食料自給率が上がると、農業や水産業が活発になる。 ・地産地消の取り組みにも進んで参加することが大切。 ・日本は輸入食料品が多い。食の安心・安全にも気を付けることが大切。 ○話し合ったことをもとに、これからの日本の食料生産について大切に思うことを各自ノートにまとめる。 食料の多くを輸入に依存する我が国では、食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題になっており、食料自給率を上げることが大切である。 ④-2	◆カードはグループごとに作成するなど工夫をする。また黒板に貼る際には、重複したものを重ねるなどする。 ◆我が国の食料生産・食料確保の現状をふまえ、これから大切だと思うことをノートにまとめさせる。	【知技②】 意見文の記述内容から、「食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解しているか」を評価する。
	①食料生産の新たな取り組み P. 122～123 新しい食料生産のくふうをしようかいし合い、これからの食料生産について考えましょう。 (1 時間)	○事例として紹介されている食料生産の新たな取り組みの特徴を、グループ内で分担して調べ、発表し合う。 ・生産、加工、販売までを自分たちで行う6次産業化の取り組み ・えさを工夫して畜産物の価値を高める取り組み ・持続可能な漁業を進める取り組み ・最新の技術を使ったスマート農業 ○このほか自分たちの県や市の農業や水産業の新たな取り組みについて、インターネット等を利用して調べる。 ○これからの食料生産に対する考えをノートに文章でまとめる。 ・消費者は、安さや安全だけでなく、手間をかけた品質の高いものも求めている。 ・消費者の願いに応えながら、食料生産の発展に向けた新しい取り組みが行われている。 生産者は消費者の声に応えながら、生産物の価値を高めたり、最新の技術を取り入れて生産したりするなど、食料生産の発展に向けた新しい取り組みを進めている。 ①	◆県や市の取り組みについては、利用可能なホームページや資料を教師が確認し準備しておく。もし該当する取り組みがない場合は、一つ目の活動をインターネット等を使って詳しく調べるなど工夫する。 ◆生産者や消費者の立場から考えるように助言する。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「食料生産について学習してきたことを総合して、これからの農業などの発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしているか」を評価する。

まとめる

単元全体のいかす

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちの生活を取りまく工業製品 工業は、わたしたちの生活に、どのようにかかわっているのでしょうか。 (1時間)	○身のまわりの工業製品について、気づいたことを話し合う。 ・家に、冷蔵庫や電子レンジなどの電化製品がある。 ・ノートやパソコンなど学校で使うものにも工業製品があるのではないかな。 ○これまでの学習をふり返ったり、身のまわりの工業製品について考えたりしながら、工業製品と生活との関わりについて話し合う。 ・3年の昔の道具の学習では、洗濯機ができて便利になったことを学んだ。 ・身のまわりの工業製品は、どのようにつくられているのかな。 単元のめあて わたしたちの生活を支える工業製品は、どのようにしてつくられているのでしょうか。	◆さまざまな工業製品が、あらゆる生活の場面を支える重要な役割を果たしていることに気づくようにする。 ◆過去と現在の比較から、工業製品がくらしの向上につながってきたことに気づくようにする。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「身のまわりの工業製品から、工業生産について関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の工業生産について、工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国ではさまざまな工業生産が行われていることや、国土には工業のさかんな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の概要を理解している。	①工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見いだし、工業生産の概要について考え表現している。	①工業生産の概要について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国ではさまざまな工業生産が行われていることや、国土には工業のさかんな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①わたしたちの生活に役立つ工業製品 P. 4 身のまわりにある工業製品について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1/2 時間)	○身のまわりの工業製品を持ち寄り、それぞれの特徴を考えながら分類する。 ・機械もあれば、食料品もある。 ・金属、プラスチック、繊維などでできたものもある。 学習問題 わたしたちの生活を支えている工業製品は、どこでつくられているのでしょうか。	◆工業製品を分類する活動の中で、それぞれの製品がどこでつくられたのかについて疑問をもたせていく。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「工業の種類に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の工業生産について予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
	①日本各地でつくられている工業製品 P. 5 身のまわりの工業製品は、どこでつくられているのでしょうか。 (1/2 時間)	○分類した工業製品がつくられた場所を調べて、発表し合うとともに、日本地図に産地の印をつけてまとめる。 ・写真の船は、広島県呉市でつくられた。 ・音楽室にあるピアノは、静岡県掛川市でつくられた。 ・家で使っている掃除機は、茨城県日立市でつくられた。 日本では、各地でさまざまな工業がさかんに営まれている。 ①－2	◆それぞれの工業製品の箱やシールに記載されている生産された場所に注目させたい。 ◆工業製品の分類の際は、QRコンテンツ「工業製品を分類してみよう」を活用できる。また、さまざまな工業製品が日本各地で生産されていることを児童が実感できるように、ICT端末を活用したり、実物を用意したりしておきたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の各地でさまざまな工業製品がつくられていることについて理解しているか」を評価する。
調べる	②工業がさかんな地域の分布と特色 P. 6～7 工業がさかんな地域は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○資料①のグラフと地図を読み取り、日本の工業生産のさかんな地域について気づいたことを話し合う。 ・日本では、全国各地に工場が分布しているが、特に太平洋側の海沿いの地域に広がっている。 ・太平洋ベルトの工業生産額は、日本全体の2分の1以上を占める。 ○工業がさかんな地域の広がりには、どのようなことが関係しているのかについて話し合う。 ・工業のさかんな地域が海沿いに多いのは、材料や製品の輸送が便利だからではないか。	◆工業がさかんな地域の生産額を表すグラフと広がりを示す地図を関連付けながら考えさせるようにする。 ◆工業生産に不可欠な原材料や製品の輸送・交通の重要性を考えさせるために、船や高速道路、海をはさんでの海外との結び	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の工業地域や工業地帯の分布の特色について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		・ 高速道路が全国に広がり、内陸でも工業がさかんな地域が増えてきたのではないか。 日本では、全国各地に工場が分布している。工業生産がさかんな地域は工業地域や工業地帯とよばれ、太平洋ベルトを中心に海沿いに広がっている一方で、内陸部にも分布している。 ②	つき、工場で働く人々（労働力）にも着目させたい。	
	③日本の工業生産の特色 P. 8 日本の工業生産には、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)	○資料①と資料②の二つのグラフを読み取り、日本の工業生産について気づいたことを話し合う。 ・ 日本の工場のほとんどが中小工場で、たくさんの人が働いている。 ・ 大工場の数は少ないが、工業生産額では半分以上を占めている。 日本の工場は大工場と中小工場からなり、工場の多くは中小工場でたくさんの人が働いているが、生産額は半分以上を大工場が占めている。現在の日本の工業は機械工業がさかんである。 ③-1	◆帯グラフの読み取りについては「まなび方コーナー」を参照する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大工場と中小工場の割合や中心となる工業など、日本の工業生産の概要について理解しているか」を評価する。
まとめる	③ノートにまとめる P. 9 日本の工業のさかんな地域の特色をまとめましょう。 (1/2 時間)	○日本の工業生産と工業のさかんな地域の特色について、わかったことや考えたことをノートにまとめる。 〈工業のさかんな地域〉 ・ 太平洋の海沿いに工業のさかんな地域が広がり、太平洋ベルトとよばれている。 ・ 高速道路の発達により、関東内陸工業地域など内陸部にも工業のさかんな地域がある。〈工業生産の特色〉 ・ 工場の数はほとんどが中小工場だが、生産額では、半分以上を大工場が占めている。 ・ 昔は繊維工業がさかんだったが、現在は機械工業の割合が多い。 日本ではさまざまな種類の工業が営まれており、太平洋ベルトをはじめとして、全国各地に工業のさかんな地域が分布している。 ③-2	◆これまで学んだ「ことば」を使いながら、調べてわかったことについてまとめるとともに、日本の工業の特色について自分の考えを表現させる。	[知技②] ノートの記述内容から、「我が国ではさまざまな工業生産が行われていることや、工業のさかんな地域が広がっていることを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見いだし、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①自動車生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解している。	②自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の自動車工業 P. 10～11 わたしたちの生活や産業を支える自動車は、どのような地域でつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○写真とグラフから、日本の工業生産について話し合う。 ・機械工業がさかんである。 ・輸送用機械の割合が高く、自動車づくりがさかんである。 ・年間約800万台の自動車を生産している。 ・愛知県豊田市には自動車工場がたくさんある。 日本は自動車の生産がさかんであり、愛知県豊田市には、多くの自動車をつくる工場が広がっている。①	◆日本の工業生産では、自動車工業がさかんであることに気づかせる。 ◆愛知県豊田市には、自動車工場が多く分布していることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本は自動車工業がさかんであることを理解しているか」を評価する。
	②さかんな自動車工業 P. 12～13 自動車づくりについて話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○自動車の年間生産台数や部品数から自動車生産について話し合い、学習問題をつくる。 ・ある自動車会社では年間340万台の自動車をつくっている。 ・自動車は、お客さんからの注文に合わせてつくっている。 ・1台の自動車に使われている部品は約3万個ある。 ・たくさんの自動車をどのようにつくっているのだろうか。 学習問題 自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようなふうや努力をしているのでしょうか。	◆たくさんの自動車をお客さんの注文に合わせ、素早くつくっているという事実から問題意識をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して問いを見出しているか」を評価する。
		○予想を出し合い、学習計画を立てる。 <調べること> ・自動車工場での自動車のつくり方 ・関連工場での部品のつくり方 ・完成した自動車の運び方	◆学習の見通しをもてるようにする。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「自動車づくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③自動車を組み立てる工場 P. 14～15 組み立て工場働く人々は、どのように自動車をつくっているのでしょうか。 (1 時間)	○組み立て工場の工程について調べる。 ・自動車づくりは、プレス、溶接、塗装、組み立て、検査という流れで行われている。 ・各工程で多くの作業をしている。 ○QRコンテンツ「組み立て工場の人にインタビュー」から、多くの作業をしながら、注文に合わせて自動車を生産するための工夫を読み取り、話し合う。 ・ロボットや機械を使い、すばやくたくさんの自動車をつくっている。 ・指示ビラを見ながら作業をすることで、注文に合わせた自動車をつくっている。 ・必要な時に必要な部品を注文し、無駄な部品がないようにしている。 組み立て工場では、すばやく、正確に、効率よく自動車をつくっている。③	◆各工程で多くの作業をしていることに気づかせる。 ◆手作業だけでなく産業用ロボットなどを活用したオートメーションなど大規模工場の生産システムによって、「すばやく」「正確に」「効率よく」作業が進められていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、組み立て工場の工程や工夫について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④自動車の部品をつくる工場 P. 16～17 関連工場で働く人々は、どのようにして自動車の部品をつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○調べてわかったことを発表する。 ・組み立て工場からの注文に合わせてシートをつくっている。 ・組み立て工場と組み立てる車種の順番通りに並べ、トラックで運んでいる。 ・シートに使われる部品は、他の関連工場で作られている。 ○組み立て工場と関連工場のつながりについて話し合う。 ・組み立て工場と関連工場は一つの工場のように協力して自動車をつくっている。 ・どこか一つの関連工場が生産できなくなると、自動車がつくれなくなってしまうこともある。 関連工場の人々は、組み立て工場からの注文に合わせて部品をつくり、組み立て工場の人々と協力して自動車を生産している。④	◆関連工場では、組み立て工場からの注文に合わせて納期（時間）を意識して生産していることに気づかせる。 ◆シート工場の下には、シートに使われる部品をつくる工場があることに着目させ、関連工場の役割について考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、関連工場の様子や組み立て工場と関連工場のつながりについて理解しているか」を評価する。
	⑤世界とつながる自動車 P. 18～19 完成した自動車は、どのようにして消費者にとどけられるのでしょうか。 (1 時間)	○調べてわかったことを発表する。 ・完成した自動車は、キャリアカーで国内の販売店や港に運ばれる。 ・海外に船で運ばれる自動車もある。 ・自動車の価格には輸送費なども含まれる。 ・現地生産でつくられる自動車もある。 ○現地生産のよさについて話し合う。 ・輸送する費用や時間を抑えることができる。 ・その国の消費者のくらしや好みに合わせた自動車をつくることのできる。 完成した自動車は、キャリアカーや船で国内や国外に輸送される。また、輸送費をおさえ、外国の人に合わせた自動車をつくるために現地生産もしている。⑤	◆自動車の輸送方法や価格に着目させる。 ◆グラフから、自動車の現地生産が増加していることや、海外での販売数の割合が大きいことに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、完成した自動車を世界中に届ける運輸や現地生産などの外国とのつながりについて理解しているか」を評価する。
	⑥人々の願いに合わせた自動車開発 P. 20～21 新しい自動車は、どのように生み出されているのでしょうか。 (1 時間)	○これからの自動車づくりについて、消費者の願いを話し合う。 ・自動車は時代とともに変化してきている。 ・安全性や環境への配慮などが求められている。 ○現在、開発されている自動車の技術について調べる。 ・燃料電池自動車 ・電気自動車 ・福祉車両 ・自動運転技術 ・衝突安全ボディ ・エアバッグ ○消費者の願いと自動車の技術の関係について話し合う。 ・消費者の願いに合わせた自動車の技術開発が進められてきている。 ・ある自動車会社では、まちづくりを通して、社会の要請に合わせた工業製品の開発を目指している。 自動車会社は、消費者の要望や社会の動きに合わせて、よりよい製品を生み出している。⑥	◆さまざまな立場から消費者の願いを考えさせる。 ◆自動車会社のホームページやパンフレットなどからも自動車の技術について調べることができる。 ◆消費者の願いと自動車の技術開発が結び付いていることに気づかせる。 ◆現在も、未来も社会の要請に合わせた工業製品の開発を目指し、工夫や努力をしていることに気づかせる。	【態度①】 発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、これからの自動車づくりについて調べる見通しをもっているか」を評価する。 【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自動車の技術開発は、消費者の願いに合わせて行われているか」を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑦CMにまとめる P. 22～23 これまでの学習をふり返り、日本の自動車づくりのよさをまとめましょう。 (1 時間)	○これまで学習したことをふり返る。 ・組み立て工場では、すばやく、正確に、効率よく自動車をつくっている。 ・関連工場では、組み立て工場の人々と協力して自動車を生産している。 ・完成した自動車は、国内外に輸送される。また、現地生産も行っている。 ・自動車会社は、消費者の需要や社会の変化に対応して、よりよい製品を生み出している。 ○なぜ、たくさんの工夫や努力をしているのか話し合う。 ・たくさんの工夫や努力は、消費者の需要や社会の変化に対応するためである。 自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するようさまざまな工夫や努力をして、工業生産を支えている。 ⑦ ○日本の自動車づくりのよさをCMにまとめる。 ・調べてわかった工夫や努力の中から消費者に伝えたいものを選ぶ。 ・キャッチコピーを考える。 ・絵コンテに絵や内容、ナレーションを入れる。 ・友達と紹介し合う。	◆自動車を生産するうえでの工夫や努力を挙げさせ、まとめていく。 ◆工夫や努力の意味や価値について考えさせる。 ◆児童一人ひとりが大切だと感じた工夫や努力を取り上げさせ、その意味や価値が伝わるようにCMにまとめさせる。	【知技②】 作成したCMの内容や発言内容から、「自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するようさまざまな工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発表の内容から、「自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の工業生産について、輸送網(交通網)の広がり、外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①輸送網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。	①輸送網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、貿易や運輸の様子について考え表現している。	①工業生産における貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。	②工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①工業製品の輸送と日本の貿易 P. 30～31 日本の運輸や貿易について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○自動車工業の学習をふり返し、輸送との関わりを話し合う。 ・部品は関連工場で作られ、組み立て工場に運ばれる。 ・自動車はトラックや船で運ばれる。 ・空輸される工業製品もあるのではないかな。 ○工業に関わる貿易について話し合い、輸送との関連をもとに学習問題をつくる。 ・空港の貿易額が多い。 ・工業地帯にある港で輸出入が行われているようだ。	◆地図帳や地球儀、写真（P. 30～31）などを活用し、どのような工業製品が、どのような方法で運ばれているのかに着目して、輸送や貿易と日本の工業生産との関わりを予想させる。 ◆QRコンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、運輸や貿易の働きに関心を持たせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「交通の広がりや外国との関わりなどに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「工業生産を支える運輸や貿易の働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
	学習問題 運輸や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのでしょうか。			
調べる	②全国へ運ばれる工業製品 P. 32～33 工場で作られた工業製品は、どのように運ばれているのでしょうか。 (1 時間)	○資料②「京浜トラックターミナルのまわり」や⑦「日本の主な輸送もう」の地図などから、工業製品の輸送手段を調べる。 ・トラックターミナルの周辺にはさまざまな輸送手段がある。 ・工場で作られた工業製品は、さまざまな輸送手段を使って運ばれる。 ○工業生産における輸送の役割を話し合う。 ・輸送する工業製品の種類や量、輸送する場所によって輸送手段を使い分けたり、組み合わせたりしている。 ・運輸は、各地に工業製品を運ぶなど、重要な役割を果たしている。 工業製品は、製品の種類や量、輸送する場所によってトラックや鉄道、船、飛行機などを使い分けながら各地に輸送されている。②	◆P. 6「工業がさかんな地域の分布と特色」をふり返りながら、輸送網の広がりに着目して、運輸と工業生産との関わりを考えさせるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の工業生産における運輸の働きや輸送網の広がりについて理解しているか」を評価する。
	③日本の輸入の特色 P. 34～35 日本は、どこから、どのようなものを輸入しているのでしょうか。 (1 時間)	○資料①「主な輸入品の輸入相手国」や②「輸入量と国内生産量のわりあい」などから、日本が輸入している品目と相手国を調べる。 ・オーストラリアやサウジアラビアをはじめ、世界中から輸入している。 ・石油や石炭、天然ガス、鉄鉱石など燃料や原材料を輸入している。 ○資料③「主な輸入品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸入の特色について気づいたことを話し合う。 ・機械類の割合が高まっている。 ・アジア地域で生産された安くて品質のよ	◆時間的な変化があまりないものと大きく変化しているものに着目して輸入の特色を考えるようにさせる。 ◆「まなび方コーナー」をもとに、種類ごとの割合の変化を比べさせるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の輸入の特色について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		い工業製品が輸入されている。 日本は、工業製品に必要な燃料や原材料だけでなく、国内ではつくれないものや国内よりも安くつくれる製品を輸入している。 ③		
	④日本の輸出の特色 P. 36～37 日本は、どこへ、どのようなものを輸出しているのでしょうか。 (1 時間)	○資料①「主な輸出品の輸出相手国」から日本が輸出している品目と相手国を調べる。 ・アメリカや中国をはじめとして世界中に輸出している。 ・自動車、鉄鋼、集積回路など高い技術に支えられた製品が輸出されている。 ○資料②「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸出の特色について気づいたことを話し合う。 ・昔は繊維が多かったが、1970年代からは機械類が多くなった。 ・海外に進出する企業が増え、現地生産も多くなってきた。 日本は、輸入した原材料をもとにして高い技術で生産した製品を外国に輸出している。また、輸出するだけでなく、海外での現地生産も増加している。 ④	◆時間的な変化があまりないものと大きく変化しているものに着目して輸出の特色を考えるようにさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の輸出の特色について理解しているか」を評価する。
	⑤これからの社会に向けて P. 38 資源を多く輸入している日本では、これからのためにどのような取り組みが進められているのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真資料などから、資源の多くを輸入に頼っている状況での日本の新しい取り組みについて調べる。 ・再生可能エネルギーの開発が広がっている。 ・世界との良好な結びつきを大切にする。 資源の多くを輸入している日本は、世界との良好な結びつきを大切にしながら、再生可能エネルギーの開発など輸入にばかり頼らない取り組みを進めることが必要である。 ⑤ー1	◆ P. 37「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」にみられる輸出額の増大が、燃料や原材料の輸入によってもたらされていることに着目して、日本の新たな取り組みの意味を考えさせるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「日本が燃料や原材料の多くを輸入している現状をふまえた新たな取り組みについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤キャッチフレーズにまとめる P. 39	○これまでの学習をふり返り、「運輸」や「貿易」と「日本の工業生産」との関わりを話し合う。 ・ 運輸の働きが全国に広がっているから、輸入した原材料や生産した工業製品を各地で使うことができる。 ・ 資源が少ない日本は、貿易で原材料を確保している。 ○工業生産における「運輸」「貿易」について重要だと思ったことをキャッチフレーズにまとめる。 ・ (例) 「原材料から製品を生み出す日本の貿易」…日本は原材料を輸入し、製品を輸出することで工業生産が成り立っている。	◆これまでの学習をふり返り、工業生産に果たす「運輸」「貿易」の働きに着目して、話し合わせるようにする。 ◆「日本の工業生産を支える」という観点から、自分が重要だと感じたことを書かせる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「運輸や貿易は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。
	運輸や貿易が日本の工業生産に果たす役わりについてまとめましょう。 (1/2 時間)	運輸や貿易は、工業製品を各地に届けたり、日本の工業生産に必要な燃料や原材料を確保したりするなど、工業生産にとって重要な役割を果たしている。⑤－2		【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「工業生産と運輸や貿易の働きを関連付けて、貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の工業生産について、伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の課題を捉え、工業生産の発展と国民生活との関連を考え、表現することを通して、燃料や原材料の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの工業の発展について考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の課題を理解している。	①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、問いを見出し、技術を生かし発展する工業生産の課題について考え表現している	①これからの工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、燃料や原材料の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解している。	②工業生産について学習してきたことを総合して工業生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について考え表現している。	②学習したことをもとに、これからの工業の発展について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の工業生産の課題 P. 40～41 日本の工業生産の課題について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○日本の工業の課題について話し合う。 ・資源を輸入に頼っているので、資源の確保を考える必要がある。 ・製造業の人口が減っていて、国内生産ができなくなるのではないかな。 ・輸入品によって国産品に影響が出てしまうのではないかな。 ○中小工場の役割について話し合い、学習問題をつくる。 ・繊維工業や食料品工業をはじめ中小工場の生産額が多い。 ・中小工場には特色があるのではないかな。	◆「自動車工業」や「運輸と貿易」などの学習をふり返り、日本の工業生産の課題を考えさせる。 ◆自動車工業の学習をふり返り、関連工場の役割を考える中で、中小工場には大工場とは違った特色があることに気づかせるようにする。 ◆QRコンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、日本の工業生産の課題に関心をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「日本の工業生産の課題に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「日本の工業生産の課題について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 日本の工業生産は、すぐれた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのでしょうか。		
調べる	②昔から伝わる技術を生かした工業生産 P. 42～43 昔から伝わる技術をどのように工業生産に生かしているのでしょうか。 (1 時間)	○「めがね協会の小松原さんの話」をもとに、日本各地の伝統を生かした工業生産を調べ、伝統的な技術をどのように生かしているのかを話し合う。 ・めがね枠の国内生産の90%以上が福井県で、その中心となる鯖江市では地域ブランドをつくっている。 ・有田焼や高岡銅器、堺打刃物など、専門的な優れた技術を職人が受け継いでいる。 伝統的な工業では、昔から伝わる技術を守りながら地域ブランドとしたり、伝統的な技術を生かして新しい製品を開発したりしている。 ②	◆ICTなどを活用しながら、全国各地の伝統を生かした工業を調べ、生産された場所に注目させる。 ◆「めがねづくり」「有田焼」「高岡銅器」「堺打刃物」などに見られる、他の地域には真似できない高い技術に着目して、「地域ブランド」の意味を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、伝統を生かした工業の様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③高い技術を生かした工業生産 P. 44～45 ものづくりのまち大田区がほこる技術は、どのようなものなのでしょうか。 (1 時間)	○「富永さんの話」「田中さんの話」などから大田区での工業生産を調べ、他地域との違いについて話し合う。 ・ 富永さんたちは「しぼり」という技術で大きなアンテナなどをつくっている。 ・ 田中さんたちは、近くの工場どうしで協力して高い品質の製品をつくっている。 ・ 世界でも大田区でしかできない「オンリーワン」の製品をつくっている。 大田区の工場では、その工場でしかできない技術を発揮したり、工場どうしで技術をもち寄るなどの協力をしたりして、国内外で評価されるような製品をつくっている。 ③	◆富永さんの工場や田中さんたちの製品づくりに見られる高い技術や技術のもち寄り（仲間まわし）に着目して、「オンリーワン」の意味を考えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中小工場の優れた技術について理解しているか」を評価する。
	④新しい工業生産の取り組み P. 46 日本の工業生産では、どのような新しい取り組みが行われているのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真資料などから、日本の工業生産の新しい取り組みについて調べる。 ・ 人口減少の中、ロボットが開発されている。 ・ 品質の高い製品を海外に輸出している。 日本の工業生産では、働く人の確保や環境への配慮など、持続可能な社会を目指して、新しい技術やしくみを発展させていくことが求められている。 ④－1	◆「資源確保」「人口減少」「環境への配慮」に着目して、新たな取り組みが持続可能な社会づくりにつながっていることに気づかせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに日本の工業生産の新しい取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	④話し合っってノートにまとめる P. 47 すぐれた技術を生かす日本の工業生産についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでの学習をふり返って、日本の工業生産はすぐれた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのかを話し合い、自分の考えたことをノートにまとめる。 ・ （例）日本の工業は高い技術があるので、困っている人を助ける製品づくりが日本の工業の発展につながる。 日本の工業生産は、資源の確保や人口減少などの課題があるなか、高い技術や伝統的な技術を生かし、工場どうしが技術をもち寄って製品をつくったりするなど、国内外で評価される取り組みを行って発展していこうとしている。 ④－2	◆これまでの学習をふり返り、「地域ブランド」「持続可能な社会」などが示す意味に着目して、すぐれた技術を生かす日本の工業生産について、話し合わせるようにする。	[知技②] ノートの記述内容から、「日本の工業生産は、伝統や高い技術を生かし、新しい技術を開発しながら発展しようとしていることを理解しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①これからの工業生産の発展に向けて P. 48～49 これからの日本の工業生産の発展のために、大切だと思いを話し合いましょう。 (1 時間)	○これまでの「日本の工業生産」の学習をふり返って、これからの日本の工業の発展に向けて何を大切にしたいかを話し合う。 ・ 消費者の願いにこたえる工業製品づくりが大切。 ・ 資源の少ない日本は、世界の国々との良好な結びつきを大切にしなければならない。 ○これからの工業生産のために大切だと思いをランキングにして表現する。 ・ （例）「製品づくりの資源の確保」が最も大切。資源を確保しないことには日本の工業生産は何も行うことができなくな	◆日本の工業生産の課題に着目して、生産者や消費者など異なる立場から日本の工業の発展について話し合わせるようにする。 ◆これまでの日本の工業生産について学習したことをふまえながら、これからの工業生産で大切	[思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「工業生産について学習してきたことを総合して、消費者や生産者などの立場から日本の工業の発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		る。 ・（例）「人に役立つ製品づくり」が最も大切。社会の課題を解決するような製品づくりによって信頼が高まる。 日本の工業生産がこれからも発展していくためには、「消費者の願い」「高い技術」「環境への配慮」「資源確保」など、さまざまな視点から工業のあり方を考えていく必要がある。 ①	にしたいことを考えさせるようにする。	【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをふり返し、これからの工業の発展のために大切なことを考えようとしているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちの生活を取りまく情報 わたしたちは、どのような情報とどのようにかかわっているのでしょうか。 (1時間)	○どのような情報をどのように得ているのか発表し合う。 ・他地域や外国のニュースはテレビやラジオ、新聞で知る。 ・天気を知りたいときはインターネットを使うことが多い。 ・趣味のことについて知りたいときは雑誌を買うことが多い。 ○情報を得る手段と情報の内容との関わりを話し合う。 ・インターネットは外でも調べられる。 ・テレビは家族で一緒に見ることができ、遠くの場所のこともすぐに知ることができる。 単元のめあて わたしたちの生活の中で、情報はどのような役わりを果たしているのでしょうか。	◆「まなび方コーナー」を活用し、比較するための視点を意識してそれぞれの特徴を整理するようにする。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちの生活の中の情報の役割について関心を高めているか」を評価する。

目標

放送などの情報産業で働く人々について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで放送などの情報産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基にして、情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送などの情報産業の様子について理解している。	①放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力に着目して、問いを見いだし、放送などの情報産業の様子について考え表現している。	①放送などの産業と情報との関わりについて予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、放送などの情報産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	②放送局などから発信される情報と自分たちの生活に関連付けて、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えたりして表現している。	②学習したことをもとに、情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①テレビから伝えられる情報 P. 52～53 ニュース番組では、どのような情報が放送されているのでしょうか。 (1 時間)	○よく見るテレビ番組について発表し合う。 ・ ニュース番組の天気予報を見る。 ・ 野球やサッカーの結果を見る。 ○実際のニュース番組を一部視聴し、情報の種類や放送内容について話し合う。 ・ 全国各地のさまざまなできごとがその日のうちに放送されている。 ・ 外国のことで、映像や音声があるからわかりやすい。 ニュース番組では全国や世界のできごと、天気予報などの情報が、その日のうちに集められ、放送されている。 ①	◆地図帳や地球儀などを活用し、ニュース番組で取り上げられた場所に注目して、放送内容を調べられるようにする。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を読み取り、ニュース番組の内容や特徴について理解しているか」を評価する。
	②ニュース番組をつくる現場 P. 54～55 番組をつくる放送局について話し合って学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○ニュース番組の放送について疑問に思ったことを出し合い学習問題をつくる。 ・ どのように情報を集めているのか。 ・ できごとをどのように選んでいるのか。 ・ どのように情報を伝えているのか。 学習問題 放送局で働く人々は、どのようにしてわたしたちに情報をとどけているのでしょうか。	◆第1時で調べたニュース番組について調べたことをふり返り、疑問を出し合うようにさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報の集め方や伝え方に注目して問いを見いだしているか」を評価する。
調べる	③ニュース番組をつくるための情報収集 P. 56～57 放送局で働く人々は、1本のニュース番組をつくるために、どのようにして情報を集めているのでしょうか。	○放送局のホームページや「記者の娍斐さんの話」などから情報の集め方を調べ、働く人々の工夫や努力を話し合う。 ・ 多くの時間と人で番組はつくられている。 ・ 番組をつくるのに、細かく担当が分かれている。 ・ 取材内容が事実なのかを確認している。 ・ 人権や公平・公正さなどに配慮し、見る人が求める情報を考えて番組をつくっている。 放送局の人々は、一本のニュース番組をつくるために、全国各地から情報を集め、正確さ、人権や公平・公正さを考えつつ、見る人にわかりやすく編集してニュース番組を放送している。 ③	◆放送局で働く人々が協力して情報が伝えられていることに気づかせる。 ◆「現地やインターネットを活用して取材すること」や「情報の正確さを確認すること」に注目して、情報を集めたり選んだりする目的を考えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、放送局で働く人々は、ニュース番組をつくるためにさまざまなことを考えて情報を集めていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	④集めた情報を番組にしてとどける P. 58～59 放送局で働く人々は、情報をどのようにまとめ、ニュース番組にして放送しているのでしょうか。 (1 時間)	○「映像編集者の戸塚さんの話」「アナウンサーの上村さんの話」「ニュース番組編集長の荒井さんの話」などからニュース番組の放送のしかたについて調べ、放送局で働く人々の工夫や努力を話し合う。 ・映像の中で一番大切なところや見る人が求めているものを考えている。 ・ニュースをわかりやすく正確に伝えることを大切にしている。 ・常に、どの情報をどの順番で放送するかをその場で判断している。 放送局で働く人々は、番組を見る人が求めている情報を選ぶとともに、働く人たちが協力して原稿や映像を編集したり、内容を確認めたり、見る人が情報を使えるように工夫したりして放送している。 ④	◆編集長が「番組の進行を確認していること」「情報の順番をその場で判断していること」に着目して、情報を選んで放送していることを考えさせるようにする。 ◆QR コンテンツ「ニュース番組編集長にインタビュー」も活用して、放送局の仕様の様子をとらえさせる。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、放送局で働く人々は、さまざまなことを考えて伝え方を工夫していることを理解しているか」を評価する。
	⑤情報を上手に生かす P. 60～61 テレビ放送では、どのような情報が放送され、どのようなえいきょうがあるのでしょうか。 (1 時間)	○テレビ番組の種類や「報道被害を伝える新聞記事」、「放送局で働く鈴木さんの話」などから放送された情報の活用や影響を調べ、人々と情報の関わりについて話し合う。 ・テレビのニュースがきっかけで、報道被害が生まれた。 ・送り手である放送局によって伝える内容が変わる。 ・受け手の立場になって考えて放送している。 テレビなどの情報は、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりすることがある。 ⑤	◆情報の送り手と受け手の二つの立場から多角的に考えられるようにする。 ◆情報の受け手がどのような影響を受けているのかを「よさ」「問題点」の視点で話し合い、情報との関わり方を考えさせるようにする。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「放送局で働く人々の工夫や努力、情報発信の影響について考え、適切に表現しているか」を評価する。
	⑥フローチャートにまとめて話し合う P. 62～63 放送局で働く人々がわたしたちに情報をとどけるまでの働きについてまとめ、話し合いましょう。 (1 時間)	○学習したことをフローチャートにまとめる。 ・情報の正確さ、人権や公平・公正さを考えつつ、見る人が求める情報となるように、工夫して情報を集めている。 ・放送を見る人が自分の生活に情報を役立てられるように工夫して放送をしている。 ・情報は人々の行動を決めるきっかけとなったり、社会の混乱を起こしたりすることがあるので、影響を考えることなど、配慮して放送することが必要。 ○情報について考えたことを話し合い、自分の考えをノートにまとめる。 ・必要な情報を得ることができるが、社会の混乱を引き起こすこともあるので、いくつかの情報を見比べて、自分で判断して情報を選んでいきたい。 放送局で働く人々は、人々が求めている情報を集め、選ぶとともに見たり聞いたりする人が情報を活用できるように正確にわかりやすく伝える工夫や努力をしている。情報には、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりするなど大きな影響がある。 ⑥	◆第3～5時の学習で調べまとめたことをふり返り、放送局で働く人々と国民生活との関わりについてフローチャートに書き込むようにさせる。 ◆放送局で働く人々の工夫や努力、国民生活の影響をふまえながら、自分たちが情報を選ぶうえで、配慮すべきことを考えさせるようにする。	【知技②】 ノートの記述内容やフローチャートの記述内容から、「放送局から発信される情報の役割や影響について理解しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、情報について、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしているか」を評価する。

目標

我が国の産業と情報との関わりについて、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を多角的に考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、さまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状を理解している。	①情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え表現している。	①大量の情報や情報通信技術の活用について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、さまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	②情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、学習したことをもとに産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考え表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①くらしを支える産業と情報の活用 P. 66～67 くらしを支える産業での情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○くらしを支える産業では、情報をどのように活用しているか話し合う。 ・電車やバスなど、人を運ぶ運輸の仕事では、ICカードなどを利用している。 ・介護の現場では、人工知能が組み込まれたロボットを活用している。 ○販売の仕事ではどのように情報を活用しているか、写真資料を参考に話し合う。 ・レジでは、電子マネーで支払いをすることもできる。 ○話し合ったことをもとに疑問に思うことを出し合い、学習問題をつくる。 ・ICカードやアプリなどから得た情報は、どのように利用されているのだろう。 ・さまざまな種類の商品がそろっているのは、情報の活用と関係があるのかな。	◆さまざまな産業において、どのように情報を活用しているか写真をもとにとらえさせる。 ◆教科書 P. 67 の写真を見ながら、買い物経験を通じて知っていることなどを発表させる。 ◆QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、情報を活用する産業の様子に関心をもたせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「情報を活用するコンビニエンスストアの仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 はん売の仕事をするコンビニエンスストアでは、どのような情報を何のために活用しているのでしょうか。		
調べる	②情報を活用してはん売する P. 68～69 コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用してはん売の仕事をしているのでしょうか。 (1 時間)	○コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか話し合い、P. 68～69の資料をもとに調べる。 ・いつどんな商品が売れたか本部に情報が送られている。 ・店では、翌日の天気や地域の行事などの情報も活用して商品を発注している。 ・ICカードで買い物をすると、性別や年齢などの情報も本部に送られる。 ○コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか考え話し合う。 ・コンビニエンスストアの情報は、本部に送られ、大量の情報になっている。 ・本部では、買った人の情報も集め、新商品の開発に生かしている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、商品の販売に情報を生かしたり、大量の情報を活用して商品の開発を行ったりしている。 ②	◆コンビニエンスストアと本部の関係に着目して調べさせる。 ◆会員カードや電子マネーを申し込むときは、個人情報があるのか、どのように守られ、利用されるのかを確認することが大切であることを知らせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの商品の販売に生かす情報活用のしかたについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③情報を生かして ものを運ぶ P. 70～71 はん売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているのでしょうか。 (1 時間)	○コンビニエンスストアに商品が運ばれるときにどのように情報が活用されているか話し合い、資料 1、2 をもとに調べる。 ・店からタブレットを使って本部や工場に情報が送られている。 ・本部ではトラックの位置がわかり、災害の時は本部から指示が出せるようになっている。 ○人々の願いに応えるための情報を生かした工夫を資料 3、4 などから調べる。 ・お年寄りや子育て中の人などは、商品をお店から届けてもらうこともできる。 ○販売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているかを考え、話し合う。 ・店から情報が本部や工場に送られ、商品が届けられている。 ・安心・安全なくらしができるように、情報を活用して人々のつながりをつくっている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、商品の配送にも情報が生かされ、それは地域の人々の安心・安全を確保する取り組みにもつながっている。	◆GPS を利用してトラックの位置情報を把握することで、災害時にも備えていることに着目させる。 ◆資料 4 は、買い物に行きづらい方々がインターネット等を利用して商品を送り届けてもらうしくみである。人々の願いに応えるための情報活用としてとらえさせたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの商品を運ぶ際等の情報活用のしかたについて理解しているか」を評価する。
	④情報通信技術の活用によるサービスの広がり P. 72～73 はん売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのでしょうか。 (1 時間)	○コンビニエンスストアでは、情報通信技術がどのように活用されているのか話し合い、資料 1 などから調べる。 ・コンサートやスポーツの試合のチケットなどが買える。 ・市役所などで発行する証明書をとることができるものがある。 ○販売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのか考え、話し合う。 ・店の商品を買うだけでなく、情報通信機器を使って、いろいろなサービスを受けられる。 ・情報通信技術を活用して、ほかの産業ともつながることで、わたしたちの生活は便利になっている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、情報通信技術を活用し、ほかの産業ともつながりながらサービスの幅を広げている。④	◆情報通信技術を活用したサービスを受けた経験を話し合うとともに、コピー機でどのようなことができるか調べさせる。 ◆資料 4 の年表をもとに、情報通信技術の活用によってコンビニエンスストアがサービスを広げていること、わたしたちの生活も便利になっていることを考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの情報通信技術の活用によるサービスの広がりについて理解しているか」を評価する。
	⑤関係図にまとめる P. 74～75 はん売の仕事をするコンビニエンスストアでの情報活用についてまとめましょう。 (1 時間)	○学習をふり振り返り、コンビニエンスストアがどのように情報を活用しているか話し合う。 ・店で売れた商品や買ったお客さんの情報などを集めて、新しい商品を開発していた。 ・位置情報を活用して、トラックの位置がいつでもわかるしくみになっていた。 ・情報通信技術を活用して、ほかの産業ともつながってサービスを広げている。 ○コンビニエンスストアの情報活用について、関係図にまとめ、発表し合う。	◆各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたか話し合わせる。 ◆「集めた大量の情報の活用」と「情報通信技術の活用」という面があることを考えさせたい。 ◆関係図は、P. 74～75 を参考にワ	【知技②】 ノートの記述内容や関係図の内容から、「調べたことをまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、販売業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		- 集めた情報を販売の仕事に生かす工夫と、情報通信技術を生かしてほかの産業とつながり、サービスを広げる工夫があった。 - 情報を活用することで販売の仕事が発展し、わたしたちの生活も便利になっている。 大量の情報や情報通信技術などの活用は、我が国のさまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させている。 ⑤	ワークシート形式にしてもよい。テンプレートとして、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を使ってもよい。	【思判表②】 ノートの記述内容や関係図の内容から、「情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を産業や国民の立場から多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。

4－③ 情報を生かすわたしたち

2 時間／下 P. 80～83

目標

情報活用のあり方について、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを捉え、情報が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを理解している。	①情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見いだし、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたについて考え表現している。	①情報活用のあり方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解している。	②学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、表現している。	②学習したことをもとに、情報化の進展に伴う国民生活におけるよさや課題について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①あふれる情報 P. 80 日ごろの情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1/2 時間)	○パソコンやスマートフォンの利用経験を話し合う。 ・メールを送ったり、電車の時刻を調べたりした。 ・インターネットを利用して調べ学習をした。 ○インターネットでできることや普及率を調べ、どのようなことが問題になるか話し合い、学習問題をつくる。 ・ルールやマナーを知らないで使うと、トラブルに巻き込まれることがある。	◆くらしの中で、情報がどのように活用されているか着目させる。 ◆普及率の増加とともに、さまざまな問題が起きていることに気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報活用のあり方について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちは、情報とどのようにしてかかわっていけばよいのでしょうか。		
調べる	①情報活用のルールやマナー P. 81 情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいのでしょうか。 (1/2 時間)	○資料1～3のインターネットを利用した犯罪件数のグラフなどをもとに、その原因を話し合う。 ・パソコンや携帯電話が普及したことと関係があるのではないかな。 ・インターネットは、顔を合わせなくても情報のやり取りができるからではないかな。 ○インターネットで起こる問題を調べ、情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいか考え話し合う。 〈問題の例〉 ・SNSで知った間違った情報を広めてしまった。 ・SNSに書き込んだ個人情報が流出した。 〈ルールやマナーの例〉 ・インターネットの情報の中には、有害なものや正しくないものもあることを理解して利用する。 ・インターネット上に流れた情報は止めることができない。 インターネットはたくさんの情報を送ったり得たりすることができるが、問題が起きることもあり、ルールやマナーを守った活用が大切である。①	◆インターネットの普及による家庭や社会への影響に着目させる。 ◆SNS の利用で起こる問題の例をもとに具体的に調べさせる。 ◆受信・発信の際に守るべきルールやマナーを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展による課題や、情報活用のルールやマナーを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	②インターネットを活用した学習 P. 82 情報を学習に生かすには、どのようにすればよいのでしょうか。 (1/2 時間)	○インターネットを利用した調べ学習で困ったり、迷ったりした経験を話し合う。 ・ たくさんの情報があつてどれを選べばよいかわかったことがある。 ・ 集めた情報をそのまま使つてよいのかわからなかった。 ○情報を集めるときや読み取るときに大切なことを考え、話し合う。 ・ 正しい情報かどうかを見極め、情報を選んで受け取る。 ・ 情報をそのまま書き写さず、自分の言葉に置き換えてまとめる。 ・ 発表の時は、参考にした資料や本の名前、作者、発行元、発行年などを書いておく。 学校や家庭でのオンライン学習の場面でもインターネットは効果を発揮するが、そのためには正しい使い方をする必要があり、メディアリテラシーを身に付けることが大切である。 ②-1	◆社会科やそのほかの教科の学習でインターネットを利用した際に困ったり迷ったりした経験を発表させる。 ◆メディアリテラシーを身に付けることが大切であることを理解させる。 ◆「まなび方コーナー」を参照するほか、本の奥付(書名、作者名、発行元、発行年)を実際に見せるとよい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、情報の適切な活用のしかたについて理解しているか」を評価する。
まとめる	②情報の活用について話し合う P. 83 情報をどのように活用したらよいか、まとめましょう。 (1/2 時間)	○情報の活用について学んできたことをふり返り、話し合う。 ・ 情報がくらしや産業に役立っている。 ・ インターネットの情報は便利に活用できるが、すべて正しいとは限らない。 ・ インターネットによるいじめや犯罪が問題になっている。 ○情報をどのように活用し、生かしていったらよいか考え、話し合う。 ・ インターネットを正しく使うために、メディアリテラシーを身に付けることが大切。 ・ 情報の活用には、ルールやマナーが大切。 家庭や社会では日常的に情報が活用され、インターネットの活用は、便利さをもたらす反面、いじめや犯罪などの問題も起きており、メディアリテラシーを身に付け、ルールやマナーを守って活用することが大切である。 ②-2	◆第4単元全体を俯瞰し、学んできたことを発表させる。 ◆情報化された社会で生きるという視点から、大切だと思うことを話し合い、ノートにまとめさせる。 ◆QR コンテンツ「ネットリテラシークイズ」も活用し、情報の受け手、送り手それぞれに大切なことをとらえさせる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、適切に表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
単元全体のいかす	①情報の役わり P. 84～85 わたしたちの生活における情報の役わりを見直し、意見文を書きましょう。 (1 時間)	○これまでの学習をもとに、自分たちの情報との関わり方をふり返り、注意しなければならないことを話し合う。 ・ 個人情報を入力する場合、相手を確認することや不必要なことを書かないことが大切。 ・ SNSで発信するとき、友達のことを書き込んだり、個人情報を発信したりしない。 ○これから情報を活用していくうえで大切だと思うことを整理し、「わたしたちの生活と情報」について意見文を書く。 ・ いろいろな産業で情報が活用され、わたしたちの生活に情報が欠かせない。 ・ 必要な情報はきちんと確かめて使う。 ・ これからもオンラインを活用する機会が増える中で、正しく情報を活用していく。 情報の活用にあたっては、確かな情報を収集・選択して使うこと、誤った情報や個人情報等を発信しないことが大切である。	◆各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたか話し合わせる。	【態度②】 発言や情報活用宣言の内容から、「学習したことをもとに、情報化の進展に伴う国民生活におけるよさや課題について考えようとしているか」を評価する。
		①		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちの生活は、どのような自然環境に囲まれているのでしょうか。 (1時間)	○わたしたちの生活と自然環境とのかかわりについて話し合う。 ・国土の学習で、地形や気候の特色を学習した。 ・世界自然遺産に一度行ってみたい。日本には、美しい自然環境が残されているところが多くある。 ○P.86～87の資料を見ながら、豊かな自然環境や環境が悪化する問題について考える。 ・写真資料の場所は、日本のさまざまなところにある。 ・国土の学習では、各地で自然環境を生かしたくらしをしていた。 ・台風や地震などの自然災害も多数起きている。 ・木を植えているのはどうしてだろう。 ・空がきれいになったのはどうしてだろう。 ・自然環境とどのようにかかわっていくのがよいのだろう。 ----- 単元のめあて 国土の自然環境は、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。 -----	◆国土の学習を思い出させるとともに、自分たちの生活と自然環境とのかかわりについて考えさせる。 ◆地図帳等も活用して国土について学習したことをふり返らせる。 ◆身近な地域で自然環境保護の取り組みをしている事例などを出し、関心をもたせたい。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちの生活と自然環境とのかかわりについて関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の国土の自然条件と国民生活について災害の種類や発生の位置や時間、防災対策などに着目して、地図や各種資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出し、国土の自然災害の状況について考え、表現している。	①我が国の自然災害の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふりかえったりして、主体的に学習問題を追究、解決しようとしている。
②調べたことを表や文にまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解している。	②我が国で発生するさまざまな自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①自然災害が多い日本の国土 P. 88～89 日本で起きる自然災害について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○巻末の日本各地で起きた自然災害の年表や教科書の写真資料などを読み取り、過去の発生状況からわかったことや考えたことを整理し、学習問題をつくる。 ・日本の各地で災害が起こっている。 ・地震や津波はどのようなところで起きているのかな。 ・高い土地や低い土地、あたたかい土地など、日本のさまざまな地形や気候の地域について学んだから、自然災害も地形や気候と関係があると思う。 ・自然災害に対して、国や都道府県では、どのような取り組みを行っているのかな。	◆日本のどこで、どのような自然災害が起きているのかを巻末資料（災害年表）を見ながらとらえられるようにする。 ◆自然災害の発生や地形や気候との関連で考えさせる。 ◆自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているかという相互の協力の視点からも考えるように助言する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自然災害の多さや防災対策などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容から、「国土の自然災害の状況や防災対策について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 自然災害は、地形や気候とどのようなかわりがあり、国や都道府県では、くらしを守るためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。		
調べる	②地震災害への取り組み P. 90～91 地震はどのような場所で起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○日本で地震が起こるわけを、本文や資料 2、3 から読み取り、話し合う。 ・複数のプレートの出会う場所にある。 ・内陸に断層が多くある。 ○大地震に備えて国や都道府県では、どのような対策や備えをしているか、読み取り話し合う。 ・気象庁では、大きな揺れが予想される直前に緊急地震速報を発表し、自分の身を守れるようにしている。 ・国の会議では、地震の前触れや起きたときの対策を話し合っている。	◆地震が起きるしくみについて資料から考えさせる。 ◆教科書の資料の中から、大きな地震に備えて、「だれが」「どのような」取り組みを進めているのかに着目しながら対策について調べるように助言する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地震災害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。
		日本は複数のプレートの出会う場所があり、内陸にも断層が多く地震が多い。地震の前触れについて話し合い、実際に地震が起きたときの対応も国は検討を行っている。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③津波災害への取り組み P. 92～93 津波災害はどのようなときに起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○日本で津波が起こるわけを本文や資料3、4から読み取り、話し合う。 ・大きな地震が発生した後に起こる。 ・プレートが反発して海水が大きく動くことによって動く。 ○大津波からの被害を減らすために、国や都道府県ではどのような対策をしているのか調べ、話し合う。 ・防潮堤や津波避難タワーを建設している。 ・被害が大きくなならないようなまちづくりをしている。 ・約170年前に、津波から村の人を救った濱口梧陵さんがいた。 津波は、大きな地震が発生した後に起こる。国や都道府県では、津波災害に備え、防潮堤や津波避難タワーを建設するなど、災害が起きた際に、被害が大きくなならないようなまちづくりをしている。③	◆津波が起きるしくみについて資料から考えさせる。 ◆津波災害が繰り返し発生していることに着目させ、その対策の必要性を意識させて調べさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、津波災害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。
	④風水害への取り組み P. 94～95 風水害はどのようなときに起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○日本で風水害の被害が大きくなるわけを、資料から読み取り、話し合う。 ・短時間に急な大雨が降ることがあると、水が川からあふれたり、土砂が流れてきたりしてしまう。 ○風水害からの被害を減らすために、各都道府県ではどのような取り組みをしているのか、資料からわかったことを話し合う。 ・砂防ダム、地下放水路などをつくって、災害を防いでいる。 ・ハザードマップを災害時に役立ててもらう。 日本は、つゆがあり台風がよく来る場所にあるため、洪水や土砂災害などに備える必要がある。そのため、国や都道府県では、砂防ダム、放水路、ハザードマップなどの多様な対策を行っている。④	◆砂防ダムや、放水路など、被害を減らすための取り組みや対策の意味をきちんと押さえるようにする。 ◆ハザードマップについても、その意味をきちんと話し合っ、自分がそれらを使うことを想定させるようにしたい。 ◆QR コンテンツ「国土交通省の人にインタビュー」を視聴し、防災や減災の取り組みについてとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、風水害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。
	⑤火山災害や雪害への取り組み P. 96～97 火山災害や雪害はどのような場所で起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○資料から、火山や大雪の被害について調べる。 ・火山灰や噴石などの被害がある。 ・雪崩や、雪下ろし中の事故がある。 ○火山や大雪への取り組みについて調べ、話し合う。 ・火山灰などから身を守るための、避難壕をつくっている。 ・大雪に備えて、雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。 日本には多くの火山があり、現在も活動をしている。また、日本海側に大雪の降る場所が集中している。国や都道府県では、災害に応じた対策をして、少しでも被害を減らす、減災の取り組みをしている。⑤	◆火山の位置については、地図帳などでも調べさせ、自分たちの住む市区町村との位置関係もとらえさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、風水害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥表に整理する P. 98～99 自然災害からくらしを守るための取り組みについてまとめましょう。 (1時間)	○これまでの学習をふり返り、自然災害の種類別に、表に整理する。 ・津波は海沿いで発生している。対策として、国や県が防潮堤をつくっている。 ・地震は、プレートが関係している。国や都道府県が協力して、耐震工事を進めたり、会議をしたりして、被害を減らすことができるように考えている。 ・日本は、つゆがあり台風がよく来るため風水害の被害が大きくなりがちなため、砂防ダムや放水路、ハザードマップなどの多様な対策を国や都道府県が行っている。 ・噴火に備え、気象庁では常に火山を観測している。また、大雪に備え雪崩を防ぐ柵などを道路脇に設置している。 ○表をもとに、①地形や気候との関係や、②防災や減災対策の共通点をさがす。 ①について ・山地が多く、四方を海に囲まれた日本では、地震、津波、噴火が発生することが多い。 ・夏から秋にかけて台風が多く、全国各地で風水害が発生しやすい。 ・季節風の影響で、冬の降雪量が多く、雪害が起こる地域もある。 ②について ・どの自然災害についても、防災対策だけでなく、発生した際の被害を大きくしないための対策（減災）に国や都道府県が取り組んでいる。 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生している。自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や都道府県などがさまざまな対策や事業を進めている。 ⑥ ○学習をふり返り、考えたことを話し合う。 ・自然災害は、いつ起きるかわからないので、日頃から、備えをしていた方がよい。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆各自が作成した表を見合い、それぞれの災害の対策や取り組みについて共有することで、対策や取り組みの様子を理解できるようにする。	[知技②] 表やノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、国や県などが自然災害に対する取り組みや対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。 [思判表②] 表やノートの記述内容や発言内容から、「我が国で発生する自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や都道府県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。	①森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見だし、国土の環境について考え表現している。	①森林資源の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。	②我が国の国土における森林の分布と国民の生活舞台である国土の保全を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	②学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の森林 P. 100～101 日本の森林は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○森林の様子の写真やグラフ、日本の土地利用図などの資料から森林の広がりについて話し合う。 ・国土面積の約3分の2は森林である。 ・世界の中でも森林の占める割合は高い。 ・森林は全国各地に広がっている。 森林は、日本の国土面積の3分の2を占めている。森林は全国に広がっていて、日本は世界でも森林の割合が多い国である。 ①	◆「わたしたちの国土」での学習を想起させ、国土にしめる森林の面積の割合を確認する。 ◆日本の土地利用図から、森林の分布に着目して、森林は全国各地に広がっていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国土における森林の広がりについて理解しているか」を評価する。
	②森林とのかかわり P. 102～103 森林とわたしたちのくらしのかかわりを話し合っ て学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○天然林と人工林の写真を比較し、気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・森林には天然林と人工林がある。 ・天然林と人工林で、働きに違いはあるのだろうか。 ・森林はどのような働きをしているのだろうか。 学習問題 森林にはどのような働きがあり、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。	◆天然林と人工林の写真を比較することを通して、それぞれの働きを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「天然林・人工林の様子に着目して問いを見いだしているか」を評価する。
		○予想を出し合い、学習計画を立てる。 <調べること> ・天然林の広がる地域の様子や天然林の働き ・人工林の広がる地域の様子や人工林の働き ・森林の働きや森林資源の利用のしかた	◆米づくりの学習で学んだ防砂林などの既習事項を想起させ、森林の働きを考えさせる。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「森林の働きや自分たちの生活との関わりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③貴重な天然林・白神山地 P. 104～105 天然林には、どのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○白神山地と天然林の働きについて調べ、わかったことを発表する。 ・青森県から秋田県にかけて広がる、ぶなの天然林が広がる山地である。 ・世界遺産に登録されている。 ・美しい自然を求めてたくさんの人がやって来る。 ・生き物のすみかとなっている。 ・赤石川の水源地となっている。 ・天然林の働きを保つためには、森林を保全していくことが大切である。 天然林には、人々の安らぎの場や生き物のすみかをつくりだす働きがあり、その働きを保つためには、森林を保全していくことが大切である。 ③	◆天然林は自然にできたものではあるが、その働きを守っていくために、保護活動を行っている人々がいることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、天然林の働きやその保護に従事している人々の工夫と努力について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④木材をつくりだす森林 P. 106～107 人工林には、どのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○白神山地の近くの秋田杉の人工林とその働きについて調べ、わかったことを発表する。 ・人工林は木材を生み出す場所である。 ・植えた木が木材になるまでには、長い年月がかかる。 ・手入れをすることで、よい木材を生み出すことができる。 ○林業がかかえる課題について、話し合う。 ・林業で働く人々の数は減少している。 ・木材の輸入量は1960年代と比べて増加している。 ・天然林の資源量は増えていないが、人工林は年々増加している。 人工林には、木材を生み出す働きがあり、林業で働く人々は長い年月をかけて木を育てている。また、林業で働く人々は山の環境を守りながら仕事をしている。 ④	◆林業で働く人々は木を植えて切るだけでなく、長い年月をかけて手入れをしていることに気づかせる。 ◆3 つのグラフから読み取ったことを関連付けることで、林業がかかえる課題を捉えられるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、人工林の働きとその育成に従事している人々の工夫と努力について理解しているか」を評価する。
	⑤さまざまな森林の働き P. 108～109 森林には、どのような働きがあり、森林資源はどのように利用されているのでしょうか。 (1 時間)	○森林の働きについて話し合う。 ・生き物のすみか ・空気をきれいにする ・水をたくわえる ・きれいな水を生み出す ・災害を防ぐ ・木材を生み出す ・手入れの行き届かない森林が増えている。 ○森林資源の利用について調べる。 ・伝統工芸品に使われている木材がある。 ・国立競技場には、全国で生産された木材が使われている。 ・間伐材を使った製品もある。 ・森林ボランティアは森林の働きや森林資源を守る活動をしている。 森林には、水をたくわえたり、空気をきれいにしたり、土砂崩れを防いだりする働きがある。また、森林資源は、木製品として生かされている。 ⑤	◆手入れが行き届かず荒れた森林は、その働きを失ってしまうことに気づかせる。 ◆森林の働きを維持するためには、森林資源を保護・活用していくことが大切であることに気づかせる。 ◆QR コンテンツ「森林ボランティアの人にインタビュー」も活用し、森林資源を次の世代に伝えていくために活動している人の思いをとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、さまざまな森林の働きや森林資源の利用について理解しているか」を評価する。
ま と め る	⑥図にまとめる P. 110～111 森林の働きについてまとめ、環境を守ることに考えてみましょう。 (1 時間)	○森林の働きを集合図にまとめる。 ・天然林には、生き物のすみかや人々の安らぎの場をつくり出す働きがある。 ・人工林には、木材を生み出す働きがある。 ・国土を保全し、わたしたちの生活を守るという共通する働きがある。 森林は、その育成や保護に従事している人々の工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしている。 ⑥ ○国土を保全する豊かな森林を守っていくために、自分たちにできることを考える。 ・苗木を植える森林ボランティアの活動に	◆集合図にまとめることで天然林と人工林の働きの相違点や共通点について考えさせる。 ◆学習したことの中から自分たちにできることを考え、選択・判断させる。	[知技②] ノートの記述内容や発表の内容から、「調べたことをまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		参加することができる。 ・ 森林教室に参加することもできる。 ・ 木を使った製品を積極的に利用することが人工林を豊かにすることにつながる。		【思判表②】 ノートの記述内容や発表の内容から、「学習したことをもとに、森林資源を守るために自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりしているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容や発表の内容から、「学習したことをもとに、森林資源を守るために自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。

5－③ 環境を守るわたしたち

5 時間／下 P.112～121

目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで公害防止の取り組みをとらえ、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々のさまざまな努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取り組みを理解している。	①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見いだし、国土の環境について考え表現している。	①公害防止の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々のさまざまな努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。	②公害防止の取り組みと環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取り組みの働きを考えたり、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	②学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①豊かな水資源をもつ京都市 P. 112～113 鴨川の変化について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○鴨川と京都市民とのかかわりを調べる。 ・鴨川の豊かな水が市民の生活やゆばづくりなどの産業を支えている。 ・現在は、いこいの場として親しまれている。 ○現在と過去の鴨川の様子を比べて、疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・なぜ汚れていたのか。 ・どのようにしてきれいにしたのか。 ・だれがきれいにしたのか。	◆鴨川は市民にとって多様な価値があることに気づかせる。 ◆「汚れた理由」や 1970 年以降に改善されていることに着目して考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 鴨川は、だれがどのようにしてきれいな川にしているのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・鴨川が汚れていた原因 ・汚れていた鴨川をきれいにした取り組み ・美しい鴨川を守り続けるための取り組み		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「鴨川の公害防止の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②生活が便利になる一方で P. 114～115 なぜ鴨川はよごれていたのでしょうか。 (1 時間)	○当時の新聞記事や「市役所の大原さんの話」、「四大公害病」などから、当時の社会の様子を調べ、汚れの原因について話し合う。 ・生活排水や工場排水によって汚れた。 ・産業の発展で生活が便利になる一方、環境を考えない人が多かった。 高度経済成長によって日本の産業が発展するなか、国民生活は便利になったが環境に対する国民の意識が低く公害が発生した。鴨川でも住民の意識が低く、川が汚れてしまった。 ②	◆生活のしかたや生産のしかた、人々の環境の意識などが原因になっていること、それらは当時の日本の傾向であったことに着目して考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鴨川における公害発生の原因について理解しているか」を評価する。
	③美しい鴨川を取りもどすために P. 116～117 京都市では、鴨川をきれいにするために、どのような取り組みが行われたのでしょうか。 (1 時間)	○年表や「市役所の大原さんの話」、「友禅あらい職人の澁谷さんの話」などから、環境をよくするための取り組みについて調べ、話し合う。 ・国は法律を整え、市は、下水道を整えたり工場排水を規制したりした。 ・工場の人たちは国や市のルールに協力し、工場を移転したり排水で汚したりしないように工夫した。 全国的に公害が広がったころ国は法律などを定めた。京都市は、下水道の整備や工場排水を規制し、川を汚さないために工場などの協力をすすめた。 ③	◆国や市などの行政によってしくみが整えられ、工場などがそれらに対してできることを協力していることに着目して考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鴨川の環境改善の取り組みについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④取りもどした環境を守るために P. 118～119 きれいな川になった鴨川を守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○「鴨川を美しくする会の杉江さんの話」や「京都府鴨川条例」などから現在の取り組みを調べ、環境を維持する様子について話し合う。 ・市民が川に親しむイベントを行うことで、環境を守る気持ちをもつようにしている。 ・市民の活動によって府が条例をつくり、環境が守られるようにしている。 きれいな川になった鴨川を守るために、住民たちが川に親しむイベントを行ったり清掃活動を行ったりして、人々の環境への意識を高める取り組みをしている。 ④	◆きれいな川になった川で遊ぶ人がごみを出すようになったことに着目して、新たな課題を把握させる。 ◆市民自身が環境を守る取り組みをすることで、環境への意識を高めようとしていくことに着目して考えさせる。 ◆QR コンテツ「鴨川を美しくする会の人」にインタビューを参照し、長年鴨川の美化に携わってきた市民の思いを感じさせたい。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、鴨川における新たな課題や市民団体の取り組みについて調べる見通しをもっているか」を評価する。
まとめる	⑤立場でまとめて話し合う P. 120～121 鴨川の環境を守るための取り組みについてまとめ、話し合しましょう。 (1 時間)	○学習したことをふり返って、鴨川の環境を守る取り組みをそれぞれの立場でまとめる。 ・府・市は、下水道を整備したり工場排水の規制を行ったりするほか、条例を制定した。 ・工場は、川を汚さない工夫をして、府や市の取り組みに協力した。 ・市民は、人々が環境を守る意識を高められる工夫を行っている。 ○自分はだれの活動に協力できるか話し合う。 ・市民主催のイベントに協力できる。 ・家庭では、生活排水の汚れを減らすことで府や市に協力できる。 ○小単元をふり返る。 ・産業の発展や生活の向上の一方で、人々の行動で環境を悪化させてしまうことがある。一人ひとりが環境への意識をもって取り組むことが大切だ。 鴨川では、これまで市や工場、地域の人々などのさまざまな努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきており、環境保全につながる継続的な取り組みをすることや、健康な生活を守ることが大切である。 ⑤	◆環境を守るために、それぞれの立場の人が、どのような役割を果たしているのかに着目して考えさせる。 ◆自分の活動は、どのような役割を果たせそうなのかを意識させる。 ◆「環境が悪化した原因」「環境を改善し、維持するために努力する人の姿」に着目してふり返るようにさせる。	【思判表②】 まとめた図の内容や発言内容から、「行政や工場、市民団体の取り組みを関連付けて、考えたことを表現しているか」を評価する。 【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、行政や工場、市民の努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られたことや、健康な生活を守ることの大切さを理解しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、公害防止の取り組みについて、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
単元全体のいかす	①ことなる立場から考えよう P. 124～125	○川をめぐる問題について、異なる二つの立場の意見をそれぞれ「よさ」「問題点」に分けて表にまとめ、自分の意見を書く。 〈Aさんたちの意見〉 よさ ・川のまわりをコンクリートで整備すると、洪水になりにくい。災害の心配が減る。 ・親水公園を川のまわりに建設して、みんなのいこいの場にすることができる。 問題点 ・川が環境が変わってしまう。 〈Bさんたちの意見〉 よさ ・洪水の際の避難計画を考えることで、川の自然の姿をそのまま守ることができる。 問題点 ・自然のままだと、これからも洪水の可能性はある。 ○AさんたちとBさんたちの意見の違いから、自然に対する二つの考え方があることを整理し、自然を守りながら人々が生活していくためにはどのようなことが大切か、自分の考えを書く。	◆第5単元全体をふり振り返りながら、二つの立場の意見「問題点」「よさ」について考えさせる。 ◆正解があるわけではないが、これまでの学習をふまえて根拠を明確にして自分の考えを書くように指導する。	[態度] 表やノートの記述内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 [思判表] 表やノートの記述内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。
	自然を守りながら人が生活していくためには、どのようなことを大切にしなければならないのでしょうか。	自然を守りながら人々が生活していくために、どのようなことを大切にしなければならないか、ことなる立場の人々の意見もふまえながら考えていくことが必要である。 ①		

単元の導入（第 1 単元オリエンテーション）

1 時間／政治・国際編 P. 6～

7

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	身のまわりにある政治と政治の役割 わたしたちのくらしをよくするために、政治にはどのような役割があるのでしょうか。 (1 時間)	○身のまわりで話し合いが行われていることや、話し合いで決められたことについて出し合う。 ・クラスの行事では、いろいろな意見が出て、一つにまとめるのが大変だった。 ・地域のごみ出しについて自治会で話し合いが行われ、新しくルールが決められた。 ・親子で遊べる施設が近所にできた。市民の声を受けてつくられたと聞いた。 ・5年の自然災害の学習で、防潮堤が建設されていることを学習した。国会でつくられた法律にもとづいているそうだ。 ○わたしたちのくらしと政治には、どのような関連があるか考える。 ・身のまわりのことでも、話し合いで決められていることが数多くある。 ・クラスでの話し合い、地域の自治会での話し合い、市議会での話し合い、国会での話し合いなどさまざまあり、それらの結果決められていることが数多くある。 ・わたしたちのくらしの身近なことでも、政治と結びついていることがあるのではないか。 単元のめあて わたしたちのくらしと政治は、どのように結びついているのでしょうか。	◆生活経験や学習経験から、話し合いで決められていることがないか出させる。 ◆それらの話し合いの結果、決められていることや実現されていることがないか考え、わたしたちのくらしと政治との結びつきについて考えさせる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちのくらしと政治の関連について関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の政治の働きについて、日本国憲法の基本的な考え方に着目して、見学・調査したり各種の資料などで調べたりしてまとめることで、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の基本的な考え方について、見学・調査したり各種の資料などで調べたりして、必要な情報を読み取り、我が国の民主政治を理解している。	①日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見いだし、我が国の民主政治について考え、適切に表現している。	①日本国憲法の基本的な考え方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解している。	②日本国憲法の基本的な考え方と国民生活を関連付けて、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①くらしの中の日本国憲法 P. 8～9 日本国憲法とはどのようなものなのでしょう。 (1 時間)	○イラストを見て、身近な地域に人々の願いを実現するために行われている取り組みを探すとともに、それらが日本国憲法とつながっていることを考える。 ・書店にいろいろな本が並んでいることは、本を自由に出版できることとつながっている。 ・「非核平和宣言」の看板があることは、平和なまちをつくらうとすることとつながっている。 日本国憲法が、わたしたちのくらしのいろいろなところで生かされることで、わたしたちは安心して豊かな生活を送ることができる。①	◆身近な地域に日本国憲法につながる社会的事象が数多くあることに気づかせる。 ◆地域だけでなく、学校や教室の中にも日本国憲法につながる社会的事象があることに気づかせる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「身近な地域の社会的事象と日本国憲法とのつながりについて考えることができたか」を評価する。
	②日本国憲法の考え方 P. 10～11 日本国憲法にはどのような考え方があるのかを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○日本国憲法の基本的な考え方を知る。 ・日本国憲法は、戦後、人々が平和を願う中でつくられた。 ・日本国憲法には、三つの原則がある。 ○くらしと日本国憲法のつながりについて気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・教科書が無償で配られることは、日本国憲法と関係がある。 ・日本国憲法は、いろいろな人々のくらしに関係している。 ・くらしと日本国憲法のつながりには、他にどんなものがあるのだろうか。	◆日本国憲法がつくられた時期と三つの原則の考え方を関連づけて理解させる。 ◆家族の話参考をしながら、身の回りのくらしを日本国憲法とのつながりからとらえさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「日本国憲法の三つの原則について理解しているか」を評価する。
	③学習の進め方 P. 12～13	○単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認するとともに、学習問題についての予想、調べることや調べ方、まとめ方などを発表し合い、学習計画を立てる。 ＜学習問題についての予想＞ ・日本国憲法の三つの原則は、市の政治に生かされているのではないか。 ・日本国憲法の考え方は、さまざまな立場の人々がくらしやすい社会をつくることにつながっているのではないか。 ＜調べること＞ ・国民主権の考え方とわたしたちのくらしのつながり ・基本的人権の尊重の考え方とわたしたちのくらしのつながり ・平和主義の考え方とわたしたちのくらしのつながり ＜調べ方＞ ・教科書を使って調べる ・教科書以外の資料で調べる ・市役所や地域の人にインタビューする ＜まとめ方＞ ・調べたことを、表や文でまとめる。	◆学習の進め方を参考に、学習計画を立てるようになる。	【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	④くらしの中の国民主権 P. 14～15 日本国憲法の国民主権の考えは、市や国の取り組みにどのように反映されているのでしょうか。 (1 時間)	○国民主権の考えが反映されている市や国の施策について調べ、憲法が定める国民主権について、わかったことや考えたことを話し合う。 - 政治の代表者を選ぶのは、市であれば市民であり、国であれば国民である。 - 市役所には、市民の意見を政治に生かすための制度がある。 - 最高裁判所の裁判官も国民が審査する。 日本国憲法の国民主権にもとづいて行われている身近な取り組みには、選挙や情報公開制度などがあり、国民が主権者であることを示している。 ④	◆選挙や情報公開制度について、尼崎市を事例にして、市民が政治の中心であり、市民の声が政治に反映されていることについて考えさせる。 ◆市と国の政治を比べ、共通点を出させて、政治の中心は国民であることを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本国憲法の国民主権の考え方が市や国の政治に反映されていることについて理解しているか」を評価する。
	⑤くらしの中の基本的人権の尊重 P. 16～17 日本国憲法の基本的人権の尊重の考えは、市や国の取り組みにどのように反映されているのでしょうか。 (1 時間)	○基本的人権の尊重の考えが反映されている市や国の施策について調べ、憲法が定める基本的人権の尊重について、わかったことや考えたことを話し合う。 - 基本的人権の尊重の考えを理解できるように、本を出版したり、スタディツアーを実施したりしている。 - 公園にあるバリアフリートイレは、基本的人権の尊重の考えからつくられている。 - 日本国憲法は、基本的人権の尊重の考えにもとづいて国民の権利を保障するとともに、国民が果たさなければならない義務も定めている。 日本国憲法の基本的人権の尊重にもとづいて行われている身近な取り組みには、国民の生まれながらの権利を保障するものがある。 ⑤	◆尼崎市の「じんけんまなぶ本」の出版や「じんけんスタディツアー」などの取り組みを参考に、市や国が身近な人権を市民に理解してもらおうと努力していることを理解させる。 ◆国民の権利と義務の関係について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本国憲法の基本的人権の尊重の考え方が市や国の政治に反映されていることについて理解しているか」を評価する。
	⑥くらしの中の平和主義 P. 18～19 日本国憲法の平和主義の考えは、市や国の政治にどのように反映されているのでしょうか。 (1 時間)	○平和主義の考えが反映されている市や国の施策について調べ、憲法が定める平和主義について、わかったことや考えたことを話し合う。 - 市では、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える取り組みが行われている。 - 国では、唯一の被爆国として、世界に向けて平和を願う心をアピールしている。 日本国憲法の平和主義にもとづいて行われている身近な取り組みは、戦争の悲惨さを伝えたり、平和を願ったりするさまざまな活動として表れている。 ⑥	◆尼崎市の取り組みを参考に、自分の市の取り組みについても調べ、平和主義の考えが生かされていることに気づかせる。 ◆国や日本のさまざまな地域でも平和に関する行事が行われていることに気づかせる。 ◆自衛隊の役割を理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本国憲法の平和主義の考え方が市や国の政治に反映されていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P. 20～21 日本国憲法の三つの原則とくらしとのつながりについて、調べてきたことを整理し、友だちと話し合いました。 (1 時間)	○学習をふり返って、日本国憲法の三つの原則がそれぞれ我が国の民主政治とどのようにつながっているのかをまとめる。 ・ 国民主権は政治の主人公は国民ということであり、情報公開制度や選挙などで、わたしたちのくらしに役立っている。 ・ 基本的人権の尊重は生まれながらの権利を大切にすることであり、人権を大切にするためのさまざまな取り組みが市や国で行われている。 ・ 平和主義は二度と戦争をしないということであり、戦争の悲惨さを伝えるための取り組みが全国各地で行われている。 ○わたしたちのくらしに日本国憲法がどのように生かされているのかをまとめる。 ・ 国民主権の考えに基づいて、市役所には「意見箱」が設置されている。 ・ 基本的人権の尊重の考えにもとづいて、車いすが通りやすいように駅の改札が広くつくられている。 ・ 平和主義の考えに基づいて、わたしたちの市には戦争の遺跡が残されている。 日本国憲法は、国家や国民生活の基本を定めており、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方にもとづいている。 ⑦	◆日本国憲法の三つの原則や、自分の地域における日本国憲法に関する取り組みを、表にまとめさせるようにする。 ◆教科書に掲載された尼崎市の事例だけでなく、身近な事例と関連づけて、日本国憲法について考えさせる。 ◆話し合いを行う際には、ICT を有効に活用する。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを表や文などにまとめ、日本国憲法は、国家や国民生活の基本を定めており、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方にもとづいていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本国憲法の考え方を国民生活と関連づけ、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の政治の働きについて、日本国憲法の基本的な考え方に着目して、見学・調査したり各種の資料などで調べたりしてまとめることで、我が国の民主政治を捉え、国会、内閣、裁判所と国民生活との関わりを考え、表現することを通して、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の基本的な考え方について、見学・調査したり各種の資料などで調べたりして、必要な情報を読み取り、我が国の民主政治を理解している。	①日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見いだし、我が国の民主政治について考え、適切に表現している。	①日本国憲法の基本的な考え方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。	②国会、内閣、裁判所と国民生活との関わりを考えたり、学習したことを基に政治への関わり方について多角的に考えたりして、適切に表現している。	②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①選挙のしくみと税金の働き P. 24～25 国民の代表である国会議員を選ぶ選挙について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○選挙で代表者を選ぶ際に、税金の集め方や使い方が大切な視点となることを考える。 ・わたしたちが買い物の時に払う消費税は、どのように使われているのだろう。 ・わたしたちの安全な生活を守っている消防署や警察署の方の給料も、税金で支払われている。 ・予算の収入の1/3が公債金で賄われていることを、どうしたら解決することができるだろう。 ○国民の代表である国会議員を選ぶ選挙について気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を立てる。 ・小学生のいる親が安心して働けるような社会をつくってほしい。 ・お年寄りが健康で暮らせる国をつくるために、どのようなことが必要だろうか。 ・選挙の投票率が減っていることは、なぜ問題になっているのだろう。	◆身近な地域で行われた選挙を思い起こさせ、わたしたちの周りでは数多くの選挙が実施されていることに気づかせる。 ◆税金の集め方や使い方と選挙で代表者を選ぶことが深く関連していることに気づかせる。 ◆投票率が低下していることに気づかせ、選挙の役割がますます重要になっていることを考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述や発言の内容から、「選挙で代表者を選ぶことと税金の集め方・使い方のつながりについて考えることができたか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述や発言の内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画をあって、解決の見通しをもっているか」を評価する。
	学習問題 わたしたちの国の政治は、国民の願いを実現し、国民の生活の安定と向上を図るために、どのような働きをしているのでしょうか。			
調べる	②国会の働き P. 26～27 国会にはどのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○国会の行うさまざまな仕事について調べ、国会の働きについて、わかったことや考えたことを話し合う。 ・衆議院と参議院の二つの場で話し合っ て、予算や法律を決定している。 ・予算を立てたり法律を決定したりする他に、国会はさまざまな仕事をしている。 ・国会での話し合いに、国民は常に関心を持たなくてはならない。 国民の生活の安定と向上を図るために、法律や予算などを審議したり決定したりすることが、国会の働きである。	◆国会の仕事がわたしたちの生活と関係していることを理解させる。 ◆国会の仕事に常に関心をもつことが重要であることに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国民の生活の安定と向上を図るために、国会の働きがあることを理解しているか」を評価する。
	③内閣の働き P. 28～29 内閣にはどのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○内閣の行うさまざまな仕事について調べ、内閣の働きについて、わかったことや考え方ことを話し合う。 ・予算を決定するのは国会の仕事だが、予算案を作るのは内閣の仕事である。 ・内閣は世論調査などを通して、国民の声に耳を傾けながら仕事をしている。 ・国民の祝日も、国会や内閣の仕事と深く関わっている。 国会で決定された法律や予算にもとづいて、国民のために仕事を行うことが、内閣の働きである。	◆国会で決められた法律や予算にもとづいて、国民のために仕事を行うのが内閣であるということを理解させる。 ◆国民の祝日の意義や由来を理解させる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国会で決定された法律や予算に基づいて、国民のために仕事を行っているのが内閣であることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④裁判所の働き P. 30 裁判所にはどのような働きがあるのでしょうか。 (1/2 時間)	○裁判所の行うさまざまな仕事について調べ、裁判所の働きについて、わかったことや考え方を話し合う。 ・社会のさまざまな争いごとを解決するのが裁判所の働きである。 ・裁判のまちがいを防ぐために、同じ事件について3回まで裁判を受けることができる。 ・国民の感覚や視点を裁判に生かすことを目的に、裁判員制度が始まった。 法律にもとづいて問題を解決し、国民の権利を守る仕事を行うことが、裁判所の働きである。 ④-1	◆国民ひとりひとりが裁判に関心を持ち、主権者として裁判に参加することが求められるようになって裁判員制度が開始されたことを理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、法律にもとづき、国民の権利を守るために仕事を行っているのが裁判所であることを理解しているか」を評価する。
まとめる	④三権分立のしくみ P. 31 学習問題について、調べてわかったことを整理し、国会、内閣、裁判所の関係をまとめましょう。 (1/2 時間)	○学習を振り返って、国会、内閣、裁判所がそれぞれどのようにつながっているかをまとめる。 ・国会、内閣、裁判所は、権力が一か所に集中しないように、三権分立というしくみで成り立っている。 ・国会と内閣の間には、国会が内閣を信任しないことを決議するという関係にある。 ・裁判所と国会の間には、裁判所が国会の決定した法律を憲法にもとづいて調べるという関係にある。 国の政治は、国民主権の考え方の下、国民の生活の安定と向上をはかる大切な役割をしており、国会・内閣・裁判所が三権分立のしくみの下で国の重要な役割を分担している。 ④-	◆「まなび方コーナー」を参照しながら、国会、内閣、裁判所の関係をまとめるために、三権分立の図をノートに完成させる。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを表や文にまとめ、現在の我が国の民主政治は立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。
いかす	①優先順位をつけて考える P. 34～35 日本のさまざまな課題とそれを解決する方法について、優先順位をつけて考えてみましょう。 (1 時間)	○学習してきたことを生かして、社会に見られる課題を解決する方法について、優先順位をつけて、話し合う。 ・(例)「課題と方法②安全なくらし」をいちばん優先すべきである。 ・(例)他に比べると「課題と方法⑨伝統文化の保存」の優先順位はそれほど高くない。 ・優先順位のつけ方にはいろいろな意見があって、一つにまとめるのは難しい。 社会の課題を解決するためには、日本国憲法と政治の働きを考え、国民一人一人の政治への関わりが必要である。	◆「まなび方コーナー」を参照しながら、課題と方法の優先順位を決める際に、ダイヤモンドランキングで考えることが有効であることに気づかせる。 ◆自分と友だちの意見、他のグループと自分のグループの意見を比べて、考えるために ICT を活用する。	[態度②] ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、よりよい社会を考え、自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに政治へ関わるために自分たちができることを多角的に考えたり、自分の考えをまとめたりしているか」を評価する。

目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめることで国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、国や地方公共団体の政治の取組について考え、適切に表現している。	①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて政治の働きを考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①わたしたちの願いと子ども家庭総合センター P. 36～37 子ども家庭総合センターの様子と、子どもをもつ親の願いについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○市民の願いを調べる。 ・ 40代までの市民は子育ての願いが多い。 ○「あいぱれっと」の様子を調べ、利用する人のどのような問題が改善されそうか話し合う。 ・ あいぱれっとは年間20万人以上が利用。 ・ 中高生も利用している。 ・ あいぱれっとがあると、子育てをしている人は安心できそうだ。 ○あいぱれっとについて感じたことや疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・ 誰がこの施設をつくろうとしたのか。 ・ どのように実現したのか。 ・ 法律や憲法とのつながりはあるのか。 学習問題 子ども家庭総合センターがつくられるまでに、どのような人たちの、どのような働きがあったのでしょうか。	◆世代ごとに市民の思いが違ってくることに着目させ、市民には様々な立場があることに気付かせる。 ◆公共施設であることに着目したり、前小単元の学習内容を振り返ったりしながら、疑問を出し合う。	[思判表①] ノートの記述内容から、「子どもをもつ親の願いに着目して、子ども家庭総合センターの建設について問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容から、「学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
	②市役所の働き P. 38～39 あいぱれっとの建設と運営に、市はどのように関わっているのでしょうか。 (1 時間)	○あいぱれっとの所長の話や資料4などを基に、市役所の取り組みを調べる。 ・ 国の法律に基づいて計画を立てている。 ・ 建設に国からの補助金も使われている。 ・ 市民の要望を実現する施設として2009年に話し合いを始めた。 ・ 市長のもとで作られた計画は、市議会での話し合いで決定され建設が始まった。 ○市役所は市民の願いをどのように取り入れているのか話し合う。 ・ 市役所に伝えられた要望を基に計画を作っている。 ・ 建設には市民の意見も集められている。 「あいぱれっと」で安全で安心できる活動や子育て支援活動を行うため、市長のもとで市役所が法律にもとづき、市民の要望や市の実態をふまえて計画を立て、予算を計算して建設し、運営している。	◆法律や補助金との関わりなど、国との関わりで政治が進められていることに気付かせる。 ◆計画から実現までの過程に着目し、市役所の計画には市民の要望が生かされていることに気付かせる。	[知技①] 調べている様子やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市民の要望をもとに、法律に基づき市役所で計画を立て子ども家庭総合センターを建設・運営していることについて理解しているか」を評価する。
調べる	③市議会の働き P. 40～41 あいぱれっとができるまでに、市議会はどのように関わっているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1～3、本文などを基に、市議会の働きを調べる。 ・ 議場では市長や市役所の人たちと議員は向かい合うように座る。 ・ 市役所が作った計画は議会が決定する。 ・ 議会を進める議員は市民が選挙で選ぶ。 ○市が作った計画に、議会の決定が必要な理由を話し合う。 ・ 国の法律や市民の要望などに基づいているかどうかをしっかりと判断するため。 ・ 議員は市民の代表として公平・公正な政策であるかを確かめる役割があるため。 「あいぱれっと」は、市の提案にもとづき、市民による選挙で選ばれた市議会議員が、市議会で計画や予算を決定して建設されている。このように、市民と市議会は密接に関わっている。	◆前小単元までに学習した国会の働きを振り返りながら、市議会の役割を調べるよう助言する。 ◆市長も選挙で選ばれているが、議員が市民の代表としてさらに政策をチェックする仕組みになっていることで、公平・公正なものとなることに気付かせ	[知技①] 調べている様子やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、子ども家庭総合センターは、市議会で計画や予算を決定して建設されていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
			る。	
	④税金の働き P. 42～43 あいぱれっとをつくり、運営するための費用は、どこから出ているのでしょうか。 (1 時間)	○資料 1・2 や本文を基に「あいぱれっと」の建設や運営の費用を調べる。 ・建設には約57億円かった。 ・運営（1 年）には約2億8000万円が必要。 ・利用者は0 円で利用できる。 ・住民や会社などから集めた税金や国や県からの補助金で費用が賄われている。 ・憲法にある納税の義務が関係している。 ○「あいぱれっと」が税金で運営されている理由を話し合う。 ・税金で賄うことで、収入に関係なく誰でも自由に利用することで、たくさんの市民を支えることにつながるから。 「あいぱれっと」を建設し運営するための費用には、市民や会社などから集められた税金や、国や県からの補助金などが使われる。税金は、わたしたちの生活や社会を支える大切なものである。	◆施設の運営には人件費だけでなく、施設を維持するための費用が必要であることに着目し、高額である理由に気付かせる。 ◆利用者自身がその都度払うのではなく税金で運営されていることに着目することで、市民全体が利益を得られることに気付かせる。	【思判表①】 ノートの記述内容から、「子ども家庭総合センターの建設費用や運営に税金や補助金が使われていることの意味を考えまとめているか」を評価する。
まとめる	⑤まとめる P. 44 あいぱれっとがつくられるまでの政治の働きについて、調べてわかったことをまとめ、グループで話し合いましょう。 (1 時間)	○学習問題を振り返る。 ○市民と市役所、市議会の関係を表す矢印の意味を（ ）に書き入れ、図を基に、「あいぱれっと」がつくられるまでの政治の働きについて自分の考えをノートにまとめる。 ○一人ひとりがノートにまとめた政治の働きについてグループで話し合い、自分の考えを振り返る。 ○市の広報誌などで、子育て支援以外の事業と市民との関わりを調べる。 ・高齢者の福祉サービスが行われている。 ・障害のある人への支援も行われている。 市の政治は、市民の要望と法律をもとに、市民が選挙で選んだ市長と市役所が計画を立て、市民が選挙で選んだ市議会議員によって決定された後、市民の税金を使って運営されている。このようにして、市民生活の安定と向上が図られてい	◆学習問題を確認し、「市民・市役所・市議会の相互関係」に着目して図に整理させてから、学習問題についての自分の考えをまとめさせる。 ◆P. 36 資料 2 などと関連付けながら、様々な立場の人に向けて生活の安定と向上のための取り組みが行われていることに気付かせる。	【知技②】 図やノートの記述内容から、「調べたことを整理して、市の政治はわたしたちの生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容から、「国や地方公共団体の政治の取り組みと国民生活を関連づけて政治の働きを考え、表現しているか」を評価する。

1－③震災復興の願いを実現する政治

目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめることで国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、国や地方公共団体の政治の取組について考え、適切に表現している。	①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて政治の働きを考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①東日本大震災の発生 P. 46～47 東日本大震災の被害から生活を立て直すためのまちの人たちの願いについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○大震災直後の気仙沼市の様子や新聞の号外などを見て気づいたことや考えたことを発表しあう。 ・津波がまちを襲った。 ・漁港も深刻なダメージを負った。 ・もとのまちになるか不安だっただろう。 ○震災直後と現在のまちの様子を比べてその間に何があったか話し合う。 ・漁港では3か月後には水あげを再開した。 ・大地震などの災害については前の学年で学習したのでその大変さが少し理解できる。 ・まちが現在のような状態になるまでに、どのようなことがあったのだろう。 ○被災した人々の願いを実現するためにはどうしたらよいか話し合い、学習問題につなげる。 ・家を建て直したい、早く漁業を再開したい、という願いがあったと思う。 ・みんなで協力したことは想像できるけど、もっと大きな助けが必要になったのではないか。	◆震災直後の写真や新聞の号外を見せ、東日本大震災の被害の大きさに気付かせる。 ◆号外などの新聞や年鑑などの資料を紹介する。 ◆震災直後と現在のまちや漁港の様子を比較して、違いに気づかせ、この間に起こったことを想像させる。 ◆願いの実現について、既習内容を効果的に活用し、自助や共助に加えて、公助の存在を想起させたい。	【思判表①】 新聞などの資料を読み取った際のノートの記事内容や発言内容から、「願いの実現のために政策の計画から実施までに着目して、学習問題を見出しているか」を評価する。 【態度①】 学習問題の解決に向けた予想や学習計画についてのノートの記事内容や発言内容から、「解決の見通しへの意欲や見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 災害にあった人々の願いは、どのような政治の働きによって実現されるのでしょうか。		
調べる	②東日本大震災への緊急対応 P. 48～49 東日本大震災が発生したとき、市や県、国はどのような取り組みをしたのでしょうか。 (1 時間)	○地震直後の市の取り組みについて調べる。 ・災害対策本部を設置して、避難所の開設や被害状況の確認を迅速に指示している。 ・被災した住民のために支援の手配を他の地方公共団体をお願いしている。 ○地震直後の県の取り組みについて調べる。 ・県全体の被害状況の把握 ・国への報告と支援の要請 ○地震直後の国の取り組みについて調べる。 ・各県と連携した自衛隊出動の命令と派遣人数の調整 ・他国への救助要請、物資や機材の確保 ・災害救助法の適用 ○市や県、国の連携のしくみや様子を関係図で調べ、話し合う。 ・大震災などを想定してすぐに動けるようにしている。 ・国や県、市以外でもいろいろなところと連携・協力している。	◆写真資料などをもとに、市の取り組みを具体的にとらえさせ、それをもとに、県や国の動きをとらえるようにする。 ◆「災害から人々を助ける政治の働き」の関係図をもとに、国、県、市が法律に基づいて、連携、協力して緊急事態に対応していることをとらえさせる。 ◆災害関連の既習内容を想起させ、自助・共助の視点からも確認させたい。 ◆災害救助法をはじめとした法律の重要性についても気づかせたい。	【知技①】 写真や関係図などからわかったことを関連づけてとらえる際の発言、ノートの記事内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国や県、市などの地方公共団体の政治の取組について理解しているか」を評価する。
		大震災などの災害の発生を想定して、震災直後から被災者を助けるために、市や県、国がそれぞれ連携・協力してすぐに動き出せるような体制がつけられている。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③復旧・復興に向けた国の支援 P. 50～51 復旧・復興に向けて、国はどのような取り組みを行ったのでしょうか。（1時間）	○写真や年表をもとに、災害からの復旧に向けた国の取り組みを調べ、わかったことなどを話し合う。 ・緊急災害対策本部を設置した。 ・復旧を進めるために、第一次補正予算を成立させた。 ・復旧と復興は、意味にちがいのある言葉である。 ○災害からの復興に向けた取り組みを調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ・東日本大震災復興基本法を成立させた。 ・第二次、第三次補正予算を成立させた。 ・図を見るとわかるように、法律を成立させて予算を確保して復興に役立てている。 ・復興のための予算を出すためには、法律を成立させないといけない。 ・図から県や市も国からの支援を受けて、いろいろなことをしていることがわかる。 国は必要な法律を早急に制定したり、特別な予算を立てたりして、被災地の支援を行っている。	◆年表をもとにして、法律や予算などの政治の働きを時系列で押さえられるようにする。 ◆「ことば」（復旧・復興）を参照しつつ、それぞれの意味の違いを確認する。 ◆「復旧・復興に向けた国や県、市町村の政治の働き」の図をもとに、法律や予算に基づいた具体的な取り組みを読み取らせる。 ◆既習の国会の働きを想起させる。	[知技①] 写真や年表、図などをもとにした発言内容やノートの記述内容から「必要な情報を集め、読み取り、国の政策の内容、法令や予算との関わりについて理解しているか」を評価する。
	④市や市民の取り組み P. 52～53 復旧・復興と未来に向けたまちづくりのために、市や市民はどのような取り組みを行ってきたのでしょうか。（1時間）	○写真や図式、年表などをもとに、市や市民の取り組みを調べてわかったことや考えたことについて話し合う。 ・市では震災復興計画をつくり、計画にもとづいて復興に向けたさまざまな取り組みをしている。 ・国や県、そして市や市民が連携・協力しながら復興に向けて取り組んでいる。 ・「気仙沼市では、水産業なしの復興は考えられません」という言葉から、市民にとっての水産業の重要さがわかった。 ・復旧や復興だけでなく、市の特色を生かしたまちづくりも同時に考えて進めていくことが大切だ。 ○復興を進めている被災地で、現在課題になっていることを調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ・震災前から人口の減少などの大きな課題があった。 ・市に移住してくる人のためにさまざまな情報提供に力を入れている。 ・「世界につながる豊かなローカル」というキャッチフレーズのもとに、市や市民が取り組みを進めている。 ・中学生が震災当時の様子を説明する語り部活動を行っていることから、震災の教訓を未来に伝えていくことの大切さがわかった。 市は震災復興計画を作成し、計画に基づいて、復興に向けた取り組みを行っており、また、市民も国や県、市の支援を受けながら、新しいまちづくりに向けて、みんなで協力している。 ④	◆写真や図、年表や市役所の人の話から、復興に向け、市がどのような計画を立て、どのような取り組みを行ってきたのか、具体的にとらえさせる。 ◆市役所の人の話から、気仙沼のまちづくりには水産業というまちの特色を生かすことが大切であることをとらえさせたい。 ◆今もお残る課題についてもとらえさせる。 ◆市や市民が協力してまちづくりを進めており、そこに国や県が支援・協力しているという構図をおさえさせたい。	[知技①] 写真や図、年表やインタビューなどをもとにした発言内容やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地方公共団体が、長期的な視野に立って地域の復興に向けてさまざまな施策を実行していることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤まとめる P. 54 災害からの復旧・復興とまちづくりについて、調べてきたことをまとめ、自分の考えを書きましょう。 (1 時間)	○学習問題について調べてきたことをもとに、人々の願いをかなえるために国や県、市はどのような取り組みをしたのかを表に整理する。 ・被災者には避難場所や情報、がれきの撤去、ライフラインの復活、交通網の復旧、衣食住の確保、復興に向けたまちづくりなどの多くの願いがあった。 ・国は予算を捻出するために、法律を制定して復興のための予算を確保した。 ・県は国からの予算の分配や、自衛隊への派遣要請などをした。 ・市は、震災直後は他の地方公共団体に応援要請をしたり避難施設を建設したりした。その後は復興を進めながら、市の特色を生かしたまちづくりに取り組んでいる。 ・市民は、震災を契機に気仙沼のよさを更に生かしたまちづくりを行い世界に発信して行こうと市と協力している。 ○完成させた表をもとに、復旧・復興における政治の働きの大切さについて、自分の考えをまとめる。 ・これまでに学習した自助・共助・公助の意味や意義が、より具体的にわかった。 ・市民の願いをもとに、市町村、県、国が役割分担をしながらその願いを実現させていくしくみがよくわかった。 人々の願いを実現するために、国や県、市の政治の働き（法律の制定や予算の成立）がかかわっており、それらは、国民の生活と向上を図るために重要な働きをしている。 ⑤	◆東日本大震災の復興にはたくさんの人々が関わっていること、そのために、国や地方公共団体が連携・協力して取り組んでいることに気づかせる。 ◆4 年、5 年の自然災害の学習なども想起させながら、自助・共助・公助の意義を改めて考えさせたい。 ◆復興は国民の願いでもあることに気づかせたい。 ◆復旧・復興と未来に向けたまちづくりを関連させて考えさせたい。	【知技②】 これまでの国などの取り組み、人々の願いを整理した表の記述内容から「調べたことをまとめ、国や地方公共団体の政治は国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 表の記述内容や自分の考えのまとめから、「国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて政治の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす (単元全体)	①公園づくりについて話し合おう P. 58～59	○公園づくりに関わる願いをもとに、どのような立場があるのかを確かめる。 ・親子連れは遊べる公園を願っている。 ・自然が豊かな公園を願う人もいる。 ・子どもは運動ができる公園を願っている。 ・防災の役割が必要だという人もいる。 ○市長の案を基に、公園づくりをどのように進めていけばよいか話し合う。 ・それぞれよさはあるが予算に限りがある。 ・立場によって求める公園は違うから、全てを同時に叶えるのは難しそうだ。その地域の今と先のことを考えて、優先順位を考えることが大切だと思う。 ○政治単元全体を振り返り、その考え方が自分たちの暮らしに生かせる場面を書く。 ・政治は様々な立場の人権の願いをもとにしながら優先順位を考えて行われている。 ・自分の住む地域の政治ではどんなことに重点が置かれているか関心をもとうと思う。	◆それぞれの案の長所や短所を検討させ、同時に実現する難しさに気付かせ、優先順位をつける必要があることに気づかせる。 ◆国民主権、基本的人権の尊重、国民（市民）生活の安定と向上などに着目して、自分の生活との関わりを書くようにさせる。	【態度②】 ノートの記述内容から、「これまでの学習をふり振り返り、政治単元の学習内容を自分たちの生活場面に当てはめて考えようとしているか」を評価する。
	地域の公園づくりについて、いろいろな立場の人の願いをどのように取りまとめていけばよいか話し合おう。 (1時間)	みんなの願いを実現するためには、さまざまな人の声を聞き、さまざまな立場になって願いを考え、積極的に意見を伝えることが大切である。		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	①歴史学習を始めよう～知っていることを話し合おう～ P.2～3	○知っている遺跡や古い建物、知っている歴史上の人物を挙げる。 ・原爆ドームは広島県にある。世界遺産になっている。 ・東大寺の奈良の大仏はとても大きい。 ・聖徳太子は一万円札の肖像画になっていたそうだ。 ・野口英世の記念館が福島県にあった。 ○これまでの社会科の学習を振り返り、6年生での歴史学習について話し合う。 ・3年生で、市の移り変わりを学習した。 ・5年生で工業製品の変化を学んだ。 ・6年生ではさらに詳しく学習しようだ。	◆遺跡や古い建物の所在地、歴史人物と縁のある場所で知っているものがあつたら、日本地図に位置づけ、日本全体の歴史を意識させる。 ◆これまでの歴史学習では変化や人物の取り組みに着目して学習してきたことを確認し、6年生での学習内容への関心を高める。	〔態度①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「歴史学習で学んでいくことについて見通しをもっているか」を評価する。
	②年表の見方を知ろう P.4～5	○「まなび方コーナー」を参考にして、年表の見方を調べる。 ・西暦、世紀、時代の意味を調べる。 ○年表を基に、時代ごとの主な人物や遺跡などの大まかな時期を調べ、位置付ける。 ・聖徳太子は今から1500年くらい前の人だ。 ・西郷隆盛は明治時代の人物のようだね。 ・三内丸山遺跡は今から約5500年前にあった。 ○年表を見て考えたことや感じたことを話し合い、歴史単元のめあてをもつ。 ・現在に残っているものも、つくられた時代がそれぞれ違っている。 ・日本にはとても長い歴史がある。 ・現在の日本になるまでに、どのようなできごとがあつたのかな。	◆等尺年表を使って時代ごとの長さを比較するなど、これから学習する内容に関心をもたせる。 ◆教科書の巻末年表もあわせて活用する。 ◆人物や建物の様子が大きく変化していることに着目して、歴史学習への関心を高めるようにする。	〔思判表①〕 ノートの記述内容や発言内容から「人物や建物の様子が現代になるまでに大きく変化していることに着目して問いを見いだしているか」を評価する。
	③歴史博物館に行こう P.6～7	単元のめあて 日本の歴史には、どのようなできごとがあり、どのような人物の働きがあつたのでしょうか。 ○歴史博物館を訪ね、見学・体験をする。 ・資料の解説文を読んだり、学芸員から話を聞いたり、展示物や映像シアターなどを見たりして、調べ学習に取り組む。	は、体験コーナーを設けていることが多い。実際に体験することを重視したい。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容、見学の様子から、「歴史博物館の利用の仕方を理解しているか、歴史博物館の各種資料を活用して、必要な情報を集め、読み取り、まとめているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や地図、年表などの資料で調べ、世の中の変化の様子を考え、表現することを通して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、遺跡や地図、年表などの資料で調べ、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）について考え、適切に表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、むらからくにへと変化したことを理解している。	②狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の変化の様子を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①大昔のむらのくらし P. 8～9 縄文のむらのくらしの様子について話し合しましょう。 (1 時間)	○三内丸山遺跡や出土品の写真、「縄文時代の人々の1年の生活」の図などを見て、当時の人々がどのようにくらしていたのか想像し、話し合う。 ・たて穴住居とよばれる住まいにくらしていた。 ・狩りや漁、採集中心の生活であり、食べ物が手に入らないこともあった。 ・生活に必要な道具を、石、木、骨などでつくっていた。 ・縄文土器を使って、調理をしたり、蓄えたりしていた。 縄文のむらの人々は、協力して狩猟や採集の生活を営み、必要な道具は、石、木、骨などでつくっていた。 ①	◆現在のわたしたちの生活（特に住居と食）と当時の生活の様子を比較し、生活の様子を想像させる。 ◆「三内丸山遺跡の人々の1年の生活」から、季節ごとに、どのようなものを手に入れていたのか調べる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「狩猟や採集の生活が営まれていたことについて、豊かな自然に着目して考え、表現しているか」を評価する。
	②板付遺跡と米づくり P. 10～11 米づくりが始まったころのむらや人々の様子について見てみましょう。 (1 時間)	○板付遺跡や出土品の写真、米づくりの様子想像図を見て、米づくりが始まり、人々のくらしの様子がどのように変化したのか、気づいたことを話し合う。 ・米づくりのためのさまざまな道具が板付遺跡から出土している。 ・指導者を中心に力を合わせて米づくりをしている。 ・米づくりによって、食料を安定的に得ることができるようになった。 弥生のむらの人々は、同じ場所に集団で住むようになり、指導者を中心に協力して米づくりを行っていた。	◆道具がどのように使われていたのかを想像図の中で確認し、くらしの様子を具体的につかむようにする。 ◆資料から、米づくりが大陸から伝わったことや、その後、日本の各地に広がっていったことをとらえさせる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「人々が定住してむらを作るようにたったことなどについて農耕に着目して考え、表現しているか」を評価する。
	③縄文時代と弥生時代のくらし P. 11～15 縄文時代と弥生時代の想像図を見比べながら話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡の想像図を調べて、それぞれの生活の様子について、わかったことや考えたことを話し合う。 ・縄文と弥生では、衣服の生地の質が違ふようだ。住まいも変わってきた。 ・縄文のむらでは、狩りや漁をしたり、木の実をとったりしていたが、弥生のむらでは米づくりをし、とれた米を保存していたようだ。 ・弥生のむらでは、まわりに堀や柵がつくられている。兵士のような人もいる。 ○疑問に思ったことを発表し合い、学習問題をつくる。 ・食料を安定して手に入れられるようになって人口が増え、田も広がったのではないか。 ・道具はどのように変化していくのだろう。 ・弥生のむらにあった堀や柵は何のためにつくられたのだろう。 ・社会の様子は、どう変わっていったのだろうか。 学習問題 米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのでしょうか。	◆「何の想像図であるか」「読み取る視点を明確にする」など想像図の読み取り方を明確にして、縄文のむらと弥生のむらを比較させ、くらしの様子の違いに気づかせたり、疑問を持たせたりする。 ◆米づくりが始まって、縄文と弥生のむらにさまざまな違いが生まれたことを確認し、人々のくらしや社会の様子の変化を予想させる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「狩猟採集の生活から農耕の生活への変化に着目し、学習問題を見出しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④むらからくにへ P. 16～17 米づくりの広がりによって、むらの様子はどのように変わったのでしょうか。 (1 時間)	○米づくりの広がりによって、むらの様子がどのように変わっていったのかを調べる。 ・ 米づくりの広がりにより、むらとむらの間で争いが起こった。 ・ むらの指導者は、むらを支配する豪族となり、豪族の中には、まわりのむらに従えてくにをつくり、王とよばれる人も現れた。 ・ 各地の王や豪族は、大陸の進んだ技術や文化をくにづくりに役立てた。 米づくりが広がると、力の強いむらが周辺のむらに従え、次第にくにへと発展した。くにを支配する王や豪族は、大陸と交易し、技術や文化を取り入れ、くにづくりに役立てた。	◆矢じりが刺さったままの人骨と集落を囲む柵を関連付けて考えさせる。 ◆米づくりが広がり、大陸と交易することで、世の中に大きな変化があったことに気づかせる。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世の中の様子がむらからくにへと変化した様子を理解しているか」を評価する。
	⑤巨大古墳と豪族 P. 18～19 古墳は、何のために、どのようにして、つくられたのでしょうか。 (1 時間)	○仁徳天皇陵古墳の写真、古墳を築いている様子の想像図、出土品などから、古墳づくりの目的、王や豪族たちの力の大きさについて考え、話し合う。 ・ 古墳の大きさ、多くの人を動員してつくらせたこと、出土品などから、古墳にほうむられた人物が大きな力をもっていたといえる。 ・ 王や豪族たちは、自分の力の大きさを示すために古墳をつくらせた。 3～7 世紀には、すぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせて、古墳という墓が築かれた。古墳の大きさは王や豪族の力の大きさを表し、巨大な古墳が各地に現れた。 ⑤	◆古墳づくりの様子の想像図から、どのような人々が古墳づくりに携わったかを考えさせる。 ◆古墳の出土品や石室から、埋葬されていた人の力の大きさに気づかせていく。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなどを理解しているか」を評価する。
	⑥大和朝廷（大和政権）による統一 P. 20～21 大和朝廷（大和政権）は、どのように国土を支配していったのでしょうか。 (1 時間)	○大和朝廷の力が各地に広がり、国土がどのように統一されていったのかを調べる。 ・ ワカタケル大王の名が記された鉄刀と鉄剣が熊本県と埼玉県から出土したことから、大和朝廷の力の広がりがわかる。 ・ 神話がつくられるほど、大和朝廷は、大きくて強い「国」になっていった。 ・ 渡来人の中には、建築や土木工事、焼き物などの技術を身につけた人々がおり、進んだ技術を大陸からもたらした。 大和地方に、より大きな力を持つ大和朝廷（大和政権）が現れ、その中心に大王がいた。5～6 世紀ごろには、九州地方から東北地方南部までの豪族や王に従え、渡来人によって伝えられた大陸からの文化を積極的に取り入れた。 ⑥	◆鉄剣が出土した場所を地図で確認し、埼玉県と熊本県から出土したことの意味について考える。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、有力豪族たちがつくった大和朝廷によって、大和地方を中心に地域の統一が進められたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P. 22	○学習問題について調べてきたことを整理し、新聞にまとめる。 ・ 米づくりの広がりによって、むらがくにへと発展していった。 ・ 王や豪族たちは、渡来人の技術や文化をくにつくりに役立てた。 ・ 大和朝廷が勢力を広げ、国としての日本の形ができ上がっていった。 ○調べたことを整理して新聞をつくる。	◆「ことば」で取り上げている言葉を使って、まとめを書かせる。 ◆当時の方がどのような生活をしていたかについて、その変化などに着目して、インタビュー形式でまとめるよう促していく。 ◆学習問題について調べてきた事実を整理し、それをもとに新聞を書かせ、最後に社説として自分の考えを書くようにする。	[思判表②] 新聞の記述内容から、「狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。
	米づくりが始まったことで起こった変化について、まとめましょう。（1 時間）	狩猟・採集の生活から、農耕の生活となり、生活や社会の様子は変化した。むらは次第にくにへと発展し、各地に大きな力をもつ豪族が出現し、やがて大和朝廷（大和政権）により国土が統一されていた。		[知技②] 新聞やノートの記述内容から、「調べたことを新聞にまとめ、むらからくにへと変化したことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え、適切に表現している。	①大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	②大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①聖徳太子の国づくり P. 24～25 聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○聖徳太子が遣隋使を派遣した目的や聖徳太子が行った政治について調べ、学習問題をつくる。 ・ 隋は、皇帝を中心とした政治が整い文化が栄えていた。 ・ 聖徳太子は、小野妹子らを隋に送り、隋の進んだ制度や文化、学問を取り入れ新しい国づくりに生かそうとした。 ・ 冠位十二階を定め、家柄に関係なく能力や功績で役人を取り立てた。 ・ 十七条の憲法を定め、政治を行う役人の心構えを示した。 ・ 豪族の力をおさえ、天皇中心の国づくりをめざした。 ・ 法隆寺などを建てて仏教の教えを人々に広めようとした。	◆日本と隋の国土の広さの比較からも隋の大国ぶりをとらえさせる。 ◆遣隋使の業績から、日本と隋とのつながりについて考えさせる。 ◆聖徳太子がめざした政治は、太子の死後どうなっていくのかと問いかけ、学習問題につなげる。	【思判表①】 発言内容から、「当時の世の中の様子や聖徳太子の行った政治に着目して、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、だれが、どのように受けついでいったのでしょうか。		
調べる	②大化の改新と天皇の力の広がり P. 26～27 聖徳太子の死後、だれが、どのような国づくりを進めたのでしょうか。 (1 時間)	○大化の改新について調べ、聖徳太子の死後、国づくりはどのように進められたのかを考える。 ・ 中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏をたおし、大化の改新を進めた。 ・ 都から全国へ支配を進めていく仕組みを整備した。 ・ 豪族が支配していた土地や人々は国のものになり、豪族は貴族として政治に参加した。 ・ 地方の豪族も役人となってそれぞれの地方を治めた。 ・ 中国にならって最初の本格的な都である藤原京を飛鳥につくった。 ・ 人々は、租・調・庸といった税を納め、役を務めた。 ・ 都には日本各地から多くの産物が運ばれ、それらを管理するのに木簡が使われた。 中大兄皇子と中臣鎌足は、勢力を強めた蘇我氏を倒し、天皇を中心とする国づくりを進めた。国を治めるための法律もでき、都には日本各地から多くの産物が運ばれ、天皇を中心とする国づくりを支えた。 ②	◆聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、大化の改新後の国づくりの様子からどのような点が受け継がれていったのか、考えていく。 ◆都に運ばれてきた各地の産物の図版資料から天皇の力の広がりについて考えさせる。 ◆中国の政治の仕組みを取り入れたことで、天皇を中心に全国を支配する仕組みが整えられていったことをつかませる。	【態度①】 発言内容から、「聖徳太子が目指した政治が誰にどのように受けつがれていったのかについて学習問題をつくり、年表をもとに調べる予想や学習計画を立て、解決の見通しをもって」を評価する。 【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大化の改新による政治の改革により、天皇の力が強くなり天皇中心の政治が進められたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③仏教の力で国を治める P. 28～29 聖武天皇は、どのようにして世の中を治めようとしたのでしょうか。 (1 時間)	○当時の平城京の様子や年表から、聖武天皇が行った政治について調べる。 ・ 平城京は中国風の都で、東西南北にのびる道路で碁盤のように区切られていた。 ・ 天皇や貴族、下級役人などがくらし、にぎわいを見せていた。 ・ 地方の人々の生活は厳しく、重い税の負担に耐えかねて逃げ出すものもいた。 ・ 病気によって多くの人々がなくなり、全国各地で災害や反乱が起こるなど社会全体に不安が広がっていた。 ・ 仏教の力で社会の不安をしずめようと、国ごとに国分寺を建てることを命じた。 都では病気が流行し、都を支える地方でも人々のくらしは厳しく、なかなか政治が安定しなかった。聖武天皇は、仏教の力で社会の不安をしずめ、国を治めようとして、国分寺をつくらせた。 ③	◆資料から平城京の様子を読み取るとともに、地方の人々の厳しく、多角的に当時の人々の様子をとらえるようにする。 ◆聖武天皇はなぜ仏教の力によって国を治めようとしたのか、年表などの資料を読み取らせて考えさせる。 ◆国分寺の想像図や分布図から、全国に国分寺を建てた聖武天皇の力の大きさを考えさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、全国に国分寺を造らせた理由や国分寺を全国に造らせた聖武天皇の力の大きさについて理解しているか」を評価する。
	④大仏をつくる P. 30～31 大仏づくりは、どのように進められたのでしょうか。 (1 時間)	○大仏の大きさや、大分づくりについて調べ、大仏づくりに込めた聖武天皇の願いについて話し合う。 ・ 巨大な大仏をつくり、仏の力で人々を救おうとした。 ・ 多くの人の協力で大仏をつくろうとした。 ・ 行基が大仏づくりに協力した。 ・ すぐれた技術をもつ渡来人も活躍した。 ・ 聖武天皇の命令で、全国からばく大な物資が集められた。 ・ のべ260 万人以上の人々が何年も働き、大仏が完成した。 ・ 開眼式には、天皇や貴族、僧など1 万人以上の人々が国の平安を祈った。 大仏をつくり、仏教の力で国を安定させようと、全国から人や物資が集められた。聖武天皇の詔の後、行基が弟子とともに大仏づくりに協力し、すぐれた技術をもつ渡来人の指導と多くの人たちの力で大仏が完成した。 ④	◆実際に、大仏の一部分（手のひらなど）を新聞紙などに写してみると大仏の大きさが実感できる。 ◆大仏づくりには、農民や渡来人、行基などが協力したことから、海外とのつながりやさまざまな人々が大仏づくりを支えたことに気づかせる。 ◆全国から集められた人数や材料の量、分布などから、当時の天皇の力の大きさを考えさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大仏造営には、当時の人々を救いたいという聖武天皇の願いがあったことや、当時の技術や国力を結集した国家的大事業であったことを理解しているか」を評価する。
	⑤大陸の文化を学ぶ P. 32～33 奈良に都があったころ、日本は、大陸からどのようなことを学んだのでしょうか。 (1 時間)	○遣唐使や鑑真のもたらしたもののから、どのようなことを日本は大陸から学んだのか調べる。 ・ 聖武天皇は唐から皇帝中心の政治の仕組みや大陸文化を学ぼうと遣唐使を唐に送った。 ・ 航海技術が発達していないために船が難破することも多く、唐に渡るのは危険な旅だったが、遣唐使は危険を乗り越え唐に渡り、多くの大陸の文化や文物を日本にもたらした。 ・ 大陸から渡ってきたものは、東大寺にある正倉院の宝物として保管された。 ・ 鑑真は何回も失敗しながら来日を果たし、唐招提寺を建立し日本で仏教を発展	◆危険を乗り越え命がけで唐に渡った遣唐使の思いを考えるようにする。 ◆正倉院の宝物について調べる中で、それらの多くが外国の影響を受けていることなどに気付かせる。 ◆鑑真はなぜ、危険を冒してまで日本へ渡ってきた	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、奈良時代には、遣唐使や鑑真などの活躍により、大陸や仏教の影響を受けた文化が栄えたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		させた。 聖武天皇は、中国へ使者や留学生を送って大陸の政治の仕組みや文化を学ばせる一方、日本に正式な仏教を広めるために鑑真を招いた。このころ我が国には、大陸の文化が伝わってきた。	たのか考える。	
まとめる	⑥まとめる P. 34 天皇中心の国づくりについて、調べてきたことを整理し、世の中の様子をまとめましょう。 (1 時間)	○調べたことをもとに、この時代に活躍した人物が、新しい国づくりのためにどのようなことを行ったのか、表に整理する。 ・「中大兄皇子、中臣鎌足、唐から帰国した留学生や留学僧」「聖武天皇」「行基」「鑑真」の四つの人物の観点で整理。 ○整理したことをもとに、それぞれの立場の人物になったつもりで、天皇中心の世の中について説明する。 (例) ・ 聖武天皇…わたしは、多くの人々の協力を得ながら、天皇である自分の力を使って全国に国分寺を建てたり大仏をつくったりして、仏教の力で世の中を平和にしようと思いました。 聖徳太子の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、聖武天皇のころには、仏教を取り入れた天皇を中心とした政治の仕組みが確立された。	◆さまざまな人物の立場に立って、新しい国づくりのために取り組んだことを考えることにより、天皇中心の国づくりについて、さまざまな立場から多角的に考えることができるようにする。	【思判表②】 表や吹き出しの記述内容から、「天皇中心の国づくりの経過をふり返ったり、それぞれの人物の働きを考えたりして、この頃の世の中の様子を考え、表現しているか」を評価する。 【知技②】 表や吹き出しの記述内容から、「調べたことをまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や年表、その他の資料で調べ、この頃の文化の特色を考え、表現することを通して、貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①貴族の生活や文化などについて、文化財や年表、その他の資料で調べ、日本風の文化が生まれたことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、貴族のくらしやこの頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	①主体的に学習問題を追究・解決し、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①貴族と藤原道長 P. 36～37 藤原道長ら、貴族がどのような暮らしをしていたのか話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○藤原道長が詠んだ歌の意味を考え、道長がどのような人物だったのかを考えて話し合う。 ・この世は全て自分の思い通りにできると思っていた力のある人。 ・娘を天皇の妃にし、生まれた孫を天皇にして強い力を手に入れた。 ・平安時代の天皇に近づいた貴族は大きな力をもつことができた。 ○貴族は、どんな暮らしをしていたのかを調べ、わかったことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・広く優雅な寝殿造のやしきでくらす。 ・広い庭や池もあり、そこで貴族が遊びを楽しんでいる。 ・蹴鞠をしている。 ・食事も庶民とちがう。 ・はなやかな文化が栄えたみたいだな。	◆「もち月の歌」から、貴族のなかでも特に藤原氏が力を持っていたことを読み取るようにする。 ◆寝殿造の屋敷の想像図やそこに描かれた人の様子を細かく読み取ることで、貴族のくらしへの興味や関心を高めるようにする。 ◆貴族たちが華やかなくらしをしていたことに気づかせ、そのようなくらしの中からどんな文化が生まれたのだろうかと問いかけて、興味関心を高めるようにする。	〔思判表〕 ノートの記述内容や発言内容から、「どのような文化が生まれてきたかを考え、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 貴族が力をもって政治を行っていたころ、文化はどのようなものだったのでしょうか。		
調べる	②貴族のくらしの中から生まれた文化 P. 38～39 藤原氏が栄えていたころ、どのような文化が生まれたのでしょうか。 (1 時間)	について、資料から調べる。 ・大和絵には、華やかな貴族のくらしの様子が描かれている。 ・男性は束帯、女性は十二単などが朝廷宮中での正装だった。 ・琴、琵琶、笛などをたしなみ、囲碁や双六で遊び、男子は、蹴鞠や乗馬も行う。 ・漢字からかな文字がつくられ、「源氏物語」など、現在では海外でも読まれる文学が生まれた。 ・小倉百人一首には、平安時代の女性の歌が何首も含まれている。 ・奈良時代に中国の影響を受けていた日本の文化は、京都に都が移り貴族が力を持つ頃に、貴族のくらしから日本風の文化が生まれた。	字が作られたことが、日本人の生活や文化にどのような意味があったのかを考えさせる（「気持ちたちが細かく表現できるようになった」など）。 ◆日本風の文化から生まれた当時の文学作品は後世、海外でも親しまれるようになったことなどもふまえて、貴族のくらしの中から生まれた文化の特色を様々な点から考えさせる。	ノートの記述内容や資料を読み取った発言から、「必要な情報を集め、読み取り、貴族のくらしの中から生まれた文化の特色について考え、日本風の文化が生まれたことを理解しているか」を評価する。
		貴族たちのくらしの中から大和絵や十二単などの服装が生み出されたり、かな文字がつくられて、物語、随筆など多くの文学作品が書かれたりするなど、華やかな日本風の文化が生まれた。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③今に伝わる年中行事 P. 40 貴族が栄えていたころの年中行事で、今に伝えられているものには、どのようなものがあるのでしょうか。 (1/2 時間)	○貴族の年中行事で、今に伝えられ行われているものについて資料から調べる。 ・京都で行われている賀茂祭（葵祭）は、今から1200年前から始まり、今でも平安時代のいでたちの人々が行列をつくって市内を歩く。 ・お正月の行事や端午の節句、七夕などの行事も貴族の年中行事が今に伝わっている。 ・曲水の宴は、貴族の遊びだったけれど、今でも伝えられている。 平安時代の貴族の年中行事の中には、現在も続いているものがある。 ③-1	◆平安時代の主な年中行事で、今も行われているものを見つけることで、現代まで受け継がれてきていることの意味を考えさせる。	[知技] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、貴族のくらしの年中行事の中には今に伝えられているものがあり、その意味について考え理解しようとしているか」を評価する。
まとめる	③まとめる P. 41 貴族のくらしの中から生まれた文化について、調べてきたことをもとに話し合い、平安時代の文化の特色をまとめましょう。 (1/2 時間)	○平安時代には、どのような文化が生まれてきたのか調べたことをもとに話し合う。 ・貴族のくらしの中からはなやかな文化が生まれた。 ・中国文化の影響を受けながら、日本独自の文化が生まれた。 ・貴族のくらしの中から生まれた文学は、日本だけでなく世界の人たちにも親しまれている。 ・貴族たちの年中行事の中には今も受けつがれているものがあり、かな文字や着物は今も使われている。 ○平安時代の文化の特色をキャッチコピーに表現する。 ・世界の人たちにも親しまれている平安時代の文学作品 ・今につながる日本風の文化 ・年中行事が生まれた時代 京都に都が置かれたころ、貴族のくらしの中から日本風の文化が生まれた。 ③-2	◆平安時代の文化の特色を、それ以前の文化と比較したり、後世への影響を考えたりしながら、貴族のくらしとの特徴の観点でまとめさせる。 ◆自分が書いたキャッチコピーの内容について、その理由や背景を説明するように促す。	[態度] キャッチコピーの記述内容や発言内容から、「平安文化が現代の自分たちの生活にも引き継がれてきたことや、現代では海外でも親しまれていること、自分と平安文化の関わりなどについてなども考えようとしているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きなどに着目して、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きなどについて、地図や年表などの資料で調べ、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを理解している。	①世の中の様子、人物の働きなどに着目して、問いを見いだし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて考え、適切に表現している。	①源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
①調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	②源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①武士の登場と武士のくらし P. 44～45 武士のやかたの様子から、武士とはどのような人々なのかを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○「武士のやかたの様子(想像図)」などの資料を読み取り、武士の生活の様子について、既習事項である貴族の生活との比較の観点で話し合う。 ・武士のやかたは堀や塀に囲まれ、門の近くには見張りらしい人がある。 ・やかたの周囲には田んぼもある。 ・一族や家来たちらしい人たちが出入りしている。 ・武器の手入れや武芸の訓練、馬の世話などを行い、常に戦いに備えていた。	◆イラストは想像図であることに留意しつつ、武士のイメージをふくらませることができるように指導する。 ◆既習事項である貴族の寝殿造や服装と比べたり、P. 45 の「貴族を守る武士」の資料から武士と貴族の関係を考えたりしながら、武士の生活の様子を読み取るように助言する。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「武士が登場した頃の世の中の様子や彼らのくらしを既習事項である貴族のくらしと比較、着目して、学習問題をつくらうとしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 武士の登場によって、貴族の世の中は、どのように変わっていったのでしょうか。		
調べる	②平氏による政治の始まり P. 46～47 平氏は、どのように勢力をのばしていき、なぜ力を失っていったのでしょうか。 (1 時間)	○平清盛の年表を読み取り、武士の政治の始まりと平氏の政治の特徴についてわかったことを発表したりノートに書いたりする。 ・武士のなかには武芸を認められて朝廷や貴族に仕え、大きな力をつけていく者が現れた。なかでも天皇を祖先とする源氏と平氏は勢力が強かった。 ・平清盛は、貴族の藤原氏のように、娘を天皇のきさきとして生まれた子を天皇に立てるなど、朝廷の中で重い役を独占して強い力をもつようになった。 ・平清盛は宋(今の中国)との貿易を行って大きな利益をあげて富を得た。 ・平氏は一族に有利な政治を行うことによって、貴族やほかの武士から不満を持たれるようになった。 武士団の中で力の強かった平氏と源氏が戦った結果、平清盛を中心とした平氏が政治の実権を握り、政治を思うがままに動かすようになったが、しだいに貴族やほかの武士たちの間で不満が高まっていった。 ②	◆貴族の藤原氏が行った政治と武士の平氏が行った政治の共通点と相違点について考えさせるとして、平氏が力を持った理由と力を失った理由がわかるようにする。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、平氏が力を伸ばしていった様子や力を失っていく原因について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③源氏が平氏に勝利する P. 48～49 源平の戦いを通して、頼朝はどのような武士の政治を目指していたのでしょうか。 (1 時間)	○源頼朝が平氏をたおそうと兵をあげてから、鎌倉幕府を開くまでの思いや願いを調べるとともに、頼朝の政治の仕方について平氏との相違点についてもまとめる。 ・源頼朝が平氏をたおそうと兵をあげると、自分たちの領地を認めてくれる新しい武士のかしらを求めている東国の武士が次々に集まった。 ・頼朝の弟である義経に率いられた軍が、平氏に勝ち続け、壇ノ浦でほろぼした。 ・頼朝は平氏を倒すと、自分に従った武士たちを守護や地頭に任じたり、領地を認めたりして、東国武士たちの信頼を得ていった。 ・頼朝は朝廷から征夷大將軍に任命されて、東国を中心にした武士のための政治を行うようになる。 平氏打倒の兵を挙げた源頼朝のもとに武士たちが集まり、源義経らに率いられた源氏の軍が平氏を滅ぼした。源頼朝は征夷大將軍になり、鎌倉幕府を開き武士による政治を始めた。 ③	◆立場が弱かった東国の武士たちが頼朝に従うようになった理由を、頼朝が行った政治の仕方や、「源氏と東国武士の結びつき」とを関連付けて調べるように助言する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、源平の戦いと源義経の活躍、武士が源頼朝に従うようになった理由などについて理解しているか」を評価する。
	④頼朝が東国を治める p. 50～51 頼朝は、どのように武士たちを従えていったのでしょうか。 (1 時間)	○鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、政子のうったえなどをもとにして、源頼朝が武士たちをどのように従えていったのかを考える。 ・源頼朝は「ご恩と奉公」の関係を武士たちと結ぶことを通して、御家人たちを従えた。 ・平氏のように京都を政治の中心にしなかったのは、朝廷や寺社との関係や、東国の武士たちを従えるなどの地理的な問題や歴史的な経緯があったのではないかな。 ・承久の乱の後、鎌倉幕府の力は西国にまで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判の制度を整えて支配力を強めていった。 源頼朝は、ご恩と奉公の主従関係で武士を従えた。承久の乱の後、執権の北条氏を中心とした鎌倉幕府の力は西国にまで及ぶようになった。 ④	◆源頼朝が御家人たちと結んだ「ご恩と奉公」の関係については、守護・地頭に任命することや領地の所有など具体的な働きについても考えるように促す。 ◆頼朝が鎌倉に幕府を開いたことについては、朝廷や寺社との関係や、東国の武士たちを従えるなどの地理的な問題や歴史的な経緯があったことなどに視野を広げるように促す。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鎌倉幕府の始まりにかかわる地理的理由・歴史的背景や、ご恩と奉公の関係について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤元の大軍がせめてくる P. 52～53 鎌倉幕府は、どのように元軍と戦い、その後は、どうなっていったのでしょうか。 (1 時間)	○元の大軍との戦いの様子を絵図や写真などをもとに、御家人たちが一所懸命に戦った理由、この戦いが後の鎌倉幕府にどのような影響をおよぼしていったのかを考える。 - 元は日本に服従を求めてきたが、執権の北条時宗はその要求を退けた。 - 武士（御家人）たちは、元軍の集団戦法や火薬兵器（てつほう）などに苦しみながら、恩賞である領地を得るために一所懸命に戦った。 - 御家人である竹崎季長は一所懸命に戦うがそれは恩賞である領地をもらえるから。 - 元は引き上げたが、幕府は御家人たちに恩賞の領地を与えられず、御家人たちの幕府への不満が高まった。 元軍の襲来に対して、各地から集められた武士（御家人）たちは一所懸命に戦ったが、幕府から新しい領地をあたえられなかったため、御家人たちの幕府に対する不満は高まった。	◆元との戦いで、武士たちが一所懸命に戦った理由を「ご恩と奉公」との関連で考えさせる。 ◆国宝の蒙古襲来絵詞に登場する竹崎季長の行動を読み取ることで御家人の気持ちが理解できることに気づかせる。 ◆執権北条時宗は元との戦いに御家人になっていない武士も動員することを通して幕府の力が全国におよぶようになったことに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、元との戦いで御家人たちが一所懸命に戦ったこととご恩と奉公との関係などについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑥まとめる P. 54 武士の世の中への移り変わりについて調べてきたことを整理し、自分の考えをまとめましょう。 (1 時間)	○武士の発生から元寇までの世の中について、いくつかの視点で整理する。 - 平氏の政治と源氏の政治のちがいはどのようなことか。 ○関係する人物のせりふを考え6コマまんがを完成させる。 - 竹崎季長の各場面のせりふを考えて、お互いに発表し合う。 - 他の人物についても場面を設定してせりふを考え、お互いに発表し合う。 平清盛、源頼朝、源義経らの働きによって武士による政治が始まり、源頼朝がご恩と奉公という主従関係によって武士を統率した。	◆調べたことを整理する際には、「ことば」の利用を促す。 ◆人物のせりふを考え合う際には、学んだ事実を生かして表現できるように促すとともに、相互に考えを尊重し合うことができるように配慮する。	[思判表②] 6コマまんがやノートの記述内容から、「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連づけて武士の政治の特徴を表現しているか」を評価する。 [知技②] 6コマまんがやノートの記述内容から、「竹崎季長のせりふを考え、武士による政治の特徴を理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化や地図、年表などの資料で調べ、この頃の文化の特色を考え、表現することを通して、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、文化財や地図、年表などの資料で調べ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。	①人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画や、この頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	①主体的に学習問題を追究・解決しようとし、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①足利義政が建てた銀閣 P. 56～57 銀閣の様子を見たり、金閣と比べたりしながら話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○金閣と銀閣の写真を比較し、資料をもとに調べる。 ・金閣は、足利義満が建てて、はなやか。 ・銀閣は、足利義政が建てて、とても落ち着いた印象で、金閣と全く違う。 ○「書院造の部屋」や年表をもとに、わかったことや疑問をもとに話し合い、学習問題をつくる。 ・障子やふすまがあって、現在の和室に似ている。 ・書院造は、現在の和室とつながりがあるのかもしれない。 ・室町時代に、茶の湯や生け花などが流行している。	◆地図や年表を用いて、いつ、どこに建てられたのかを確認する。 ◆書院造と現在の和室を比較させることで、現在とのつながりに気づかせる。 ◆茶の湯や生け花が流行したことにも気づかせる。	[思判表] ノートの記述内容や発言内容から、「京都の室町に幕府がおかれた頃の代表的な建造物や絵画などに着目して問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 室町時代の文化は、どのようなものだったのでしょうか。		
調べる	②新しい文化が生まれる P. 58～59 室町時代の文化には、どのような特色があるのでしょうか。 (1 時間)	○雪舟の「天橋立図」を見て、気づいたことを話し合い、雪舟や水墨画について調べる。 ・墨でもこんなに濃淡が描けるとは素晴らしい。 ・実際に中国まで行って本場の水墨画を学び日本でも芸術として大成させた。 ・日本の自然の美しさを求めて描き、作品には国宝もある。 ○室町時代に生まれた、茶の湯や生け花について調べる。 ・お茶を飲む習慣が広まり、茶室もつくられるようになった。 ・書院造の床の間を飾る生け花もさかんになった。 ・今では、日本人だけでなく外国人も親しんでいる。 ・庭園づくりもさかんになった。 室町時代には、雪舟が水墨画を大成し、茶の湯や書院造の床の間を飾る生け花などの文化が生まれ、それらは今も多くの人に親しまれている。 ②	◆墨で自然を表現する技法や、描かれている風景などに着目させる。 ◆茶の湯や生け花が、書院造とつながっていることに着目させる。 ◆水墨画、茶の湯、生け花が現在も親しまれていることに気づかせる。	[知技] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、水墨画や茶の湯などの室町時代の文化の特色を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	③室町文化と現在のつながり P. 60～61 室町時代に生まれた文化で、現在に伝わるものには何があるでしょうか。 (1/2 時間)	○室町時代に生まれた、お祭り、盆踊り、能や狂言について調べる。 ・民衆の力が強まり、お祭りや盆おどりが各地で行われるようになった。 ・能は、観阿弥や世阿弥が大成した。 ・狂言は、民衆の生活などが題材にされていたので、多くの人が楽しめた。 ○室町時代に民衆に広まった習慣を調べる。 ・豊かな人々は、1日3回食事をする習慣が起った。 ・うどん、豆腐、こんにゃく、しょうゆや砂糖も使われるようになった。 ・食にも現在につながるものが多い。 民衆の間では祭りや盆踊りがさかんに行われるようになり、日本の伝統芸能である能や狂言も生まれ、庶民に親しまれるようになっていった。生活面でも、現在につながる習慣が生まれた。 ③-1	◆能や狂言が、民衆の生活とつながりがあることに気づかせる。 ◆祭りや盆踊り、食生活には、現在のわたしたちの生活につながっているものが多いことに気づかせるとともに、数百年にわたって人々がそれを受け継いできたことに気づかせる。	【知技】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、能や狂言などの室町時代の文化の特色について理解しているか」を評価する。
	③まとめる P. 61 室町時代の文化について調べてきたことを整理し、まとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでに調べたことを発表し、「ことば」を使って、室町時代の文化の紹介文を書く。 ・室町時代の書院造は、現在の和室に受け継がれている。 ・室町時代に生まれた食材や調味料は現在でも使われている。 ・雪舟のすみ絵の作品は、現在も多くの人に感動をあたえている。 ・茶の湯や生け花は現在の日本人に受け継がれ、外国人にも親しまれている。 京都の室町に幕府が置かれたころ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれ、武士や貴族から民衆に広まり、今日も多くの人に親しまれている。 ③-2	◆今まで調べたことを整理する中で、それぞれの文化と現在とのつながりに目を向けながら、自分の考えを書くように助言する。	【思判表】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、室町時代に生まれた文化や習慣が今日の自分たちの生活に受け継がれていることを考えようとしているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見だし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え、適切に表現している。	①キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。	②キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①戦国大名の登場 P. 64～65 長篠の戦いがあつたころの世の中は、どのような様子だったのでしょうか。 (1 時間)	○資料1「長篠の戦い」を見てわかったことや感じたことを発表する。 ・織田信長や豊臣秀吉などの武将がいる。 ・川をはさんで、織田・徳川の連合軍と武田軍が戦っている。 ・織田・徳川の連合軍は馬を防ぐ柵をつくって鉄砲で戦い、右の武田軍は騎馬隊で戦っている。 ○資料3「1570 年ごろの主な戦国大名」や本文を基に、このころの様子を話し合う。 ・日本各地に、戦国大名と呼ばれる力をもった武将がいた。 ・お互いの勢力を広げるための争いが、全国各地で100 年ほど続いた。 ・鉄砲を使った織田信長はかなり強かったのではないか。 室町幕府が衰えると、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、特に鉄砲を使って長篠の戦いに勝利した織田信長や豊臣秀吉が力を発揮するようになった。①	◆長篠の戦いの様子を丁寧に読み取らせる。右上にある徳川方の長篠城を武田勝頼が攻め、それを助けに来た織田・徳川連合軍との間で起きた戦いであることを補説する。 ◆本文や戦国大名の分布から、全国各地で勢力を広げる争いが行われていたことに気付かせる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を読み取り、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、織田信長が力を発揮するようになったことについて理解しているか」を評価する。
	②天下統一を進めた二人の武将 P. 66～67 戦国の世の変化について話し合っただけで学習問題をつくり、学習計画を立てよう。 (1 時間)	○「長篠の戦い」の頃の様子と資料1「大阪城の城下町の様子」を比べ、疑問に思ったことを話し合っただけで学習問題をつくる。 ・急激に社会が安定しているように見える。 ・100年以上も争いが続いていたのに、なぜ争いがなくなったのか。 学習問題 織田信長、豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世をおさめていったのでしょうか。 ○年表を基に予想し、学習計画を立てる。 ・ヨーロッパとどのような関係だったか。 ・織田信長はどのようなことをしたのか。 ・豊臣秀吉はどのようなことをしたのか。 ○調べ方やまとめ方についても話し合う。 ・教科書、資料集、図書館の本、インターネットなど。 ・図に整理し、学習問題について話し合う。	◆100 年以上も続いた不安定な社会が急速に変化したことに着目して、疑問を出し合うようにする。 ◆年表上の出来事や取り組みに着目し、外国との関係、法やきまり、政治の仕組みなど、既習内容を振り返りながら予想させる。	[思判表①] ノートの記述内容から、「社会の変化や、信長・秀吉の働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容から、「学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③ヨーロッパ人の来航 P. 68～69 戦国の世では、日本とヨーロッパにはどのようなかわりがあったのでしょうか。 (1 時間)	○この時代の日本（戦国大名）が、外国とどのように関わっていたのかを教科書の資料や本文を基に調べる。 ・鉄砲など、ヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってくるようになった。 ・ザビエルは九州に来て、そこから西日本を通過して京都までやってきた。 ・キリスト教の布教が進み信者が増えた。 ○戦国大名がヨーロッパと進んで関わろうとした理由について話し合う。 ・鉄砲などの武器によって戦いを有利に進めようとしたのではないか。 ・貿易をさかんにすることで勢力を高めようとしたのではないか。 ザビエルによってキリスト教が伝えられたり、南蛮貿易でヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきたりするなど、外国との関わりが日本の宗教や戦い方などに影響を与えた。③	◆スペインやポルトガルにとっては信者拡大と貿易を求めたこと、戦国大名にとっては武器などを入手できたことに資料から気付かせる。 ◆キリスト教の布教を許可することで貿易をさかんにできること、それによって勢力拡大につながることに気付かせる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、キリスト教の伝来や南蛮貿易など、ヨーロッパとの関わりが日本の宗教や戦国大名の戦い方に影響をあたえたことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④天下統一をめざした織田信長 P. 70～71 織田信長は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の資料や本文を基に、織田信長が、天下統一に向けてどのようなことを行ったのか調べる。 ・鉄砲を使うなど、戦い方を工夫した。 ・堺などの商業都市をおさえて豊富な資金を手に入れ、鉄砲などの武器を使って、少しずつ勢力を広げ、室町幕府も滅ぼした。 ・自らの力を示すために安土城を築いた。 ・キリスト教を保護した。 ・誰でも商売ができるようにして（楽市・楽座）、商業や工業をさかんにした。 ○信長の取り組みと天下統一とのつながりを話し合う。 ・経済を活性化させることで領地内を豊かにしたり武器を生産したりしたことで勢力を拡大でき、天下統一を進められた。 織田信長は、商業都市をおさえて資金を蓄え、鉄砲などの武器をそろえて有力な大名を倒して勢力を拡大した。そして、安土城を築いたり商業をさかんにしたりして天下統一を進めていった。	◆信長が戦いを有利に進めるために戦い方を工夫しただけでなく、商業都市を支配して安定的に武器を生産できたことなど、経済への取り組みも行っていることに気付かせる。 ◆戦いとは直接関係なさそうな楽市・楽座などの経済的な取り組みも、「天下布武」と関連付けることで、自国を豊かにすることにつながることに気付かせる。	[思判表①] ノートの記述内容から、「織田信長による経済力や軍事力を高める取り組みと、天下統一とのつながりを考えまとめているか」を評価する。
	⑤豊臣秀吉による政治 P. 72～73 豊臣秀吉は、天下統一を進めるために、どのようなことを行ったのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の資料や本文を基に、豊臣秀吉の取り組みを調べる。 ・明智光秀を倒した。 ・朝廷から関白に任じられ、全国の大名や仏教勢力をおさえて天下統一を成し遂げた。 ・検地で確実に収入を得られるようにした。 ・刀狩令で百姓が反抗できないようにした。 ・家康らに領地を与え、各地を治めさせた。 ○秀吉がつくったきまりは、世の中にどのような影響を与えたのか話し合う。 ・武士と百姓の身分が区別された。 ・武士が支配する仕組みが整えられた。 豊臣秀吉は、全国の有力な大名を倒して大阪城を築き、検地と刀狩によって武士と百姓・町人の身分を区別し、武士が世の中を支配する仕組みをつくって天下を統一した。	◆戦いだけでなく、関白の地位についたこと、検地などの仕組みや刀狩などのきまりを作ったことにも気付かせる。 ◆それぞれの身分に与えられた役割に着目させることで、きまりによって人々の生活の仕方に影響が及んだことに気付かせる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、豊臣秀吉が世の中を支配する仕組みをつくって天下を統一したことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥まとめる P. 74～75 信長と秀吉が どのように天下 統一を進めてい ったのか、調べ てきたことを整 理し、話し合い ましょう。 (1 時間)	○信長と秀吉の取り組みを振り返る。 ○二人の武将が行ったことを図に整理し、学習問題についての自分の考えをノートに書く。 ・信長も秀吉も、戦国の世を自ら治めるために、自分の力が最も高まるように政治の仕組みやきまりを整えたことで、戦国の世を統一することができた。こう考えた理由は、信長は戦いが有利になるように経済も大切にして豊かになるようにしていたし、秀吉は刀狩などで反抗できないようにしていたからです。 ○信長と秀吉の取り組みのうち、天下統一に向けて特に重要だったものはどれかを考え、話し合う。 ・刀狩などのきまりや、各地を有力な大名に治めさせるしくみをつくったことが、天下統一に最も重要だったと思う。 織田信長と豊臣秀吉は、ヨーロッパとの貿易を進めたり、経済力を高めたり、制度や法を整えたりして力を高め、戦国の世を統一していった。⑥	◆図に整理する前に、各時間（第3～5時）でまとめをカード化させておいてもよい。図に整理する際には、天下統一とのつながりが記述できているかを確かめさせる。 ◆ここでは一つに集約させるのではなく、子どもたち一人一人が経済・きまり・社会の仕組みなどに着目して根拠を明確にしながらか主張することを大切にする。	【知技②】 図やノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、キリスト教の伝来などの外国との関わりや二人の武将の天下統一に向けた働きを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容から、「二人の武将の天下統一に向けて果たした役割について考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え、適切に表現している。	①江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	②江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①徳川家康と江戸幕府 P. 76～77 江戸幕府が力を強め、政治を安定させたしくみについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○徳川家康が、どのようにして江戸幕府を開いたのか調べる。 ・三河の小さな大名の子に生まれ、苦労を重ねたが、成長するとともに勢力を伸ばし、戦いにすぐれた強い武将として知られた。 ・秀吉の死後、多くの大名を味方につけて勢力を強め、関ヶ原の戦いで対立する大名を破り、全国支配を確かなものにした。 ・朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開いた。 ・豊臣氏を滅ぼすとともに一国一城令を出し、大名の居城以外の城の破壊を命じた。 ○江戸幕府が大名をどのように配置し、どのような場所を直接支配したのか調べ、話し合う。 ・外様大名がすぐに江戸を攻められないよう工夫して配置している。 ・主な鉾山や都市は幕府が直接支配している。	◆関ヶ原の戦いの図から、戦いの激しさを読み取らせる。 ◆「主な大名の配置」の図から、親藩、譜代、外様といった大名が、江戸からみてどのように配置されているのか考えさせる。	【思判表①】 ノート、記述内容や発言内容から、「徳川家康の生涯や江戸幕府による大名配置に着目して、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 江戸幕府は、どのようにして力を強め、政治を安定させようとしたのでしょうか。 ○学習計画を立てる。		【態度①】 ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②将軍による支配の安定 P. 78～79 徳川家康が開いた江戸幕府は、徳川家光にどのように受けつがれたのでしょうか。 (1 時間)	○徳川家光が、どのようにして江戸幕府を受け継ぎ、権力を確立したか調べ、話し合う。 ・日光東照宮は家光の権力を大名たちに見せつけるうえで大きな役割を果たした。 ・家光は江戸城と江戸の町を大幅に改修し、天下にふさわしい城下町を作った。 ・家康から家光のころの間、武家諸法度に反したなどの理由で、全国の多くの大名が取りつぶされ、将軍の力はますます強くなった。 ・江戸幕府の仕組みは家光のころに確立し、安定した世の中をむかえた。	◆日光東照宮と江戸城の図から、将軍の権威の高さや江戸幕府の力の大きさを考えさせる。 ◆武家諸法度から、将軍が大名を統制するためにさまざまな取り決めを行ったことを読み取らせる。 ◆「江戸幕府のしくみ」の図から、大名、朝廷などの勢力を取り締まる仕組みになっていることをとらえさせる。	【知技①】 ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、徳川家光の政治と江戸幕府による大名統制の仕組みについて理解しているか」を評価する。
		江戸幕府は武家諸法度によって大名を統制し、日光東照宮や江戸城を整備して権力を確立した。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③大名の取りしめりと参勤交代 P. 80～81 幕府は、どのようにして多くの大名を従えていったのでしょうか。 (1 時間)	○江戸幕府が全国の大名を従えるために、どのような仕組みを整えたかを調べ、話し合う。 ・家光が将軍のころ、参勤交代の制度が整えられた。大名は自分の城と領地を持っていたが、1 年おきに江戸の屋敷に住まわされ、将軍に服従の態度を示した。妻子は江戸での生活を強制された。 ・将軍は参勤交代の制度を利用して、全国の大名を従えることができた。 ・大名にとって、江戸での生活は多くの費用がかかった。 ・大名は将軍に命じられ、さまざまな土木工事の費用や労力を負担した。 ・参勤交代のために、幕府が五街道などを整備した結果、旅人や飛脚の行き来が増え、江戸の文化が各地に広がるきっかけとなった。 江戸幕府は、参勤交代の制度を定めて全国の大名を交代で江戸の屋敷に住まわせ、服属させることで権力を安定させた。③	◆加賀藩の参勤交代図から、大名が大勢の家来を引き連れて領地と江戸を行き来したことをとらえさせる。 ◆P. 79 で見た江戸図屏風を振り返り、江戸城のまわりに大名屋敷が集まっていたことにあらためて注目させる。 ◆薩摩藩と木曾三川の治水に関する文章から、大名がさまざまな土木工事の費用や労力を負担したことを理解させる。	[知技①] ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、参勤交代の目的と大名にあてた影響について理解しているか」を評価する。
	④人々のくらしと身分 P. 82～83 江戸時代、人々は身分に応じて、どのようにくらししていたのでしょうか。 (1 時間)	○江戸時代の人々が身分に応じてどのようにくらししていたのかを調べ、話し合う。 ・江戸時代の社会は、さまざまな身分の人々によって構成されていた。 ・武士や町人は城下町に集められ、身分によって住む場所が決められた。 ・江戸時代の人口の80%以上は、百姓でしめられていた。 ・百姓は農村や山村、漁村に住み、収穫の半分にもなる重い年貢を納めたり、いろいろな力仕事をさせられたりした。 ・ほかにも皇族、公家、宗教者、芸能者など、さまざまな身分がみられた。また、厳しく差別された身分の人々もいた。 江戸幕府は、全国の人々を武士や百姓、町人などの身分として位置付け、くらしにみあった負担をさせた。	◆図 1 を読み取らせ、人々が身分に応じてさまざまな生活を営んでいたことに気づかせる。 ◆百姓が幕府や藩にさまざまな負担を行っていたことを理解させる。 ◆百姓が江戸時代を通じて農具を改良し、農業生産力を高めていったことを理解させる。	[知技①] ノート、学習計画表や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の身分制度と人々のくらしについて理解しているか」を評価する。
	⑤キリスト教の禁止と鎖国 P. 84～85 幕府は、どのようにしてキリスト教を禁止したのでしょうか。 (1 時間)	○江戸幕府が、どのようにキリスト教を禁止していったのか調べて話し合う。 ・幕府は初めのころ、外国との貿易をさかんにしようとしていたが、キリスト教信者が増え、幕府の命令に従わなくなることが心配して、キリスト教を禁止するようになった。 ・幕府は島原・天草一揆を、大軍を送っておさえた後、絵踏みを取り入れ、キリスト教をいっそう厳しく取り締まるようになった。 ・幕府はキリスト教を徹底して排除するとともに、海外貿易の利益を独占した。 江戸幕府はキリスト教を厳しく取り締まり、貿易船の出入りを制限することによって、貿易を独占した。⑤	◆鎖国までの歩みについて調べ、わかったことを 6 の年表に書き込ませる。 ◆鎖国の間も、さまざまな形で外国との交流が行われていたことに気づかせる。 ◆鎖国のもとでの交流が、長崎、琉球、蝦夷地、対馬で行われていたことを理解させる。	[知技①] ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、キリスト教禁止の意味、鎖国のもとでの我が国と外国との関係について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥まとめる P. 86 江戸幕府が行った政治についてまとめ、当時の人々がどう思ったか考えましょう。 (1 時間)	○江戸幕府が政治を安定させるために、人々に対して行ったことを整理する。 [大名に対しての例] 日光東照宮や江戸城の建設を通じて幕府の力を見せつけながら、武家諸法度と参勤交代によって将軍に従わせた。 [百姓や町人などに対しての例] 身分に応じて異なる場所に住まわせたり、年貢や役などのさまざまな負担を行わせたりした。 [キリスト教の信者や外国の貿易船に対しての例] キリスト教を厳しく禁止するとともに、貿易相手の国と貿易の場所を限り、幕府が貿易を独占した。 ○江戸幕府の政治について、人々がどう思ったかを考える。 [外様大名の例] 1 年おきに江戸に住んで将軍に従うのは大変だ。領地で妻や子どもと一緒にくらしたい。 [百姓の例] 年貢や役の負担が大変だ。農具や肥料を改良して、農業の技術を高めよう。 [オランダの商人の例] 自分たちはキリスト教を広めないから貿易をひとりじめできる。でも、長崎の出島での貿易はとてもきゅうくつだなあ。 徳川家康が開いた江戸幕府は、武家諸法度により大名を統制し、参勤交代の制度や外交のあり方を定めて将軍権力を確立し、身分制に基づいて、武士による安定した政治を行うようになった。 ⑥	◆今まで調べたことを整理するとともに、それぞれの政策により、幕府の力がより強くなったことをおさえさせ、表現させる。 ◆江戸幕府の政治について人々がどのように思ったかを考えることを通じて、立場によって江戸幕府の政治に対する思いが違っていたことに気づかせる。	[知技②] ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、武士による政治が安定したことを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「江戸幕府の政治とさまざまな立場の人々の思いを関連付け、江戸幕府が世の中を安定させた方法を考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や年表、その他の資料で調べ、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え、表現することを通して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や年表、その他の資料で調べ、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え、適切に表現している。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①江戸や大阪のまちと人々の暮らし P. 90～91 江戸や大阪のまちの様子やほかの資料をもとにして、当時の社会について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○江戸や大阪のまちの様子について資料をもとに調べ、話し合う。 - 江戸の両国橋付近は、橋の上、広場、川のどこも花火見物の人であふれかえり、とてもにぎやかだ。 - 大阪のまちは、経済の中心地として栄え、多くの物が江戸に運ばれた。 - 社会が安定するにつれて、武士以外にも学問や文化に親しむ人々が現れるようになった。 - 両国橋や芝居小屋にたくさんの人が集まっている。 - 浮世絵について、描き方や誰が買ったかが気になる。 - 蘭学や国学といった学問で活躍した杉田玄白や本居宣長はどんなことをしたのだろう。	◆江戸の両国橋付近の様子や大阪を出る船の様子を描いた図から、商業がさかんになり、江戸や大阪が栄えたことをとらえさせる。 ◆歌舞伎役者や葛飾北斎の浮世絵を見せて、浮世絵が多色刷りで美しく、高度な技術に基づいて描かれたことに気づかせる。 ◆このころ栄えた文化はそれまでの文化とはどう違うのか、蘭学や国学はどんな学問なのかなどの疑問を投げかける。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「江戸や大阪のまちの様子や江戸時代の文化と学問に着目して、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 江戸時代の後半には、どのような新しい文化や学問が生まれ、人々の考え方にどのようなえいきをあたえたのでしょうか。 ○学習計画を立てる。		【態度①】 ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②人々が歌舞伎や浮世絵を楽しむ P. 92～93 歌舞伎や浮世絵は、人々の間で、どのように親しまれていたのでしょうか。 (1 時間)	○近松門左衛門について調べ、歌舞伎が人々にどのように親しまれていたのか話し合う。 - 芝居見物は人々の大きな楽しみだった。 - 近松の作品は町人の生き生きとした姿や義理人情を描いた。 - 近松の作品は、現在でもさまざまな舞台上で上演されている。 ○歌川広重について調べ、浮世絵が人々にどのように親しまれたのか話し合う。 - 浮世絵は版画として大量に刷られ、多くの人が買い求めた。 「東海道五十三次」は、江戸からふるさとへのみやげとしても買い求められた。 19 世紀後半には、浮世絵は海外でも鑑賞されるようになった。	◆「人形浄瑠璃」の写真から、芝居が現在でも上演されていることを理解させる。 ◆「歌舞伎の広がり」の解説から、歌舞伎が地方にさまざまな形で広まり、今でも上演されている地方があることに気づかせる。 ◆「マネもゴッホも」から、浮世絵が日本だけでなく、海外でも親しまれている文化であることに気づかせる。	【知技①】 ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、歌舞伎や浮世絵が流行し、多くの人々に親しまれたことについて理解しているか」を評価する。
		人々は歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵に親しみ、近松門左衛門や歌川広重のようなすぐれた作者が登場した。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③新しい学問・蘭学 P. 94～95 蘭学は、どのような学問で、人々の考え方にどのようなえいきょうをあたえたのでしょうか。 (1 時間)	○二つの解剖図を比べたり、医学書を翻訳する際の苦労について調べたりする。 ・「解体新書」の図の方が正確である。 ・満足な辞典がないため、翻訳には大変苦労した。 ○江戸時代初期と伊能忠敬の日本地図を比べたり、忠敬の測量法を調べたりする。 ・忠敬の地図は、現代の日本地図とほとんど変わらず正確である。 ・忠敬は新しい天文学や測量術を学び、全国を測量した。 ・忠敬の作った地図は幕府によって秘密とされた。 ○蘭学が人々の考え方にあたえた影響について調べ話し合う。 ・医学のほかにもヨーロッパの地理学や天文学などを役立てようとする人々が現れた。 ・蘭学を学ぶうちに、幕府の政治を批判する人が現れるようになった。 江戸時代の後半になると、杉田玄白や伊能忠敬といった優れた学者が活躍し、医学や測量学などの蘭学が生まれ、多くの人々の間に広がった。③	◆杉田玄白らは人体の解剖に立ち会った際、オランダ語の解剖書の正確さに驚き、なんとしてもこれを翻訳しようと決意したことに気づかせる。 ◆伊能忠敬の日本地図と現在の日本地図を比較させ、どうしてこのような精密な地図を作ることができたのかを考えさせる。 ◆長久保赤水の地図と比べながら、伊能忠敬の地図が幕府によって秘密とされたことの意味を考えさせる。 ◆蘭学を学んだ人々が、どうして世界に目を向けて、政治や社会がこのままではいけないと考えるようになったのかを考えさせる。	【知技①】 ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、杉田玄白や伊能忠敬といった優れた学者の活動について理解しているか」を評価する。
	④国学の発展と新しい時代への動き P. 96～97 国学は、どのような学問なのでしょうか。また、新しい時代への動きは、どのようなものだったのでしょうか。 (1 時間)	○国学と本居宣長について調べ話し合う。 ・国学とは、仏教や儒教などが中国から伝わる前の日本人が持っていた考え方を研究する学問である。 ・本居宣長は「古事記」を研究し、「古事記伝」を完成させた。 ・本居宣長は同時代の社会や政治のあり方にも強い関心を持ち、藩主に意見書を提出した。 ・国学は江戸時代の後半、地方に広まり、社会に大きな影響をあたえた。 ○江戸時代後半の新しい動きについて調べる。 ・ききんや物価の上昇によって、百姓一揆や打ちこわしが全国各地で起きた。 ・新しい学問を学ぶ人や武士の中からも、幕府や藩を批判する人が現れた。 江戸時代の後半、本居宣長のような優れた学者が現れ、日本古来の思想を学ぼうとする国学が生まれ、多くの人々の間に広がった。このころききんなどで社会が不安定となり、百姓一揆や打ちこわしが各地で発生した。④	◆「宣長が藩主に出した意見書」から、宣長が同時代の社会や政治のあり方にも関心を持っていたことを理解させる。 ◆国学は幕末までに地方の人々の間に広まっていたことを理解させる。 ◆百姓一揆や打ちこわしが起こった原因が、ききんや物価の上昇によるものであったことを理解させる。	【知技①】 ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、江戸時代後半、国学が広まったことの意味と、社会が不安定になっていったことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤まとめる P. 98 江戸時代の後半の新しい文化や学問について調べてきたことを整理し、考えをまとめましょう。 (1 時間)	○近松門左衛門、杉田玄白、本居宣長がどのようなことをしたかをまとめ、説明する。 [近松門左衛門の例] 歴史上の物語や実際に起きた事件を題材にして、歌舞伎や人形浄瑠璃について約 150 編の脚本を書いた。 [杉田玄白の例] 人体の解剖を見学して、オランダ語の解剖図が正確に描かれていることに驚き、苦勞して翻訳し、「解体新書」と名づけて出版した。 [本居宣長の例] 古い時代の日本人が持っていた考え方を明らかにするために「古事記」の研究にうちこみ、「古事記伝」を完成させた。 ○新しい文化や学問の広がりについて、人々がどう思ったか考え、ノートにまとめる。 [幕府] 学問の成果は幕府のために役立てることにだけに役立て、幕府を批判する人たちは罰するべきだ。 [町人] 歌舞伎や浮世絵がさかんになって、生活に楽しみが増えた。 [百姓] ききんや物価上昇で生活が苦しくなっているのに、幕府は助けてくれないのかな。 江戸時代中ごろから、江戸や大阪などの都市を中心として、歌舞伎や浮世絵などに代表される町人文化が栄え、多くの人々の心をとらえるとともに、蘭学や国学などの新しい学問が生まれ、多くの人々の間に広がった。 ⑤	◆今まで調べたことを整理するとともに、この時代のすぐれた芸術家や学者の活躍が多くの人々に影響をあたえたことをおさえさせ、表現させる。 ◆新しい文化や学問の広がりによって、人々のくらしや考え方が大きく変化したことをおさえさせ、表現させる。	【思判表①】 ノートの記述内容から、「調べた人物の業績を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、新しい文化や学問の広がりが、人々のくらしや考え方を变化させたことを理解しているか」を評価する。

2－⑨ 明治の国づくりを進めた人々

7 時間／歴史編 P. 102～115

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現することを通して、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え適切に表現している。	①黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。	②黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①江戸から明治へ P. 102～103 江戸から明治への変化について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○江戸時代末ごろと明治時代初めの日本橋近くの様子や、寺子屋と学校を比べ、変わったことを明らかにする。 ・服装・髪型・乗り物・建物・ガス灯の有無。 ・校舎の様子・先生の服装。 ・学び方など。 ○年表を活用して、江戸時代末から明治時代初めの20～30年くらいの間に社会全体に大きな変化があったことを確認し、学習問題をつくる。 ・「このような大きな変化に、どのような人々がかわったのかな。」 ・「もしかしたら、外国の文化や制度を取り入れたのかもしれないよ。」	◆観点を明確にしながら、江戸時代末と明治時代初頭の違いや変化を明らかにするように促す。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「世の中の様子の変化に着目して、学習問題を見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 明治維新では、どのような人々が、どのように世の中を変えていったのでしょうか。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・「江戸幕府を倒す人々が現れて、明治時代に活躍するのかな。」 ・「外国の文化や制度を取り入れて世の中を変えていったのかな。」		
調べる	②若い武士たちが幕府をたおす P. 104～105 明治維新を進めた人々は、どのような思いをもっていたのでしょうか。 (1 時間)	○「ペリーの上陸」の絵やペリーの肖像画などから、江戸時代末に起こったことを明らかにする。 ・1853年に4世きの軍艦を率いてやってきた。 ・1854年に日米和親条約を結んで開国し、鎖国の状態が終わった。 ・1858年には日米修好通商条約を結んで、外国との貿易が始まった。 ・物価が急に上がって人々の不満が高まった。 ・長州藩や薩摩藩は外国と戦ったが、力の差が大きいことがわかった。 ○開国後に明治維新を進めた人々がどのような思いでどのような活動を行い、世の中がどのように変わったのかを明らかにする。 ・木戸孝允、大久保利通、西郷隆盛らは、新しい政府をつくる運動を始めた。 ・15代将軍徳川慶喜は、1867年に政権を朝廷に返した。 ・1868年、明治天皇の名で五箇条の御誓文を定め、新しい時代が始まった。	◆ペリー来航によってそれまでの日本の社会がどのように変わったのかを丁寧に読み取り、日本と外国との国力の差に気づかせるようにする。 ◆西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允や坂本龍馬の思いや働きと結びつけながら、新しい時代が始まったことをとらえさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国が開国したことや、新しい政府が誕生したことについて理解しているか」を評価する。
		黒船の来航によって開国をした我が国では、外国の力の大きさを実感した武士たちが、江戸幕府を倒して強い国づくりを進めようという思いをもって新しい政府をつくろうとした。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③大久保利通と明治新政府の改革 P. 106～107 欧米に学んだ大久保利通は、どのような国づくりを目指して改革を行ったのでしょうか。 (1 時間)	○新しい政府がどのように政治を進めようとしたのかを調べる。 - 政治の方針が日本中に広まるようにするために、廃藩置県を行った。 - 政治の中心となった大久保利通や木戸孝允らは、ヨーロッパの国々に追いつくために、工業をさかんにし、強い軍隊をもつこと（富国強兵）に力を入れた。 ○外国で学んだ大久保利通らが進めた改革を調べ、その理由を話し合う。 - 近代的な工業を始めるために、外国から機械を買い、技師を招いて国が運営する官営工場を開いた。（殖産興業） - 武士にかわり、訓練された近代的な軍隊をもつために徴兵令を出した。 - 国の収入を安定させるために、土地に対する税の仕組みを改めた。（地租改正） 新しい政府の中心となった大久保利通らは、欧米に負けない国づくりをめざし、工業の近代化と税収の安定による経済力の強化と軍事力の強化に力を入れた。③	◆資料を丁寧に読み取り、各政策の特色を具体的にとらえさせるようにする。 ◆富国強兵の意味を、殖産興業、徴兵令、地租改正との関係からとらえさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、明治政府が行った廃藩置県や殖産興業などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整えられてきたことを理解しているか」を評価する。
	④新しい世の中の文化や生活 P. 108～109 明治時代になって、人々の生活は、どのように変わっていったのでしょうか。 (1 時間)	○文明開化の意味を明らかにし、人々の生活の変化を調べる。 - 文明開化により、西洋から多くのことが紹介されたり取り入れられたりした。 - 新しい時代の学問を学び、それにふさわしい生き方や考え方に興味をもつ人が多くなった。 1871年には身分制度が変わり、国民は平等であるとされた。 1872年に学生が公布され、6歳以上の男女が学校に通うようになってきた。 - 鉄道が開通したり、郵便制度ができた、電信が始まったりした。 西洋の新しい考え方や制度・技術が取り入れられ、江戸時代の身分制度が改められた。また人々の生活が便利になる仕組みができた。④	◆資料1から福沢諭吉の考えを読み取り、江戸時代の身分制度と比較しながら変化を明らかにする。 ◆身分制度の他、多くの変化があったことを具体的にとらえさせ、新しい世の中の特色を明らかにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国が明治維新を機に西洋の文化を取り入れたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤板垣退助と自由民権運動 P. 110～111 政府の改革に不満をもつ人々は、どのような行動をとったのでしょうか。 (1 時間)	○政府の改革に不満をもつ士族の行動を調べ、世の中の変化を明らかにする。 ・多くの士族は、武士として得ていた収入を失って生活に困るようになった。 ・西郷隆盛を中心とする西南戦争などの士族による反乱が各地で起こったが、すべて政府によってしずめられた。 ・その後、言論で主張する世の中が変わった。 ○自由民権運動の特色を調べ、その成果を話し合う。 ・板垣退助らは国会開設を主張し、人々の間にも政治参加を求める声が出てきた。 ・国会を開き、憲法をつくることを求める動きは自由民権運動として各地に広がった。 ・政府はさまざまな条例を定めて政府批判につながる動きを厳しく取りしまったが、ついに1890年に国会を開くことを約束した。 特権を奪われた武士たちは武力による反乱を起こしたが、やがて言論で主張する世の中へと変わり、板垣退助らが自由民権運動を広めて政府は国会開設を約束した。 ⑤	◆例えば、身分制度による士族の立場を明らかにしながらその不満について考えさせ、反乱の意味とその結果を明らかにさせる。 ◆掲載されている資料を丁寧に読み取りながら、国会開設への国民の期待をとらえさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、自由民権運動が広がったことを理解しているか」を評価する。
	⑥伊藤博文と国会開設、大日本帝国憲法 P. 112～113 伊藤博文は、どのような憲法をつくったのでしょうか。 (1 時間)	○大日本帝国憲法の発布や国会の開設に先立って行われたことを調べる。 ・板垣退助や大隈重信は、自由党や立憲改進黨といった政党をつくり、国民の意見を反映した政治を行う準備を始めた。 ・日本各地で様々な立場の人々が憲法の案をつくった。 ・伊藤博文はドイツで憲法を学び、内閣制度をつくった。また、初代内閣総理大臣に任じられ、憲法をつくる仕事に力を注いだ。 ○大日本帝国憲法や国会の特色を明らかにし、国の政治のあり方について話し合う。 ・1889年、天皇が国民にあたえるという形で大日本帝国憲法が発布された。 ・大日本帝国憲法は、天皇が主権をもち、軍隊を率いたり、条約を結んだりするのも天皇の権限とされていた。 ・国会は、貴族院と衆議院からなり、衆議院議員のみ国民の選挙で選ばれた。 ・選挙権は一定の税金を納めた25歳以上の男子のみにあたえられた。 ・1890年に第1回の国会が開かれた。 国会開設に備えて板垣退助や大隈重信らが政党をつくった。また伊藤博文らが中心となって大日本帝国憲法がつけられ、明治政府の基本的な国の治め方が定まった。 ⑥	◆例えば、第1回の国会までにどのようなことがあったのかを問い、そのための準備等を明らかにさせる。 ◆大日本帝国憲法の特色を、日本国憲法との比較を通して明らかにする。また、国会の仕組みや選挙権についても同様に行う。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国会の開設に備えて政党がつくられたことや大日本帝国憲法発布と国会開設によって近代的な国の体制が整えられたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P.114～115	○これまで調べてきたことを想起し、多くの人物が明治維新でさまざまなことを行ったことを年表にまとめる。 ※木戸孝允、大久保利通、板垣退助、西郷隆盛、伊藤博文らの業績を中心にまとめる。 ○明治維新でどのように世の中が変わったかについて話し合う。 ※国や社会の仕組みがどのように変わったのかという視点で話し合う。 ・「開国後、欧米に追いつくために、経済力と軍事力を強くしようとしました。富国強兵という政策でした。」 ・「工業をさかんにしたり、徴兵令を定めたりしました。欧米から学んだことをいろいろと取り入れていました。」 など。 ○この時代の変化に最も大きな影響をあたえたと思う人物を一人選び、その理由を発表する。 ※人物が世の中の変化に与えた影響を自分なりの言葉で表現する。 ○学習してきたことをもとにして、どのような世の中がめざされていたのかを話し合い、自分の考えをノートにまとめる。	◆学習問題を確認し、特に「どのような人々が」「どのように」を明らかにさせるようにする。 ◆自分の考えをまとめる際には、「ことば」を大切にするとともに、例えば第2時に明らかになった「強い国づくり」が実現できたかどうかについて判断させる。	【思判表②】 年表やノートの記述内容から、「黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【知技②】 年表やノートの記述内容から、「調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解しているか」を評価する。
	調べたことをふり返り、明治維新での世の中の変化についてまとめましょう。 (1時間)	明治維新を進めた人々は、欧米の考え方や制度・技術を取り入れて、近代的な経済、軍事、社会、政治の仕組みを整えた。 ⑦		

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べ、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて考え、適切に表現している。	①日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。	②日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①条約改正を目指して P. 116～117 日本が江戸時代の終わりに結んだ条約はどのようなものだったのか話し合い、学習問題をつくりましょう。	○ノルマントン号事件の風刺画を見て話し合い、不平等条約の存在に気づく。 ○資料3を見て、条約の何が不平等なのか話し合う。 ・領事裁判権を認めている。 ・関税自主権がない。 ○不平等条約を改正するために、明治政府が行ったことを読み取る。 ・使節の派遣。 ・鹿鳴館の舞踏会。 ○読み取った資料からわかったこと、疑問に思ったことや予想などを出し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	◆何がどのように不平等だったのか、具体的に考えさせる。 ◆関税自主権がないということは、外国産の安い織物に関税がかけられないので大量に輸入される。 領事裁判権がないということは、日本で罪を犯しても、日本で裁判をかけることができない。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「江戸時代の終わりにから明治時代にかけての日本を取り巻く世界の様子に着目して、学習問題を見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 日本が世界に歩み出す中で行った取り組みは、国内外にどのような変化をもたらしたのでしょうか。		
	②発展していく日本 P. 118～119 この時代、日本はどのように国づくりを進め、世界に歩み出していたのでしょうか。 (1時間)	○紡績工場と製糸工場の写真と、前の見開きの年表(資料2)などを見比べながら、気付いたことを話し合う。 ・たくさんの女の人(工女)が働いている。 ・戦争を2回もしている。 ・富国強兵・殖産興業が成果を出している。 ○資料3「日本の西洋クラブへの仲間入りをえがいたまんが」などから気づいたことを話し合う。 ・産業が発展したから仲間入りできた。 ・欧米諸国は、日本の仲間入りをあまり歓迎していないように見える。 ○条約改正に向けた陸奥宗光の働きと、その頃の日本を取り巻く状況などを年表やグラフなどを関連づけて読み取る。 ・1894年にイギリスと交渉して領事裁判権をなくすことに成功した。 ・日清戦争の勝利が大きいと思う。 ・20年間で輸出入額が大幅に増えている。 明治政府の殖産興業政策によって日本の産業が発展していくなかで、陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功した。②	◆1890年から1910年代の年表から時代の流れを読み取らせる。 ◆前小単元で学習した明治政府の政策、富国強兵と殖産興業について想起させたい。 ◆紡績工場で働いている工女と前の見開きの資料4「鹿鳴館の舞踏会」の女性を比べて、同じ時代に置かれた状況の違いにも目を向け、今後どうなっていくかなどにも目が向くようにする。 ◆まなび方コーナーのグラフからつながって考えさせる。工場数の増加、輸出入額の増大の変化に隠された二つの戦争の意味についても考えさせたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、明治政府の殖産興業政策による国づくりと陸奥宗光らによる条約改正交渉の進展とを結びつけて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	③中国やロシアと戦う P. 120～121 二つの戦争によって、日本と世界の国々との関係は、どのように変わっていったのでしょうか。 (1 時間)	○「朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国」の風刺画を見て、どんな様子を表しているのかを考え、朝鮮をめぐる三国の関係について話し合う。 ・朝鮮という魚を三つの国が釣ろうとしている。 ・三つの国は、朝鮮を取り合っていた。 ○教科書の地図や本文、グラフなどの資料などから、二つの戦争の様子や戦争の結果などを読み取り、話し合う。 ・日清戦争も日露戦争も朝鮮半島をめぐる戦いだっただ。 ・日清戦争では賠償金を得て、台湾を植民地にした。 ・日露戦争ではロシア艦隊を破り、樺太の南部と満州の鉄道を得た。 ・日露戦争では日清戦争よりも死者が多かった。 ・二つの戦争を通して、日本の力が欧米諸国に認められて、日本の国際的地位が向上した。 ・二つの戦争の勝利はアジアの国々を勇気づけた。 朝鮮半島や満州の支配をめぐる日清戦争・日露戦争が起こった。日本の勝利は欧米諸国に日本の力を認めさせ、アジアの国々を勇気づけることになった。③	◆風刺画と地図から、二つの戦争の原因は関連が深いことに気づかせる。 ◆P. 121 のグラフから、二つの戦争での戦死者数にも目を向けさせ、日本は戦争に勝ったものの、大きな損害を受けたことにも気付かせたい。 ◆二つの戦争の日本の勝利は、欧米列強に日本の国力の向上を認めさせるとともに、朝鮮半島を支配下に置くことを認めさせた戦争でもあったことに気付かせる。 ◆よい側面だけでなく、悪い側面にも目が向くようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日清・日露戦争の様子や、日本や世界に与えた影響について理解しているか」を評価する。
	④世界へ進出する日本 P. 122～123 世界の中での日本の立場は、どのように変わっていったのでしょうか。 (1 時間)	○P. 122の写真や地図、グラフを見て、戦争に勝った日本が朝鮮の人々にどのようなことを行い、朝鮮の人々はどう思っていたかを考え話し合う。 ・朝鮮を植民地にした。 ・学校では、朝鮮の文化や歴史を教えることを厳しく制限した。 ・朝鮮の人々は粘り強く抵抗した。 ○戦争の勝利を背景に小村寿太郎が条約改正に成功し、関税自主権が回復されたことの意義を考える。 ・欧米諸国と対等になった。 ○科学や文化の面でも、世界で活躍する日本人が出てきたことを調べる。 ・新渡戸稲造は国際連盟の事務局次長を務めた。 ・北里柴三郎、野口英世らは、医学の発展に尽くし世界から高い評価を得た。 ・文学の世界では、夏目漱石、樋口一葉、与謝野晶子、正岡子規らが活躍した。 日本の植民地支配に対し、朝鮮の人々は独立運動を続けた。1911 年には、小村寿太郎が条約改正に成功し、関税自主権が回復された。また、医学などの研究で世界に認められる学者が現れ、日本の国際的地位の向上に貢献した。④	◆教科書の地図や写真、グラフから、朝鮮の人々が母国語を奪われ、日本語を学ばなければならなくなったことに気づかせ、朝鮮の人々の思いや行動を考えるようにする。 ◆年表から日本の国力が充実してきたことと、それを背景とした小村寿太郎の活躍に気付かせる。 ◆医学などの研究の成果でも、世界に認められ、それが国力の充実や国際的地位の向上につながり、名実ともに世界に歩み出したことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の世界への進出と国際的地位の向上や、その頃科学や医学などでも活躍していた人物の働きについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤生活や社会の変化 P. 124～125 産業の発展によって、人々の生活や社会はどのように変化したのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の資料を基に、産業の発展で人々の生活がどのように変わってきたのか調べて話し合う。 ・八幡製鉄所などの大きな工場ができて、重工業が発達したことがわかる。 ・電車やバスなどの交通機関が発達した。 ・ラジオも聞けるようになった。 ・洋服が普及してきた。 ・人々の生活は大きく変化してきた。 ○産業が発達する一方で、どのような問題が起こってきたか読み取り、話し合う。 ・足尾銅山などの公害問題が起こった。 ・よりよい生活を求めて民主主義運動が高まってきた。 ・衆議院議員の選挙権を25歳以上のすべての男子がもつようになった。 ・平塚らいてう、市川房江などが現れ、女性の地位向上を目指す運動が広がった。 ・身分制度が改められても未だ就職や結婚などでの差別があり、差別をなくす運動が起こった。 ・近代化が進む一方で、取り残される人々の存在が浮き彫りになり、さまざまな社会運動へとつながった。 産業が発展し都市化が進む一方で、さまざまな社会問題が起きた。また、人々の民主主義への意識が高まり、普通選挙や女性の地位向上、差別撤廃を目指す運動が起こった。⑤	◆近代化が進みよい面もある一方で問題もでてきたことを理解する小単位である。写真資料など盛りだくさんなので、本文と関連させながら、項目ごとに整理させるとよい。 ◆よい面として、重工業の発達、ラジオ、交通網、洋服、選挙権などがあげられる。 ◆反対の面として、公害、差別撤廃、平等を求める選挙運動・女性運動・関東大震災などがあげられる。 ◆「ことば」にある民主主義について、政治単元の学習を想起させ、現在までつながっている考えであることをおさえる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の近代化や産業の発展にともなう国民生活の変化や民主主義への意識の高まりについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥まとめる P. 126～127	○学習問題について調べてきたことを人物カードに整理する。 ○カードに整理した人物から一人を選び、その人物が日本の国際的地位の向上に貢献したと思う点についてまとめ、意見交換する。 ・小村寿太郎：条約改正を達成し、欧米諸国と肩を並べたから。 ・野口英世：医学の面で世界に認められ、日本の国際的な地位を向上させたから。 ・東郷平八郎：日露戦争でロシア艦隊を破り、日本の力を欧米諸国に認めさせたから。	◆それぞれの人物が何をしたのか、そのことには、どのような意義があったのかを考えさせカードを作成させる。 ◆カードにまとめた人物をひとり選び、選んだ理由やどのように貢献したかについて、ノートやスライドなどにまとめて、意見交換させる。	【思判表②】 人物カードやノートの記述内容から、「日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。
	日本が世界に歩み出す中で活やくした人物を整理し、どのようにこうけんしたか話し合いました。 (1 時間)	我が国の産業や科学・文化の発展と国力の充実にともなって、日清・日露戦争に勝利し、国際的地位が向上したことで、条約改正が達成されたが、他方で、産業の発展は人々の生活や社会に大きな変化をもたらした。 ⑥		【知技②】 人物カードやノートの記述内容から、「調べたことを人物カードやノートにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、年表やノートなどにまとめ、我が国の政治や国民生活大きく変わったことを考え、表現することを通して、日中戦争や我が国における第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて考え、適切に表現している。	①日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解している。	②日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民の生活が大きく変わったことを考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①世界文化遺産の原爆ドーム P. 128～129 被爆前後の広島の写真や年表などの資料をもとに話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○3枚の原爆ドームの写真を比べて、気づいたことを話し合う。 ・まち全体が焼け野原になっている。 ・ドームも破壊されている。 ・どうしてこんなことになったのだろう。 ・原爆ドームはどうして世界遺産になったのだろう。 ○原爆ドームが世界遺産になった理由を考えたり、長く続いた戦争や当時の人々の生活についてこれまでの学習をもとに話し合ったりして、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・平和への思いがあったのではないか。 ・平和主義は日本国憲法の原則の一つだ。 ・世界に向けて平和を発信するシンボルになっているのではないか。	◆被爆前と被爆後、そして現在の写真を比較させ、一発の原子爆弾による被害の大きさについて考えさせる。 ◆年表から長く続いた戦争であったことに気づかせるとともに、館長さんの話から、平和への思いを読み取らせ、当時の生活に関心をもたせて学習問題につなげる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「長く続いた戦争が人々にどのような影響をあたえたのかに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「解決の見通しへの意欲や見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 長く続いた戦争は、社会や人々の生活にどのようなえいきょうをあたえたのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 [調べること] ・戦争の始まりと経過 ・国民の生活はどのようなものだったか ・国内外の人々への影響 [調べ方] ・視聴覚資料 ・インタビュー ・図書館の資料 ・写真 など	◆既習事項や経験をふまえつつ、この時代の様子や出来事をもとに学習の計画を立てるようにする。	
	②中国との戦争が広がる P. 130～131 日本が中国で行った戦争は、どのような戦争だったのでしょうか。 (1 時間)	○満州事変から日中戦争に至った経緯や戦争の広がりについて、資料や地図、本文などから読み取り、わかったことを話し合う。 ・不景気で生活が苦しくなっていた。 ・中国に勢力を伸ばして景気を回復しようという考えが広がった。 ・満州の利益を守ることが重要と考えられるようになった。 ・満州の独立が認められなかったので、国際連盟を脱退し、国際的に孤立した。 ・満州事変が起こり、中国全土に戦争が広がっていった。 ・中国の人々は侵略に抵抗し、戦争は長く続くことになった。 人々が不景気に苦しむなかで、中国に日本の勢力をのばすことで景気を回復させようという考え方が広まった。満州にいた日本軍が中国軍を攻撃し、その後、戦争は中国各地に広がっていった。	◆この時代、世界中が不景気だったことをおさえる。 ◆景気を回復させるために中国に勢力を伸ばすという考えが広がったことを確認する。 ◆本文や年表を確認しながら、地図で満州国、北京、南京という地名を確認し、中国全土への広がりをとらえさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国が中国各地において戦争を拡大していったことを読み取り、理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③戦争が世界に広がる P. 132～133 戦争は、どのように世界に広がっていったのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の本文や地図、写真から、そのころの世界の様子を調べ、戦争の広がりについて話し合う。 ・ヨーロッパでも戦争をしていた。 ・ドイツがまわりの国々を侵略し、イギリスやフランスと戦争になった。 ・日本はイタリアと軍事同盟を結んだ。 ・アジアやヨーロッパを巻き込む第二次世界大戦となった。 ○教科書の地図や本文、写真、グラフなどの資料から、戦争の広がりを読み取り、話し合う。 ・石油などの資源確保のためアジアに軍隊を進めた。 ・ドイツ・イタリアと軍事同盟を結んだ。 ・中国だけでなく、アメリカやイギリスとも戦争になり、東南アジアだけでなく、太平洋も戦場となった。 ・戦争が激しくなり多くの男性が召集令状で戦地に送られた。 ・日本は、初めは勝利したが、だんだんと国力に勝るアメリカに敗戦を重ねた。 ・国民は政府の報道で「正しい戦争である」と信じて戦争に協力した。 戦争が世界に広がる中で、資源を得るために東南アジアに進出した日本は、やがて太平洋戦争に突入し、アメリカやイギリスなどと戦った。初めは勝利したが、だんだんと敗戦を重ねるようになった。	◆本文からヨーロッパでの戦争の広がりをつかませる。 ◆地図から、日本はどのような地域に軍隊を進めたのか調べ東南アジアや広く太平洋の各地まで広がったことをとらえさせる。 ◆本文や写真から、戦場となったアジア・太平洋地域の人々に大きな影響を与えたことに気づかせる。 ◆グラフから日本とアメリカの生産力の差に気づかせ、日本が敗戦を重ねた理由を考えさせる。 ◆戦争関連資料を図書館などでも見つけさせ、写真資料の多さにも目を向けさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本は戦争を拡大し、戦場となった地域などの人々に大きな被害を与えたことを理解しているか」を評価する。
調べる	④すべてが戦争のために P. 134～135 戦争中、人々は、どのような生活をしていましたのでしょうか。 (1 時間)	○写真、本文や表、各自で収集した資料などを活用して、戦争中の国民の生活の様子について調べ、話し合う。 ・人々を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強めていった。 ・くらしはすべて戦争のために制限され、戦争に協力しない行動は厳しく取り締まられた。 ・たくさんの生活を制限する取り決めがされている。 ・戦争協力と呼びかける看板や、戦争に協力する気持ちを高めるための標語がつくられた。 ・食料や衣類は配給制となった ・女子学生は工場で働くようになり、学校でも軍事訓練が行われた。 ・小学生などは地方へ集団疎開した。 ・戦争に協力しないといけないという考えが浸透していった。 ・国民は日本が戦争に勝っていると信じ込まされていた。 国民を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強め、くらしはすべて戦争のために制限された。	◆教科書の地図や写真、年表から、標語だらけのまちの様子、食事や衣類などの人々のくらしの様子、学校生活、勤労動員などに分けて気付いたことを整理させる。 ◆図書館や地域の戦争に関する資料館を訪ねて調べさせるとよい。 ◆資料からわかったこととに、当時の人々の思いについて考えさせる。 ◆どうして当時、戦争一色になっていったのかを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「聞き取りをしたり資料を活用して調べたりしたことをノートや作品などに整理して、戦争中の国民生活の様子を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤空襲で日本の都市が焼かれる P. 136～137 日本各地の都市は、空襲によって、どのような被害を受けたのでしょうか。 (1 時間)	○東京大空襲の想像図や写真、地図や石碑、本文や聞き取り調査などからわかったことや考えたことを発表しあう。 ・1944年になるとアメリカ軍が日本の都市を空襲するようになった。 ・空襲警報が鳴ると、人々はすぐに避難できるように防空壕をつくり、逃げ込んだ。 ・現在の太平洋ベルトと呼ばれる地域を中心に、全国各地が空襲の被害を受けた。 ・太平洋側には昔も大きな工場があったからかな。 ・軍事施設や工場だけでなく、住宅地も爆撃され、焼け野原となった地域が多くあり、たくさんの命が奪われた。 ・火災を起こす焼夷弾が使われた。 ・戦争で亡くなった人々を弔う石碑が各地に建てられた。 ○「東京大空襲を体験した元木さんの話」から、空襲の被害について考えたことや思ったことを話し合う。 ・焼夷弾でまちが火の海となった。 ・人々は生きるために必死だった。 各都市の軍需施設や工場だけでなく、住宅地も爆撃され、東京や大阪をはじめ多くの都市が焼け野原になり、多くの命が奪われた。⑤	◆空襲の様子の写真や映像などの視聴覚資料も活用して、視覚的にも被害の大きさをとらえさせる。 ◆戦争の被害は全国各地に広がるが、特に、人口が集中している大都市圏、軍事施設のある工場、産業が盛んな工業地帯などで被害が大きかった。 ◆防空壕や石碑など身近にある空襲や戦争に関する遺跡、戦争を体験した地域の人への聞き取りや、動画資料なども活用したい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国民が大きな被害を受けたことを理解しているか」を評価する。
	⑥原爆投下と戦争の終わり P. 138～139 戦争はどのようにして終わったのでしょうか。 (1 時間)	○写真や平和の礎、証言や本文などをもとに調べてわかったことや考えたことを話し合う。 ・1945年、アメリカ軍が沖縄に上陸し、その戦いに一般市民や今の中高生くらいの生徒までが動員された。 ・多数の県民が犠牲となった。 ○P. 128の広島、P. 139の長崎の原爆投下の写真や、玉音放送を聞く人々の写真を見て、わかったことや考えたことを話し合う。 ・日本軍は各地で敗北し、多くの都市が空襲の被害を受け、沖縄は占領された。 ・1945年8月6日に広島、8月9日に長崎に原子爆弾が落とされ、一瞬にして何万人もの命が奪われた。 ・日本は8月15日に降伏し、15年にもわたる戦争が終わった。 ・日本国憲法の平和主義や各地の平和式典の意味がよくわかった。 戦争末期、沖縄での激しい戦いで多くの人が亡くなり、広島・長崎には原子爆弾が投下されてたくさんの命が一瞬で奪われた。ついに日本は降伏し、15年にわたる長い戦争が終わった。⑥	◆沖縄戦や平和の礎、「ひめゆり」の生徒たちなどの写真をもとに、戦争による被害や人々の様子を具体的に捉えさせる。 ◆戦争の終わりを告げる玉音放送を人々はどのような思いで聞いたのか考えさせる。 ◆政治学習で学んだことも振り返らせ、憲法の平和主義や平和式典の意味を今一度考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、情報を読み取り、戦争によって、沖縄の人々や原爆が投下された広島や長崎の人々をはじめ、国民が大きな被害を受けて戦争が終了したことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P. 140 長く続いた戦争があたえたえいきょうについて、調べたことを整理して考えをまとめ、クラスで話し合います。 (1 時間)	○戦争によってもたらされた影響について、これまで調べたことを整理する。 【例】 ・戦場となった東南アジア各国の人々に大きな被害を与えた。 ・広島・長崎では一発の原子爆弾で一瞬にして何万の命が奪われた。 ・満州に渡った人々は終戦時にソ連が攻めてきて逃げる中で多くの人々が亡くなり、日本に帰れず、残留孤児となった人がいた。 ・日本で暮らしていた多くの国民は「正しい戦争」だと信じ、戦争のために多くの我慢を強いられてきた。 ○長く続いた戦争が国内外の多くの人々にあたえた影響について、自分の考えを書き、クラスで話し合う。 ・戦争は戦場で戦った兵士だけでなく、多くの国民の命を奪い、国民生活に大きな影響を与えた。 ・海外でも戦場となったので、アジアをはじめ多くの国の人々の命も奪った。 ・このような悲劇を繰り返してはいけない。 ・戦後、日本国憲法の三大主義の一つに平和主義が掲げられている意味がわかった。 長く続いた戦争は、国民生活に大きな影響を及ぼし、国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。	◆今まで学習してきたことを振り返って、思考ツール（マンダラチャート）の周りの枠のそれぞれ場所や立場における戦争がもたらした影響を書き込み、戦争による被害や影響について整理する。 ◆様々な立場の人々が戦争の犠牲になったことをふまえ、戦争に対する思いや考えを書くように助言する。 ◆学習したことをもとに、平和な社会をつくるために自分にできることを意見文に書くようにする。 ◆政治学習で学んだ内容を振り返らせようになりたい。	【思判表②】 ワークシートの記述内容や発言内容から、「これまで調べたことを比較し、関連付けたり総合したりして、戦争がもたらす被害の大きさについて考え、表現しているか」を評価する。 【知技②】 ワークシートの記述内容や発言内容から、「調べたことをワークシートにまとめ、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子などに着目して、地図や年表などの資料で調べ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、表現することを通して、日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、歴史の学習を未来に生かそうとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子などについて、地図や年表などの資料で調べ、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを理解している。	①世の中の様子などに着目して、問いを見だし、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて考え、適切に表現している。	①日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	②日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割について考えたり、学習してきたことを基に歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、我が国の課題やそのよりよい解決方法について考えようとしている。また、歴史の学習を未来に生かそうとしている。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①終戦直後の人々の暮らし P. 142～143 写真から気づいたことや疑問を出し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○敗戦直後の資料から、気づいたことを話し合う。 ・多くの人々が家を焼かれ、家族を失い、食べ物や日々の暮らしに欠かせないものにも不自由する生活をしていた。 ・食べ物が不足して、栄養失調でなくなる人もいた。 ・戦争で親をなくして、孤児となった子どももたくさんいた。 ○新宿の3枚の写真を比べて気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・1964年の東京オリンピック・パラリンピックのころにはかなり復興している。 ・現在の新宿はさらに発展している。今の日本になるまでにどのようなことがあったのだろうか。	◆「まなび方コーナー」で、複数の写真から読み取るポイントを確認させる。	[思判表①] ノートの記事内容や発言内容から、「戦後から現在までの世の中の様子の変化に着目して、学習問題を見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記事内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 戦後の日本は、どのようにして生活を立て直し、現在の社会へと変化してきたのでしょうか。 ○年表をもとに予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・徐々に世界に認められる国になっていったのではないかな。 ・大きな自然災害も経験したけれど、その度に復興してきたのではないかな。	◆年表に書かれているできごとをもとに、日本はどのような国になってきたのかを考えさせる。	
調べる	②民主主義による国を目指して P. 144～145 戦争の後、日本ではどのような改革が行われたのでしょうか。 (1 時間)	○戦後改革や日本国憲法について調べる。 ・民主主義の国家として再出発するために、戦後改革が行われた。 ・日本国憲法が制定され、平和と民主主義が日本の進む方向として定められた。 ○戦後改革について調べたことを年表にまとめ、「一言コメント」を書き込む。 ・20歳以上の男女に平等に選挙権が保障された。女性の国会議員も生まれた。 ・子どもが教育を受ける権利が保障された。男女共学が法律で定められ、学校給食も始まった。 ・平和な国や社会をつくる国民を育てていくための教育の目標が立てられた。 ・小作農家も自分の農地をもてるようになった。	◆「一言コメント」には、それぞれの取り組み（できごと）の説明を書くようにさせる。 ◆年表と「一言コメント」をもとに、なぜ短い間にたくさんの改革が行われたのかを考えさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の戦後改革や民主的な国家としての再出発について理解しているか」を評価する。
		日本は、日本国憲法の制定をはじめとする戦後改革を行い、平和で民主的な国家として出発した。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③再び世界の中へ P. 146～147 世界が変化する中、日本はどのようにして復興したのでしょうか。 (1 時間)	○第二次世界大戦後の世界の動きを調べる。 ・第二次世界大戦後、国際社会の平和を守るため、国際連合がつくられた。 ・アメリカとソ連の対立が深まり、世界が二つの陣営に分かれて対立し始めた。 ・1950年に朝鮮戦争が起こった。 ○「サンフランシスコ平和条約」や「国際連合への加盟」「産業の復興」を中心にして、日本の復興への道のりを年表にまとめ、その背景を話し合う。 ・1951年に48か国と平和条約を結んだ。 ・1952年に占領が終わり、主権を回復した。 ・沖縄はまだアメリカに占領されたままだった。 ・ソ連や中国などの国とは、平和条約を結ぶことができなかった。 ・1956年に国際連合への加盟が認められた。 ・アメリカの協力や国民の努力によって産業が復興し、生活が向上した。 日本は、サンフランシスコ平和条約を結んで主権を回復し、国際連合への加盟も認められたことによって国際社会に復帰することができた。その後、アメリカの協力や国民の努力によって産業が復興し、生活が向上した。 ③	◆教科書の巻末年表や写真、地図などを活用して、日本の独立までの概要をとらえさせる。 ◆電化製品の普及率のグラフを読み取らせ、産業の復興や生活の向上と関連させて考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の国際社会への復帰の過程や、産業の復興と生活の向上について理解しているか」を評価する。
	④高度経済成長の中の東京オリンピック・パラリンピック P. 148～149 産業の発展により、人々の生活はどのように変化したのでしょうか。 (1 時間)	○東京オリンピック・パラリンピックの開催とそれに関連するできごとを調べる。 ・競技施設だけでなく、ホテルが建てられ、道路や下水道が整備された。 ・高速道路や地下鉄が新たに作られた。 ・東京と大阪の間には、東海道新幹線が作られた。 ○東京オリンピック・パラリンピック開催前後の国民生活の変化について調べる。 ・製鉄・火力発電・石油精製などの重化学コンビナートが作られ、各地の港が整備されていった。 ・1968年には、国民総生産額がアメリカに次いで世界第2位になった。 ・三種の神器に変わり、3C（カー、クーラー、カラーテレビ）が多くの家庭に広まった。 ・高度経済成長のかげで、公害などの環境問題が生まれてきた。 東京オリンピック・パラリンピックの開催は国民に自信をあたえるとともに、産業をさらに発展させるきっかけとなった。一方、経済の高度成長のかげで公害などの環境問題が起こった。 ④	◆東京オリンピック・パラリンピックの開催が国民にとってどのような意味をもっていたのかを考えさせる。 ◆どのような場所で公害が発生したのかについて、5年生の学習を想起させて考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、東京オリンピック・パラリンピックの開催や、公害などの環境問題の発生について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤変化の中の日本 P. 150～151 世界や日本には、どのような課題が生じているのでしょうか。 (1 時間)	○冷戦後の世界の課題を調べる。 ・アメリカ側とソ連側に分かれた世界的な対立（冷戦）は、1989年に終わった。 ・一方、世界各地で地域紛争が起こり、国際連合を中心に解決のための努力が続けられている。 ・貧困や感染症など、国境をこえて解決が目指される課題もある。 ・持続可能な開発を進めていくことが世界規模で求められている。 ○高度経済成長後の日本の課題を調べる。 ・1980年代後半からバブル経済となったが、1991年に崩壊し、その後、不景気が長く続いた。 ・少子高齢化が急速に進んでいる。 ・大きな自然災害があいついで発生している。 ○課題に対する取り組みを調べ、自分たちにできることを考える。 ・被災した地域には多くのボランティアが支援を行っている。 ・地域や社会の課題に積極的に関わっていくことが大切である。 世界や日本が変化する中で、解決しなければならない課題が多く出てきた。地域や社会の課題に、わたしたちひとりひとりが積極的に関わっていくことが求められている。 ⑤	◆さまざまな資料を用いることで、課題に気づかせるとともに、それに対するさまざまな取り組みがなされていることを捉えさせたい。 ◆世界の課題を調べることで、「政治・国際編」の「世界の未来と日本の役割」の学習につなげたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世界と日本の課題とそれに対する取り組みについて理解しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習をふり返ったり見直したりして、日本や世界の課題を追究しようとしているか」を評価する。
	⑥これからの日本を考えよう P. 152～153 これからの日本は、どのような国を目指していったらよいのでしょうか。 (1 時間)	○世界に広がる日本の文化や技術を調べる。 ・和食やアニメなどの文化やさまざまな技術が世界で認められ、世界に貢献している。 ○現在の日本が抱える課題や果たすべき役割について調べ、考えたことを話し合う。 【国内の課題】 ・防災、感染症対策、少子化、高齢化、社会保障、人権問題など。 【外国との関係に関する課題】 ・アメリカ軍基地問題、拉致問題、領土問題など。 日本の文化や技術は、世界で認められ、さまざまな面で世界に貢献している。防災をはじめ、少子高齢化、人権、領土などの課題をどのように解決していくかを考えていくことが必要である。 ⑥	◆日本のよさと課題の両面から、これからの日本のあり方を考えさせる。 ◆児童の生活経験や関心の傾向などを考慮して、話し合う話題を設定するようにする。	【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習してきたことをもとに、日本が抱える課題をどのように解決したらよいのかについて、自分との関わりの中で考えようとしているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P.154～155	○調べてきたことを年表にまとめ、一言コメントを書く。 ・1946年：日本国憲法が公布される。 「新しい憲法に、平和と民主主義が日本の新しく進む方向であると定められました。」 ・1964年：東京オリンピック・パラリンピックが開かれる。 「1964年の東京オリンピック・パラリンピックの成功は、日本の産業を発展させるきっかけとなりました。」 ○現在の社会に重要な影響を与えたできごとを一つ選び、その影響を文章にした上で、友達と話し合う。 ・「わたしは日本国憲法の公布を選びました。なぜなら、日本国憲法は現在の平和と民主主義の考え方のもとになっているからです。」 ・「わたしは東日本大震災を選びました。なぜなら、震災からの復旧・復興に向けた取り組みが進められる中で、災害に強いまちづくりやエネルギー問題などへの人々の関心が高まり、社会のあり方が変わったからです。」	◆年表を見て、それぞれのできごとによって社会の様子が変わってきたのかを考え、一言コメントを書くようにさせる。 ◆選んだできごとが現在にどのような影響をあたえているのかを考えることで、学習問題に迫りたい。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを年表にまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解しているか」を評価する。
	戦後の日本の変化について調べたことを整理し、重要だと思ふできごとを選んで話し合いましょう。 (1時間)	戦後の日本は、さまざまな戦後改革を行って、平和で民主的な国家として出発した。そして、経済・産業の発展によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。しかし、世界と日本にはまだ課題もある。		【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割について考え、適切に表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	①過去に学び、未来に生かす P. 156～157	○カードを使って、歴史の学習をふり返る。 ・米づくりが始まり、生活や社会の様子が変化した。 ・聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりが受けつがれ、進められていった。など。 ○学んできた歴史について、わかったことや未来に生かせると思うことを、自分の視点を一つ決めて考え、話し合う。 ・「外国から伝わってきたものや、外国のものを参考にしてつくられた制度があったね。海外とつながりを持つことは大切だと思いました。」 ・「日本の文化は、長い時間をかけて築き上げられてきたんだね。今に伝わるさまざまな文化を、大事に受けついでいきたいと思います。」など。 ○歴史を学んでわかったことや考えたことについて意見文を書く。 ・今の社会の課題に取り組んでいくためには、過去に何が起こったかを知っておくことが大切である。 ・長い時間をかけて昔の人々が築き上げてきた日本の歴史を受けつぎ、自分たちの力で社会をよりよくしていきたい。その手がかりを、これからも歴史の中に探していきたい。	◆カードを見て、社会の様子がどのように変わってきたのかを考え、時代の変化をとらえさせる。 ◆話し合いを通して、歴史を学ぶ意味に目が向くようにする。	【思判表②】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習したことをもとに、歴史を学ぶ意味を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習したことをもとに、歴史を学ぶ意味について考え、歴史の学習を未来に生かそうとしているか」を評価する。
	歴史の学習をふり返り、学んだことをどのように未来に生かせるかを考えましょう。 (1 時間)	歴史上の人物や文化遺産の学習を通して、当時の人々の思いや社会の状況を読み取ることができるとともに、現在や未来の社会のあり方を考えていく手がかりを得ることができる。		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	人類共通の願い わたしたち人類は、どのような共通の願いをもっているのでしょうか。 (1時間)	○写真資料を見て、世界のさまざまな人々がどのような願いをもっているのか想像し、話し合う。 ・ グラテマラの家族は、どのようなものを食べてくっているのだろうか。 ・ ザンビアの人々は、井戸ができてくらしが便利になったと思う。 ・ わたしたちが食べているチョコレートも、コートジボワールでつくられたカカオでできているかもしれない。 ○国際社会が抱える問題の解決に向け、わたしたちが、世界の人たちとどのようなことをしていけばよいのかを話し合う。 ・ 国際社会では、どのような問題があるのだろうか。 ・ 国と国との紛争、環境汚染、資源の問題、飢えや貧困の問題など。 ・ さまざまな問題の解決に向けて、世界の人たちと協力していく必要があるのではないか。 単元のめあて わたしたちは、どのようにして、世界の人々とともに生き、平和な社会を築いていけばよいのでしょうか。	◆写真資料の国の位置を地図帳で確認し、写真資料から見られる情報から、それぞれの人々のくらしや願いについて考えさせる。 ◆自分のくらしとの違いについても気づかせ、国際社会の多様性についても考えさせる。 ◆国際社会の問題を出し合う場面では、テレビや新聞等で日頃見る世界の様々な問題を出させると良い。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「国際社会について関心を高めているか」を評価する。

目標

グローバル化する世界の日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①外国の人々の生活の様子などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解している。	①外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見だし、日本の文化や習慣との違いについて考え、適切に表現している。	①外国の人々の生活の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国々の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。	②世界の国々の文化や習慣は多様であることとスポーツや文化などを通して他国と交流することに関連付けて、国際交流の果たす役割を考えたり、学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	②学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本と関係の深い国を探そう P. 62～63 これまでの学習や日ごろの生活をふり振り返り、日本とつながりの深い国を見つけて、話し合しましょう。 (1 時間)	○外国から入ってきた身のまわりのものや文化やスポーツを通じた交流について話し合う。 ・日本人の野球選手が、アメリカの大リーグで活躍している。 ・日本の文化は、昔から中国の影響を受けていた。 ・富岡製糸場はフランスから来た技術者に支えられていた。 ・日本にブラジルからきている人がたくさんいる。 ○日本と関係が深そうな国を四つに整理する。 日本は、ものや人の行き来や、文化やスポーツなどの交流を通して、世界のさまざまな国とつながりをもっている。	◆生活経験やこれまでの学習経験をもとに、日本と関係がある国との関わり方を出させ、自分の生活が外国と関わりがあることに気づかせる。 ◆世界の国々について知っていることを発言し、日本とのつながりを意識しながら、調べたいことを見つけさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本と外国との共通点、相違点について理解しているか」を評価する。
	②調べる国を決めよう P. 64～65 学習問題をつくり、日本とつながりの深い国を1か国選び、人々の生活について調べる学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○4か国の基本情報を整理し、日本とつながりの深い国々について調べてみたいことを話し合い、学習問題をつくり、予想を出し合う。 ・気候や宗教によって、服装や食べ物がちがってくるのではないかな。 ・遠い国でも、産業、文化、スポーツなどでつながりが深いかもしれない。 ・中国は歴史的に関わりが深いから、似ている点が多いのではないかな。 学習問題 日本とつながりの深い国の人々は、どのような生活をしていて、その生活には日本とどのようなちがいがいるのでしょうか。	◆関わりが深い国の中から、自分で調べたい国を一つ選ぶとき、似ている点やちがっている点を探るように見通しをもたせるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立てる。		
児童に4か国から1か国を選択させる。				
アメリカと日本 P. 66～71				
調べる	③アメリカの学校の様子 P. 66～67 アメリカの小学生は、どのような生活をしているのでしょうか。 (1 時間)	○アメリカの学校の様子について、テレビ電話でアメリカに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・小学校への通学は、自転車やスクールバスなどを利用し、成績がよい場合は飛び級制度がある。 ・いろいろな民族や文化が違う子どもが通っている。 ・夏休みが2か月あって、日本よりも長い。 アメリカの学校と日本の学校では同じ点やちがう点がある。能力によって飛び級ができたり、いろいろな人種や民族の子どもがいたりする。 ③	◆日本の学校生活と比較させながら、似ている点やちがう点を意識して調べさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アメリカの学校生活の様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④人々の生活と年中行事 P. 68～69 アメリカの人々のくらしや年中行事は、どのようなものですか。 (1 時間)	○アメリカの人々の休日の過ごし方や年中行事について調べ、話し合う。 ・休日に、家族でハイキングに行ったり、野球の試合を見たりして過ごしている。 ・ハロウィンには仮装をしてお菓子をもらったり感謝祭では家族でごちそうを食べたりしている。 アメリカでは国土が広いと、車で出かけることが多く、家族や親戚で集まってさまざまな年中行事を祝う習慣がある。また、スポーツや産業で日本にも影響を与えている。 ④	◆休日の過ごし方や年中行事について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 ◆アメリカの文化やスポーツが世界に影響を与えていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アメリカの人々のくらしや年中行事について理解しているか」を評価する。
	⑤広い国土を生かした産業と多文化社会 P. 70～71 アメリカにはどのような産業があり、どのような人々がくらししているのか。 (1 時間)	○アメリカの産業や多文化社会について、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・広い国土を生かして、小麦や大豆を大量に生産していて、日本とちがう。 ・多文化社会と言われ、ロサンゼルスには日系人が多く住んでいて、日系人の祭りがある。 ○アメリカについて調べてきたことを、カードに整理する。 ・学校や人々の様子、仕事や産業の様子について調べたことをカードに整理する。 アメリカは、広い国土を利用して農業、工業、宇宙開発など世界をリードしている。また、建国以来、多くの移民を受け入れてきた多文化社会である。 ⑤	◆広い国土をもつアメリカは、さまざまな人種や民族の人が移住してきた多文化社会であることを資料からとらえさせる。 ◆アメリカの文化にはどのような特色があるのかをとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アメリカの産業やどのような人々がくらししているのかなどについて理解しているか」を評価する。
中国と日本 P. 72～77				
	③中国の人々の生活と学校の様子 P. 72～73 中国のまちや小学校の様子は、どのようなになっているのか。 (1 時間)	○中国のまちや小学校の様子について、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・ペキンには、高層ビルや世界文化遺産があり、ファッションも日本と同じように楽しんでいるが、古い家も残っている。 ・「一人っ子政策」の影響で、きょうだいがいない子どもも多い。 ・都市では受験に熱心である。 中国の人々の生活や小学校の様子には、日本と同じ点やちがう点がある。卓球は子どもたちに人気の遊びの一つである。 ③	◆収集した資料から、日本との相違点について整理させる。 ◆日本の学校生活と比べてどのようなちがいがあのかに着目して考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中国のまちや小学校の様子について理解しているか」を評価する。
	④中国の伝統的な文化 P. 74～75 中国には、どのような文化や行事があるのか。 (1 時間)	○中国の文化や行事について、収集した資料を活用して調べ、話し合う。 ・中国には50以上の民族がいて、服装や習慣などの生活様式がそれぞれちがう。 ・伝統的な行事である春節は、日本の正月にあたる。故郷に帰省する人も多い。日本にも、横浜や神戸に中華街や南京町があり、春節の行事を盛大に行っている。 中国の伝統的な行事には、日本と同じ点やちがう点がある。また、日本の文化の中には中国の影響を受けているものもある。 ④	◆第5学年の産業の学習や第6学年の歴史の学習を想起させ、日本との結びつきについて、歴史や文化、人の行き来など、多面的にとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中国の文化や行事などについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤経済が発展した中国と人々の生活 P. 76～77 中国の経済の発展によって、人々の生活は、どのように変化したのでしょうか。 (1 時間)	○経済の発展によって、人々の生活はどのように変化したのか、インタビューや資料を活用して調べ、話し合う。 ・急速な発展によって、生活スタイルが変化した。マンションが増えた。 ・IT特区と呼ばれる、自動運転のバスなど世界最先端技術が取り入れられた都市があり、スマートシティと呼ばれている。 ○中国について調べてきたことを、説明文としてまとめよう。 ・日本と大切なパートナーである。 ・オリンピックやパラリンピックが開催された。中国のよさを見つきたい。 中国は、経済発展を続け、日本との結びつきが強まっている。また、世界から中国の発展が注目されている。 ⑤	◆中国の経済発展は、人々にどのような影響を与えたのかに着目して考えさせる。 ◆聞き取り調査を実施できた場合は、そこで得たことを生かしてまとめさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中国の経済の発展によって、人々の生活はどのように変化したのかなどについて理解しているか」を評価する。
フランスと日本 P. 78～83				
	③フランスの学校の様子 P. 78～79 フランスの小学生は、どのような生活をしているのでしょうか。 (1 時間)	○フランスの学校の様子について、オンラインでフランスに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・小学校に5年間、中学校に4年間通う。 ・ケルメスという学校のお祭りがあり、お店が開かれたり、みんなで踊ったりする。 ・ビズと呼ばれるあいさつの仕方があって、マナーに気を付けている。 フランスの学校と日本の学校では同じ点やちがう点がある。学校のお祭りがあったり、放課後に乗馬やフェンシングを習う子がいたりする。 ③	◆日本の学校生活と比較させながら、似ている点やちがう点を意識して調べさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、フランスの小学生の生活の様子について理解しているか」を評価する。
	④フランスの人々の生活 P. 80～81 フランスの人々のくらしは、どのようなものでしょうか。 (1 時間)	○フランスの人々の生活の様子について知り合いに聞いたり本で調べたりして、メモに整理する。 ・マルシェと呼ばれる市場や、ブロカントと呼ばれる小道具市で買い物を楽しむ。 ・美味しいパンやチーズがたくさんあり、地方には古いしっかりした石づくりの家がある。 ・植民地だったアフリカや中東からの移民が多く、公共の場では特定の宗教を表に出さない。 フランスでは、市場や商店が賑やかで、大きな都会と田舎では異なるくらしがある。植民地だった国からの移民が多い。	◆買い物や建物の様子について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 ◆多くの移民がいること、いくつかの宗教があることに気づかせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、フランスの人々のくらしについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤農業と観光業が さかんなフランス P. 82～83 フランスでは、どのような産業がさかんなのでしょう (1 時間)	○フランスの農業や観光業について、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・農業がさかんで国土の50%以上が農業用地。バターやチーズなどを輸出している。 ・美しい城や美術館があり、観光客がたくさん訪れる。 ・日本とは絹織物のつながりがある。 ○フランスについて調べてきたことを、新聞にまとめる。 フランスでは、農業がさかんで食料自給率が高く、また田舎には美しい古城や美術館などがあり観光もさかんである。	◆食料自給率が高いこと、小麦などの作物やバターやチーズなどの加工品を輸出していることを調べさせる。 ◆観光客が多く集まる理由を、資料から推測して話し合わせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、フランスにはどのような産業があるのかについて理解しているか」を評価する。
	ブラジルと日本 P. 84～89			
	③ブラジルの学校の様子 P. 84～85 ブラジルの小学生は、どのような生活をしているのでしょうか。 (1 時間)	○ブラジルの学校の様子について、日本に住んでいるブラジルの人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・南半球にあるブラジルは日本と季節が逆で2月に新学期が始まる。 ・ブンバ・メウ・ボイというお祭りやクカの伝説がある。 ・カーニバルのお祭りでは、先住民族や移民の文化が合わさったダンスや衣装をみることができる。 ブラジルの学校と日本の学校では同じ点やちがう点がある。放課後にサッカーをして遊んだり、サンバの踊りを習いに行ったりする子もいる。 ③	◆日本の学校生活と比較させながら、似ている点やちがう点を意識して調べさせる。 ◆伝説や民話が生活の中に位置づいていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ブラジルの小学生の生活の様子について理解しているか」を評価する。
	④大都市とアマゾン の様子 P. 86～87 ブラジルの人々のくらしは、どのようなものなのでしょうか。 (1 時間)	○大都市とアマゾンの様子についてオンラインで知り合いに聞いたり本で調べたりして、ノートに整理する。 ・大都市のサンパウロに、リベルダーデと呼ばれる東洋人街がある。 ・ブラジルに渡った日本人とその子孫の日系人が多くいて、農業の発展に貢献してきた。 ・世界最大の熱帯林があり、アマゾンの森は生命のゆりかごと呼ばれるが、木材の輸出などにより森林が減っている。 ブラジルでは、大きな都会と自然が多い地域では異なるくらしをしている。日系移民や先住民族の生活や文化がある。	◆大都市やアマゾンの様子について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 ◆日本からの移民の歴史や日系人の様子について調べさせ、ブラジル社会での貢献に気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ブラジルの人々のくらしについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤日本とかかわりが深い産業 P. 88～89 ブラジルでは、どのような産業がさかんなのでしょう。 (1 時間)	○ブラジルの産業について、ブラジルの人に質問し、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・日本はブラジルから鉄鉱石、コーヒー豆、鳥肉などを輸入している。 ・コーヒーの主要な生産国である。 ・植物から生産されるバイオエタノールを燃料として活用することが進んでいる。 ○ブラジルについて調べてきたことをノートにまとめる。 ・学校や人々の様子、大都市とアマゾンの違い、産業の様子などについて整理する。 ブラジルは、資源が豊富で鉄鉱石を多く採掘して輸出し、また肉や農産物も日本に輸出している。	◆インタビューや資料から、豊かな資源や土地を活用した産業が発展していることをとらえさせる。 ◆資料から日本とブラジルの貿易の特徴をつかませる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ブラジルにはどのような産業があるのかについて理解しているか」を評価する。
調べる	⑥いろいろな国際交流 P. 90～91 国際交流にはどのような役割があるのでしょうか。 (1 時間)	○調べた国と日本の交流について話し合う。 ・姉妹都市として交流活動をしている。 ・中華街や獅子舞が披露されることを留学生から聞いた。 ・日本各地に国際交流協会があり、交流活動をしている。 ・オリンピックやパラリンピック、世界大会など、スポーツの交流がさかん。 ○国際交流の役割について話し合う。 スポーツや文化を通じて他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重しあうことが大切である。⑥	◆調べた国と日本の交流だけではなく、見たことや参加したことがある国際交流について話し合い、国際交流のよさに気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容から、「国際交流の在り方や役割について考えをまとめているか」を評価する。 [態度②] ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習内容を振り返り、異なる文化や習慣を尊重する気持ちをもっているか」を評価する。
まとめる	⑦まとめる P. 92～93 調べてきたことをもとに日本とつながりの深い国について話し合い、自分の考えをまとめましょう (1 時間)	○学習問題について調べてきたことを話し合う。 ・学校生活では、四つの国とも日本と似ているところやちがうところがある。 ・調べてきた国は、どの国も産業などでつながりが深い。 ○日本と似ているところと、大きくちがうところを表に整理して、話し合う。 ・学校の新学期が始まる時期がちがう。 ・ブラジルでは都会とアマゾンの生活がかなりちがう。 ○学習問題について、考えたことを意見文にまとめ、発表する。 ・どの国も伝統的な行事を大切にしている。 ・異なる習慣や文化も、認め合うことが大切である。 日本と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は多様であり、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切である。⑦	◆今まで調べたことを整理するとともに、話し合いを通じて、それぞれの国には日本とのつながりがあり、またそれぞれ異なる特色があることに気づかせる。 ◆意見文の発表会を開くなどして、外国の人々とともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることをとらえ、実感させる。	[知技②] ノートの記述内容から、「調べたことを表に整理し、日本と経済や文化などの面でつながりの深い人々の生活は多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、世界の国々の文化や習慣は多様であることと、スポーツや文化などを通して他国と交流することを関連づけ、国際交流の果たす役割を考

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
				え、適切に表現しているか」を評価する。

3－② 世界の未来と日本の役割

目標

グローバル化する世界と日本の役割について、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。	①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見だし、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子について考え、適切に表現している。	①国際社会において我が国が果たしている役割について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。	②地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとしている。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①SDGsの達成に向けて P. 96～97 世界のさまざまな課題と解決に向けた取り組みを調べ、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○SDGsと世界で起こっている課題について調べる。 ・SDGsは2030年までに解決を目指す17の目標と169の具体的な取り組みが設定されている。 ・「だれひとり取り残さない」という理念のもとに設定された目標である。 ・世界には教育、貧困など、解決しなくてはならない課題がある。 ・地域紛争が世界各地で起こっている。 ○世界にどのような課題があるのかを明らかにし、これらを解決するための取り組みについて調べるための学習問題をつくる。 ・歴史の学習で学んだ国際連合が何か取り組みをしているかもしれない。	◆SDGsについて、目標を一つ取り上げ、その目標が目指しているものは何かを考えさせる。その際、国や企業が解決に向けて取り組んでいる具体的な例を取り上げるとよい。 ◆多様な課題があることを明らかにするとともに、既習事項である国際連合と関連づけて解決のあり方の予想	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、学習問題を見出しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 世界のさまざまな課題を解決するために、日本は世界と協力して、どのような活動をしているのでしょうか。		
		○学習問題の解決にむけ、国際連合の働きや海外で活躍する日本人々について予想し、学習計画を立てる。		
調べる	②国際連合で働く人々 P. 98～99 国際連合はどのような活動をしているのでしょうか。 (1 時間)	○国際連合やユニセフの取り組みや、日本とのかかわりについて調べる。 ・日本は、1956（昭和31）年に加盟し、大きな役割を果たしている。 ・日本はアメリカと中国に次いで多くの分担金を拠出している。 ・ユニセフは、世界で苦しむ子どもを助ける目的で作られ、日本も過去に支援を受けている。 ・日本は、国際連合の一員として世界各地の平和維持活動に参加してきた。	◆「ことば」や国際連合憲章を丁寧に読み取り、特に日本の役割に着目させていくようにする。 ◆「ユニセフの取り組みはSDGsのどの目標と関連しているか」を考えさせて、話し合う活動を取り入れ、今後の学習につなげていきたい。 ◆国連の平和維持活動については、自衛隊の活動にも着目させる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国際連合の役割や我が国の国際連合の一員としての活動について理解しているか」を評価する。
		国際連合では多くの国々が協力して平和と安全、人類の福祉のために活動しており、日本人々もさまざまな活躍をしている。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③地球の環境を守るために P. 100～101 地球の環境を守るために、世界や日本はどのような努力や協力をしているのでしょうか。 (1 時間)	○世界で起きている環境問題について調べる。 ・世界各地で環境問題が起きていることがわかる。 ・海洋プラスチック問題のように環境を破壊し、海洋生物の命を奪う問題も起きている。 ○「持続可能な開発目標 (SDGs)」について調べ、持続可能な社会を実現するための取り組みについて理解する。 ・カーボンニュートラルや再生可能エネルギーなど環境のことを考えた取り組みが進められている。 ・未来にわたってより多くの人々が豊かな生活を送るためには、国連や国際会議などの計画にもとづいた国際的な協力が必要である。 地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、世界や日本には現地の人々と協力して環境保全に努めている多くの人々がいる。③	◆P. 101 の資料を読み取らせて、さまざまな環境問題があることをとらえさせ、これらを解決する必要を感じさせるようにする。 ◆世界各地の環境問題について様々な人の立場になり考えることで、遠く離れた場所であっても、私たちにつながることを気づかせたい。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国は国際連合の一員として重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力について考え、自分の考えをまとめているか」を評価する。
	④国際協力の分野で活やくする人々 P. 102～103 日本は、どのような国際協力の活動をしているのでしょうか。 (1 時間)	○ODAや青年海外協力隊、NGOの具体的な取り組みを調べる。 ・ODA とは政府による国際協力の活動である。青年海外協力隊の活動はODAの活動の一つである。 ・NGOとは、国連や政府から独立して活動している民間の団体である。 ・日本にも、医療や環境など、専門性を生かした分野で活躍している多くの団体があり、世界各地でさまざまな国際協力の活動を行っている。 日本の NGO や青年海外協力隊は、支援を必要としている多くの国々の人々のために、教育、衛生、農業などの分野で活躍をしている。④	◆「セネガルで活動した清水さんの話」を丁寧に読み取らせ、青年海外協力隊の取り組みの意味を考えさせる。 ◆NGO レポートを丁寧に読み取らせ、中村哲氏の活動の意味をとらえさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国はさまざまな分野で技術者を海外に派遣したり、国内に海外からの研修生を受け入れたりしていることを理解しているか」を評価する。
	⑤まとめる P. 104 世界の様々な課題と、解決のための日本の取り組みについてまとめ、発表しましょう。 (1 時間)	○これまでに調べたさまざまな機関や、それに携わる日本人が世界のさまざまな課題を解決するために取り組んでいることを想起してその意味や役割を話し合う。 ○自分の考えをノートにまとめ、発表する。 世界には解決すべき課題がいくつもあり、日本人はこれらを解決するために国際連合や青年海外協力隊、NGO などの活動を通して積極的に世界の平和と発展に貢献している。⑤	◆さまざまな取り組みの共通点や類似点を明確にするように促す。その際、「ことば」にある「持続可能な社会」「国際協力」などを視点として考えさせる。	【知技②】 ノートの記事内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	①世界の課題の解決に向けて P. 106～107	○SDGsの17の目標について、これまでの社会科の学習をふり返る。 ・紛争が原因で今も苦しむ子どもがいることは、目標の16が達成されていない。その解決のため、世界各国が支援をしている。 ・日本のODAにより建設された小学校は、目標の4に関連していて、解決のため必要な取り組みである。 ○SDGsの目標を達成するためにはどのような社会の在り方が必要かを考え、わたしたち一人一人ができることについて考える。	◆問題の解決のためには何が必要かを考えさせながら、今の自分にできること、将来どのようなことがしたいかを明らかにするように促す。	【思判表②】 ノートの記事内容や発言内容から、「今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習したことをもとに、今後我が国が国際社会において果たすべき役割を考えようとしているか」を評価する。
	SDGsの17の目標を参考に、世界のさまざまな課題の解決のために、自分たちにできることを考えましょう。 (1時間)	国際社会にはSDGsの目標に分類されるようなさまざまな課題があり、これからも継続して解決に向けた取り組みを進める必要がある。		